Canon

PUB. DIJ-0375-000C

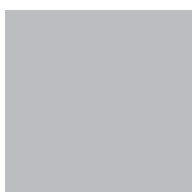
HD ビデオカメラ

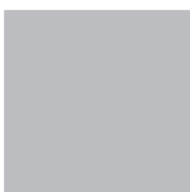
EOS C300
EOS C300 PL

使用説明書



はじめに
準備
撮影
カスタマイズ
再生
接続
静止画
メニュー
その他


HDMI

本機の特長

C300 / C300 PLは、新開発のスーパー 35mm相当単板CMOSイメージセンサーを搭載。有効画素数約829万画素（3840×2160）のフルピクセルのHD収録に対応し、記録メディアにコンパクトフラッシュカードを採用した高画質なHDビデオカメラです。

高画質HD記録システム

829万画素、スーパー 35mm相当単板CMOSと高画質映像エンジン「DIGIC DV Ⅲ」を搭載

有効画素数約829万画素（3840×2160）のスーパー 35mm相当単板式CMOSイメージセンサーと映像エンジン「DIGIC DV Ⅲ」を搭載して、中心解像度1000TV本*を実現しています。また、高速読み出しによってローリングシャッターひずみを大幅に抑え、低ノイズで鮮明な色再現、豊かな階調性を実現しました。

* 取り付けるレンズによって異なります。

EFレンズ（C300）またはPLレンズ（C300 PL）に対応

EFレンズマウントを搭載したC300では、キヤノンのEFレンズやシネレンズなど、さまざまなEFマウント対応レンズを使用可能。また、業界標準のPLレンズマウントを搭載したC300 PLでは、これまでシネマ撮影で用いられてきたPLマウント対応レンズ資産を活用することができます。

MPEG-2 Long GOP 4:2:2 50Mbpsコーデックと MXFファイルフォーマット

MPEG-2 4:2:2 50Mbps記録モードを搭載することにより、シネマ品質に匹敵する映像収録を実現。MXF（Material eXchange Format）の採用により、ノンリニア編集システムとのスムーズな連携が可能です。

さまざまな記録信号形式に対応（📖 64）

ビットレート（50Mbps、35Mbps、25Mbps）、解像度（1920×1080、1280×720、1440×1080）、フレームレート（59.94i、59.94P、50.00i、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P）の組合せによって27種類の信号形式で映像を記録できます。音声は、リニアPCM（16ビット、48kHz）の2チャンネル記録が可能です。

優れた機動力と汎用性

カスタマイズの自由度が高いボディーデザイン（📖 35）

最小幅の抱え持ちスタイルで使用できる本体ボディーに、着脱可能なモニターユニット、ハンドルユニット、グリップを撮影状況に応じて組み合わせて使用可能。モニターユニット未使用時でも、本体背面の表示パネルを見ながらカメラ設定を変えられます。角度調整が可能なグリップは、さまざまなアングルの撮影にも柔軟に対応できます。

4.0型の高精細123万ドット液晶画面（視野率100%）と広視野角ファインダー

モニターユニットは、左右に270°回転可能。本機を側面から操作できます。ファインダー（100%の視野率）に付属の大型アイカップを取り付ければ、顔の幅や鼻の高さなどをカバーして確実にフィットします。

汎用性の高いコンパクトフラッシュカードを採用

記録メディアに入手しやすく汎用性の高いコンパクトフラッシュ（CF）カードを採用。コストパフォーマンスの高い運用が可能です。また、2つのCFカードスロットを搭載し、それぞれのスロットに入れた2枚のCFカードに、映像を途切らすことなく連続して記録したり、同じ映像を同時に記録したりすることができます。

簡易ブラウザーと専用プラグインによるノンリニア編集システムとの連携

記録した映像を確認・管理するための簡易ブラウザーが付属。ノンリニア編集に移行する前に映像を確認できます。また、付属の専用プラグインを使用すれば、撮影した映像を簡単にノンリニア編集システム*に取り込めます。

* 取り込み可能なソフトウェアについては164ページをご覧ください。

制作意図に応える多彩な表現力

さまざまな映像表現に対応する特殊記録機能（📖 115）

撮影フレームレート（1 fps刻み）を変更することによって、最低1/2.5倍速のスローモーション撮影や最高60倍速のファーストモーション撮影ができます。また、間欠的に収録を繰り返すインターバル記録は、自然観察など長時間の変化を撮影するときに、設定したフレーム数だけを記録するフレーム記録は、クレイアニメーションを制作するときなどに有効です。

プロの画づくりを実現するカスタムピクチャー（📖 125）

ガンマやカラーマトリクス調整などの画質調整が可能。制作意図に応じた自由な画づくりが実現できます。設定はクリップに記録されるほか、SDカードに保存して複数のC300 / C300 PLで共有することもできます。

シネマ撮影に適したCanon Logガンマ（📖 63、136）

ガンマにCanon Logを使用すると、撮像素子の特性を十分に引き出す広いダイナミックレンジを確保したポスト処理ができます。

業務用途に対応する拡張性

HD/SD SDI出力端子、GENLOCK端子、TIME CODE入出力端子とSYNC OUT端子を搭載

HD/SD SDI出力端子により、高画質なHD映像をデジタル出力できます。音声やタイムコード（LTC/VITC）、ユーザービットの重畳にも対応しました。また、GENLOCK端子やTIME CODE入出力端子、SYNC OUT端子を使用して外部の機器とタイムコードを同期させることにより、複数のカメラと組み合わせてマルチカメラ撮影を行うことができます。

快適な操作環境を実現するカスタマイズ機能

29種類の機能から使用頻度の高いものを15個のアサインボタンに割り当て可能。よく使うメニュー項目をあらかじめ登録して使用したり（マイメニュー）、各種機能の設定を変更して好みの操作性に合わせたり（カスタムファンクション）、画面上の表示項目をカスタマイズしたり（カスタムディスプレイ）することも可能です。さらに、これらのカスタマイズ設定を含むすべてのメニュー設定やカスタムピクチャー設定をSDカードに保存／読み出しできるので、複数のC300 / C300 PLと設定を共有できます。

使いやすさを向上させるさまざまな機能

無線LANによるリモート撮影（📖 54）

ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6（別売）を取り付けると、ネットワークに接続した機器からリモート撮影可能（Wi-Fi Remote*）。ライブビューによる画角の確認や、フォーカス、シャッタースピード、ISO感度／ゲインなどのカメラ設定や、メタデータ入力などをワイヤレスで行えます。

* ワイファイリモートと読みます。

- 残量の目安や寿命（劣化度）を確認できるインテリジェントリチウムイオンバッテリー（📖 22）。
- 電源ONのままバッテリー交換を可能にする、DC IN端子。
- ハンドルユニット上部にアクセサリーを取り付け可能な1/4インチハンドルネジ。
- ファンタム電源供給（+48V）に対応した音声入力用外部XLR端子（📖 98）。
- 防振構造を採用した外部マイクホルダーと外部マイク用ケーブルクランプ。
- 明るさをチェックする波形モニター（WFM）、カラーバランスを確認するベクトルスコープ（VS）とフォーカスをアシストするエッジモニターを搭載（📖 110）。
- カメラ本体やNLE、サーバーでの簡単検索を実現するさまざまなメタデータ記録（📖 105）。

Contents

はじめに

準　備

撮　影

カスタマイズ

再　生

接　続

静止画

メニュー

その他

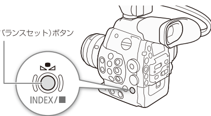
本書の読みかた

ホワイトバランスを調整する CAMERA MEDIA

照明や太陽光などの光源の色温度に応じて、ホワイトバランスを設定することができます。調整のしかたには次の3種類があります。

ホワイトバランスセット：実際に白い紙などを写して設定し、設定値を「セットA」または「セットB」として登録する。
色温度設定：2000K ～ 15000Kの範囲で色温度を設定する。
プリセット設定：「☀(太陽光、5400K)」または「☀(電球、3200K)」のいずれかを選ぶ。

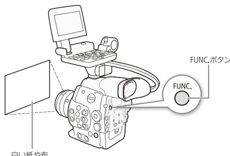
蛍光灯下で撮影するときは、ホワイトバランスセットで調整してください。プリセット設定を使うときは、さらに+9 ～ −9の範囲で微調整することができます。



MEMO
- カスタムピクチャーの「Color Matrix」または「White Balance」を設定しているときは、それらの設定がホワイトバランス設定より優先されます。
- その他機能メニュー > 「Custom Function」> 「ショックレスWB」を「入」にすると、ホワイトバランスを切り換えたときに値がなめらかに変化します(📖 193)。

■ ホワイトバランスセットで調整する

実際に撮影する環境下で白い紙などを写して基準白色を取り込みます。「A」と「B」の2種類の設定を登録できます。



80

ホワイトバランスを調整する

1 カメラダイレクト設定に入る
① FUNC.ボタンを押して、設定対象をホワイトバランスに切り換える。

2 調整方法を選ぶ
① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、「A」または「B」を選ぶ。
登録済みのホワイトバランスセットを選ぶとき
SETを押す。以降の操作は不要。
● 一度も設定を登録していないときは、選んだ「A」／「B」が画面上で点滅する。

3 被写体と同じ照明条件の場所に白い紙や布などを置き、画面いっぱいに写す

4 基準白色を取り込んで、登録する
① (ホワイトバランスセット)ボタンを押す。
● カメラダイレクト設定から抜け、「A」または「B」が速く点滅する。
● 調整中は、白い紙または布などを画面いっぱいに写し続ける。
● 点滅→点灯に変わったら調整完了。調整されたホワイトバランスは電源を切っても記憶されている。

Wi-Fi Remoteで調整する

Wi-Fi Remoteを使ってネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（📖 54）。

1 ホワイトバランス設定を選ぶ
① 「A」を押す。

81

コラムのマーク



必ず守っていただきたいこと



知っておいていただきたいこと

POWER（電源）スイッチの位置を示すマーク

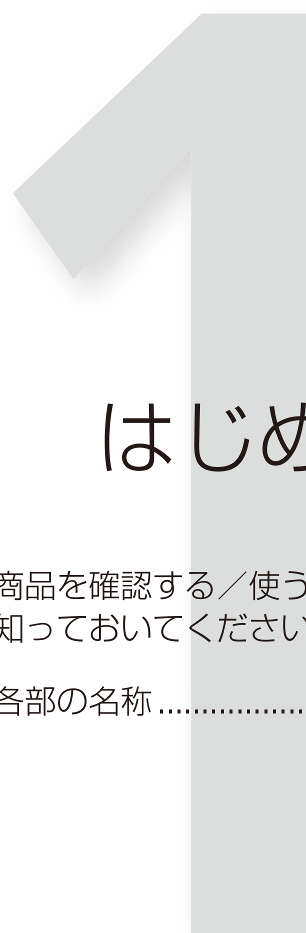
CAMERA MEDIA　CAMERAにする
CAMERA MEDIA　MEDIAにする
CAMERA MEDIA　CAMERAかMEDIAにする

次のページに続くことを示すマーク

本文中の表記

	参照ページを示す
	参考になるページなどを示す
画面	ファインダーの画面、または液晶画面のこと
SDカード	SD/SDHCメモリーカードのこと
メモリーカード	CF（コンパクトフラッシュ）カードまたはSDカードのこと。
カメラモード	動画撮影モードのこと
メディアモード	再生モードのこと

- 音声入力端子は「CH1、CH2」と、録音するチャンネルは「チャンネル」と表記しています。
- 本書で使用しているイラストはC300で、レンズはEF50mm F1.4 USMを取り付けています。また、作例写真はスチルカメラで撮影したものです。
- 本書では、見やすくするために加工した画面を一部使用しています。

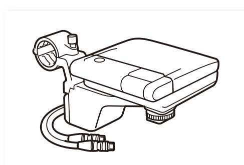


はじめに

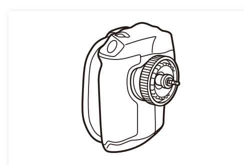
商品を確認する

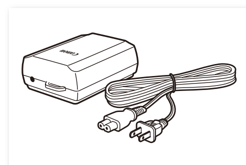
C300 / C300 PLには、次のものが付属しています。ご使用になる前に足りないものはないか確認してください。

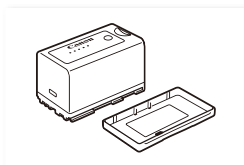

ビデオカメラ本体

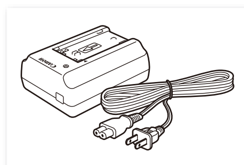

モニターユニット

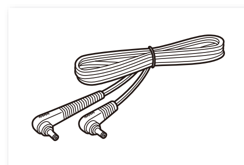

ハンドルユニット

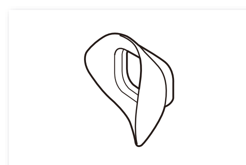

グリップ（本体装着）


コンパクトパワーアダプター（ACアダプター）CA-940


バッテリーパック BP-955

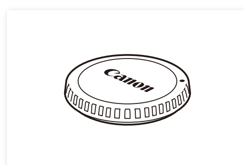

バッテリーチャージャー CG-940


DCケーブル DC-940（結束バンド付き）

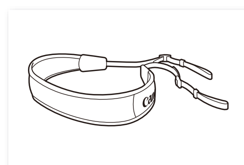

アイカップ

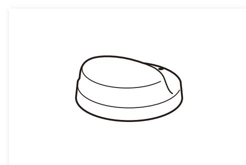


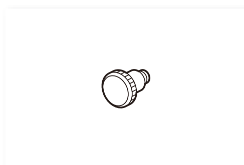
ファインダーキャップ

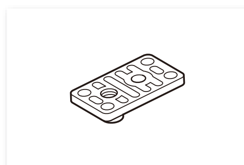


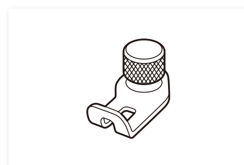
ボディキャップ（本体装着）

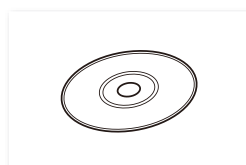

ショルダーストラップ SS-1200


サムレスト


メジャーフック（2個。本体装着）


1/4インチ用三脚ベース


WFTアタッチメント金具*1


Canon XF Utilities Disc*2

*1 ワイヤレスファイルトランスミッター（別売）を取り付けるときに使用します。
*2 ソフトウェアのインストールについては、「クリップをパソコンに保存する」（📖 164）をご覧ください。インストールすると、ソフトウェアの説明書も一緒にパソコンにコピーされます。

使う前に知っておいてください

必ずためし撮りをしてください

事前に、50 Mbpsのビットレート（📖 64）で約6分間ためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。万一、ビデオカメラが正常に動作しないときは、「トラブルシューティング」（📖 206）をご確認ください。

記録内容の補償はできません

ビデオカメラや記録メディアなどの不具合により、記録や再生ができなかった場合であっても、記録内容の補償はご容赦ください。

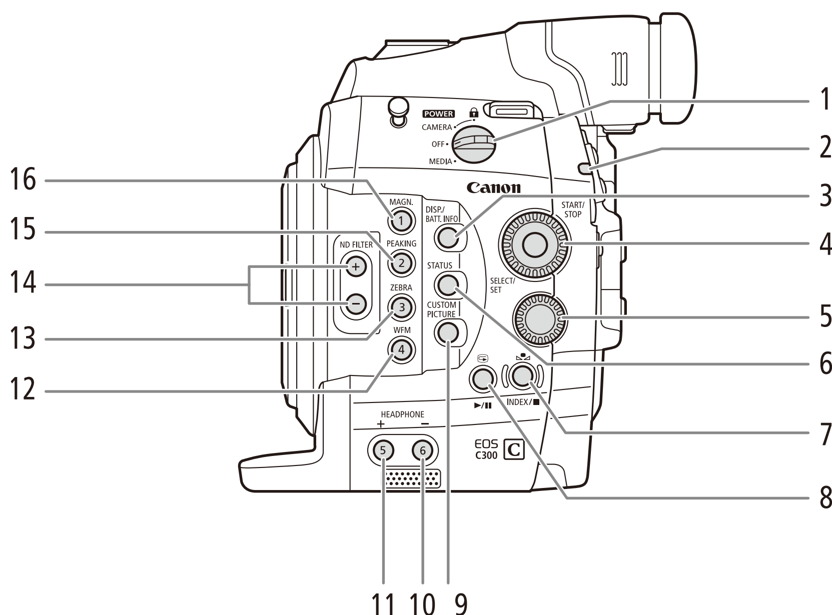
著作権にご注意ください

録画・録音したビデオは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

各部の名称

各部の機能と使いかたについては、⏩📖に記載されているページをご覧ください。

本体の名称



1 **POWER**（電源）スイッチ ⏩ 📖 26

2 タリーランプ ⏩ 📖 56

3 **DISP.**（ディスプレイ）／
BATT.INFO（バッテリー情報）ボタン ⏩ 📖 61、24

4 **SELECT**（選択）ダイヤル／**SET**（設定）ボタン 📖 28

5 電子ダイヤル ⏩ 📖 74、77

6 **STATUS**（ステータス）ボタン ⏩ 📖 198

7 （ホワイトバランスセット）／
INDEX/■（インデックス／停止）ボタン
⏩ 📖 80、141、142

8 （レックレビュー）／
►/II（再生／一時停止）ボタン ⏩ 📖 114、142

9 **CUSTOM PICTURE**（カスタムピクチャー）ボタン
⏩ 📖 125

10 **HEADPHONE**（ヘッドホン）音量調整－／
アサイン**6**ボタン ⏩ 📖 104

11 **HEADPHONE**（ヘッドホン）音量調整＋／
アサイン**5**ボタン ⏩ 📖 104

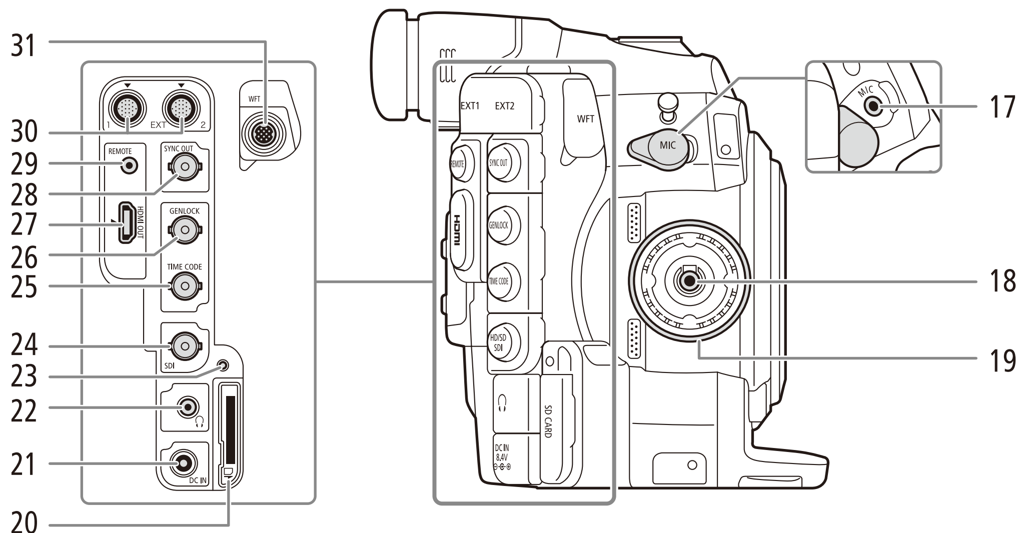
12 **WFM**（波形モニター）／
アサイン**4**ボタン ⏩ 📖 110

13 **ZEBRA**（ゼブラ）／アサイン**3**ボタン ⏩ 📖 89

14 **ND FILTER**（NDフィルター）切り換え**＋**/**－**ボタン
⏩ 📖 76

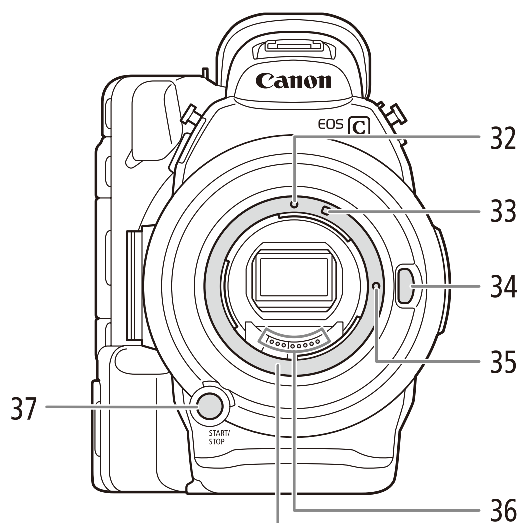
15 **PEAKING**（ピーキング）／アサイン**2**ボタン
⏩ 📖 86

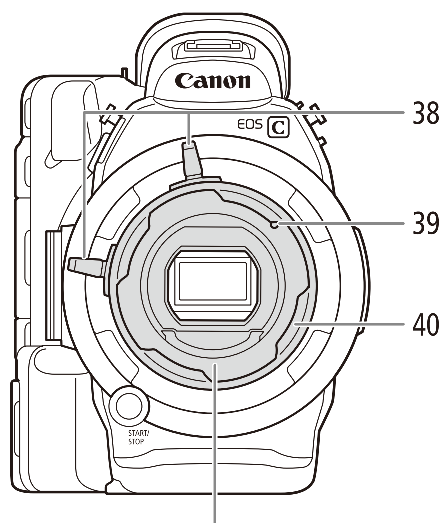
16 **MAGN.**（拡大）／アサイン**1**ボタン ⏩ 📖 87



17 **MIC**（マイク）端子 ▶▶ 📖 99
18 グリップ接続端子 ▶▶ 📖 43
19 グリップ取り付け部 ▶▶ 📖 43
20 SDカードスロット ▶▶ 📖 49
21 **DC IN**端子 ▶▶ 📖 25
22 🎧（ヘッドホン）端子 ▶▶ 📖 104
23 SDカードアクセスランプ ▶▶ 📖 49
24 **HD/SD SDI**端子 ▶▶ 📖 159
25 **TIME CODE**端子 ▶▶ 📖 95
26 **GENLOCK**端子 ▶▶ 📖 95
27 **HDMI OUT**端子 ▶▶ 📖 159
28 **SYNC OUT**端子 ▶▶ 📖 159
29 **REMOTE**（リモート）端子
- 市販のリモコンなどを接続する。

30 **EXT1/2**端子 ▶▶ 📖 37
31 **WFT**端子 ▶▶ 📖 54





C300 EFレンズマウント

32 EFレンズ取り付け指標 ▶▶ 📖 32

33 EF-Sレンズ取り付け指標 ▶▶ 📖 32

34 レンズロック解除ボタン ▶▶ 📖 32

35 レンズロックピン

36 EFレンズ接点 ▶▶ 📖 216

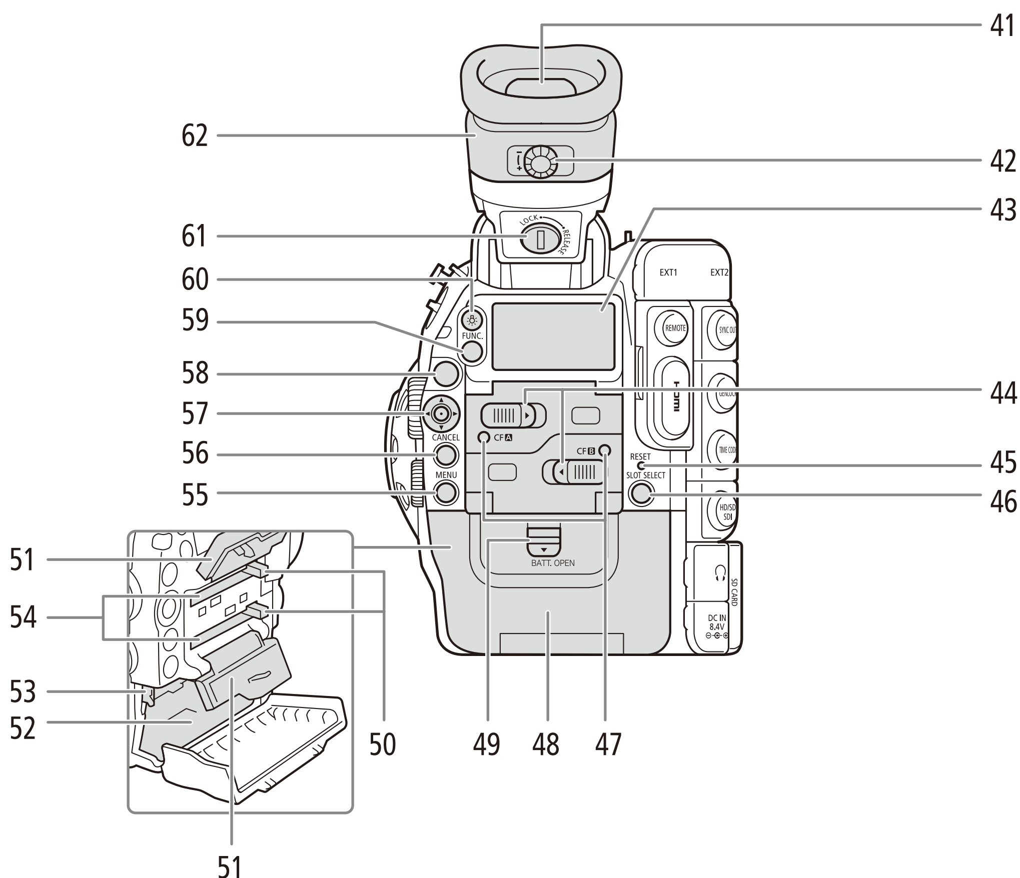
37 **START/STOP**(スタート／ストップ)ボタン ▶▶ 📖 56

C300 PL PLレンズマウント

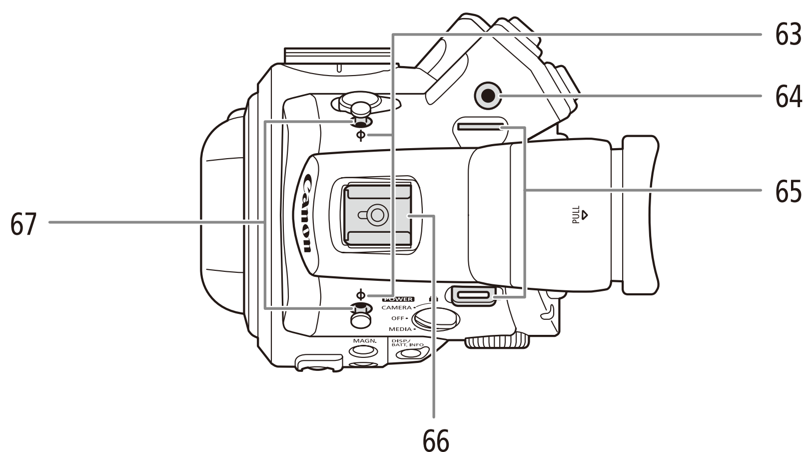
38 バヨネットリングレバー ▶▶ 📖 34

39 位置決めピン ▶▶ 📖 34

40 バヨネットリング ▶▶ 📖 34



41 ファインダー ⏩ 📖 38
42 視度調整ダイヤル ⏩ 📖 39
43 表示パネル ⏩ 📖 62
44 CFカードカバー開くレバー（**CFA** ／ **CFB**）⏩ 📖 46
45 **RESET**（リセット）ボタン ⏩ 📖 208
46 **SLOT SELECT**（スロット選択）ボタン ⏩ 📖 51
47 アクセスランプ（**CFA** ／ **CFB**）⏩ 📖 46
48 バッテリーカバー ⏩ 📖 23
49 **BATT.OPEN**（バッテリーカバー開く）レバー ⏩ 📖 23
50 CFカード取り出しボタン ⏩ 📖 48
51 CFカードカバー ⏩ 📖 46
52 バッテリー装着部 ⏩ 📖 23
53 **RELEASE**（バッテリー取り外し）レバー ⏩ 📖 23
54 CFカードスロット ⏩ 📖 46
55 **MENU**（メニュー）ボタン ⏩ 📖 28
56 **CANCEL**（キャンセル）ボタン ⏩ 📖 28
57 ジョイスティック ⏩ 📖 28
58 **START/STOP**（スタート／ストップ）ボタン ⏩ 📖 56
59 **FUNC.**（ファンクション）ボタン ⏩ 📖 66
60 ☼（表示パネル照明）ボタン ⏩ 📖 62
61 ファインダーユニットロックスイッチ ⏩ 📖 220
62 ファインダーユニット ⏩ 📖 38



63 ϕ 撮像面マーク

64 WFTアタッチメント金具取り付け部

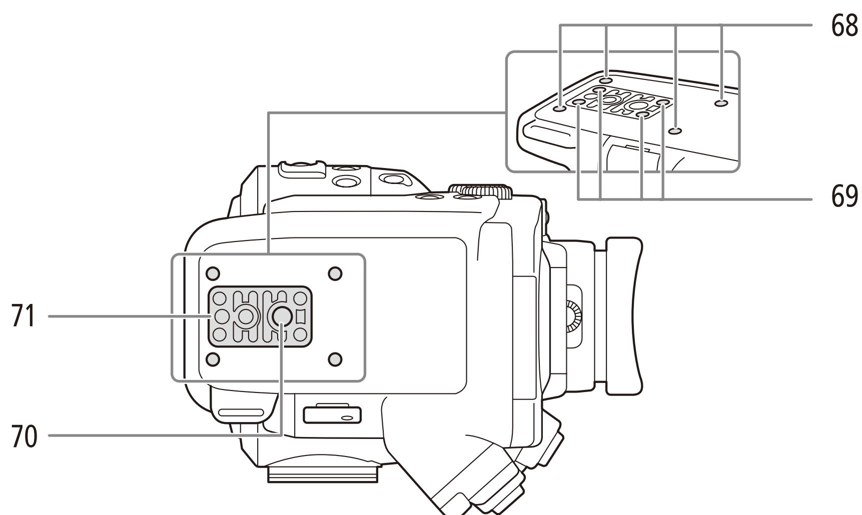
65 ストラップ取り付け部 ➡ 📖 45

66 アクセサリーシュー *

- 1/4インチネジ付き。

67 メジャーフック

- メジャーを使って撮像面からの距離を測るときに使う。



68 別売の三脚アダプター TA-100取り付け部 ▶▶ 📖 42

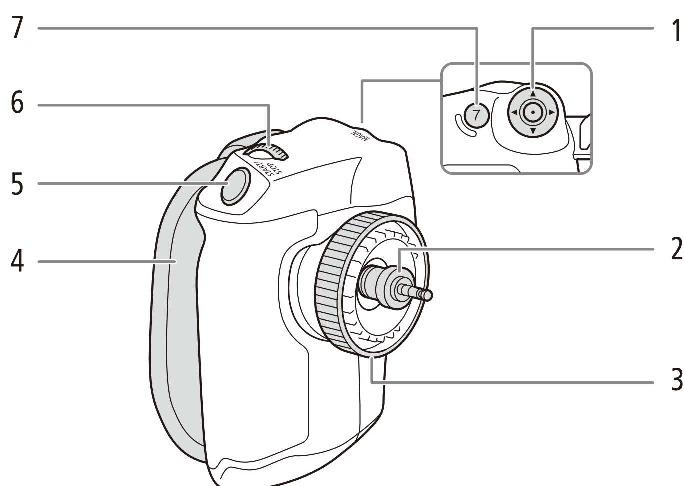
69 三脚ベース取り付けネジ ▶▶ 📖 42

70 三脚取り付け穴

71 3/8インチネジ用三脚ベースTB1 ▶▶ 📖 42

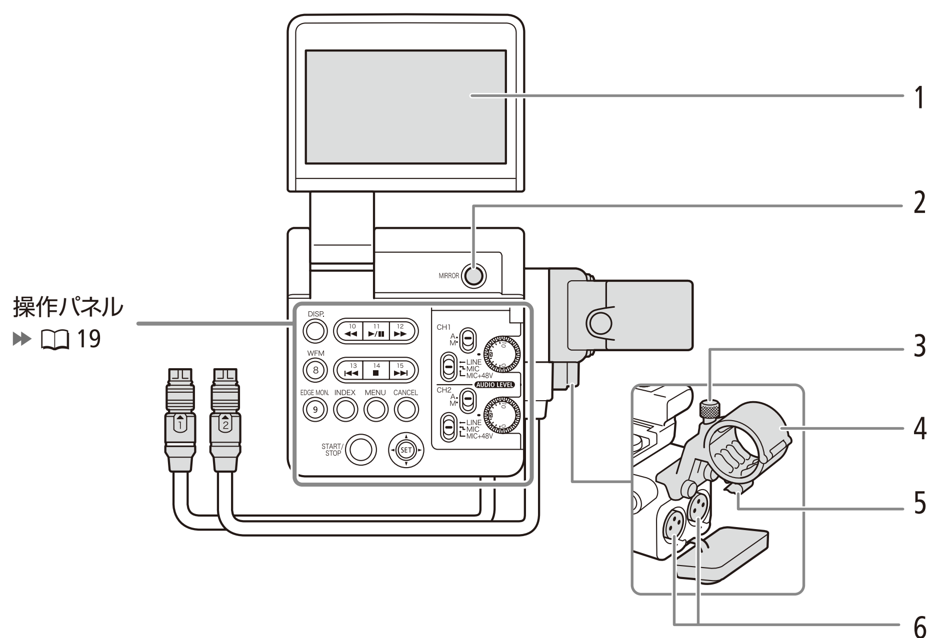
グリップの名称

ご購入時グリップは本体に取り付けられています。



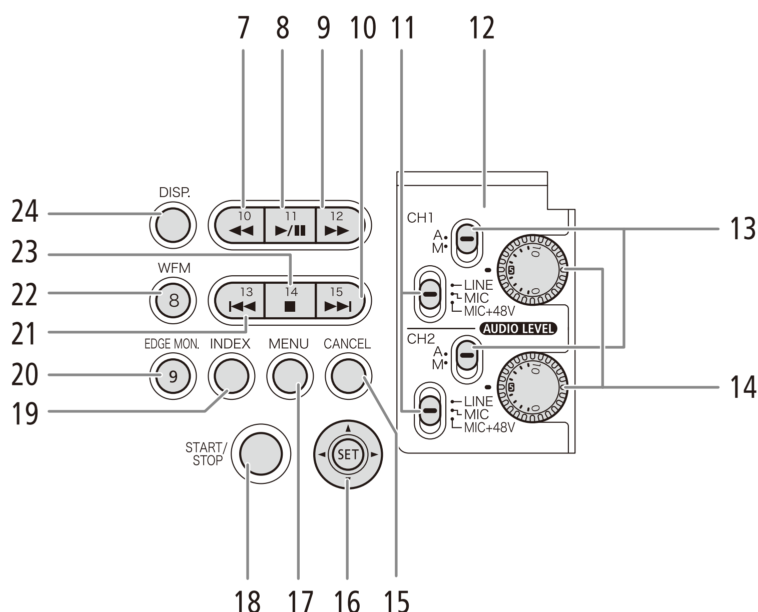
1 ジョイスティック ▶▶ 📖 28
2 接続プラグ ▶▶ 📖 43
3 取り付けネジ ▶▶ 📖 43
4 グリップベルト ▶▶ 📖 44
5 **START/STOP**(スタート／ストップ)ボタン ▶▶ 📖 56
6 電子ダイヤル ▶▶ 📖 74、77
7 **MAGN.**(拡大）／アサイン**7**ボタン ▶▶ 📖 87

モニターユニットの名称



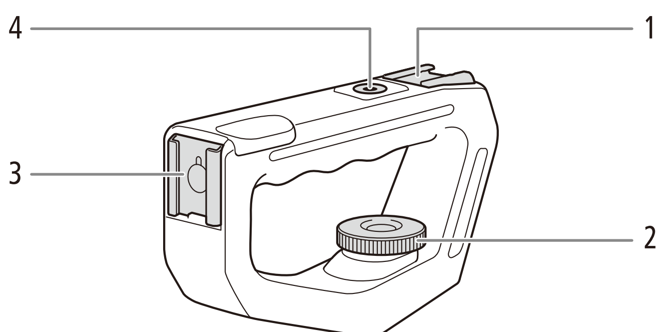
1 液晶画面 ⏩ 40
2 **MIRROR**（反転表示）切り換えボタン ⏩ 40
3 外部マイク固定ネジ ⏩ 99
4 外部マイクホルダー ⏩ 99
5 ケーブルクランプ ⏩ 99
6 XLR端子（**CH1/CH2**）⏩ 99

操作パネル



7 ◀◀(早戻し) ／アサイン**10**ボタン ➡ 📖 144
8 ▶/❚❚(再生／一時停止) ／アサイン**11**ボタン ➡ 📖 142
9 ▶▶(早送り) ／アサイン**12**ボタン ➡ 📖 144
10 ▶▶❙(次スキップ) ／アサイン**15**ボタン ➡ 📖 144
11 XLR端子切り換えスイッチ (**CH1/CH2**) ➡ 📖 100
12 **AUDIO LEVEL**(録音レベル)カバー ➡ 📖 101
13 **AUDIO LEVEL**(録音レベル)切り換えスイッチ(**CH1/CH2**) ➡ 📖 100
14 **AUDIO LEVEL**(録音レベル)調整つまみ (**CH1/CH2**) ➡ 📖 101
15 **CANCEL**(キャンセル)ボタン ➡ 📖 28
16 ジョイスティック ➡ 📖 28
17 **MENU**(メニュー)ボタン ➡ 📖 28
18 **START/STOP**(スタート／ストップ)ボタン ➡ 📖 56
19 **INDEX**(インデックス)ボタン ➡ 📖 141
20 **EDGE MON.**(エッジモニター) ／アサイン**9**ボタン ➡ 📖 110
21 ❙◀◀(前スキップ) ／アサイン**13**ボタン ➡ 📖 144
22 **WFM**(波形モニター)／アサイン**8**ボタン ➡ 📖 110
23 ■(停止) ／アサイン**14**ボタン ➡ 📖 142
24 **DISP.**(ディスプレイ)ボタン ➡ 📖 61

ハンドルユニットの名称



1 上部アクセサリーシュー
2 取り付けネジ ▶▶ 📖 44
3 前部アクセサリーシュー ▶▶ 📖 37
4 1/4インチハンドルネジ

2 準　備

電源を準備する

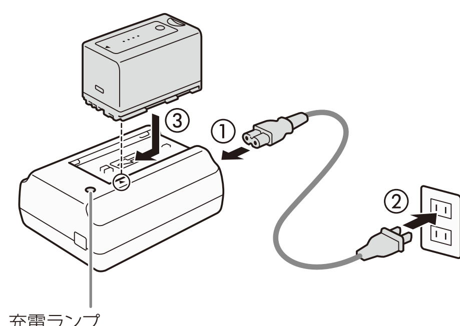
電源は、バッテリーまたは家庭用コンセントから使用します。バッテリーが取り付けられている状態で、家庭用コンセントに接続するとコンセントからの電源で動作します。バッテリーは充電してから使います。

バッテリーを使う

本機は、バッテリーパックBP-955（付属）を使用できます。インテリジェントシステムに対応していますので、残量を確認することができます。

充電する

付属のバッテリーチャージャー CG-940を使って充電します。バッテリーパックを使うときは、ショート防止用端子カバーを取り外します。（□217）



☀ ☀	1秒間に1回点滅 → 0 ～ 34%
☀☀ ☀☀	1秒間に2回点滅 → 35 ～ 69%
☀☀☀ ☀☀☀	1秒間に3回点滅 → 70 ～ 99%

1 バッテリーチャージャーに電源コードを差し込む（①）
2 電源プラグをコンセントに差し込む（②）
3 バッテリーパックの先端を▼に合わせて、押し付けながらカチッと音がするまでスライドさせる（③）
   - 充電ランプが点滅して、充電が始まる。
   - 充電中は、充電ランプの点滅のしかたで充電量（目安）を確認できる。点滅→点灯に変わったら充電終了。
4 バッテリーパックをスライドさせて、取り外す
5 電源プラグをコンセントから抜き、電源コードをバッテリーチャージャーから抜く

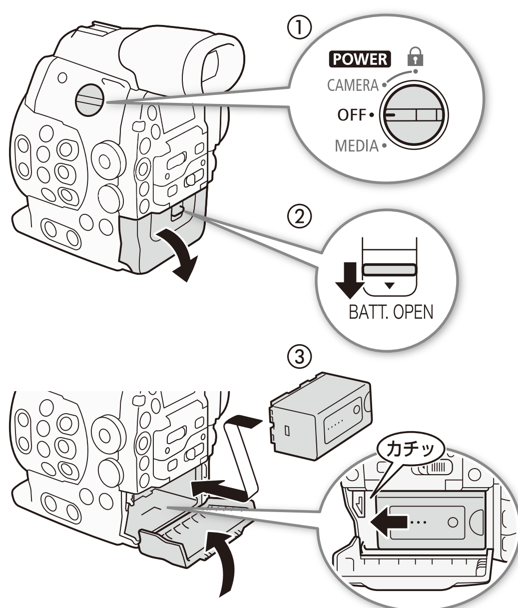


- バッテリーチャージャーに指定された製品以外を接続しないでください。
- 10 ℃～30 ℃の場所で充電することをおすすめします。0 ℃未満、40 ℃を超える場所では充電できません。



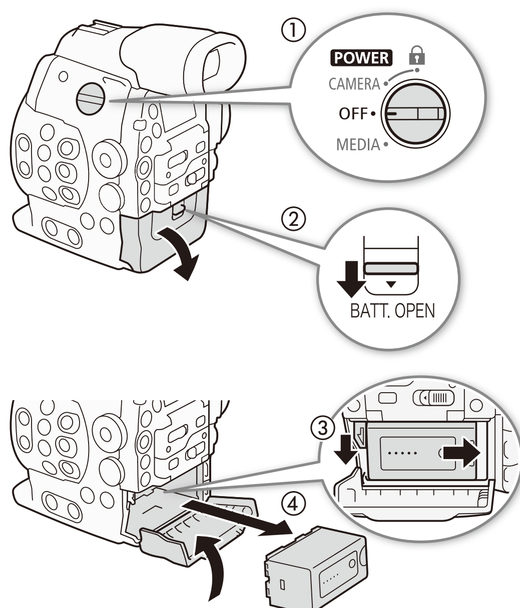
- バッテリーチャージャーやバッテリーに異常があると、充電ランプが消灯し、充電を中止します。
- バッテリーの取り扱いについては、217ページをご覧ください。
- バッテリーの充電時間とフルに充電したときの使用時間は、226ページをご覧ください。
- フル充電したバッテリーも少しずつ放電します。使用直前に充電することをおすすめします。

本体に取り付ける



1 POWER（電源）スイッチをOFFにする（①）
2 BATT.OPEN（バッテリーカバー開く）レバーを▼方向にスライドさせて、バッテリーカバーを開ける（②）
3 バッテリーパックを図のように奥に押しつけながら左にスライドさせ、カチッと音がするまで入れる（③）
4 バッテリーカバーを閉じる

本体から取り外す

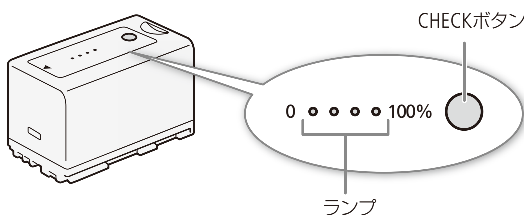


1 POWER（電源）スイッチをOFFにする（①）
2 BATT.OPEN（バッテリーカバー開く）レバーを▼方向にスライドさせて、バッテリーカバーを開ける（②）
3 RELEASE（バッテリー取り外し）レバーを矢印の方向に押し（③）、バッテリーパックを右にスライドさせて、バッテリーパックを取り出す（④）
4 バッテリーカバーを閉じる

残量を確認する

BP-955（付属）は、本機の電源を入れなくても、次の方法でバッテリーの残量（目安）を確認できます。 また、電源を入れたあとは、カメラモード／メディアモードの各画面（📖 60、140）や、バッテリー／使用時間ステータス画面（📖 203）で確認することもできます。

バッテリー単独で確認する

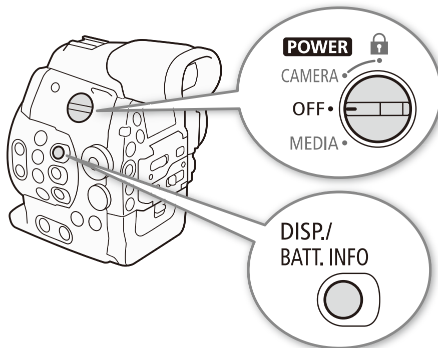


1 バッテリーパック上のCHECKボタンを押す

- 約3秒間ランプが点灯してバッテリーの残量（目安）を確認できる。

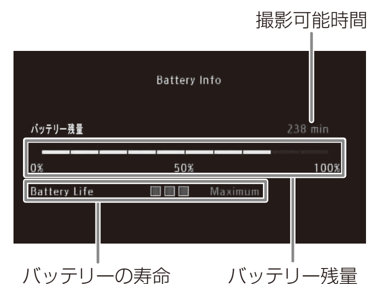
☀ ○ ○ ○	0 ～ 25%
☀ ☀ ○ ○	26 ～ 50%
☀ ☀ ☀ ○	51 ～ 75%
☀ ☀ ☀ ☀	76 ～ 100%

本体に取り付けて確認する（バッテリー情報）



1 本機が電源OFFのとき DISP.（ディスプレイ）／BATT.INFO（バッテリー情報）ボタンを押す

- バッテリーの残量と撮影可能時間の目安が、画面に5秒間表示される。
- バッテリーが消耗していると、表示されないことがある。

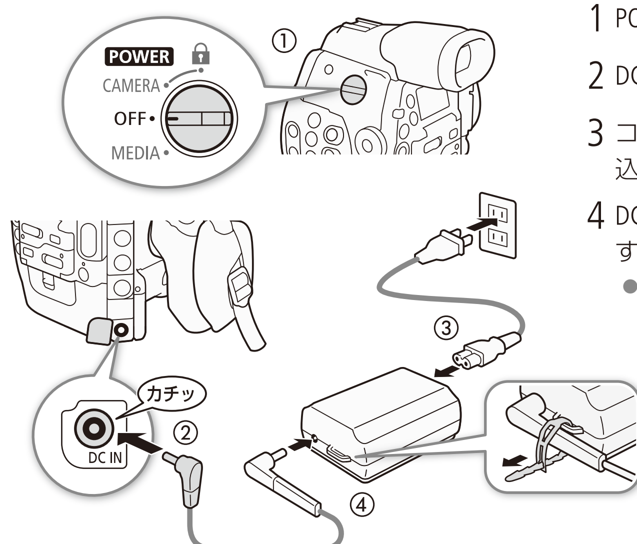



MEMO

- 撮影可能時間をより正しく表示するために、ご購入直後にバッテリーを初めて使うときは、一度充電完了まで充電してから使い切ってください。
- バッテリーは、充放電を繰り返すと少しずつ劣化して容量が少なくなります。BP-955（付属）を本機に取り付けると、バッテリー情報画面またはバッテリーステータス画面（📖 203）でバッテリーの寿命を確認できます。 寿命をより正確に確認するには、バッテリーを充電してから使い切ってください。

家庭用コンセントにつないで使う

コンパクトパワーアダプター CA-940（付属）とDCケーブルDC-940（付属）を使って、家庭用コンセントにつないで使用できます。



1 POWER（電源）スイッチをOFFにする（①）

2 DC IN端子にDCケーブルを接続する（②）

3 コンパクトパワーアダプターに電源コードを差し込み、電源プラグをコンセントに差し込む（③）

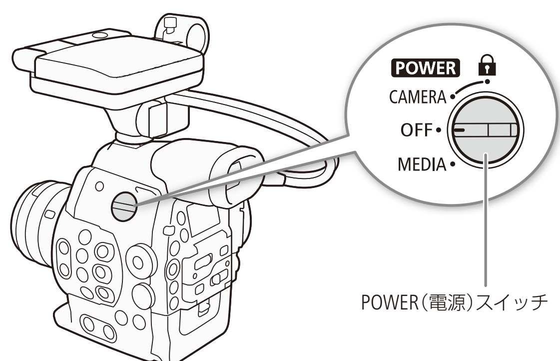
4 DCケーブルをコンパクトパワーアダプターに接続する（④）
- 必要に応じて、結束バンド（付属）で固定すると、ケーブルの抜けを防止できる。

ご注意　コンパクトパワーアダプターを抜き差しするときは、必ずビデオカメラの電源を切ってください。

MEMO　本機を家庭用コンセントにつなぐと、電源を入れたままバッテリーを交換することができます。

電源を入れる／切る

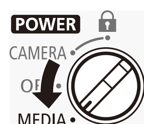
本機には、撮影用のカメラモードと再生用のメディアモードとがあり、電源を入れるときに選択します。POWER（電源）スイッチを「CAMERA」にして電源を入れるとカメラモードに、「MEDIA」にして電源を入れるとメディアモードになります。





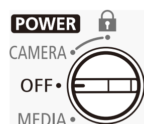
カメラモードで起動するとき

POWER（電源）スイッチをCAMERAにする。



メディアモードで起動するとき

POWER（電源）スイッチをMEDIAにする。



電源を切るとき

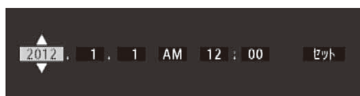
POWER（電源）スイッチをOFFにする。

日時を設定する CAMERA MEDIA

はじめてお使いになるときは、日付・時刻を設定する画面が表示されます*。操作に使用するボタンなどの位置を次ページの図で確認して、日時を設定してください。

* 内蔵のリチウム2次電池が放電したときも同様です。

日付と時刻を設定する



① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して「年」の数字を選び、ジョイスティックまたはSET(設定)ボタンを押す。
- カーソルが「月」に移動する。
- SET(設定)ボタンを押すたびに、年→月→日→時→分の順にカーソルが移動する。

② ①の操作を繰り返して、日付/時刻を設定する。

③ カーソルが一番右の「セット」にある状態で、時報に合わせてSET(設定)ボタンを押す。
- 日時設定が完了する。

撮影中に日時を表示する CAMERA MEDIA

撮影中に現在の日時を画面下方に表示できます。



① MENUボタンを押す。

② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して (LCD/VF設定メニュー)を選ぶ ＞ SET(設定)ボタンを押す。

③ 同様に、「Custom Display 2」＞「日付/時刻」を順に選ぶ ＞ SET(設定)ボタンを押す。

④「日付/時刻」、「時刻」、「日付」のいずれかを選ぶ ＞ SET(設定)ボタンを押す。
- 日時を表示しないときは、ここで「切」を選ぶ。

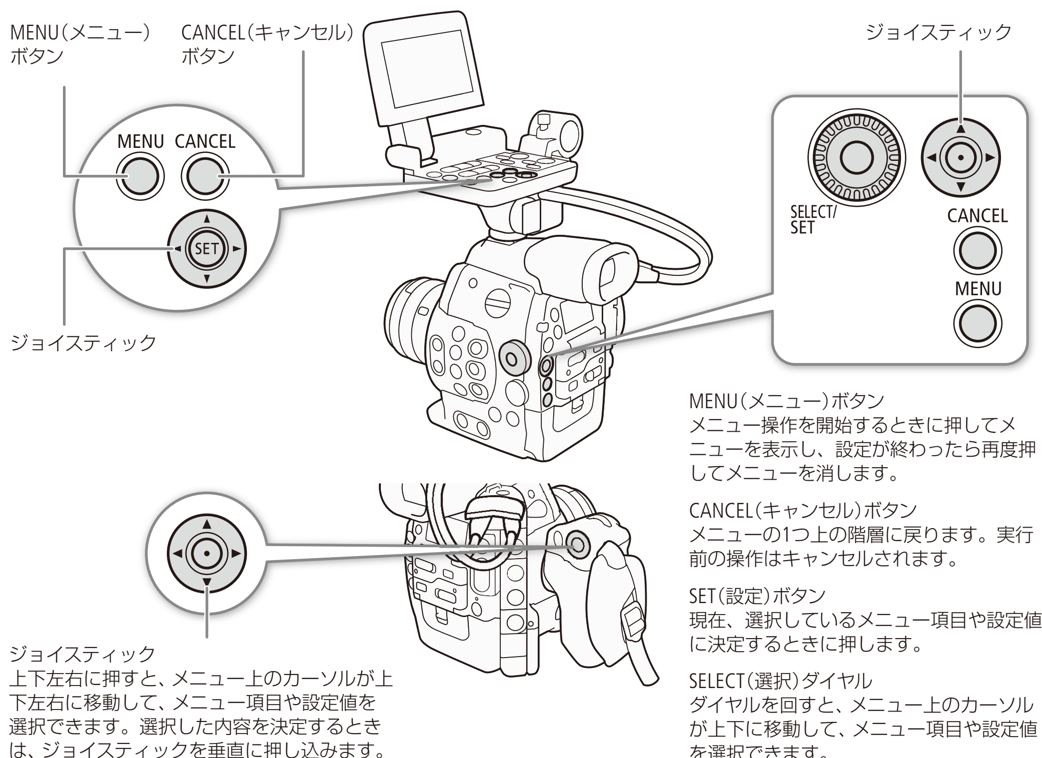
⑤ MENUボタンを押す。



- 日時設定は、その他機能メニュー ＞「日時設定」＞「日付/時刻」で変更できます。また、タイムゾーンは、その他機能メニュー ＞「タイムゾーン」で変更できます(190)。
- 本機を3ヶ月近く使わないでおくと、内蔵の充電式リチウム電池が放電して日付/時刻の設定が解除されることがあります。そのときは、内蔵のリチウム電池を充電してから設定し直してください(218)。

メニューで設定を変える CAMERA MEDIA

本機のさまざまな機能をメニューによって設定することができます。また、よく使うメニュー項目をあらかじめマイメニューに登録して設定することもできます。ここではメニュー設定の基本操作や共通操作について説明しますので、本書の各項目で説明されているメニュー設定を操作するときの参考にしてください。メニューの種類については「メニュー一覧」（📖 182）をご覧ください。



メニュー操作の基本

例をあげてメニューの基本操作を説明します。

例：「ピーキング」を「2」に設定する場合

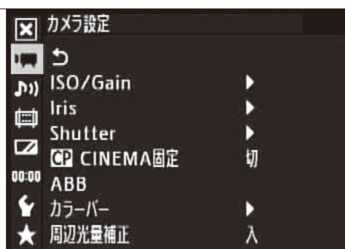
MENU



1 メニューを表示させる

① MENUボタンを押す。

- メニュー操作モードになり、画面にメニューが表示される。
- メニューは、最後にメニューを消したときの状態が保持されたまま表示される（電源をOFF/ONすると初期状態に戻る）。



準備



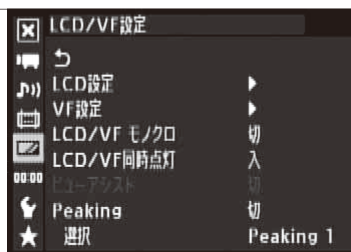


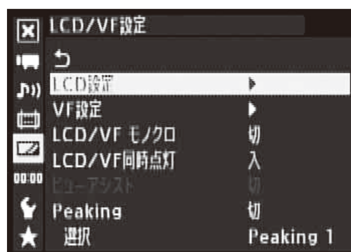
2 設定するメニューを選ぶ

① ジョイスティックを上下に押すかSELECT（選択）ダイヤルを回して、設定するメニューを選ぶ。
- 選んだメニューのサブメニューが表示される。

② ジョイスティックまたはSET（設定）ボタンを押す*。
- カーソルがメニュー項目に移動する。
- ジョイスティックを右に押して、カーソルをメニュー項目に移動することもできる。
- 表示しきれないメニュー項目があるときは、メニューの右端にスクロールバーが表示される。カーソルを上下に移動するとメニューがスクロールする。

* 以降、この操作を「SETを押す」と記載する。







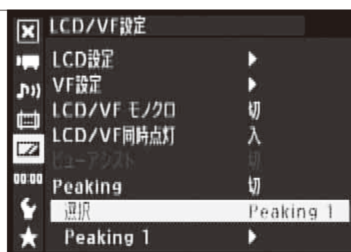


3 設定するメニュー項目を選ぶ

① ジョイスティックを上下に押すかSELECT（選択）ダイヤルを回して、設定するメニュー項目を選ぶ。

② SETを押す。
- カーソルが設定内容に移動する。
- メニュー項目の右側に表示される「▶」は、下の階層にメニュー項目があることを示す。このメニュー項目を選んだときは、再度①、②の操作を行って、下の階層のメニュー項目を選ぶ。
- 「CANCELボタンを押す*」、「ジョイスティックを左に押す」、「↺を選ぶ」、のいずれかを行うと、カーソルが1つ上の階層に戻る。

* 以降、この操作を「CANCELを押す」と記載する。





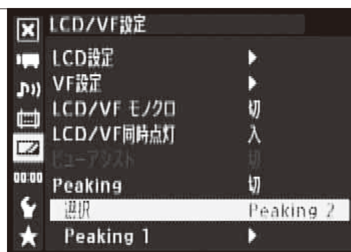




4 設定内容を選び、設定する

① ジョイスティックを上下に押すかSELECT（選択）ダイヤルを回して、設定内容を選ぶ。

② SETを押す。
- 選んだ設定内容を決定し、上の階層のメニュー項目に戻る。





5 メニューを消す

① MENUボタンを押す。
- メニュー操作モードが終了し、メニューが消える。



- 他の機能の設定内容などによって設定できない項目は、灰色で表示されることがあります。
- MENUボタンを押すと、メニューはいつでも終了します。
- 現在の設定内容は、ステータス画面で確認できます（198）。

マイメニューを使う

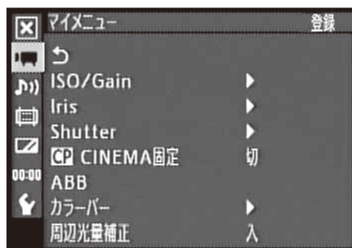
よく使うメニュー項目をあらかじめ登録しておき、必要なときに簡単に設定することができます。アサインボタンにマイメニューを割り当てておけば、1ボタン操作でマイメニューを開くこともできます。マイメニューにはメニュー項目を14個まで登録できます。

例：カメラ設定メニュー ＞「ISO/Gain」＞「選択」を追加する場合



1 マイメニューの「登録」を選ぶ

① マイメニュー ＞「編集」＞「登録」を順に選ぶ。
- メニューが青色に変わり、マイメニューに登録するメニュー項目を選ぶ画面になる。



2 マイメニューに登録するメニュー項目を選ぶ

① カメラ設定メニュー ＞「ISO/Gain」＞「選択」を順に選ぶ ＞ SETを押す。
②「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
③ SETを押す。
- 「ISO/Gain　　選択」がマイメニューに登録される。

登録したメニュー項目を並べ換える

マイメニューに登録したメニュー項目を並べ換えることができます。



1 マイメニューの「並べ替え」を選ぶ

① マイメニュー ＞「編集」＞「並べ替え」を選ぶ ＞ SETを押す。
- マイメニューに登録されているメニュー項目が一覧表示される。



2 メニュー項目を選んで並べ替える

① 並べ替えるメニュー項目を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだメニュー項目の左に◆が表示される。

② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、移動先を選ぶ ＞ SETを押す。
- メニュー項目が移動する。

登録したメニュー項目を消去する

マイメニューに登録したメニュー項目を、1項目ずつまたはすべて消去することができます。



1 マイメニューの「消去」または「設定初期化」を選ぶ

① マイメニュー ＞「編集」＞「消去」または「設定初期化」を選ぶ ＞ SETを押す。



2 消去する

「消去」を選んだとき

消去するメニュー項目を選ぶ ＞ SETを押す。

①「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 「消去」を選んだときは選んだメニュー項目が、「設定初期化」を選んだときは登録されているすべてのメニュー項目が、消去される。

② SETを押す。

カメラを準備する

ここではハンドルユニットやモニターユニットの取り付け、ファインダーや液晶画面の調整、レンズの取り付け／取り外しなど、はじめに行うカメラの準備について説明します。



ご注意 レンズの取り付け／取り外しは、直射日光や強い照明を避けて行ってください。また、ビデオカメラやレンズを落とさないようにご注意ください。

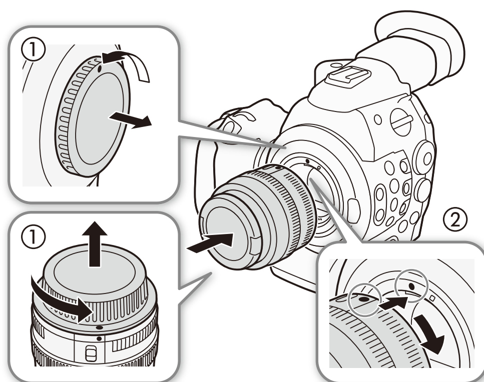


MEMO
- レンズを取り外したあと、レンズや本体のレンズマウント、レンズマウントの内部に手を触れないでください。
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、必ずレンズマウントにボディキャップを取り付けてください。
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてから使用してください。

レンズを準備する

レンズの取り付け／取り外しは、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。取り付けるレンズの説明書もあわせてご覧ください。

EFレンズを取り付ける C300



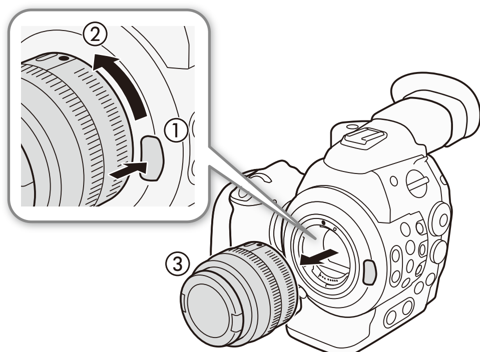
1 POWER（電源）スイッチをOFFにする

2 EFレンズマウントからボディキャップを、レンズからダストキャップを取り外す（①）

3 レンズを取り付ける（②）
- 本機とEFレンズの取り付け指標（赤色）を合わせ、レンズを図のようにカチッと音がするまで回す。
- EF-Sレンズのときは、EF-Sレンズ取り付け指標（白色）に合わせる。

準備

EFレンズを取り外す



1 POWER(電源)スイッチをOFFにする

2 レンズロック解除ボタンを押しながら(①)、レンズを図のように回して(②)取り外す(③)
- 回転が止まるまで回してから取り外す。

3 EFレンズマウントにボディキャップを取り付ける

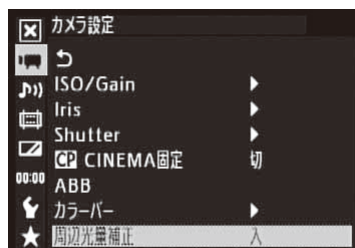
4 取り外したレンズにダストキャップを取り付ける


MEMO

- 手ブレ補正機能を搭載したEFレンズを使用する場合、手ブレ補正をONにすると撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正をOFFにすることをおすすめします。
- 取り付けたレンズによっては、次の動作になることがあります。
  - レンズ型名情報の一部が省略されて表示される。
  - フォーカスモードスイッチがAFのときに手動でフォーカス調整できない。
  - フォーカスプリセット機能が使用できない(超望遠レンズ)。
  - パワーズーム機能が使用できない。

EFレンズの周辺光量を補正する C300

レンズの特性により、映像の四隅の明るさが中央部に比べて暗くなります(周辺光量の低下)が、レンズごとの補正データを用いて、周辺部の光量低下を補正することができます。



① レンズを取り付けたあと、カメラ設定メニュー > 「周辺光量補正」を順に選ぶ。
- 取り付けているレンズの型名情報が画面に表示される。

「周辺光量補正」が灰色になっていて選べないとき
- 取り付けているレンズの補正データが本機にない。

❶ 取り付けているレンズが周辺光量補正に対応しているかどうか、キヤノンのホームページで確認する。
❷ 周辺光量補正に対応している場合は、ファームウエアをダウンロードし、本機のファームウエアを更新する。
❸ ①から操作する。

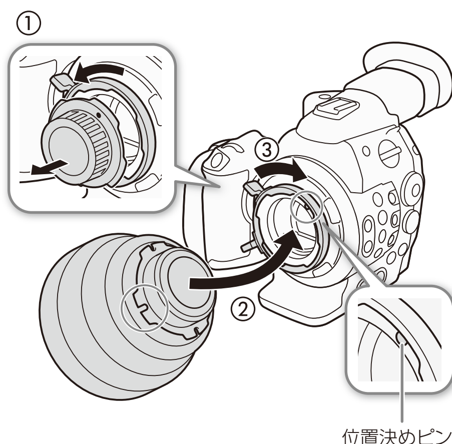
② 「入」を選ぶ > SETを押す。
- 以降の撮影時、取り付けているレンズの周辺光量が補正される。



レンズごとの補正データについて
本機発売時点で販売している周辺光量補正対応レンズの補正データは、あらかじめ本機に格納しています。将来発売されるレンズの補正データについては、補正データを含むファームウェアで本機のファームウェアを更新することによって、本機に取り込むことができます。最新のファームウェアについては、キヤノンのホームページでご確認ください。

- 撮影条件によっては、記録される映像の周辺部にノイズが発生することがあります。
- 距離情報を持たないレンズでは、補正量が少なくなります。
- ISO感度／ゲインが高くなるほど、補正量が少なくなります。
- レンズの補正データが本機に格納されていないときは補正を行いません。
- EF-Sレンズの場合、周辺光量の低下が大きくなることがあります。
- 他社製レンズ使用時は、周辺光量を補正できません。

PLレンズを取り付ける C300 PL



1 バヨネットリングレバーを反時計回りに回して、PLレンズマウントからボディキャップを取り外す（①）

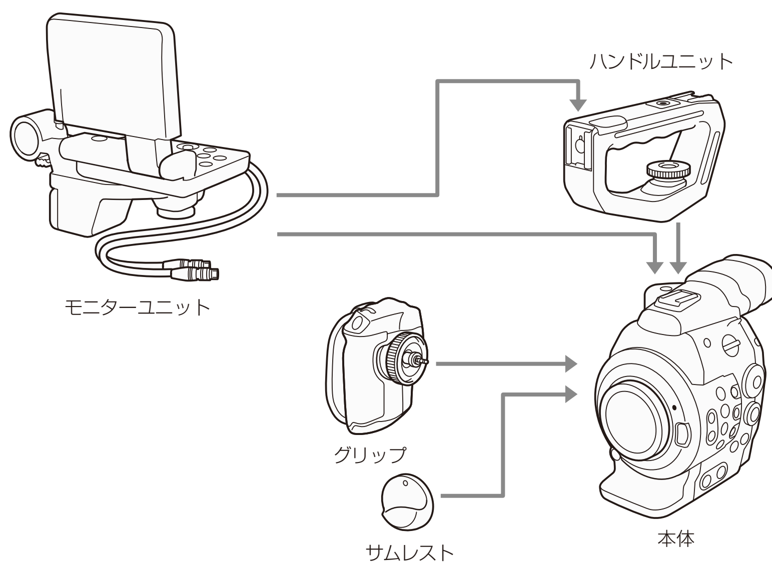
2 レンズの凹部を位置決めピンに合わせて、レンズをマウントに差し込む（②）

3 バヨネットリングレバーを時計回りに回して、レンズを固定する（③）

本機の構成例

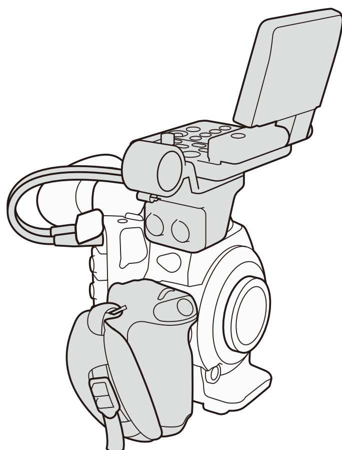
基本システム

本機は、ハンドルユニット、モニターユニット、グリップを着脱できるので、撮影シーンに応じて必要なユニットを自由に組み合わせて撮影できます。

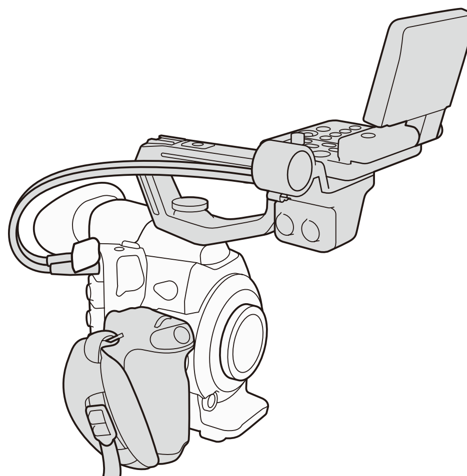


構成例

モニター構成

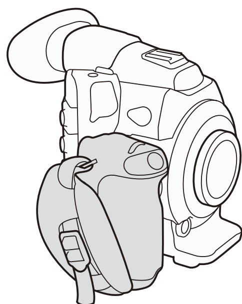


ハンドル＋モニター構成



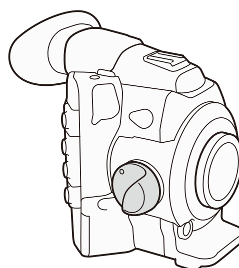
手持ち撮影構成（グリップ）

ハイアングル撮影やローアングル撮影などを行うときは、グリップを回転して取り付け可能（📖 43）。



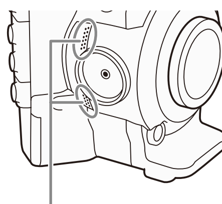
手持ち撮影構成（サムレスト）

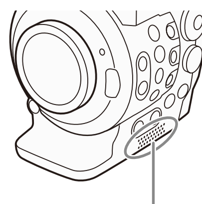
最小幅構成の抱え持ちスタイル。





内蔵冷却ファンの吸気口をテープなどで塞がないでください。

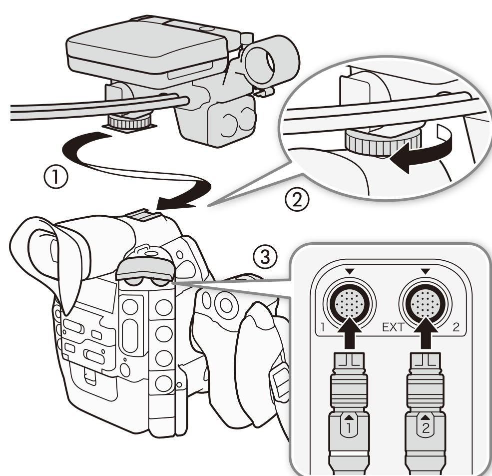




モニターユニットを取り付ける

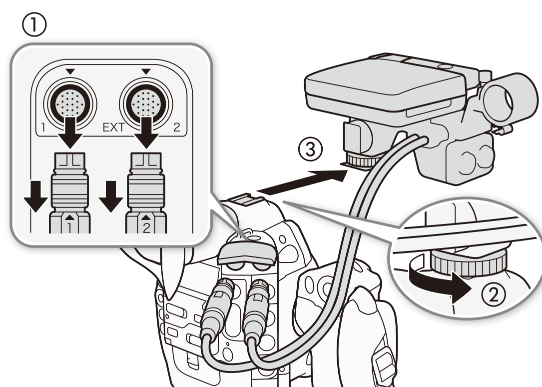
モニターユニットは本体またはハンドルユニットに取り付けることができます。本体に取り付けるときはモニターユニット底面の取り付け部を、ハンドルユニットに取り付けるときはモニターユニット背面の取り付け部を使用します。液晶画面の詳細については、「液晶画面を使う」(📖 40)、「液晶画面/ファインダーを調整する」(📖 41)をご覧ください。

例：本体に取り付ける場合



1 POWER(電源)スイッチをOFFにする
2 モニターユニット底面の取り付け金具を本体上部のアクセサリーシューに差し込む (①)
3 モニターユニット底面の取り付けネジを回して固定する (②)
4 モニターユニットのケーブルを本機に接続する (③)
   - ケーブル1(白線がある方)をEXT1端子に、ケーブル2をEXT2端子にそれぞれ接続する。

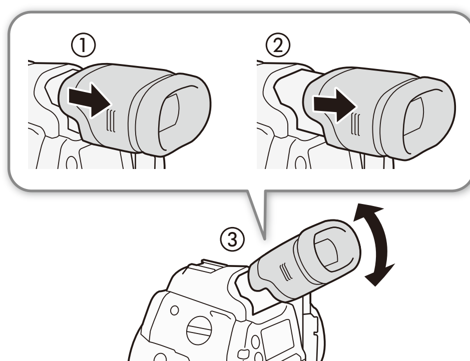
モニターユニットを取り外す



1 POWER(電源)スイッチをOFFにする
2 モニターユニットのケーブル1とケーブル2を抜く (①)
   - ケーブル先端の金具を手前に引きながら、ケーブルを引き抜く。
3 モニターユニットの取り付けネジをゆるめる (②)
4 モニターユニットをスライドさせて取り外す (③)

ファインダーを使う

ファインダーの角度を調整する



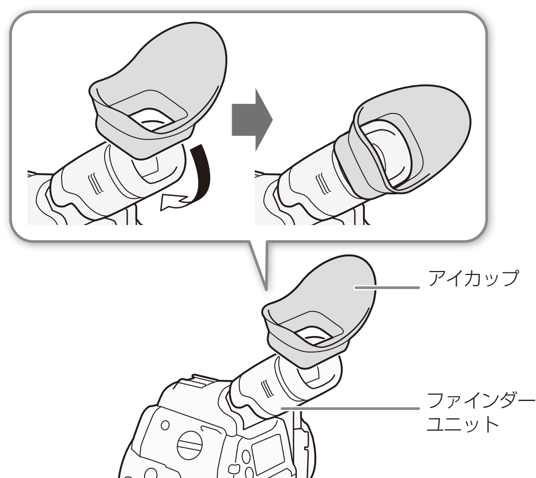
1 ファインダーを手前に引き出す（①）

2 ファインダーを軽く引き上げるようにしながら、完全に手前に引き出す（②）

3 ファインダーを見やすい角度に調整する（③）
- ファインダーの角度は60°まで調整できる

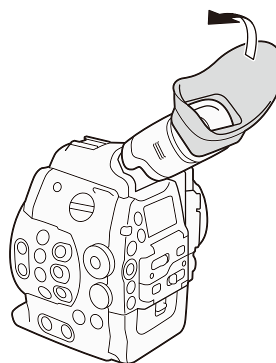
アイカップを取り付ける

ファインダーユニットのゴム部分にアイカップをかぶせるようにして取り付けます。アイカップは視度調整ダイヤルを覆いませんので、視度調節操作に支障はありません。なお、左目でファインダーを見るときはアイカップを逆向きに取り付けてください。



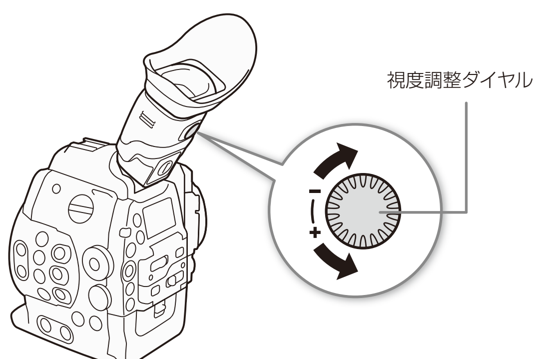
アイカップを取り外す

アイカップの側面を引っ張るようにして外します。

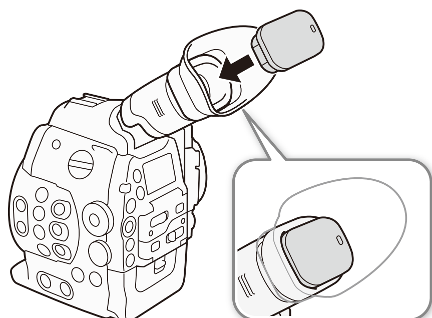


ファインダーの視度を調整する

ファインダーの映像がはっきり見えるように、視力に合わせて視度を調整します。電源を入れ（📖 26）、視度調整ダイヤルを回して調整してください。



ファインダーキャップを取り付ける

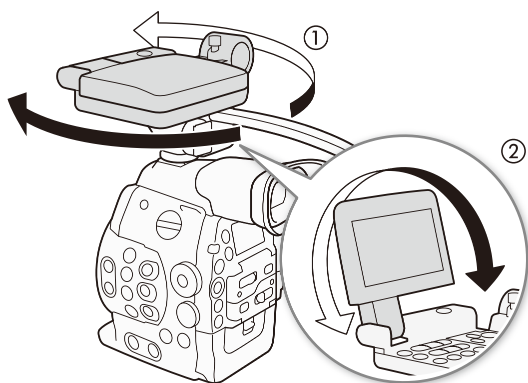


太陽光によってファインダー内部が破損するのを防ぐため、ファインダーを使用しないときはファインダーキャップを取り付けてください。ファインダー内のキズ／ゴミの防止にも有効です。取り付けるときは、ファインダーユニットのゴム部分の内側にはめ込んでください。

■ 液晶画面を使う

本機のモニターユニットは左右に270°回転可能なため、本機を側面から操作できます。また、液晶画面は左に180°、前後に270°回転可能。ショルダースタイルなど、さまざまな撮影スタイルに対応できます。

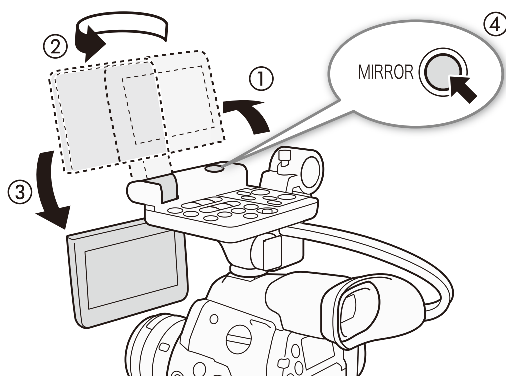
液晶画面を開く



1 必要に応じてモニターユニットを左右に回転させる（①）

2 液晶画面を開き、前後に回転させて見やすい角度に調整する（②）

ショルダースタイルにする



1 液晶画面を開く（①）

2 液晶画面を左に180°回転する（②）

3 液晶画面を前方に180°回転する（③）

4 MIRROR（反転表示）切り換えボタンを押して、画面の反転のしかたを切り換える（④）
   - MIRRORボタンを押すたびに、左右反転→上下左右反転→上下反転→反転なしの順に切り換わる。


MEMO

- 液晶画面をモノクロにしたいときは41ページをご覧ください。
- 市販のレンズアダプターなどを取り付けたときに映像が上下左右に反転する場合は、その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「スキャンリバース記録」（📖 194）で、映像を上下左右、上下、左右のいずれかに反転させて記録することができます。
- モニターユニット装着時、液晶画面とファインダーを同時に使わないときは、LCD/VF設定メニュー ＞「LCD/VF同時点灯」を「切」にすると、バッテリーの持ちがよくなります。なお、「切」に設定しても、液晶画面を閉じるとファインダー画面は表示されます。
- 液晶画面を相手に見せながら撮影するときなどは、MIRROR（反転表示）切り換えボタンを押すと、液晶画面を上下、左右、上下左右のいずれかに反転して表示させることができます

液晶画面／ファインダーを調整する CAMERA MEDIA

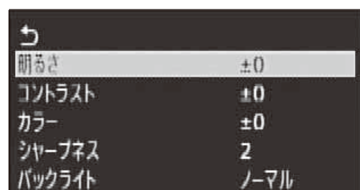
画面を調整する

明るさ、コントラスト、カラー、シャープネス、バックライトの各項目を、液晶画面とファインダーそれぞれ個別に調整できます。なお、この設定は記録される映像には影響しません。



1 「LCD設定」または「VF設定」を選ぶ

① LCD/VF設定メニュー ➤「LCD設定」または「VF設定」を順に選ぶ。
② SETを押す。



2 調整する

① 調整する項目を選ぶ ➤ SETを押す。
- 「明るさ」、「コントラスト」、「カラー」、「シャープネス」、「バックライト」から選ぶ。

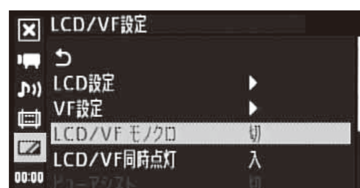
② ジョイスティックを上下に押すか、SELECTダイヤルを回して調整する ➤ SETを押す。
③ 調整する項目について、①②を繰り返す。



MEMO アサインボタンに「LCD設定」を割り当てると、アサインボタンを押してLCD/VF設定メニュー ➤「LCD設定」を表示することができます。（📖 122）。「VF設定」についても同様です。

液晶画面とファインダーをモノクロにする CAMERA MEDIA

画面をモノクロ表示にします。モノクロ表示にしても、表示文字などはカラーで表示されます。



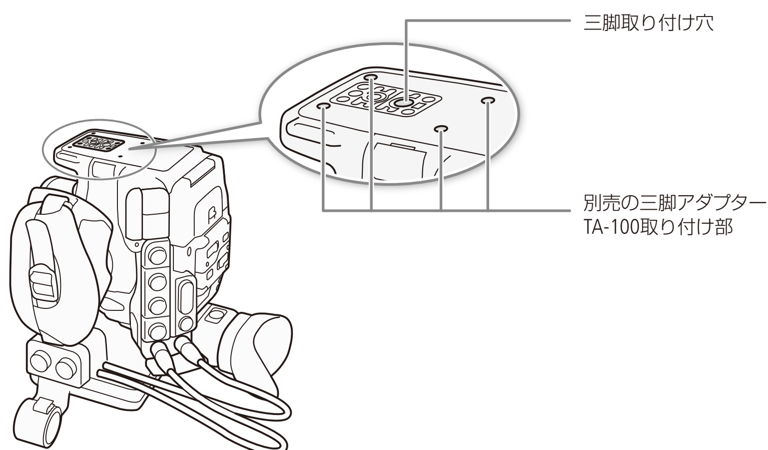
① LCD/VF設定メニュー ➤「LCD/VF モノクロ」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ ➤ SETを押す。



MEMO アサインボタンに「LCD/VF モノクロ」を割り当てると、アサインボタンを押して入／切を切り換えられます（📖 122）。

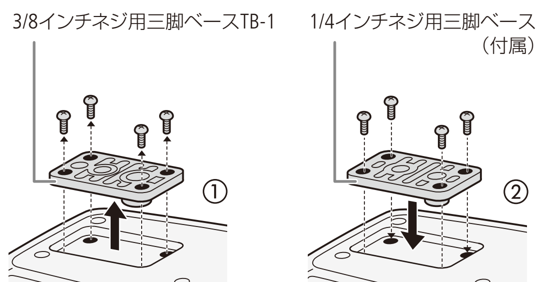
本体を三脚に取り付ける

ご購入時、本体には3/8インチネジ用の三脚ベースTB-1が取り付けられています。取り付けネジの長さが5.5mm未満の三脚を取り付けることができます。



取り付けネジ径が1/4インチの三脚を使う

取り付けネジの径が1/4インチの三脚を使用するときは、三脚ベース（三脚取り付け部）を1/4インチネジ用の三脚ベース（付属）に交換する必要があります。

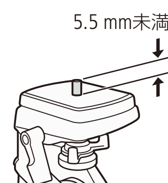


1 3/8インチネジ用の三脚ベースを取り外す（①）
- ネジを4本取り外して、3/8インチネジ用の三脚ベースを取り外す。

2 1/4インチネジ用の三脚ベース（付属）を取り付ける（②）
- 4本のネジをしっかり閉める。

3 三脚を取り付ける
- 三脚のネジは確実に締める。

ご注意　ネジの長さが5.5mm以上の三脚を使用すると、本体を破損することがあります。

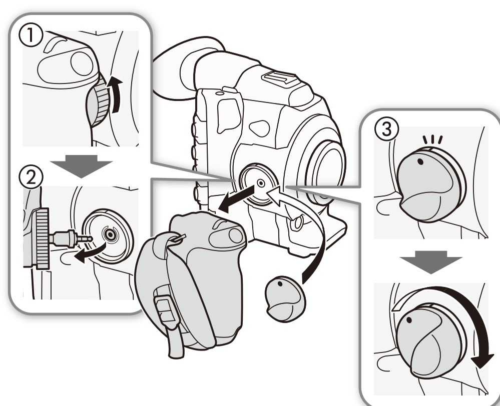


準備

グリップを取り外す／取り付ける

グリップを取り外す

グリップを取り外してサムレストを取り付ければ、手持ち撮影用の最小幅構成にできます。



1 POWER（電源）スイッチをOFFにする

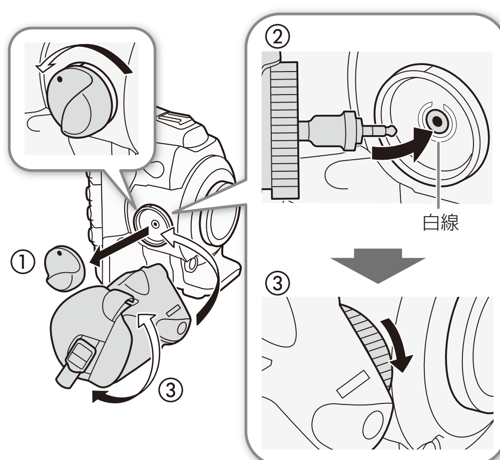
2 グリップの取り付けネジを回して、グリップを取り外す（①）
- このとき接続プラグは接続されているので、無理に引っ張らない。

3 グリップの接続プラグを抜く（②）

4 サムレストを取り付ける（③）

グリップを取り付ける

グリップは15°刻みで角度を変えて取り付けることができます。撮影の状況に応じて好みの角度で取り付けます。



1 POWER（電源）スイッチをOFFにする

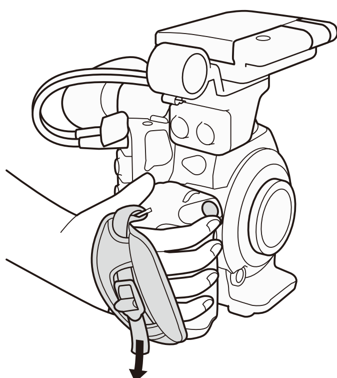
2 サムレストを取り外す（①）

3 グリップの接続プラグを奥までしっかり差し込んで接続する（②）
- グリップ接続端子の周囲の白線が見えなくなるまでしっかり差し込む。
- 接続が不十分だと（白線が見えていると）、ビデオカメラ本体の操作が利かなくなることがある。

4 グリップを好みの角度に合わせ、取り付けネジを回して固定する（③）

グリップベルトを調節する

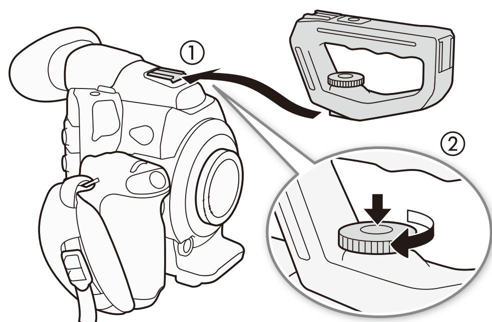
人さし指をスタート／ストップボタンに添え、グリップを軽く握った状態でベルトの長さを調節します。





落下したりしないように、机などの安定した所で調節してください。

ハンドルユニットを取り付ける



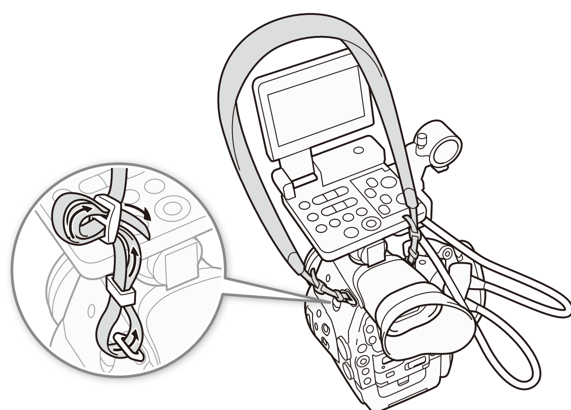
1 ハンドルユニット底面の取り付け金具を本体上部のアクセサリーシューに差し込む（①）

2 ハンドルユニットの取り付けネジを上から押しつけながら回して固定する（②）



ハンドルユニット上部のアクセサリーシューまたは1/4インチハンドルネジに市販のアクセサリーを取り付けることができます。

ストラップを取り付ける





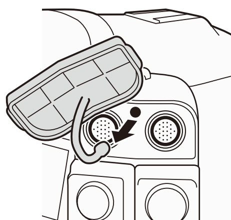
落下したりしないように、机などの安定した所で調節してください。

端子カバーを取り外す／取り付ける

次の端子のカバーを取り外すことができます。

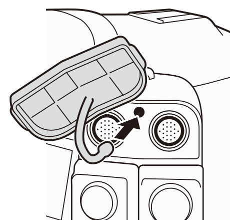
● EXT1/2端子　● SYNC OUT端子　● GENLOCK端子／ TIME CODE端子　● HD/SD SDI端子
● Ω（ヘッドホン）端子　● DC IN端子　● SDカードスロット　● REMOTE（リモート）端子／ HDMI OUT端子
● CH1/CH2（モニターユニットのXLR端子）端子　● MIC（マイク）端子　● WFT端子

取り外す



端子カバーを開けて、まっすぐに引き出す。

取り付ける



端子カバーの取り付け部を、取り付け口に差し込む。



取り外し／取り付けの際、端子カバーの取り付け部がつかみにくいときは、ピンセットなど先の細いものを使用してください。

記録メディアを準備する

本機では、動画をコンパクトフラッシュカード（CFカード）に、静止画をSDメモリーカード（SD）／SDHCメモリーカード（SDHC）*に記録します。CFカード用のスロットは2つあります。記録メディアを使用するときは、はじめに本機で初期化してください（□ 50）。

* SDカードには、カスタムピクチャーファイルや設定データも記録されます。また、付属のソフトウェアCanon XF Utilityで作成したユーザーメモファイルを本機に取り込むときに、SDカードを使います。

使用可能なCFカード

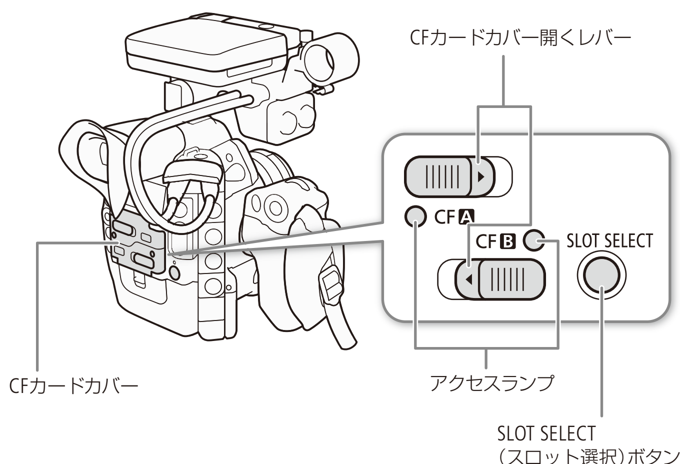
本機では、UDMA*に対応した512MB以上のコンパクトフラッシュカード（Type I）を使用可能です。動作確認済みカードなどの詳細情報については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

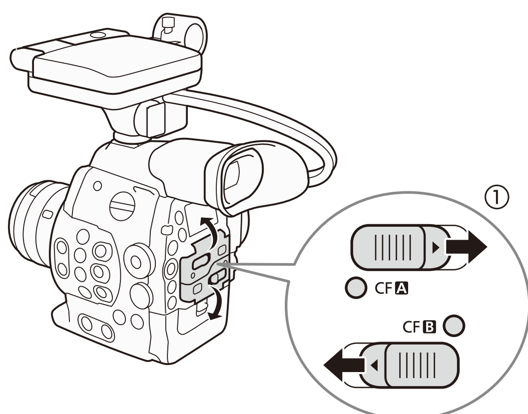
* Ultra Direct Memory Accessの略で、機器とCFカード間のデータ転送を行うときの最大転送速度（MB/s）を定めた規格です。UDMA対応のカードでも、転送速度によっては記録できないことがあります。

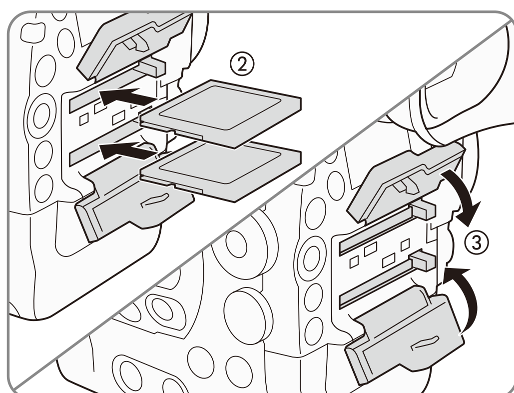


すべてのカードの動作を保証するものではありません。

CFカードを入れる







1 CFカードカバー開くレバーを▶ ／ ◀方向にスライドさせる（①）
- CFカードカバーが上または下に開く。

2 カードのラベル面を上にして、奥までしっかり入れる。（②）

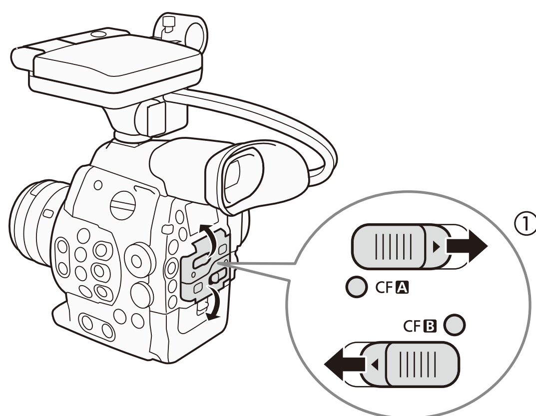
3 CFカードカバーを閉じる（③）
- カードが正しく入っていない状態で、カバーを無理に閉めない。

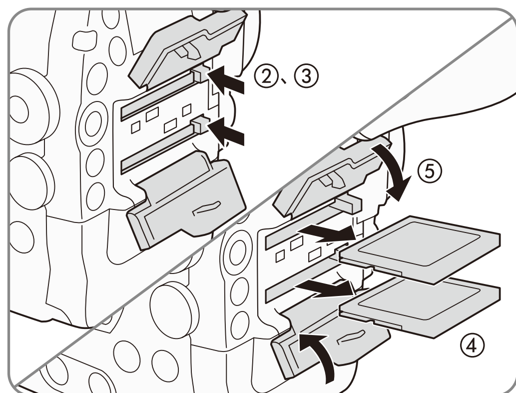
CFカードスロットの状態を確認するには

アクセスランプの色と光りかたでCFカードスロットの状態を確認できます。

アクセスランプ	スロットの状態
点灯（赤）	カードにアクセス中
点灯（緑）	記録／再生可能でかつ、スロットが記録／再生先として選択されている
消灯	• カードにアクセスしていない • カードが入っていない • 別のスロットが選択されている

CFカードを取り出す





1 アクセスランプが消えていることを確認する

2 CFカードカバー開くレバーを▶ ／ ◀方向にスライドさせる（①）
- CFカードカバーが上または下に開く。

3 CFカード取り出しボタンを押す。（②）
- CFカード取り出しボタンがせり出す。

4 CFカード取り出しボタンを押し込む（③）
- CFカードが出てくる。

5 CFカードを取り出す（④）

6 CFカードカバーを閉じる（⑤）

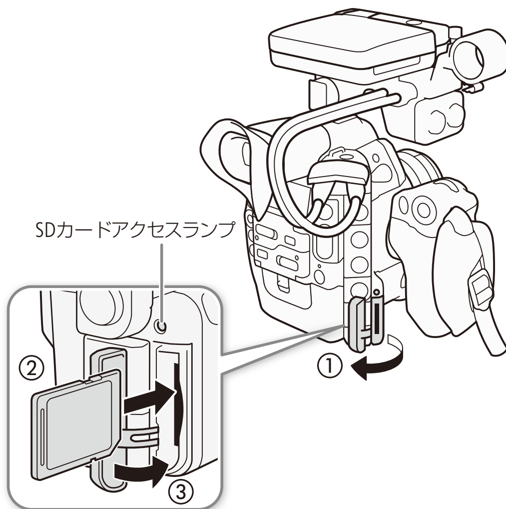


アクセスランプが赤色に点灯中は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。
- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- アクセスしているCFカードスロットのカードカバーを開けない。


MEMO

アクセスランプは点灯しないようにすることもできます（📖 191）。

SDカードを入れる／出す



1 POWER（電源）スイッチをOFFにする

2 SDカードカバーを開ける（①）

3 カードのラベル面をレンズ側にして、カチッと音がするまでしっかり入れる（②）

SDカードを出すとき

カードの端を押して、カードが出てきたら抜く。

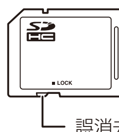
4 SDカードカバーを閉じる（③）

- カードが正しく入っていない状態で、カバーを無理に閉めない。



- SDカードアクセスランプが赤色に点灯中は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。
  - 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
  - SDカードを取り出さない。
- カードの出し入れは、本体の電源を切ってから行ってください。電源を切らずにカードを出し入れすると、故障の原因となることがあります。
- カードには表裏の区別があります。カードを裏返しに入れると、本機に不具合が発生することがあります。操作3のような正しい向きで入れてください。


MEMO 誤ってデータを消さないために



誤消去防止ツマミ

カードの誤消去防止ツマミを「LOCK」側にすると、データを保護できます。

- SDカードアクセスランプは点灯しないようにすることもできます（📖 191）。

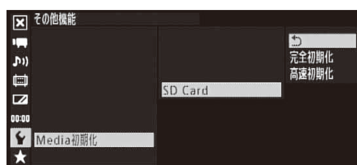
初期化する CAMERA MEDIA

メモリーカードをはじめて使用するときや、メモリーカードに記録した動画／静止画などすべての情報を消去するときに初期化します。SDカードの初期化には「高速初期化」と「完全初期化」とがあり、データを完全に抹消する必要があるときは「完全初期化」を選びます。



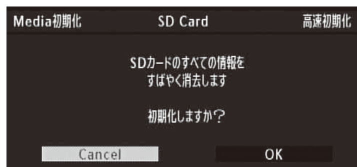
1 初期化する記録メディアを選ぶ

① その他機能メニュー ＞「Media初期化」を順に選ぶ。
② 「CF A」、「CF B」、「SD Card」のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。



2 「SD Card」を選んだとき 初期化の方法を選ぶ

① 「完全初期化」または「高速初期化」を選ぶ ＞ SETを押す。
- CFカードを初期化するときは、この操作は不要。



3 初期化を実行する

① 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだカードが初期化され、すべての情報が消去される。

SDカードの「完全初期化」を中止するとき

SETを押す。SDカードはそのまま使用できるが、データはすべて消去される。

② SETを押す。



- 初期化すると、OKマークを付けた動画やプロテクトした静止画、カスタムピクチャーファイルなどを含め、CFカード／SDカード内のすべての情報が消え、元に戻せません。残しておきたいデータがあるときは、バックアップしてから初期化してください。
- SDカードの「完全初期化」は、カードによっては数分かかることがあります。



- 動画記録中に、もう一方のCFカードを初期化することができます。
- アサインボタンに「Media初期化」を割り当てると、アサインボタンを押して「Media初期化」メニューを表示することができます。

記録／再生に使用するCFカードスロットを切り換える CAMERA MEDIA

本機は、2つのCFカードスロットを備えています（CFA / CFB）。両方のスロットにCFカードを入れているときは、必要に応じてスロットを切り換えることができます。



1 スロットを切り換える

① SLOT SELECT（スロット選択）ボタンを押す。
- 選択されたスロットのアクセスランプが緑色に点灯する。



- 両方のスロットにCFカードを入れていて、選択しているスロットのカードカバーを開けると、スロットが切り換わります。
- 記録中にSLOT SELECTボタンを押しても、スロットは切り換わりません。
- Wi-Fi Remoteを使って撮影するときは、Wi-Fi Remote画面の「SLOT SELECT」を押して切り換えることもできます。

CFカードスロット記録方式を選ぶ CAMERA MEDIA

2つのCFカードに連続して映像を記録するリレー記録と、2つのCFカードに同時に映像を記録するダブルスロット記録があります。

リレー記録： 撮影中にカードの空き容量がなくなると、自動的にもう一方のスロットに切り換わり、映像が途切れることなく連続して記録する機能です。CFA⇔CFB両方向で連続記録が可能です。
その他機能メニュー ＞「リレー記録」で「入」を選ぶ ＞ SETを押す。

ダブルスロット記録： 同じ映像をA/B両方のCFカードに同時に記録します。撮影中に撮影映像のバックアップを取ることができます。
その他機能メニュー ＞「ダブルスロット記録」で「入」を選ぶ ＞ SETを押す。



- ビットレート（□ 64）を50 Mbpsに設定していると、スローモーション撮影時にリレー記録されません。
- ダブルスロット記録中、記録容量の少ないCFカードの空き容量がなくなると、両カードへの記録を停止します。なお、一方のCFカードに書き込みエラーが発生しても、他方のCFカードへの記録は継続します。
- ダブルスロット記録は、リレー記録またはスロー＆ファーストモーション記録との併用はできません。

撮影可能時間を確認する CAMERA MEDIA

カメラモードのときは、各スロットに入っているCFカードの撮影可能時間（分単位）*と、選択されているスロットを画面で確認できます（□ 60）。メディアモードのときは、表示パネルで確認できます（□ 62）。また、メディアステータス画面（□ 201）を表示すると、各カードの総容量、使用量、記録可能時間（SDカードの場合は静止画枚数）を確認できます。

* 撮影可能時間は、現在設定しているビットレート（□ 64）を元に算出します。

CFカードを修復する CAMERA MEDIA

記録中に停電する、記録中にカード取り出すなどの原因によって、CFカードに記録したデータに異常が発生することがあります。このときは、CFカードを修復することによってカード内のデータを正常な状態に戻すことができます。修復が必要なCFカードをスロットに入れると、修復するかどうかを確認するエラーメッセージが画面に表示されます。



1 「CF A（CF B）は修復が必要です 修復しますか？」が表示されたとき 修復を行う

① 「はい」を選ぶ ＞ SETを押す。
- CFカードの修復が行われる。
- 修復が終了すると、「修復が終了しました。クリップを確認してください」が表示される。

② SETを押す。


MEMO

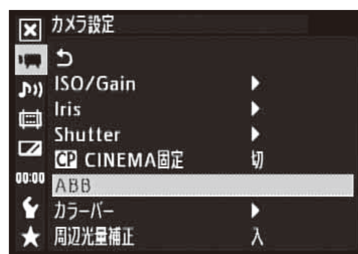
記録中に修復が必要な状態になったカードを修復した場合
- 10秒未満のクリップは消去される。
- クリップの末尾のデータが、最大約10秒間消去される。

- 修復を行っても正常な状態に戻らないことがあります。特に、ファイルシステム（FAT32）が壊れているとき、またはカードが物理的に壊れているときは修復できません。
- 記録中、選択されていないスロットに、修復が必要なCFカードを入れたときも修復を行うことができます。

ブラックバランスを調整する CAMERA MEDIA

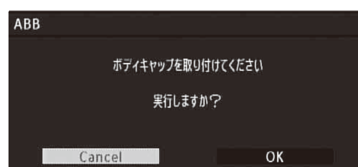
使用環境の温度が変わったときなど映像信号の黒がずれたときに、ブラックバランスを自動的に調整することができます。

準備



1 オートブラックバランス（ABB）を選ぶ

① カメラ設定メニュー ＞「ABB」を順に選ぶ。
- 画面に「ボディキャップを取り付けてください　実行しますか？」が表示される。



2 ボディキャップを取り付けて、ABBを実行する

① ボディキャップを取り付ける
- レンズを取り付けているときはレンズを取り外し、ボディキャップを取り付ける。

②「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 画面に「実行中」が表示され、ブラックバランス調整が行われる。

3 終了する

調整が正常に終了したとき

- 画面に「処理が完了しました」が表示される

SETを押す。

センサーの遮光が正しく行われなかったとき

- ボディキャップが取り付けられていないと、画面に「エラー」が表示される。

❶ SETを押す。
❷ 再度、操作1から操作する。


MEMO

ブラックバランス調整が必要な場合

- 本機を初めて使用するとき。
- 長時間使用しなかった後に使用するとき。
- 周囲の温度が大幅に変化したとき。
- ISO感度／ゲインの設定を変更したとき。

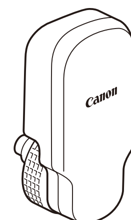
- ブラックバランス調整には、約40秒かかります（23.98P / 24.00Pの場合）。
- ブラックバランス調整中、画面の表示が乱れますが、故障ではありません。
- その他機能メニュー ＞「リセット」＞「全設定」または「カメラ設定」を行うと、ブラックバランス調整は初期状態に戻ります。このときは、再度、ブラックバランス調整を行ってください。

リモート撮影の準備をする CAMERA MEDIA

本機にワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6（別売）を取り付け、ネットワークに接続した機器*1のWebブラウザーから操作することによって、ワイヤレスでリモート撮影を行うことができます（Wi-Fi Remote）。撮影時は、ライブビューによる画角の確認、さまざまな撮影設定*2、メタデータ設定、各種マークの付加が可能なほか、記録メディアやバッテリーの残量、タイムコードの確認を行うことができます。

*1 OS、Webブラウザーなどの情報については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

*2 ホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピード、NDフィルターなど。EFレンズ装着時は、アイリス、F値、フォーカスも調整可能（C300）。



Wi-Fi Remote画面の例



■ リモート撮影の設定を行う

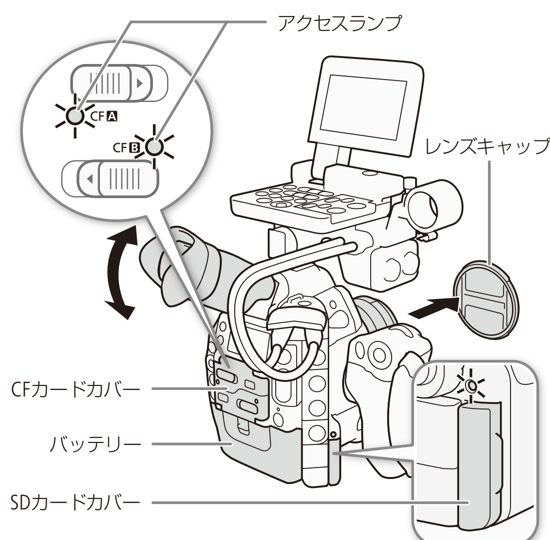
リモート撮影を行うには、本機のWFT端子にワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E6（別売）を取り付け、ネットワーク設定を行う必要があります。キヤノンのホームページから「ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6 ビデオカメラ用ガイド」をダウンロードして、取り付け／設定を行ってください。

撮　影

動画を撮影する CAMERA MEDIA

ここでは、動画の基本的な撮影について説明します。音声の記録については、98ページをご覧ください。

準備する



1 撮影状況に応じて、ハンドルユニット、モニターユニットなどの構成を準備する（📖 35）

2 充電したバッテリーパックを取り付ける（📖 23）

3 CFカードを入れる（📖 46）
- リレー記録（📖 51）、ダブルスロット記録（📖 51）を行うときは、カードを2枚入れる。

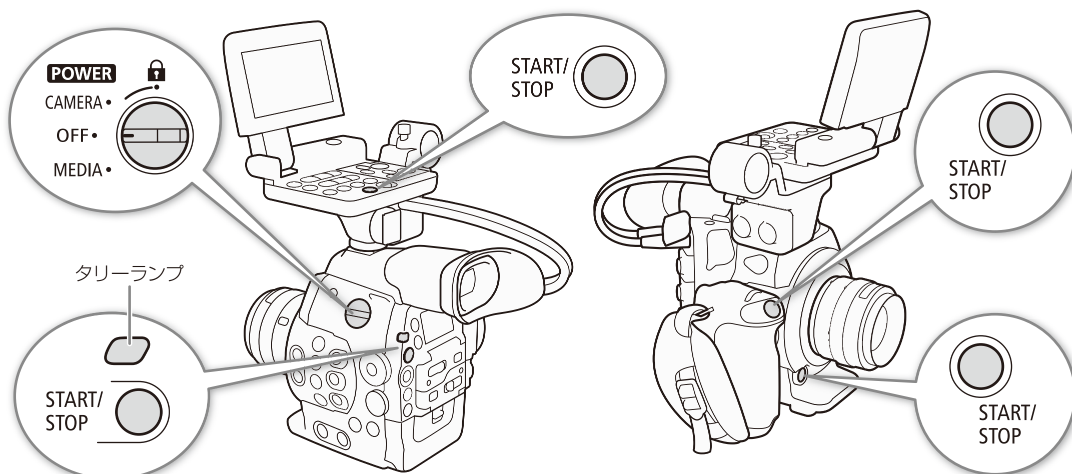
4 レンズを取り付ける（📖 32）

5 ファインダーを調整する（📖 38）



記録されるクリップに、撮影者や撮影場所、撮影内容などの情報をユーザーメモとして付加することができます。ユーザーメモを付加するときは、撮影前に設定してください（📖 105）。

撮影する



1 POWER（電源）スイッチを「CAMERA」にする（□ 26）

- 本機がカメラモードで起動し、撮影一時停止状態（STBY）になる。
- 記録先として選択されているCFカードスロットのアクセスランプが赤く点灯したあと、緑色に点灯する。

2 START/STOP（スタート／ストップ）ボタンを押す

- 撮影が始まる。タリーランプが点灯し、画面に●RECが表示される。
- グリップのSTART/STOPボタン、モニターユニットのSTART/STOPボタン、本体前面のSTART/STOPボタンのいずれを押しても撮影開始できる。

3 撮影を停止するとき　もう一度START/STOP（スタート／ストップ）ボタンを押す

- 撮影が終了してクリップ*がCFカードに記録され、撮影一時停止状態（STBY）になる。タリーランプは消灯する。

* 本書では、1回の撮影操作で記録される動画を「クリップ」と呼びます。クリップには、映像・音声のほかに、カスタムピクチャーファイルやメタデータが含まれることがあります。

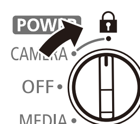

ご注意

- アクセスランプが赤色に点灯している間は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。
  - アクセスしているCFカードスロットのカードカバーを開けて、CFカードを取り出さない。
  - 電源を切らない。バッテリーなどを取り外さない。
- 万一のデータ破損に備えて、撮影したデータは必ずバックアップしてください。データ破損の場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。


MEMO

- レックレビュー機能（□ 114）を使うと、カメラモードのまま、最後に撮影したクリップの映像を再生して確認できます。
- アサインボタンに「OK Mark追加」または「✓ Mark追加」を割り当て、アサインボタンを押すと、最後に記録したクリップにOKマーク／チェックマークを付加できます（□ 122）。
- その他機能メニュー ＞「クリップ」＞「最終クリップ消去」で、最後に記録したクリップを消去できます（□ 193）。なお、ダブルスロット記録を「入」に設定していると、「最終クリップ消去」は使用できません。
- その他機能メニュー ＞「SDI記録コマンド」を「入」にして、本機と他機をHD/SD SDI端子でつなぐと、本機の撮影／撮影一時停止操作（START/STOPボタンの操作）と連動して、他機の記録／記録一時停止を行うことができます。

撮影設定をロックする



POWER（電源）スイッチを🔒（キーロック）にすると、カメラモードのまま、START/STOPボタン以外の操作を無効にでき、誤操作を防止することができます*1。POWER（電源）スイッチをCAMERAに戻すとキーロックは解除されます。Wi-Fi Remote（📖 54）でリモート撮影するときは、Wi-Fi Remote画面右上の🔒ボタンを押すとWi-Fi Remoteのすべての操作をロックすることができます*2。🔒を押すと、ロックは解除されます。

*1 Wi-Fi Remoteからは操作できます。

*2 このとき、本体側の操作はロックされません。

クリップについて

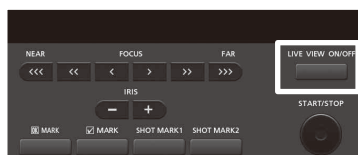
記録されるクリップには、「AA0001」のような6文字のクリップ名（2桁の大文字英字または数字＋4桁の数字）が自動的に付けられます。下4桁の数字は記録のたびにカウントアップされます。上2桁の英数字の初期値は、その他機能メニュー ＞「クリップ」であらかじめ任意の文字列に設定できます（📖 193）。記録後に変更することはできません。



- 撮影中にリレー記録が発生すると、撮影された映像はそれぞれ別々のクリップとして記録されます。
- カスタムピクチャーやメタデータを設定して撮影すると、それらのデータが動画と一緒にクリップ内に記録されます。それぞれのデータの詳細については、「カスタムピクチャーを使用する」（📖 125）または「メタデータを操作する」（📖 105）をご覧ください。
- クリップ内の映像ファイル（ストリーム）は、約2 GB毎に分割して記録されます（本機で再生したときは、連続して再生されます）。なお、スローモーション撮影（📖 118）時は、約1 GB毎に分割して記録されます。

Wi-Fi Remoteで撮影する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで撮影することができます。また、ライブビューを使えば、ネットワークに接続した機器の画面で画角を確認することもできます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）



1 ライブビュー映像を表示する

① LIVE VIEW ON/OFF（ライブビュー）ボタンを押す
- ライブビュー映像が表示される。



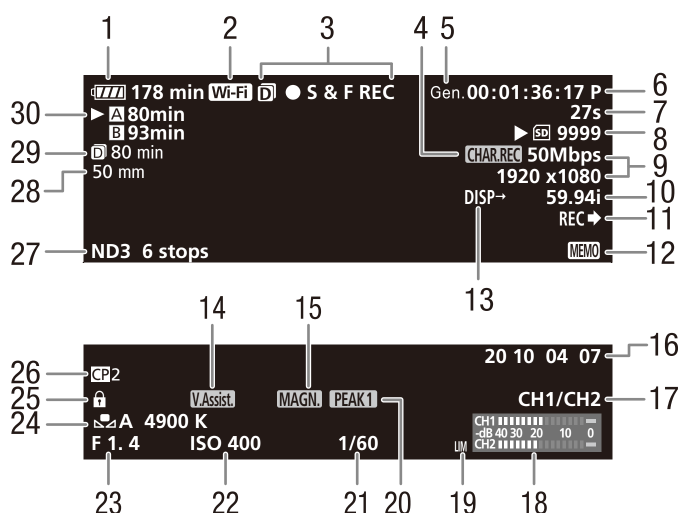
2 撮影を行う

① START/STOP（スタートストップ）ボタンを押す。
- 撮影が開始され、撮影状態表示が「● REC」に変わり、START/STOP（スタートストップ）ボタン中央の●が赤色に変わる。
- 撮影中は、タイムコードが歩進する。

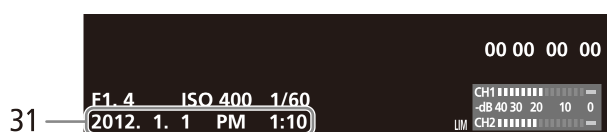
② 再度、START/STOP（スタートストップ）ボタンを押して撮影を終える。
- 撮影状態表示が「STBY」に変わる。

撮影時の画面表示

ここでは、カメラモードのときの画面表示について説明します。ここで説明する項目はすべて、カスタムディスプレイ（□ 187）で表示／非表示を選択できます。



「日時表示」を表示したときの画面



1 バッテリー残量の目安

（赤色）

バッテリー残量アイコンと撮影／再生可能時間（分単位）を表示します。が表示されたらバッテリーが消耗しています。充電したバッテリーと交換してください。本機やバッテリーの状態によっては、実際のバッテリー残量と表示内容とが一致しないことがあります。

2 Wi-Fi*[1] 54

白色表示：無線LANに接続中。
黄色表示：無線LANへの接続処理中または切断処理中。

3 撮影状態（記録モード）

● REC	撮影中
STBY	撮影一時停止中
● INT REC	インターバル記録撮影中
INT STBY（INTが点滅）	インターバル記録撮影一時停止中
● FRM REC	フレーム記録撮影中
● FRM STBY	フレーム記録撮影一時停止中（撮影開始後）
FRM STBY（FRMが点滅）	フレーム記録撮影一時停止中（撮影開始前）
● S&F REC	スロー＆ファーストモーション撮影中
S&F STBY	スロー＆ファーストモーション撮影一時停止中
● PRE REC	プレ記録撮影中
PRE REC STBY	プレ記録撮影一時停止中

ダブルスロット記録時（51）は、左側にDが表示されます。

4 表示文字記録 137
5 ゲンロック 95
6 タイムコード 91
7 インターバルカウンター 115
8 SDカード状態 172
9 ビットレート／解像度 64
10 フレームレート 64
11 SDI記録コマンド状態 193
12 ユーザーメモ 105
13 画面表示出力 162
14 ビューアシスト 136
15 拡大表示 87
16 ユーザービット 94
17 音声出力チャンネル 163
18 オーディオレベルメーター 101
19 オーディオリミッター 101
20 ピーキング 86
21 シャッタースピード 68
22 ISO感度／ゲイン 72
23 C300 アイリス／F値 77
24 ホワイトバランス 80
25 キーロック 58
26 カスタムピクチャー 125
27 NDフィルター 76
28 C300 焦点距離*[2]
29 ダブルスロット記録残量表示 51
30 CFカード状態／撮影可能時間（分）

CFカード状態

A・・・カードに記録可能
・・・カードなし／記録不可能
選択中のメディアに▶が付く。

撮影可能時間（分）

31 日時表示 27

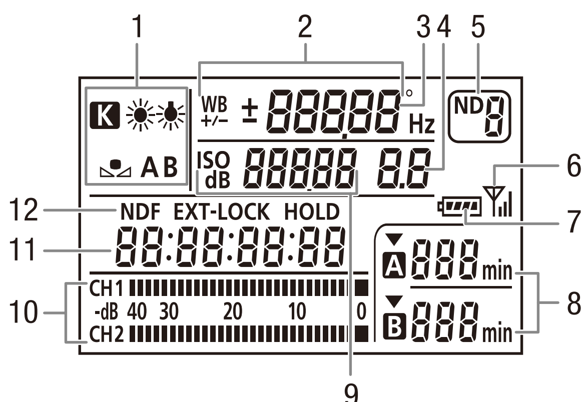
*[1] ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6装着時のみ。
*[2] 焦点距離は目安として使用してください。



DISP.（ディスプレイ）／ BATT.INFO（バッテリー情報）ボタンを押すと、画面表示を消すことができます。もう一度押すと再び表示されます。

表示パネルの表示

次の項目は表示パネルで確認できます。また、モニターユニットを取り付けていなくても、ホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピードの3つのカメラ設定は、表示パネルを見ながら設定することができます（□ 66）。



1 ホワイトバランス ▶▶ □ 80

2 色温度設定／ホワイトバランスシフト ▶▶ □ 82

3 シャッタースピード ▶▶ □ 68
モードが「Speed」または「スロー」の場合、分母のみを表示。

4 F値*1 ▶▶ □ 77

5 NDフィルター ▶▶ □ 76

6 無線LAN接続*2 ▶▶ □ 54

7 バッテリー残量の目安*3 ▶▶ □ 61

8 CFカード状態／撮影可能時間（分）*3 ▶▶ □ 61

9 ISO感度／ゲイン ▶▶ □ 72

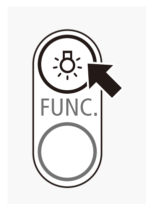
10 オーディオレベルメーター *3 ▶▶ □ 101

11 タイムコード ▶▶ □ 91

12 タイムコード設定
NDF ▶▶ □ 92
外部同期信号ロック ▶▶ □ 96
タイムコードホールド ▶▶ □ 93

*1 C300のみ。
*2 ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6装着時のみ。
*3 メディアモードでも表示する。

表示パネルの明るさを選ぶ

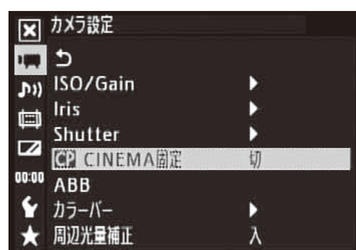


① ☼（表示パネル照明）ボタンを押す。
● ☼（表示パネル照明）ボタンを押すたびに、次の順に表示パネル照明の明るさが切り換わる。
OFF → ON（明るい） → ON（暗い） → OFF

② 希望の明るさになるまで①の操作を繰り返す。

CINEMAプリセットを使う

本機は、ポストプロダクション処理を行うことを前提とするシネマ撮影用設定を簡単に行うことができます。ガンマにCanon Log（□ 136）を使用するので、撮像素子の特性を最大限に引き出す広いダイナミックレンジを実現できます。画質設定をカスタムピクチャーのCINEMAプリセット（□ 128）に固定するため、カスタムピクチャーは使用できません。



① カメラ設定 ＞「CP CINEMA固定」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 本機の画質設定が、カスタムピクチャーのCINEMAプリセットの設定になり、画面にCP LOCKEDが表示される。



Canon Logを使用すると、画面に表示される映像が全体的に暗くなります。通常のガンマに近い表示を画面で確認したいときは、ビューアシスト（□ 136）を使用してください。

映像の信号形式を選ぶ　CAMERA MEDIA

映像を記録するときの信号形式を切り換えることができます。信号形式は、ビットレート、解像度、フレームレートと撮影時のスキャン方式の組み合わせからなります。フレームレートは、「NTSC/PAL」の設定によって選択できる値が異なります。

記録信号形式一覧

ビットレート	解像度	「24.00P」が「入」 *1	「24.00P」が「切」 *1						
			NTSC*2				PAL*2		
		24.00P	59.94i	59.94P	29.97P	23.98P	50.00i	50.00P	25.00P
50 Mbps (CBR 4:2:2)	1920×1080	●	●	–	●	●	●	–	●
	1280×720	●	–	●	●	●	–	●	●
35 Mbps (VBR 4:2:0)	1920×1080	–	●	–	●	●	●	–	●
	1280×720	–	–	●	●	●	–	●	●
25 Mbps (CBR 4:2:0)	1440×1080	–	●	–	●	●	●	–	●
		フレームレート							

*1 その他機能メニュー > 「24.00P」の設定。
*2 その他機能メニュー > 「NTSC/PAL」の設定。
(　)内は、ビットレートの方式 (CBR : 固定、VBR : 可変)とカラーサンプリング方式です。



1 24.00Pを使用するとき 24.00Pを「入」にする

① その他機能メニュー > 「24.00P」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ > 「SET」を押す。
- 本機が24.00Pモードに設定され、再起動する。
- 操作3に進む。



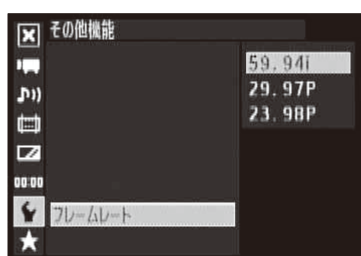
2 「NTSC」または「PAL」を選ぶ

① その他機能メニュー > 「NTSC/PAL」を順に選ぶ。
② 「NTSC」または「PAL」を選ぶ > 「SET」を押す。
- 本機がNTSCモードまたはPALモードに設定され、再起動する。



3 ビットレートと解像度を選ぶ

① その他機能メニュー ＞「ビットレート/解像度」を順に選ぶ。
② いずれかを選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだビットレートと解像度が画面に表示される。



4 フレームレートを選ぶ

- 24.00Pを使用する場合、この操作は不要。

① その他機能メニュー ＞「フレームレート」を順に選ぶ。
② いずれかを選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだフレームレートが画面に表示される。


MEMO

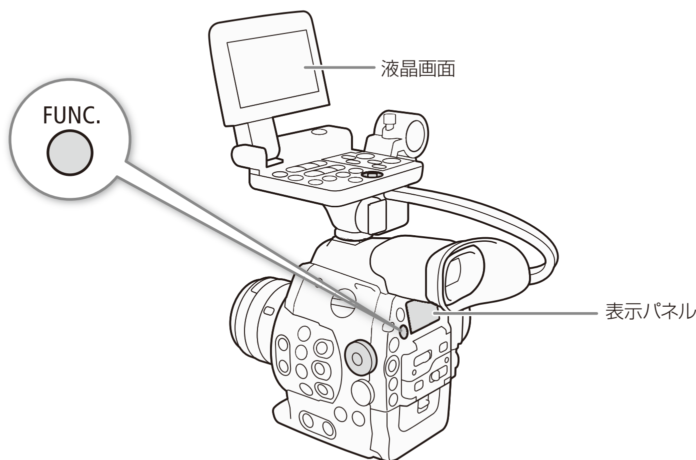
- 1枚の記録メディアに、24.00Pモード、NTSCモード、PALモードで撮影したクリップを混在して記録することはできません。
- 各種出力端子からの信号については、「出力信号形式」（158）をご覧ください。

撮影

カメラダイレクト設定を使う

CAMERA MEDIA

画面や表示パネルを見ながらホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピードを設定することができます（カメラダイレクト設定）。ここではカメラダイレクト設定の基本操作や共通操作について説明します。ホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピードの詳細については、各機能のページをご覧ください。



カメラダイレクト設定の基本操作

例：シャッタースピードを1/60に設定する場合

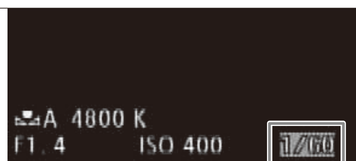


1 カメラダイレクト設定に入る

① FUNC.ボタンを押す。

- 画面のホワイトバランス、ISO感度／ゲイン、シャッタースピードのいずれかの背景がオレンジ色になる。表示パネル上では、いずれかの設定対象の項目だけが表示される。
- FUNC.ボタンを押すたびに、次の順に設定対象が切り換わる。
  ホワイトバランス → ISO感度／ゲイン → シャッタースピード → カメラダイレクト設定終了

② シャッタースピードに切り換わるまで①を繰り返す。







2 値を調整する

① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して数値を選ぶ。
② SETを押す。
- 設定値が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面のオレンジ色の表示は解除され、表示パネルは通常表示（すべての情報が表示される）に戻る。


MEMO

カメラダイレクト設定が終了する場合
- 約6秒間操作しなかったとき。
- アイリス、NDフィルターを調整したとき。
- メニューやカスタムピクチャーの画面を開いたとき。
- ステータス画面を開いたとき。
- 電子ダイヤルに「ISO/Gain」を割り当てていて、カメラダイレクト設定でホワイトバランスまたはシャッタースピードを調整中に、電子ダイヤルを操作したとき。

- アサインボタンに「FUNC.」を割り当てると、アサインボタンを押してカメラダイレクト設定の操作を行うことができます。

シャッタースピードを調整する

CAMERA MEDIA

シャッタースピードを調整すると、動きの速い被写体（スポーツや乗り物など）を鮮明に撮影する、低照度のシーンを明るく撮影するなど被写体や撮影環境に合わせて撮影できます。シャッタースピードの調整には、次の5種類のモードがあります。

Speed：　秒数でシャッタースピードを設定する。設定時の刻み幅は、メニューで1/3段と1/4段から選べる。

アングル：　開角度でシャッタースピードを設定する。

クリアスキャン：　周波数でシャッタースピードを設定する。モニター画面に黒い帯が出ないようにするときなど。

スロー：　フレームレートより低速のシャッタースピードを秒数で設定する。低照度の場所で撮影するときなど。スロー &ファーストモーション記録のときは選択できない。

切：　各フレームレートの基準シャッタースピードを使用する。

設定可能なシャッタースピード

選択できるシャッタースピードはフレームレートによって異なります。

			フレームレート		
			59.94i / 59.94P	29.97P	23.98P / 24.00P
シャッタースピードのモード	切*1		1/60秒	1/30秒	1/24秒
	Speed*1*2	1/3段刻み	1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1600、1/2000秒	1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1600、1/2000秒	1/25、1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1600、1/2000秒
		1/4段刻み	1/60、1/75、1/90、1/100、1/120、1/150、1/180、1/210、1/250、1/300、1/360、1/420、1/500、1/600、1/720、1/840、1/1000、1/1200、1/1400、1/1700、1/2000秒	1/30、1/34、1/40、1/48、1/60、1/75、1/90、1/100、1/120、1/150、1/180、1/210、1/250、1/300、1/360、1/420、1/500、1/600、1/720、1/840、1/1000、1/1200、1/1400、1/1700、1/2000秒	1/24、1/30、1/34、1/40、1/48、1/60、1/75、1/90、1/100、1/120、1/150、1/180、1/210、1/250、1/300、1/360、1/420、1/500、1/600、1/720、1/840、1/1000、1/1200、1/1400、1/1700、1/2000秒
	アングル*1		360°、240°、216°、180°、120°、90°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25°	360°、240°、216°、180°、120°、108°、90°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25°	360°、345.6°、288°、240°、180°、172.8°、144°、120°、90°、86.4°、72°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25°
	クリアスキャン*1		59.94 Hz ～ 250.27 Hz	29.97Hz ～ 250.27 Hz	23.98 / 24.00 Hz ～ 250.27 Hz
	スロー *3		1/4、1/8、1/15、1/30秒	1/4、1/8、1/15秒	1/3、1/6、1/12秒

			フレームレート	
			50.00i / 50.00P	25.00P
シャッタースピードのモード	切*1		1/50秒	1/25秒
	Speed*1*2	1/3段刻み	1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1600、1/2000秒	1/25、1/30、1/40、1/50、1/60、1/80、1/100、1/125、1/160、1/200、1/250、1/320、1/400、1/500、1/640、1/800、1/1000、1/1250、1/1600、1/2000秒
		1/4段刻み	1/50、1/60、1/75、1/90、1/100、1/120、1/150、1/180、1/210、1/250、1/300、1/350、1/400、1/500、1/600、1/700、1/800、1/1000、1/1200、1/1400、1/1600、1/2000秒	1/25、1/29、1/33、1/40、1/50、1/60、1/75、1/90、1/100、1/120、1/150、1/180、1/210、1/250、1/300、1/350、1/400、1/500、1/600、1/700、1/800、1/1000、1/1200、1/1400、1/1600、1/2000秒
	アングル*1		360°、300°、240°、180°、150°、120°、90°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25°	360°、300°、240°、180°、150°、120°、90°、75°、60°、45°、30°、22.5°、15°、11.25°
	クリアスキャン*1		50.00 Hz ～ 250.78 Hz	25.00 Hz ～ 250.78Hz
	スロー *3		1/3、1/6、1/12、1/25秒	1/3、1/6、1/12秒

*1 スロー &ファーストモーション記録の場合、設定できる値は撮影フレームレートによって変わる。
*2 Wi-Fi Remoteで設定するときは、1/3段刻みと1/4段刻みのすべての値の一覧から設定可能。
*3 スロー &ファーストモーション記録のときは使用できない。

カメラダイレクト設定で調整する

カメラダイレクト設定の詳細については、66ページをご覧ください。



1 シャッタースピードのモードを選ぶ

① カメラ設定メニュー ➤「Shutter」➤「モード」を順に選ぶ。
② いずれかを選ぶ ➤ SETを押す





2 「Speed」を選んだとき 設定時の刻み幅を選ぶ

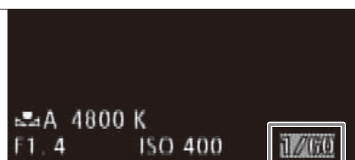
① カメラ設定メニュー ➤「Shutter」➤「Shutterステップ」を順に選ぶ。
② 「1/3段」または「1/4段」を選ぶ ➤ SETを押す。





3 カメラダイレクト設定に入る

① FUNC.ボタンを押して、設定対象をシャッタースピードに切り換える。







4 値を調整する

① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して数値を選ぶ。
② SETを押す。
- 設定値が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面はオレンジ色の表示が解除され、表示パネルは通常表示に戻る。



アサインボタンに「FUNC. Shutter」を割り当てると、アサインボタンを押してシャッタースピードの設定モードに入ることができます。

Wi-Fi Remoteで調整する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影(Wi-Fi Remote)の準備を行っておいてください(📖 54)。



1 シャッタースピード設定を選ぶ

①「SPEED」を押す。



2 シャッタースピードのモードを選ぶ

① 「Off」、「SPEED」、「SLOW」、「Clear Scan」（クリアスキャン）、「ANGLE」のいずれかを選ぶ。



3 値を調整する

① シャッタースピードの設定値を押す。
- 選択可能なシャッタースピードの値が表示される。

② いずれかの値を選ぶ。
- 必要に応じて画面をスクロールさせて値を選ぶ。
- 選んだシャッタースピードの値がWi-Fi Remoteの画面に表示される。

スローによる撮影について

スローを使うと、明るさが不足している場所で被写体を明るく撮影できます。また、動いている被写体をパンするときに背景を流す、ズームに残像効果を加えるなどの特殊効果として使用することもできます。
- 通常の撮影に比べて画質が多少劣化することがあります。


MEMO

人工光源の照明下でフリッカーが気になるとき

- 蛍光灯、水銀灯、ハロゲンライトなどの人工光源の照明下で撮影する場合、設定したシャッタースピードによっては、原理上フリッカーが出ることがあります。フリッカーが気になるときは、「Speed」モードで1/50秒*または1/100秒を選んでください。

  * フレームレートによっては選択できません。

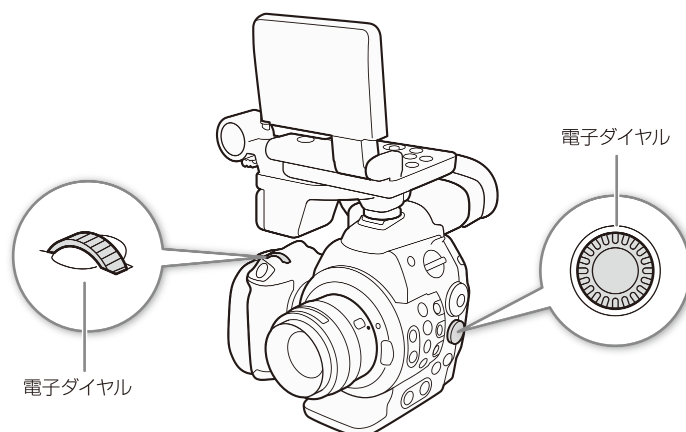
小絞りによるボケを防ぐには

- 晴天下などの明るい場所で撮影するときに絞りを絞り込むと、小絞りによるボケが発生することがあります。この現象は、NDフィルターの濃度を濃くするか、シャッタースピードを高速にして、絞りを開くことによって防止できます。

- シャッタースピードのモードをスローにすると、画面に赤、緑、青の輝点が出ることがあります。このときはシャッタースピードを上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください。
- カスタムピクチャーをEOS Std.プリセットに設定しているとき、「Speed」モードでデジタル一眼レフカメラEOSと同じシャッター値を設定しても、デジタル一眼レフカメラEOSと同じ輝度にならないことがあります。

ISO感度／ゲインを調整する CAMERA MEDIA

映像アンプの増幅量をISO感度またはゲインで設定できます。設定時の刻み幅は、ISO感度／ゲインそれぞれ個別に設定できます。



設定可能な値

	刻み幅	設定可能な値
ISO感度	1段	320*[1]、400、800、[850]*[2]、1600、3200、6400、12800、20000*[1]
	1/3段	320、400、500、640、800、[850]*[2]、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400、8000、10000、12800、16000、20000*[1]
ゲイン	ノーマル（3 dB）	−6 dB、−3 dB、0 dB、3 dB、6 dB、9 dB、12 dB、15 dB、18 dB、21 dB、24 dB、30 dB
	ファイン（0.5 dB）	0 ～ 24 dB

*[1] 刻み幅が1段のときでも最大値／最小値を設定可能。
*[2] [ ]で表記したISO感度は、Canon Logガンマに適したダイナミックレンジを実現するのに必要な感度。ゲインの2.5 dBに相当。

撮影

カメラダイレクト設定で調整する

カメラダイレクト設定の詳細については、66ページをご覧ください。



1 設定方法を選ぶ

① カメラ設定メニュー ＞「ISO/Gain」＞「選択」を順に選ぶ。
② 「ISO」または「Gain」を選ぶ ＞ SETを押す。





2 設定時の刻み幅を選ぶ

「ISO」を選んだとき

① カメラ設定メニュー ＞「ISO/Gain」＞「ISOステップ」を順に選ぶ。
② 「1段」または「1/3段」を選ぶ ＞ SETを押す。



「Gain」を選んだとき

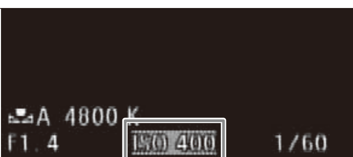
① カメラ設定メニュー ＞「ISO/Gain」＞「Gain」を順に選ぶ。
② 「ノーマル」または「ファイン」を選ぶ ＞ SETを押す。





3 カメラダイレクト設定に入る

① FUNC.ボタンを押して、設定対象をISO感度／ゲインに切り換える。







4 値を調整する

① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して数値を選ぶ。
② SETを押す。
- 設定値が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面はオレンジ色の表示が解除され、表示パネルは通常表示に戻る。



アサインボタンに「FUNC. ISO/Gain」を割り当てると、アサインボタンを押してISO感度／ゲインの設定モードに入ることができます。

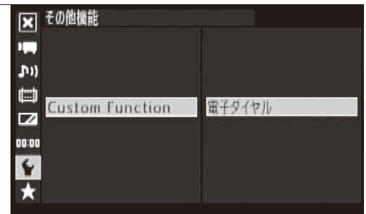
電子ダイヤルで調整する

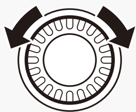
電子ダイヤルに割り当てる機能をISO感度／ゲインに設定すると、本体またはグリップの電子ダイヤルでISO感度／ゲインを調整できます。



1 電子ダイヤルにISO感度／ゲインを割り当てる

① その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「電子ダイヤル」を順に選ぶ。
② 「ISO/Gain」を選ぶ ＞ SETを押す。





2 電子ダイヤルを回してISO感度／ゲインを調整する

- グリップの電子ダイヤルで操作することもできる。



その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「電子ダイヤル方向」または「グリップ電子ダイヤル方向」で、本体またはグリップの電子ダイヤルの操作方向を個別に変更することができます（□ 137）。

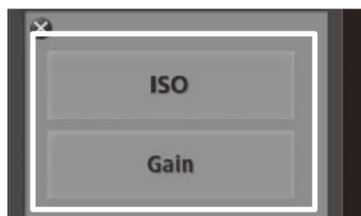
Wi-Fi Remoteで調整する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）。



1 ISO感度／ゲイン設定を選ぶ

① 「ISO」を押す。



2 設定方法を選ぶ

① 「ISO」または「Gain」を押す。



3 値を調整する

① ISO感度またはゲインの設定値を押す。
- 選択可能なISO感度／ゲインの値が表示される。

② いずれかの値を選ぶ。
- 必要に応じて画面をスクロールさせて値を選ぶ。
- 選んだISO感度／ゲインの値がWi-Fi Remoteの画面に表示される。


MEMO

- ISO感度／ゲインを上げると画面が多少ざらつくことがあります。特にISO12800以上およびゲイン30 dBは超高感度ですので、画面全体にノイズが現れます。
- ISO感度／ゲインを上げると、画面に赤、緑、青の輝点が出ることがあります。このときはシャッタースピードを上げるか、ISO感度／ゲインを下げてください。
- ISO感度／ゲインの切り換え時、画面にノイズが現れることがあります。撮影中は、ISO感度／ゲインを切り換えないでください。

NDフィルターを切り換える

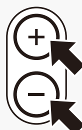
CAMERA MEDIA

レンズの絞りを適切な範囲*に保つために、NDフィルターを使用できます。

* 屋外などの明るい場所で撮影するとき、光の量を調整するためにアイリスを搾り込むと、絞りの径が極端に小さくなってボケが生じることがあります。この現象を「小絞り回折」または「小絞りによるボケ」と呼びます（ボケが発生する絞り径は、レンズのズーム位置によって異なります）。このときは、NDフィルターを使うか、シャッタースピードを速くして光の量を減らすと、絞りをより開くことができ、小絞りによるボケを回避できます。

本体で操作して切り換える

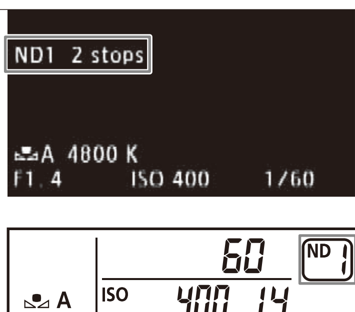
ND FILTER



1 NDフィルターを切り換える

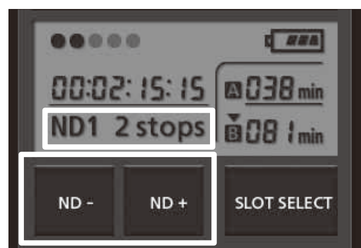
① ND FILTER（NDフィルター）切り換え＋ボタンを押す。
- ＋ボタンを押すたびに、次の順にNDフィルターが切り換わる（－ボタンは逆順）。
  OFF → ND1　2 stops → ND2　4 stops → ND3　6 stops → OFF

② 希望のNDフィルターに切り換わるまで①の操作を繰り返す。
- 切り換えたNDフィルターが画面に表示される。



Wi-Fi Remoteで切り換える

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）。



① ND－ボタンまたはND＋ボタンを押す。
- NDフィルターの切り換わりかたは、本体で切り換える場合と同じ。

② 希望のNDフィルターに切り換わるまで①の操作を繰り返す。
- 切り換えたNDフィルターがWi-Fi Remoteの画面に表示される。

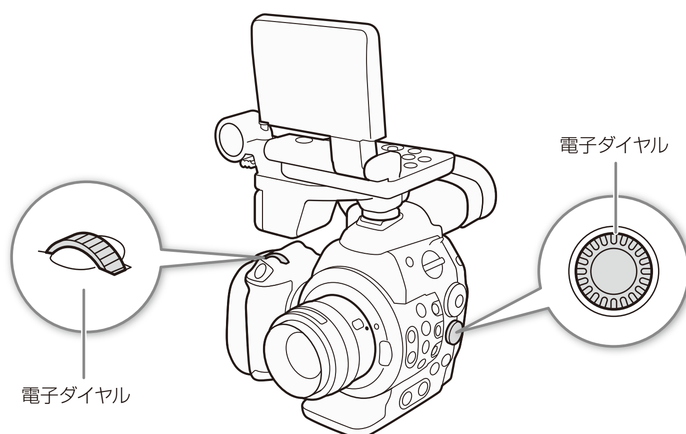


シーンによっては、NDフィルターを入／切すると、わずかに発色が変化することがあります。このときはホワイトバランスをセットして撮影すると効果的です（□ 80）。

C300 アイリスを調整する CAMERA MEDIA

被写体の明るさに応じてアイリス（絞り）を調整します。被写界深度を変えて背景や周囲をぼかし、被写体を引き立たせたいときは絞り値を小さく、近くのものから遠くのものまでピントを合わせたいときは、絞り値を大きく設定します。EFレンズを取り付けているときは、本体／グリップの電子ダイヤルやWi-Fi Remoteで調整できます。設定可能な値（F値）は取り付けたレンズによって異なります。また、設定時の刻み幅は、「1/2段」、「1/3段」、「ファイン」をメニューで設定できます。

撮影



電子ダイヤルで調整する

EFレンズを装着している場合、電子ダイヤルにアイリスを割り当てると、本体またはグリップの電子ダイヤルでアイリスを調整できます。



1 電子ダイヤルにアイリスを割り当てる

① その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「電子ダイヤル」を順に選ぶ。
② 「Iris」を選ぶ ＞ SETを押す。

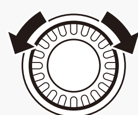




2 設定時の刻み幅を選ぶ

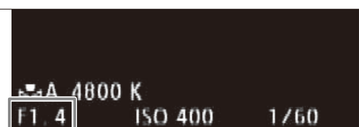
① カメラ設定メニュー ＞「Iris」＞「Irisステップ」を順に選ぶ。
② 「1/2段」、「1/3段」、「ファイン」（1/3段より細かい刻み幅）のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。





3 電子ダイヤルを回してF値を調整する

- 調整したF値が画面と表示パネルに表示される*。
  * 「ファイン」を選んだときは「1/3段」刻みで表示される。
- グリップの電子ダイヤルで操作することもできる。







その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「電子ダイヤル方向」または「グリップ電子ダイヤル方向」で、本体またはグリップの電子ダイヤルの操作方向を個別に変更することができます（□ 137）。

Wi-Fi Remoteで調整する

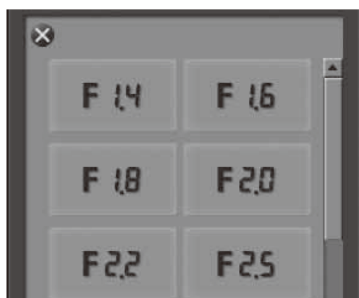
Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）。

F値を選んで調整する



1 F値設定を選ぶ

① F値ボタンを押す。
- 選択可能なF値が表示される。



2 値を調整する

① いずれかの値を選ぶ。
- 必要に応じて画面をスクロールさせて値を選ぶ。
- 選んだF値がWi-Fi Remoteの画面に表示される。

IRISボタンで調整する



1 IRISの－ボタンまたは＋ボタンを押して調整する。

－ボタン：絞りを約1/8段刻みで絞る。
＋ボタン：絞りを約1/8段刻みで開く。
- F値表示は1/3段刻みで行われる。


MEMO ズーム操作によりF値が変化するEFレンズを使うときは、カメラ設定メニュー ＞「Iris」＞「Zoom連動F値補正」で、ズームに連動してF値を補正するかどうかを指定できます（183）。

ホワイトバランスを調整する CAMERA MEDIA

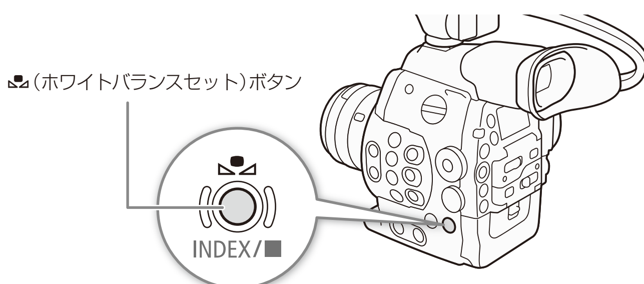
照明や太陽光などの光源の色温度に応じて、ホワイトバランスを設定することができます。調整のしかたには次の3種類があります。

ホワイトバランスセット： 実際に白い紙などを写して設定し、設定値を「セットA」または「セットB」として登録する。

色温度設定： 2000K ～ 15000Kの範囲で色温度を設定する。

プリセット設定： 「☀（太陽光、5400K）」または「✳（電球、3200K）」のいずれかを選ぶ。

蛍光灯下で撮影するときは、ホワイトバランスセットで調整してください。プリセット設定を使うときは、さらに+9 ～－9の範囲で微調整することができます。

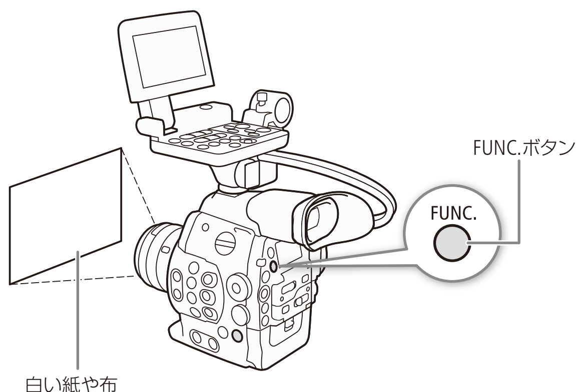



MEMO

- カスタムピクチャーの「Color Matrix」または「White Balance」を設定しているときは、それらの設定がホワイトバランス設定より優先されます。
- その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「ショックレスWB」を「入」にすると、ホワイトバランスを切り換えたときに値がなめらかに変化します（194）。

ホワイトバランスセットで調整する

実際に撮影する環境下で白い紙などを写して基準白色を取り込みます。「A」と「B」の2種類の設定を登録できます。



FUNC.

1 カメラダイレクト設定に入る

① FUNC.ボタンを押して、設定対象をホワイトバランスに切り換える。

2 調整方法を選ぶ

① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、「A」または「B」を選ぶ。

登録済みのホワイトバランスセットを選ぶとき

SETを押す。以降の操作は不要。

● 一度も設定を登録していないときは、選んだ「A」／「B」が画面上で点滅する。

3 被写体と同じ照明条件の場所に白い紙や布などを置き、画面いっぱいに写す

4 基準白色を取り込んで、登録する

INDEX/■

① (ホワイトバランスセット)ボタンを押す。
- カメラダイレクト設定から抜け、「A」または「B」が速く点滅する。
- 調整中は、白い紙または布などを画面いっぱいに写し続ける。
- 点滅→点灯に変わったら調整完了。調整されたホワイトバランスは電源を切っても記憶されている。

Wi-Fi Remoteで調整する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）。



1 ホワイトバランス設定を選ぶ

① 「A」を押す。



2 設定方法を選ぶ

① 「A」または「B」を選ぶ。



3 基準白色を取り込んで、登録する

- 一度も登録されていないときは、「A」または「B」がゆっくり点滅する。

① 白い紙や布などを画面いっぱいに写し、「」を押す。
- 「A」または「B」が早く点滅し、点灯に変わったら調整完了。



ホワイトバランスセットで調整するとき

- 場所や明るさが変わったとき、NDフィルターを切り換えたときは、セットし直してください。
- 光源によっては、ごくまれにが速い点滅→点灯に変わらない（速い点滅から遅い点滅に変わる）ことがありますが、そのまま撮影できます。

プリセット設定／色温度設定で調整する

屋外（5400Kの太陽光）用、または屋内（3200Kの電球）用にプリセットされた設定を選ぶか、色温度を指定してホワイトバランスを調整します。プリセット設定を選んだときは、+9～−9の範囲で微調整することができます。色温度は、設定範囲が2000K～15000Kで、100K刻みで設定できます。

カメラダイレクト設定で調整する

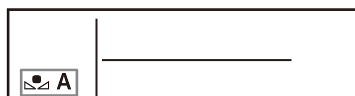
カメラダイレクト設定の詳細については、66ページをご覧ください。



1 カメラダイレクト設定に入る

① FUNC.ボタンを押して、設定対象をホワイトバランスに切り換える。





2 調整方法を選ぶ

① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、「☀（太陽光）」、「☀（電球）」、「K（色温度）」のいずれかを選ぶ。

3 「☀（太陽光）」または「☀（電球）」を選んだとき 必要に応じて微調整する

① （ホワイトバランスセット）ボタンを押す。
- 画面に微調整用の入力エリアがオレンジ色で表示される。表示パネル上では、ホワイトバランスと微調整用の項目だけが表示される。

② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、調整する。

③ SETを押す。
- 調整値が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面ではオレンジ色の表示が解除され、表示パネルには WB+/- が表示される。

4 「K（色温度）」を選んだとき 色温度を設定する

① （ホワイトバランスセット）ボタンを押す。
- 画面に色温度調整用の入力エリアがオレンジ色で表示される。表示パネル上では、ホワイトバランスと色温度調整用の項目だけが表示される。

② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、調整する。

③ SETを押す。
- 色温度が決定され、カメラダイレクト設定を終了する。
- 画面はオレンジ色の表示が解除され、表示パネルは通常表示に戻る。


MEMO アサインボタンに「FUNC. WB」を割り当てると、アサインボタンを押してホワイトバランスの設定モードに入ることができます。

Wi-Fi Remoteで調整する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した対応機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）。



1 ホワイトバランス設定を選ぶ

① 「A」を押す。



2 設定方法を選ぶ

① 「☀」、「☀」、「K」のいずれかを選ぶ。



3 「☀（太陽光）」または「☀（電球）」を選んだとき 必要に応じて微調整する

① 調整値を押す。
- 選択可能な微調整値が表示される。

② いずれかの値を選ぶ。
- 選んだ微調整値が決定され、Wi-Fi Remoteの画面に表示される。



4 「K（色温度）」を選んだとき 色温度を設定する

① 色温度の値を押す。
- 選択可能な色温度が表示される。

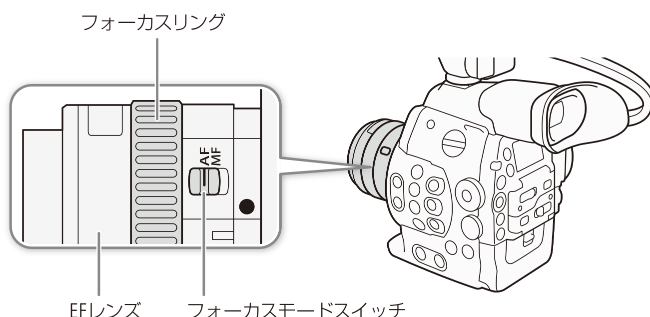
② いずれかの値を選ぶ。
- 選んだ色温度が決定され、Wi-Fi Remoteの画面に表示される。

フォーカスを調整する CAMERA MEDIA

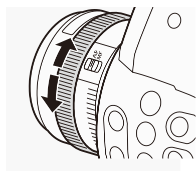
フォーカスはマニュアルで調整します。フォーカス調整のしかたには、次の2種類があります。フォーカス調整中は、ピーキング（輪郭強調）表示や拡大表示を使うとピントを合わせやすくなります。

フォーカスリング： レンズのフォーカスリングを回してフォーカスを調整する。

C300 Wi-Fi Remote： ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6（別売）を用いたリモート撮影時に、ネットワークに接続した機器の画面でフォーカスを調整する。



レンズのフォーカスリングで調整する



フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。



オートフォーカス機能を備えるEFレンズの場合、レンズによっては、フォーカスモードスイッチをAFにしていると、フォーカスリングによるフォーカス調整ができないことがあります。このときは、フォーカスモードスイッチをMFにしてください（C300）。

Wi-Fi Remoteで調整する C300

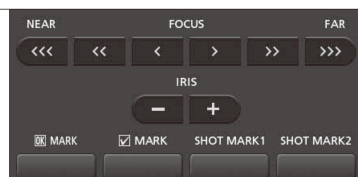
Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで調整できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（📖 54）。



1 EFレンズのフォーカスモードスイッチをAFにする

‹ « ⋘
› » ⋙

2 いずれかのフォーカス操作ボタンを押して、ピントを合わせる



- NEARのボタン（‹、«、⋘）を押すと至近方向に調整し、FARのボタン（›、»、⋙）を押すと無限方向に調整します。
- 調整量は押すボタンによって異なり、‹ ／ › は小、« ／ » は中、⋘ ／ ⋙ は大です。


MEMO

- EFレンズのフォーカスモードスイッチをMFにしていると、Wi-Fi Remoteからフォーカス調整できません。なお、レンズによっては、フォーカス調整できないことがあります。
- 電源を入れたままで放置するとピントがボケることがあります。これはレンズとカメラ内部の温度上昇によってピント面がわずかに移動するためです。撮影を開始する前に再度ピントを確認してください。

フォーカスアシスト機能を使う

フォーカスを調整するとき、ピーキング（輪郭強調）表示や拡大表示を使うと、ピントが合わせやすくなります。両方を同時に使うこともできます。また、その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「フォーカスアシスト B&W」で、フォーカスアシスト機能を使用中のみ、画面を自動的にモノクロ表示にするように設定できます（📖 137）。

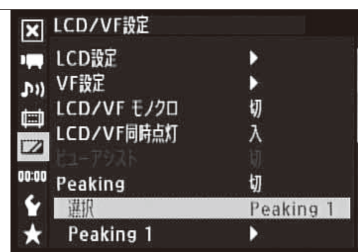
ピーキング

ピーキングには、ピーキング1とピーキング2があり、メニューで切り換えて使用します。



1 ピーキング1またはピーキング2を選ぶ

① LCD/VF設定メニュー ＞「選択」を順に選ぶ。
② 「Peaking 1」、「Peaking 2」のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。



PEAKING



2 PEAKING（ピーキング）ボタンを押す

- 画面に PEAK1 または PEAK2 が表示され、輪郭が強調される。
- もう一度、PEAKINGボタンを押すと、ピーキング表示が解除される。
- LCD/VF設定メニュー ＞「Peaking」でピーキング表示を入／切することもできる。

拡大表示



1 本体またはグリップのMAGN.（拡大）ボタンを押す

- 画面に MAGN. が表示され、画面の中心部が約2倍*に拡大される。
  * 倍率は液晶画面とファインダーで異なる。また、記録信号形式の解像度によっても異なる。
- もう一度MAGN.ボタンを押すと解除される。


MEMO

- ピーキング表示／拡大表示は画面にのみ表示され、各出力端子から出力される映像には表示されません。また、記録される動画／静止画には影響しません。
- ピーキングの色、ゲイン、周波数は、LCD/VF設定メニュー ＞「Peaking 1」または「Peaking 2」でそれぞれ設定できます。
- エッジモニター（📖 111）を表示してピントを合わせやすくすることもできます。
- ピーキングとエッジモニターを同時に表示することができます。このとき、ピーキングのゲイン／周波数は、エッジモニターのゲイン設定によって自動的に設定されます。

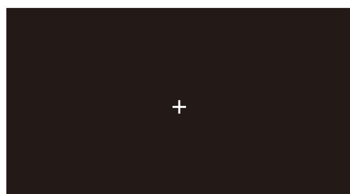
マーカー／ゼブラパターンを表示する

CAMERA MEDIA

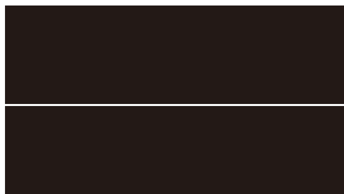
撮影時、画面に各種マーカーやゼブラパターンを表示することができます。これらの表示は記録される映像には影響しません。

マーカーを表示する

構図を決める際のガイドとして、次の5種類のマーカーを表示することができます。



センターマーカー



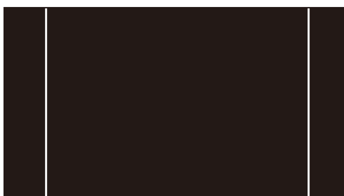
水平マーカー



グリッド



セーフティーゾーンマーカー *1



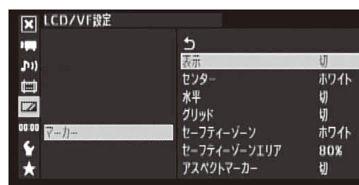
アスペクトマーカー *2

*1 セーフティーゾーンの領域（セーフティーゾーンエリア）を「95%」、「92.5%」、「90%」、「80%」の4つの中から選択できます。

*2 アスペクト比を「2.35:1」、「1.85:1」、「1.75:1」、「1.66:1」、「14:9」、「13:9」、「4:3」の7つの中から選択できます。

マーカー表示を有効にする

マーカー表示を有効にします。ここで有効にしないと、マーカーを選んだだけでは表示されません。

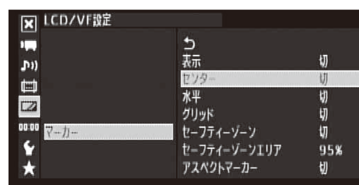


① LCD/VF設定メニュー ＞「マーカー」＞「表示」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ ＞ SETを押す。
- マーカーが表示可能になる。
- マーカー表示をしないときは、ここで「切」を選ぶ。

表示したいマーカーを選ぶ

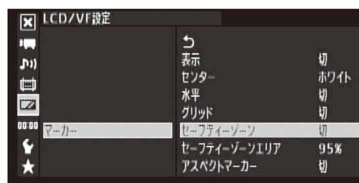
異なるマーカーを同時に表示することができます。ここでまず、表示したいマーカーを選択し、必要に応じて個別の設定をします。

例：センターマーカーとセーフティーゾーンマーカーを選択する場合



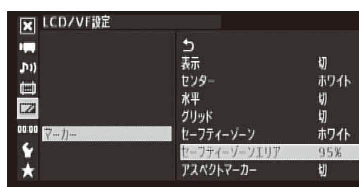
1 表示するマーカー（センターマーカー）を選ぶ

① LCD/VF設定メニュー ＞「マーカー」＞「センター」を順に選ぶ。
② 「ホワイト」または「グレー」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 指定した色のセンターマーカー表示が選択される。
- センターマーカー表示を解除するときは、ここで「切」を選ぶ。



2 表示するマーカー（セーフティーゾーンマーカー）を選ぶ

① LCD/VF設定メニュー ＞「マーカー」＞「セーフティーゾーン」を順に選ぶ。
②「ホワイト」または「グレー」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 指定した色のセーフティーゾーンマーカー表示が選択される。
- セーフティーゾーンマーカーを表示しないときは、ここで「切」を選ぶ。



3 マーカー（セーフティーゾーンマーカー）の個別設定（セーフティーゾーンエリア）を行う

① LCD/VF設定メニュー ＞「マーカー」＞「セーフティーゾーンエリア」を順に選ぶ。
② セーフティーゾーンの領域を「95%」、「92.5%」、「90%」、「80%」の中から選ぶ ＞ SETを押す。



アサインボタンに「マーカー」を割り当てると、アサインボタンを押してマーカー表示の入／切を切り換えられます（□ 122）。

撮影

ゼブラパターンを表示する

露出オーバーで白とびするおそれがある領域に、縞状のパターンを表示することができます。ゼブラパターンには「ゼブラ1」と「ゼブラ2」の2種類があり、2つを同時に表示することもできます。

ゼブラ1
　設定した輝度レベル±5%の領域にゼブラパターン1を表示する。輝度レベルは6段階（70±5%、75±5%、80±5%、85±5%、90±5%、95±5%）あり、いずれか1つを選択する。

ゼブラ2
　設定した輝度レベル以上の領域にゼブラパターン2を表示する。輝度レベルは7段階（70%、75%、80%、85%、90%、95%、100%）あり、いずれかを1つを選択する。

ゼブラ1+ゼブラ2
　ゼブラ1とゼブラ2を同時に表示する。両者の表示条件が重なる領域では、ゼブラ1を優先して表示する。

ゼブラパターン表示を入／切する

ZEBRA



ZEBRA（ゼブラ）ボタンを押す。LCD/VF設定メニュー ＞「Zebra」で設定して、ゼブラパターン表示を入／切することもできます。

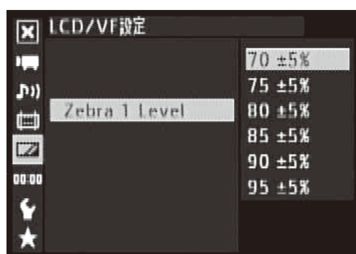
ゼブラパターンを選ぶ

表示するゼブラパターンを選び、輝度レベルを設定します。



1 ゼブラパターンを選ぶ

① LCD/VF設定メニュー ＞「選択」を順に選ぶ。
②「Zebra 1」、「Zebra 2」、「Zebra 1&2」のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。



2 ゼブラパターンの輝度レベルを設定する

① LCD/VF設定メニュー ＞「Zebra 1 Level」または「Zebra 2 Level」を順に選ぶ。
② 輝度レベルを選ぶ ＞ SETを押す。



ゼブラパターンは、HD/SD SDI端子（HD出力時のみ）、HDMI OUT端子（HD出力時のみ）、SYNC OUT端子（HD Y信号出力時のみ）に出力することもできます。端子からの出力は、LCD/VF設定メニュー ＞「HD Output」メニューで入／切できます（186）。

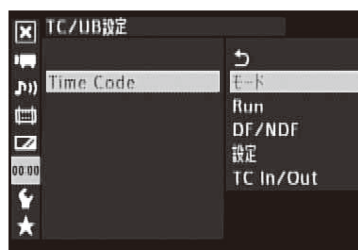
タイムコードを設定する CAMERA MEDIA

撮影時に内蔵のタイムコードジェネレーターでタイムコードを生成できます。生成したタイムコードは、映像とともに記録メディアに記録されるほか、HD/SD SDI端子またはTIME CODE端子（📖 95）に出力できます。また、HDMI OUT端子、SYNC OUT端子に出力される映像にも表示されます。再生時は、記録メディアから読み出したタイムコードを撮影時と同じ各出力端子に出力できます。
タイムコードのカウントアップ方式には次の3種類があります。外部のタイムコードジェネレーターに同期することもできます（📖 95）。また、「NTSC/PAL」が「NTSC」のときは、ドロップフレームとノンドロップフレームを選択できます。

Rec Run（レックラン）：	タイムコードは記録時に歩進する。タイムコードの初期値は任意に設定可能。同一のメディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。
Free Run（フリーラン）：	タイムコードは、記録状態に関係なく常に歩進する。初期値は任意に設定可能。
Regen.（リジェネ）：	タイムコードは記録時に歩進する。記録メディアに記録されている最後のタイムコードを読み出し、その続きから歩進する。同一のメディアに記録している間、タイムコードは記録したクリップの順で連続する。

カウントアップ方式を選ぶ

カウントアップ方式は、歩進モード（モード）で「Preset」または「Regen.」を選びます。「Preset」を選んだときは、歩進方法（Run）で「Rec Run」または「Free Run」を選び、任意の初期値を設定します。

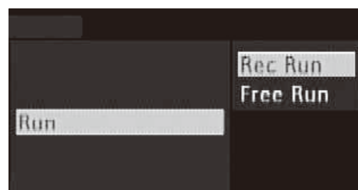


1 歩進モードを選ぶ

① TC/UB設定メニュー ➤「Time Code」➤「モード」を順に選ぶ。
② 「Preset」または「Regen.」を選ぶ ➤ SETを押す。

Preset：　「設定」で設定した任意のタイムコードから歩進する。
Regen.：　記録メディアに記録されている最後のタイムコードの続きから歩進する。

● 「Regen.」を選んだときは、以降の操作は不要。



2 「Preset」を選んだ場合　歩進方法を選ぶ

① TC/UB設定メニュー ➤「Time Code」➤「Run」を順に選ぶ。
② 「Rec Run」または「Free Run」を選ぶ ➤ SETを押す。

撮影





3 「Preset」を選んだ場合　任意の初期値を設定する

① TC/UB設定メニュー ＞「Time Code」＞「設定」を順に選ぶ。
② 「セット」を選ぶ ＞ SETを押す。
- タイムコードの設定画面が表示され、「時」の桁が選択される。
- 「リセット」を選びSETを押すと、タイムコードが「00:00:00.00」にリセットされる。「Free Run」を選んでいるときは、リセット後のタイムコードから歩進を続ける。
- 設定を途中で中止するときはCANCELを押す。

③ ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して数値を選ぶ ＞ SETを押す。
④ ③の操作を繰り返して、「分」、「秒」、「フレーム」の数値を選ぶ ＞「セット」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 「Free Run」を選んでいるときは、この時点で設定値のタイムコードから歩進する。

ドロップフレーム／ノンドロップフレームを切り換える

ドロップフレーム（DF）またはノンドロップフレーム（NDF）を切り換えることができます。なお、次のときはNDFに固定されます。
- 「24.00P」が「入」のとき。
- 「NTSC/PAL」が「PAL」のとき。
- 「NTSC/PAL」が「NTSC」で「フレームレート」が「23.98P」のとき。



① TC/UB設定メニュー ＞「Time Code」＞「DF/NDF」を順に選ぶ。
② 「DF」または「NDF」を選ぶ ＞ SETを押す。
- DFとNDFで画面上のタイムコード表示が次のように異なる。
  DFのとき　00：00：00．00
  NDFのとき　00：00：00：00

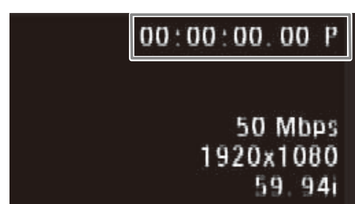
タイムコードを保持する（タイムコードホールド）

アサインボタン（📖 122）に「Time Codeホールド」を割り当て、割り当てたアサインボタンを押すと画面に表示されるタイムコードを保持できます*。タイムコード保持中は、画面に「**H**」が表示されるほか、表示パネルに「HOLD」が表示されます。なお、保持中でもタイムコードは歩進し、保持を解除すると歩進していたタイムコードが表示されます。

* TIME CODE端子、HD/SD SDI端子に出力されるタイムコードはホールドされません。その他の端子の出力映像に重畳されるタイムコードはホールドされます。

撮影

タイムコードの表示について



R：　Regen.（リジェネ）設定時
P：　Rec Run（レックラン）設定時
F：　Free Run（フリーラン）設定時
E：　タイムコード外部入力時
H：　タイムコードホールド時
表示なし：再生時

MEMO

- タイムコードのフレームカウントは、フレームレートが23.98P / 24.00Pのときは0 ～ 23、25.00P / 50.00i / 50.00Pのときは0 ～ 24、それ以外は0 ～ 29となります。
- インターバル記録、フレーム記録、スロー &ファーストモーション記録のときは、「Free Run」は使用できません。また、プレ記録のときは「Free Run」固定となり、カウントアップ方式は設定できません。
- ドロップフレーム、ノンドロップフレームを混在させて録画すると、撮影開始時のタイムコードが不連続になることがあります。
- 内蔵2次電池が充電されていれば、バッテリーなどの電源がなくても、フリーランタイムコードは歩進します。ただし、電源ON時に比べて精度が低下します。
- アサインボタンに「Time Code」を割り当てると、アサインボタンを押してTC/UB設定メニュー ＞「Time Code」メニューを表示することができます（📖 122）。

ユーザービットを設定する CAMERA MEDIA

8桁の16進数（0 ～ 9、A ～ Fの英数字）をユーザービットとして設定し、映像と一緒に記録メディアに記録できます。ユーザービットには、撮影情報や記録した映像の管理情報など、映像に付加したい情報を自由に設定することができます。また、時刻や日付（年月日）をユーザービットとして記録することもできます。外部機器からタイムコードと同時にユーザービットを入力しているときは、外部入力したユーザービットを記録することもできます。

任意の16進数を設定する



① TC/UB設定メニュー ＞「User Bit」＞「タイプ」＞「設定」を順に選ぶ。
② 「セット」を選ぶ ＞ SETを押す。
- ユーザービットの設定画面が表示され、一番左の桁が選択される。
- 「リセット」を選びSETを押すと、ユーザービットが「00 00 00 00」にリセットされる。
- 設定を途中で中止するときはCANCELを押す。



③ ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して英数字を選ぶ ＞ SETを押す。
④ ③の操作を繰り返して、残りの桁の英数字を選ぶ ＞「セット」を選ぶ ＞ SETを押す。

時刻または日付を設定する



① TC/UB設定メニュー ＞「User Bit」＞「タイプ」を順に選ぶ。
② 「時刻」または「日付」を選ぶ ＞ SETを押す。

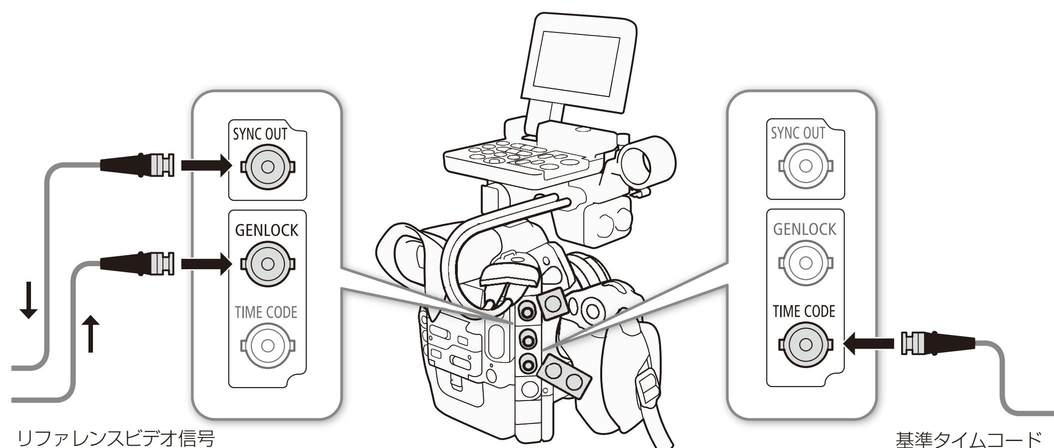
外部機器と同期をとる

ゲンロック（GENLOCK）によって、外部の映像機器と本機の映像信号を同期させることができます。外部の同期信号を本機に入力するときはGENLOCK端子を使い、本機から同期信号を出力するときはSYNC OUT端子を使います。また、本機のタイムコードを外部入力のタイムコードに同期させることもできます。同じジェネレーターのタイムコードを複数のカメラに入力すれば、マルチカメラ撮影を行うことができます。本機のタイムコードを他のカメラに出力してマルチカメラ撮影を行うこともできます。さらに、撮影／再生時にHD/SD SDI端子の出力を編集機などに入力して、編集機で同一タイムコードの映像を記録することもできます。

接続のしかた

GENLOCK端子／ SYNC OUT端子またはTIME CODE端子には次のように接続します。外部の信号にロックさせるときは、GENLOCK端子にリファレンスビデオ信号*を入力するか、TIME CODE端子にタイムコード信号を入力します。TIME CODE端子の入力／出力はメニュー（後述）で切り換えます。

* リファレンスビデオ信号としてHD三値信号の他にアナログ・ブラックバースト信号も入力可能です。



外部のリファレンスビデオ信号に同期する（GENLOCK） CAMERA MEDIA

同期信号（アナログブラックバースト信号または三値信号）をGENLOCK端子に入力すると、自動的に内部のV同期／H同期の位相を合わせます。なお、位相差0を中心として、約±0.4H（HD換算）の範囲でH位相を調整することもできます。



① その他機能メニュー ＞「Genlock調整」を順に選ぶ。
② －1023から1023の範囲で調整値を選ぶ ＞「セット」を選ぶ ＞ SETを押す。

外部のタイムコード信号に同期する（タイムコード入力） CAMERA MEDIA

TIME CODE端子に入力されるLTC規格の信号を、タイムコードとして記録メディアに記録します。同時に入力されるユーザービットも記録できます。なお、TIME CODE端子は、メニューで入力モードに切り換えます。本機のタイムコードのカウントアップ方式（📖 91）が「Free Run（フリーラン）」のときのみ、タイムコードを入力できます。



① TC/UB設定メニュー ＞「Time Code」＞「TC In/Out」を順に選ぶ。
② 「In」を選ぶ ＞ SETを押す。

外部入力したユーザービットを記録する

タイムコードと一緒に入力されるユーザービットを記録することができます。



① TC/UB設定メニュー ＞「User Bit」＞「記録モード」を順に選ぶ。
② 「External」を選ぶ ＞ SETを押す。



- GENLOCK信号が入力されると約10秒後に同期が安定します。
- 入力されたGENLOCK信号に本機がロックすると、画面にGen.が表示されます。
- GENLOCK入力がない、または不正な入力状態になっているときは、入力されるタイムコードの記録が乱れることがあります。
- DF/NDFは、外部入力されるタイムコードのdropped frame bitになります（入力されるタイムコードがノンドロップフレームのときは、表示パネルにNDFが表示されます）。
- タイムコードが入力されると本機のタイムコードが同期します。TIME CODE端子からケーブルを外しても、外部ロック状態は保持されます。

タイムコードの同期が乱れる場合

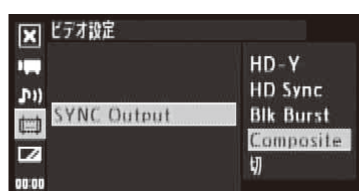
ケーブルを外した状態で次の操作を行うと、タイムコードの同期が乱れます。ケーブルを再度接続すると、正しいタイムコードに復帰します。

- 電源の入／切、メディアモードへの切り換え
- 記録信号形式の変更
- フレームレートの変更

- タイムコードが入力されない、または不正な値が入力されているときは、TC/UB設定メニュー ➤「Time Code」➤「モード」と「Run」で設定した内部タイムコードが記録されます。
- 入力されたタイムコードに本機がロックすると、表示パネルに「EXT-LOCK」が表示されます。

リファレンスビデオ信号を出力する CAMERA MEDIA

本機のSYNC OUT端子から同期信号としてリファレンスビデオ信号（HD三値信号またはアナログブラックバースト信号）を出力することができます。



① ビデオ設定メニュー ➤「SYNC Output」を順に選ぶ。
② いずれかを選ぶ ➤ SETを押す。
HD Sync：HD三値信号
Blk Burst*：アナログブラックバースト信号
* 24.00P以外のときのみ。

タイムコードを出力する CAMERA MEDIA

本機のタイムコードを、LTC規格の信号でTIME CODE端子から出力します。その際、ユーザービットも同時に出力されます。なお、TIME CODE端子は、メニューで出力モードに切り換えます。また、ビデオ設定メニュー ➤「SDI Output」でSDI出力を「HD」または「SD」にすると、HD/SD SDI端子にエンベデッドタイムコードが出力されます。

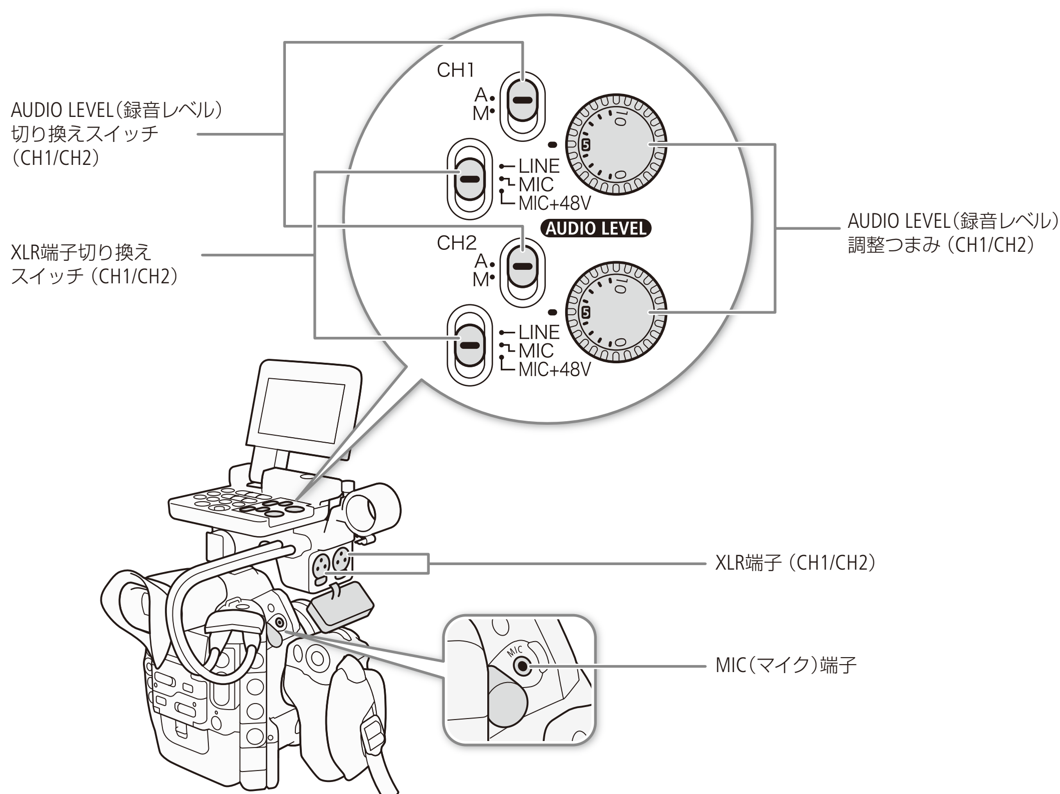
ユーザービットの出力について

撮影時は設定されているユーザービットが出力され、再生時は映像と一緒に記録されているユーザービットが出力されます。フレームレートが23.98P / 24.00Pの場合、TC/UB設定メニュー ➤「User Bit」➤「Outputモード」を「プルダウン」にすると、ユーザービットが2:3プルダウン情報*になります。

* フレームレートが23.98P / 24.00Pの映像は、HD/SD SDI端子に出力するときに2:3プルダウン方式で59.94i/59.94Pまたは60.00i/60.00Pに変換されます。このときの変換情報（2:3プルダウン情報）を出力することにより、入力側の機器はこれを利用して1080/23.98Pまたは1080/24.00Pに変換することが可能になります。

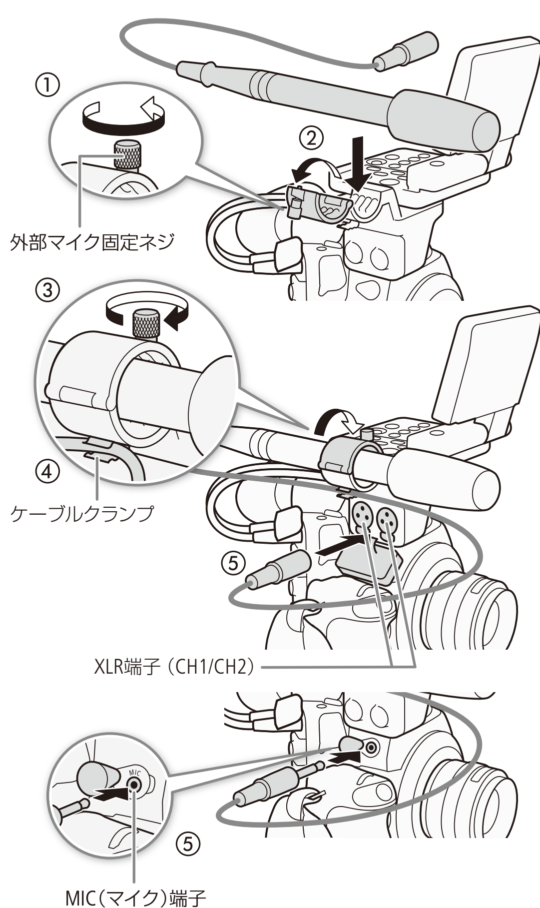
音声を記録する CAMERA MEDIA

本機では、2チャンネルのリニアPCM記録方式の音声を記録／再生できます。サンプリング周波数は48kHzです。収録する音声は、外部マイク（XLR端子）、外部ライン入力（XLR端子）、外部マイク（MIC端子）から選びます。なお、XLR端子を使用するときは、本機にモニターユニットを取り付ける必要があります。



外部マイク／外部ライン入力機器を本機に接続する

モニターユニットを取り付けると、XLR端子に外部マイクまたは外部ライン入力機器を接続することができます。
また、MIC端子に外部マイクを取り付ける場合、モニターユニットを取り付けていれば、外部マイクをマイクホルダーに固定することができます。



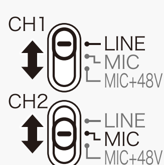
1 マイクのとき 外部マイク固定ねじをゆるめ（①）、外部マイクホルダーを開く（②）

2 マイクのとき 外部マイクを取り付けて固定し（③）、ケーブルをクランプにとめる（④）

3 外部マイク／外部ライン入力機器のケーブルを本機に接続する（⑤）

外部マイク（XLR端子）／外部ライン入力（XLR端子）の音声を選択する

XLR端子はチャンネル1／チャンネル2の音声入力をそれぞれ個別に選択できます。なお、MIC端子にマイクを接続していると、MIC端子の音声が優先されるため、XLR端子の音声が記録されません。XLR端子を使用するときは、MIC端子にマイクを接続しないでください。



1 XLR端子切り換えスイッチのCH1/CH2をLINE（ライン）またはMIC（マイク）にする

- ファンタム電源が必要なマイクを使うときはMIC＋48Vに切り換える。ファンタム電源をONにするときはマイクを接続してから行い、OFFにするときは接続したまま行う。
- XLR端子を1チャンネルのみ使用するときは、CH1端子を使用する。

録音するチャンネルを割り当てる

CH1入力の音声をチャンネル1に録音するか、チャンネル1とチャンネル2の両方に録音するかを選びます。



① オーディオ設定メニュー ＞「Audio Input」＞「XLR Rec Channel」を順に選ぶ。
②「CH1」または「CH1/CH2」を選ぶ ＞ SETを押す。
CH1： CH1/CH2入力をそれぞれチャンネル1／チャンネル2として録音する。
CH1/CH2：CH1入力をチャンネル1／チャンネル2の両方に録音する。



- ＋48V対応のマイク以外の機器を接続するときは、必ずLINEまたはMICを使用してください。「MIC+48V」のままで使用すると、接続したマイクなどの機器が故障することがあります。
- 「XLR Rec Channel」を「CH1/CH2」にすると、CH2入力の音声は録音されません。

XLR端子の録音レベルを調整する

XLR端子の録音レベルはチャンネルごとにオート／マニュアルを個別に設定できます。

オートで調整する



AUDIO LEVEL（録音レベル）切り換えスイッチをA（オート）にすると、そのチャンネルの録音レベルがオートになり、自動調整されます。

XLR端子のCH1とCH2の録音レベル調整を連動させる

XLR端子のCH1/CH2が同じ音声入力（外部ライン入力または外部マイク）に設定されている場合、録音レベルをオートに設定すると、CH1とCH2のレベル調整を連動させることができます。オーディオ設定メニュー ➤「Audio Input」➤「XLR ALCリンク」（📖 184）で設定します。

マニュアルで調整する

CH1/CH2の録音レベルをそれぞれ個別に手動調整できます。調整は－∞～＋18 dBの範囲で行うことができます。調整後、AUDIO LEVEL（録音レベル）カバーを閉じることによって、誤操作を防止できます。

1 AUDIO LEVEL（録音レベル）切り換えスイッチをM（マニュアル）にする

2 AUDIO LEVEL（録音レベル）調整つまみを回して、調整する

- つまみの0（－∞）～ 5（0 dB）～ 10（+18 dB）の範囲でレベルを調整できる。
- 画面または表示パネルに表示されるオーディオレベルメーターの18 dBより右が時々点灯するように調整する。

3 AUDIO LEVEL（録音レベル）カバーを閉じる

音声信号レベルを制限する

過大な音声入力によるひずみを防止するために、音声信号レベルを制限することができます。録音レベルをマニュアルで調整するときに、入力レベルが−4 dBFSを超えると自動的に信号レベルを制限してひずみを防止します。CH1とCH2のいずれかがマニュアルレベル調整のときに設定できます。設定は、オーディオ設定メニュー ➤「Audio Input」➤「リミッター」（📖 184）で行います。



- 録音レベルを調整するときは、ヘッドホンでモニターしながら行うことをおすすめします。オーディオレベルメーター上で適切に表示されていても、入力レベルが過大な場合、音声がひずむことがあります。
- アサインボタンに「Audio Level」を割り当てると、アサインボタンを押してオーディオレベルメーター表示を入／切することができます。

外部マイク（XLR端子）の入力感度を調整する

XLR端子切り換えスイッチがMICまたはMIC+48Vのときに機能します。



① オーディオ設定メニュー ➤「Audio Input」➤「XLR1 Micトリミング」または「XLR2 Micトリミング」を順に選ぶ。
② 下記のいずれかを選ぶ ➤ SETを押す。
+12 dB、+6 dB、0 dB、－6 dB、－12 dB

外部マイク（XLR端子）のアッテネーターを使う

XLR端子切り換えスイッチがMICまたはMIC+48Vのときに機能します（Att. : Attenuator）。



① オーディオ設定メニュー ➤「Audio Input」➤「XLR1 Mic Att.」または「XLR2 Mic Att.」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ ➤ SETを押す。
● マイク信号にアッテネーター（20 dB）がかかる。

外部マイク（MIC端子）の音声を選択する

録音レベルを調整する

外部マイク（MIC端子）の録音レベルを調整します。録音レベルはオート（Automatic）またはマニュアル（Manual）で設定できます。オートにすると自動調整され、マニュアルにすると0 ～ 99の範囲で手動調整できます。



1 録音レベルの調整方法を選ぶ

① オーディオ設定メニュー ➤「Audio Input」➤「MICモード」を順に選ぶ。
② 「Automatic」または「Manual」を選ぶ ➤ SETを押す。



2 「Manual」を選んだとき 録音レベルを調整する

① オーディオ設定メニュー ＞「Audio Input」＞「MIC Level」を順に選ぶ。
② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、録音レベルを調節する。
- 画面または表示パネルに表示されるオーディオレベルメーターの18 dBより右が時々点灯するように調節する。

③ SETを押す。



- 録音レベルをマニュアルで調整する場合、オーディオ設定メニュー ＞「Audio Input」＞「リミッター」を「入」にすると、過大な音声信号レベルを制限してひずみを防止することができます。
- 録音レベルを調整するときは、ヘッドホンでモニターしながら行うことをおすすめします。オーディオレベルメーター上で適切に表示されていても、入力レベルが過大な場合、音声がひずむことがあります。
- アサインボタンに「Audio Level」を割り当てると、アサインボタンを押してオーディオレベルメーター表示を入／切することができます。

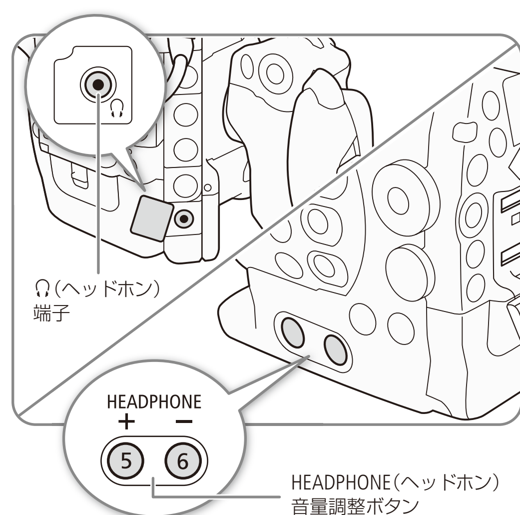
外部マイク（MIC端子）のアッテネーターを使う

必要に応じてアッテネーターを使用できます。



① オーディオ設定メニュー ＞「Audio Input」＞「MIC Att.」を順に選ぶ。
②「入」を選ぶ ＞ SETを押す。
- マイク信号にアッテネーター（20 dB）がかかる。

■ ヘッドホンでモニターする



ヘッドホンをΩ（ヘッドホン）端子に接続して、収録される音声をモニターできます。音量はHEADPHONE（ヘッドホン）音量調整ボタン（+/−）で調整します。

MEMO　ヘッドホン音量は、オーディオ設定メニュー ➤ Audio Output ➤ Headphone音量で調整することもできます。

メタデータを操作する CAMERA MEDIA

本機で記録したクリップにはメタデータが付加されます。付加されたメタデータは、付属のソフトウェアCanon XF Utility（以下、XF Utility）で表示して確認したり、検索に使用したりすることができます。
設定されるメタデータは、以下のとおりです。設定のしかたは項目によって異なります。

		メタデータ			
		ユーザーメモ	GPS情報	撮影情報	UMID所有権情報
		クリップタイトル、撮影場所、撮影内容		シャッター、ISO感度／ゲインなどの撮影時設定	国コード、組織コード、ユーザーコード
設定	ビデオカメラ	–	–	–*1	●
	XF Utility	●	●*2	–	–
	Wi-Fi Remote	●	●	–	–
参照	XF Utility	●	●	●	–

*1 撮影時に自動的に記録される。
*2 記録されたクリップに対してのみ設定可能。

XF Utilityを使ってユーザーメモを設定する

はじめにXF Utilityでユーザーメモの情報を入力してSDカードに保存します。次に、本機でSDカード内のユーザーメモを選んで撮影すると、記録されるクリップにユーザーメモの情報が付加されます。XF Utilityのインストールについては「クリップをパソコンに保存する」（📖 164）を、使いかたについては使用説明書*をご覧ください。
* 使用説明書は、ソフトウェアと一緒にパソコンにインストールされます。使用説明書の見かたは170ページをご覧ください。

1 XF Utilityでユーザーメモを設定し、SDカードに保存する

参考 ▸▸ XF Utilityの使用説明書

2 ユーザーメモが保存されているSDカードを本機のSD CARDスロットに入れる

3 メタデータの設定方法を選ぶ

① その他機能メニュー ＞「メタデータ設定」＞「設定」を順に選ぶ。
②「SD Card」を選ぶ ＞ SETを押す。



4 ユーザーメモファイルを選ぶ

① その他機能メニュー ➤「メタデータ設定」➤「User Memo」を順に選ぶ。
② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、SDカードに保存されているユーザーメモのファイル名のいずれかを選ぶ ➤ SETを押す。
- 画面に MEMO が表示される。
- 「切」を選ぶと、ユーザーメモはクリップに記録されない。




MEMO

- ユーザーメモを設定して撮影するときは、SDカードを抜かないでください。SDカードを抜くとユーザーメモはクリップに付加されません。
- XF Utilityを使ってユーザーメモを設定するとき、設定は撮影前に行ってください。CFカードに記録されたクリップのユーザーメモを本機で変更することはできません*。

* XF Utilityを使用して変更することができます。

Wi-Fi Remoteでユーザーメモ／GPS情報を設定する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで設定できます。Wi-Fi Remoteを使うと、直前に記録したクリップや記録中のクリップ、これから記録するクリップにユーザーメモを付加することができます。また、GPS情報（撮影地の高度／経度／緯度）を手動で設定することもできます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（📖 54）。





1 Wi-Fi Remoteからのメタデータ設定を有効にする

① 「有効化」を押す。
- 本体で次の操作を行って有効にすることもできる。
  その他機能メニュー ＞「メタデータ設定」＞「設定」＞「リモート」



2 ユーザーメモ／ GPS情報を入力する

① 「メタデータ入力」タブを押す。
- メタデータ入力画面が表示される。

② 「クリップタイトル」、「撮影者」、「撮影場所」、「撮影内容」、「GPS情報」をそれぞれ設定する。
- 各項目の右側の「クリア」を押すと、入力した内容を消去できる



3 ユーザーメモ／ GPS情報を本体に転送する

① 「直前に上書き」、「次撮影に適用」または「上書き」を押す。

直前に上書き*1：直前に記録したクリップと、これから記録するクリップに設定する。
次撮影に適用：これから記録するクリップに設定する。
上書き*2：撮影中のクリップと、これから記録するクリップに設定する。

*1 直前にクリップを記録したときのみ。
*2 撮影中のみ。

- ユーザーメモ／ GPS情報の内容がビデオカメラ本体に転送され、押したボタンに応じて設定される。

② ✖を押す。


MEMO

Wi-Fi Remoteから入力したメタデータ設定が解除される場合

- 本機の電源をOFF/ONしたとき。
- その他機能メニュー ＞「メタデータ設定」＞「設定」で設定方法を切り換えたとき。

- Wi-Fi Remoteを使って、リレー記録されたクリップにメタデータを設定する場合、リレー前のクリップにはメタデータは付加されません。

カラーバー／テストトーンを記録する

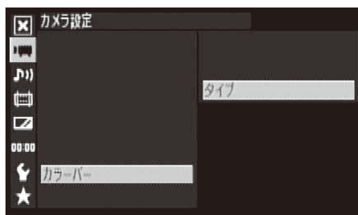
CAMERA MEDIA

測定器の調整やモニターの輝度・色相・彩度の調整を行うために、カラーバーを出力／記録することができます。また、同時に1 kHzのテストトーンを出力／記録することもできます。カラーバーとテストトーンは次の端子にも出力されます。

	カラーバー	1 kHzテストトーン
HD/SD SDI端子	●	●
HDMI OUT端子	●	●
SYNC OUT端子	●	—
🎧（ヘッドホン）端子	—	●

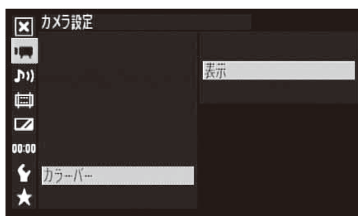
カラーバーを記録する

出力／記録するカラーバーは、SMPTE準拠、EBU準拠、ARIB準拠のいずれかをメニューで選べます。



1 カラーバーのタイプを選ぶ

① カメラ設定メニュー ＞「カラーバー」＞「タイプ」を順に選ぶ。
② 「SMPTE」、「EBU」、「ARIB」のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。



2 カラーバーを表示する

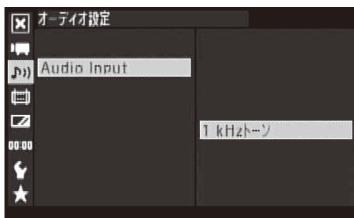
① カメラ設定メニュー ＞「カラーバー」＞「表示」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 画面にカラーバーが表示される。
- START/STOPボタンを押して撮影を開始すると、カラーバーを記録できる。
- 電源を切るかメディアモードに切り換えると、自動的に「切」になる。



アサインボタンに「カラーバー」を割り当てると、アサインボタンを押して入／切を切り換えられます（📖 122）。

テストトーンを記録する

カラーバーとともに1 kHzのテストトーンを出力／記録することができます。本機を他機につないで再生する場合、本機のテストトーンを使って接続した機器のレベルを調整することができます。テストトーンのレベルは、接続する機器に合わせて－12 dB、－18 dB、－20 dBから選ぶことができます。



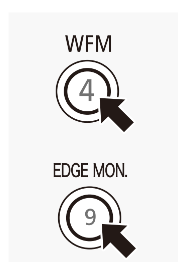
① オーディオ設定メニュー ➤「Audio Input」➤「1 kHzトーン」を順に選ぶ。
② 「－12 dB」、「－18 dB」、「－20 dB」、「切」のいずれかを選ぶ ➤ SETを押す。
- 選択したレベルのテストトーンが出力される。
- START/STOPボタンを押して撮影を開始すると、カラーバーとテストトーンを記録できる。

波形モニターを表示する　CAMERA MEDIA

カメラモードのとき、画面に波形モニター（Waveform Monitor）、ベクトルスコープ（Vectorscope）を簡易表示できます。また、エッジモニター（Edge Monitor）*を表示することもできます。なお、これら各種モニターは液晶画面のみに表示され、ファインダーや各出力端子からの映像には表示されません。なお、波形モニターを使うときは、本機にモニターユニットを取り付ける必要があります。

* 映像全体の合焦度合いを波形で表示する機能。カメラモードのみ。

モニター表示を選ぶ



WFM（波形モニター／ベクトルスコープ）ボタンまたはEDGE MON.（エッジモニター）ボタンを押す。

- WFM（波形モニター）ボタンを押すたびにモニター表示が次の順に切り換わる。

  切 → 「Waveform Monitor」（波形モニター） → 「Vectorscope」（ベクトルスコープ） → 切

- その他機能メニュー > 「WFM（LCD）」 > 「設定」でもモニター表示を選ぶことができる。

波形モニター（Waveform Monitor）のタイプを選ぶ

波形モニターは5種類のタイプから選ぶことができます。また、波形のゲインを1倍と2倍から選択できます。



1　波形モニターのタイプを選ぶ

① その他機能メニュー > 「WFM（LCD）」 > 「Waveform Monitor」を順に選ぶ。
② 次のいずれかを選ぶ > SETを押す。

ライン：　ライン表示する。
ライン+スポット：　ライン表示に重ねて、赤枠内の波形を赤色で表示する。
フィールド：　フィールド表示する。
RGB：　R、G、B信号をパレード表示する。
YPbPr：　Y、Pb、Pr信号をパレード表示する。

設定　切
Waveform Monitor　ライン
Gain　1x
Vectorscope　ノーマル
Gain　1x
Edge Monitor　タイプ1
Gain　12

2　波形のゲインを選ぶ

① その他機能メニュー > 「WFM（LCD）」 > 「Gain」を順に選ぶ。
② 「1x」（1倍）または「2x」（2倍）を選ぶ > SETを押す。

撮影

ベクトルスコープ（Vectorscope）のタイプを選ぶ

ベクトルスコープは2種類のタイプから選ぶことができます。また、波形のゲインを1倍と5倍から選択できます。



1 ベクトルスコープのタイプを選ぶ

① その他機能メニュー ＞「WFM（LCD）」＞「Vectorscope」を順に選ぶ。
② 次のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。
　スポット： ノーマル表示に重ねて、赤枠内の色信号を赤色で表示する。
　ノーマル： ベクトルスコープを表示する。



2 波形のゲインを選ぶ

① その他機能メニュー ＞「WFM（LCD）」＞「Gain」を順に選ぶ。
②「1x」（1倍）または「5x」（5倍）を選ぶ ＞ SETを押す。

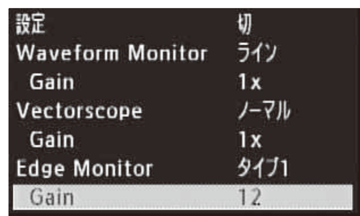
エッジモニター（Edge Monitor）のタイプを選ぶ

エッジモニターは2種類のタイプから選ぶことができます。フォーカスを調整するときに使うと、ピントが合わせやすくなります。フォーカスアシスト機能（ピーキング、拡大表示）と一緒に使うこともできます。



1 エッジモニターのタイプを選ぶ

① その他機能メニュー ＞「WFM（LCD）」＞「Edge Monitor」を順に選ぶ。
② 次のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。
　タイプ1： 合焦度合いを示す波形を緑色で表示し、さらに画面上の3箇所に表示した赤枠内で検出した波形を赤色で重ねて表示する。
　タイプ2： 波形モニター（ライン+スポット）とエッジモニターを同時に表示する。エッジモニターは、画面全体の合焦度合いを示す波形を青色で、それに重ねて、画面中央赤枠内の合焦度合いを示す波形を赤色で表示します。



2 波形のゲインを選ぶ

① その他機能メニュー ＞「WFM（LCD）」＞「Gain」を順に選ぶ。
②「切」または「1」～「15」のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。

ショットマークを付加する CAMERA MEDIA

撮影中、重要なシーンにショットマークを付加できます。ショットマークを付加しておくと、撮影終了後にメディアモードにおいて、マークをつけたシーンだけをインデックス表示して、目的のシーンをすばやく探すことができます。ショットマークには、ショットマーク1とショットマーク2があり、それぞれ独立して付加できます。メディアモードで、ショットマークを付加／消去することもできます（🕮 155）。

撮影中にショットマークを付加する

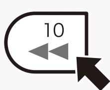
撮影中にショットマークを付加するには、あらかじめ、いずれかのアサインボタンにショットマーク1またはショットマーク2を割り当てる必要があります。

例：アサイン 10ボタンに「Shot Mark 1追加」を割り当てて、ショットマーク1を付加する場合



1 アサイン10ボタンに「Shot Mark 1追加」を割り当てる

参考 ➡「アサインボタンの機能を変更する」（🕮 122）。



2 撮影中 ショットマーク1を付加する

① ショットマーク1を付加したいシーンで、アサイン 10ボタンを押す。
- 画面に「Shot Mark 1」が表示され、ショットマーク1が付加される。

Wi-Fi Remoteで操作する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで付加できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（🕮 54）。



① 撮影中 「SHOT MARK1」または「SHOT MARK2」を押す。
② ✖を押す。



- 1つのクリップに付加できるショットマークは、ショットマーク1とショットマーク2を合わせて100個までです。
- ボタンを押した時点のフレームとショットマークを付加するフレームは、最大0.5秒程度ずれることがあります。Wi-Fi Remoteで操作したときは、通信状況によってはさらにずれることがあります。
- インターバル記録モードまたはフレーム記録モードで撮影中は、ショットマークを付加できません。
- ショットマークを付加すると、メディアモードのインデックス画面で、クリップサムネイルの横にSが表示される。

OKマーク／チェックマークを付加する

CAMERA MEDIA

カメラモードで最後に撮影したクリップに、OKマークまたはチェックマークを付加することができます。OKマーク／チェックマークを付けておくと、撮影終了後にメディアモードにおいて、マークを付けたクリップだけをインデックス画面に表示することができます。また、OKマークが付加されたクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護することができます。OKマーク／チェックマークは、メディアモードで再生中またはインデックス画面で付加することもできます（□ 148）。

撮影

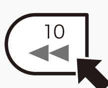
撮影中にOKマーク／チェックマークを付加する

例：アサイン10ボタンに「OK Mark追加」または「✓Mark追加」を割り当てて、マークを付加する場合



1 アサイン10ボタンに「OK Mark追加」または「✓Mark追加」を割り当てる

参考 ▸「アサインボタンの機能を変更する」（□ 122）



2 撮影が終了したあと OKマークまたはチェックマークを付加する

① アサイン10ボタンを押す。
- 画面に「OK Mark」が表示され、直前に撮影したクリップにOKマークが付加される。
- チェックマークのときは、画面に「✓Mark」が表示される。

Wi-Fi Remoteで操作する

Wi-Fi Remoteを使って、ネットワークに接続した機器からワイヤレスで付加できます。あらかじめリモート撮影（Wi-Fi Remote）の準備を行っておいてください（□ 54）。



① 撮影が終了したあと 「OK MARK」または「✓MARK」を押す。
② ✕を押す。


MEMO OKマークとチェックマークは、同じクリップに同時に付加することはできません。

レックレビューで確認する CAMERA MEDIA

カメラモードで最後に撮影したクリップの映像を再生して確認できます。再生のしかたは、映像をすべて再生するか、最後の4秒のみを再生するかを選択できます。

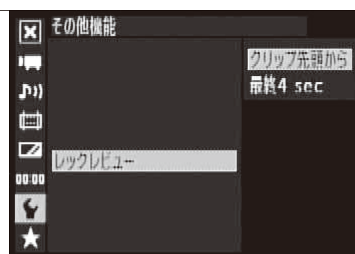
直前に撮影した映像を確認する

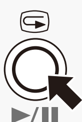


1 レックレビューの再生範囲を設定する

① その他機能メニュー ＞「レックレビュー」を順に選ぶ。
②「クリップ先頭から」または「最終4 sec」を選ぶ ＞ SETを押す。

クリップ先頭から： クリップの先頭からすべて再生する。
最終4 sec： クリップの最後の4秒間のみを再生する。





2 撮影が終了したあと 映像を再生して確認する

① ／ ▶/❚❚ボタンを押す。
- 画面に「▶REVIEW」が表示される。
- 操作1で設定した再生範囲に応じて、直前に撮影した映像が再生される。このとき、映像と一緒に記録された音声は再生されない。

レックレビューを中止するとき

CANCELを押す。

- レックレビューが終了すると、自動的に撮影一時停止状態（STBY）に戻る。



- 特殊記録（インターバル記録、フレーム記録、スロー &ファーストモーション記録、プレ記録）の各モードのときは、レックレビューは行えません。
- 撮影中に記録先のメディアが自動的に切り換わった場合、直後にレックレビューを行うと、新たに記録先となったメディア内のクリップが再生されます。

特殊記録を行う CAMERA MEDIA

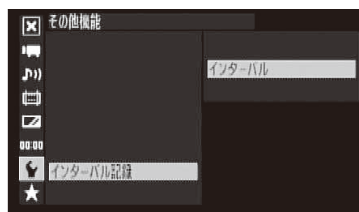
次の4種類の特殊記録を行うことができます。

インターバル記録：	あらかじめ設定した記録間隔とフレーム数で、間欠的に記録を行う。自然や植物など動きの少ない被写体を撮影するときに有効。
フレーム記録：	あらかじめ設定したフレーム数分の映像を記録する。クレイアニメを撮影するときなどに有効。
スロー &ファーストモーション記録：（Slow & Fastモーション）	再生時と異なるフレームレートで記録することにより、再生時にスローモーションやファーストモーションの効果を得る。
プレ記録：	撮影開始時点の約3秒前から記録することで、撮影開始操作が遅れたときの撮り逃がしを防ぐ。

インターバル記録を行う

記録間隔と記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、間欠的に映像を自動記録できます。記録中、音声は記録されません（ミュート）。

設定する

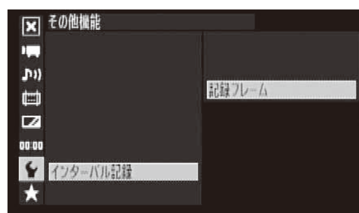


1 記録間隔を設定する

① その他機能メニュー ➤「インターバル記録」➤「インターバル」を順に選ぶ。
② 次のいずれかの時間を選ぶ ➤ SETを押す。

1 ～ 10秒*、15秒、20秒、30秒、40秒、50秒、1 ～ 10分*

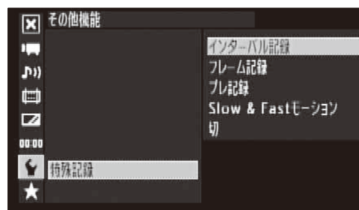
* メニュー上、秒は「sec」、分は「min」と表示する。



2 記録フレーム数を設定する

① その他機能メニュー ➤「インターバル記録」➤「記録フレーム」を順に選ぶ。
② 次のいずれかの記録フレーム数を選ぶ ➤ SETを押す。

記録信号形式のフレームレート	記録フレーム数
59.94i、29.97P、23.98P、24.00P	1、3、6、9
59.94P、50.00i、50.00P、25.00P	2、6、12



3 インターバル記録を有効にする

① その他機能メニュー ➤「特殊記録」を順に選ぶ。
② 「インターバル記録」を選ぶ ➤ SETを押す。
- 画面に「INT STBY」（INTが点滅）が表示され、インターバル記録モードになる。

インターバル記録モードで撮影する



1 START/STOPボタンを押す

- 設定した記録間隔おきに、設定したフレーム数分のフレームが、自動的に記録される。
- タリーランプが点灯し、画面に「●INT REC」が表示される。



2 撮影を停止するとき　もう一度START/STOPボタンを押す

- 撮影が終了する。この間に撮影したフレームは、すべて結合して1つのクリップとして記録される。
- 画面に「INT STBY」（INTが点滅）が表示され、タリーランプは消灯する。
- その他機能メニュー ＞「特殊記録」で、他の特殊記録を選ぶか「切」を選ぶとインターバル記録モードが終了する。

タイムコードについて

カウントアップ方式と歩進

インターバル記録中のタイムコードは、Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）で記録され、記録フレーム数ずつ歩進します。Free Run（フリーラン）またはタイムコード入力している状態でインターバル記録モードにすると、強制的にRec Run（レックラン）に設定され、インターバル記録モードを解除すると、元のカウントアップ方式に戻ります。

タイムコード出力

タイムコードは、TIME CODE端子またはHD/SD SDI端子のいずれからも出力されません。



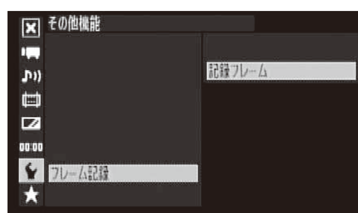
MEMO

- フレーム記録、スロー &ファーストモーション記録、プレ記録と同時に使用することはできません。
- インターバル記録モードで撮影中に、記録間隔やフレーム数を変更することはできません。
- クリップの末尾に、インターバル記録モードを終了したときの映像が記録されることがあります。
- その他機能メニューの「24.00P」、「NTSC/PAL」、「ビットレート/解像度」または「フレームレート」を変更すると、インターバル記録モードは解除されます。

フレーム記録を行う

記録フレーム数をあらかじめ設定して撮影を行うと、設定したフレーム数分の映像を記録します。記録中、音声は記録されません（ミュート）。撮影時は、本体を三脚などに固定してWi-Fi Remoteで操作することをおすすめします。

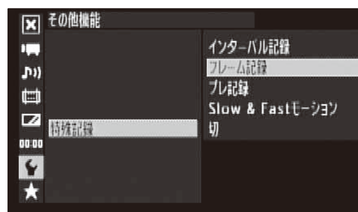
設定する



1 記録フレーム数を設定する

① その他機能メニュー ＞「フレーム記録」＞「記録フレーム」を順に選ぶ。
② 次のいずれかの記録フレーム数を選ぶ ＞ SETを押す。

記録信号形式のフレームレート	記録フレーム数
59.94i、29.97P、23.98P、24.00P	1、3、6、9
59.94P、50.00i、50.00P、25.00P	2、6、12



2 フレーム記録を有効にする

① その他機能メニュー ＞「特殊記録」を順に選ぶ。
② 「フレーム記録」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 画面に「FRM STBY」（FRMが点滅）が表示され、フレーム記録モードになる。

撮影する



1 フレーム記録モードで撮影する

① START/STOPボタンを押す。
- フレーム記録モードになり、画面に「●FRM REC」が表示されてタリーランプが点灯する。
- 設定したフレーム数分のフレームが記録され、画面の表示が「●FRM STBY」に変わる。

② 撮影したいシーンで①の操作を繰り返し行う。



2 撮影を停止するとき　フレーム記録を無効にする

① その他機能メニュー ＞「特殊記録」を順に選ぶ。
② 「切」を選ぶ ＞ SETを押す。
- フレーム記録モードが終了する。この間に撮影したフレームは、すべて結合して1つのクリップとして記録される。
- 画面に「STBY」が表示され、タリーランプは消灯する。



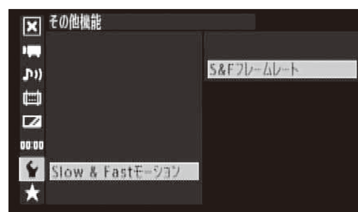
- インターバル記録、スロー &ファーストモーション記録、プレ記録と同時に使用することはできません。
- フレーム記録モードで撮影中に、記録フレーム数を変更することはできません。
- フレーム記録モードで撮影中のタイムコードは、インターバル記録中と同じ扱いです（📖 116）。
- クリップの末尾に、フレーム記録モードを終了したときの映像が記録されることがあります。
- その他機能メニューの「24.00P」、「NTSC/PAL」、「ビットレート/解像度」または「フレームレート」を変更すると、フレーム記録モードは解除されます。

スロー &ファーストモーション記録を行う

プログレッシブ方式の記録信号形式に設定しているときは、再生時のフレームレート*と異なるフレームレート（撮影フレームレート）で記録することができます。再生時のフレームレートより高いフレームレートで撮影し、再生するとスローモーション効果（最低1/2.5倍速）が得られ、再生時のフレームレートより低いフレームレートで撮影し、再生するとファーストモーション効果（最高60倍速）が得られます。なお、記録中、音声は記録されません（ミュート）。

* 記録信号形式で設定しているフレームレート。

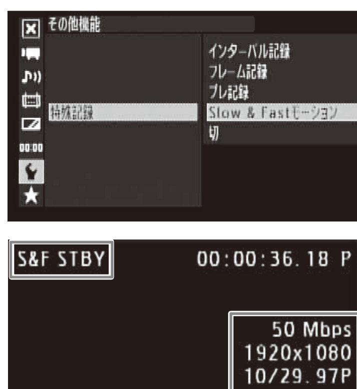
設定する



1 撮影フレームレートを設定する

① その他機能メニュー ➤「Slow & Fastモーション」➤「S&Fフレームレート」を順に選ぶ。
② 次のいずれかの撮影フレームレートを選ぶ ➤ SETを押す。

記録信号形式		撮影フレームレート（1 fps刻み）
24.00P / NTSC / PAL	解像度	
NTSC / 24.00P	1080	1 ～ 30
	720	1 ～ 60
PAL	1080	1 ～ 25
	720	1 ～ 50



2 スロー &ファーストモーション記録を有効にする

① その他機能メニュー ＞「特殊記録」を順に選ぶ。
② 「Slow & Fastモーション」を選ぶ ＞ SETを押す。

- スロー &ファーストモーション記録モードになる。

- 画面に「S&F STBY」と、設定されているフレームレート（撮影フレームレート／再生フレームレート）が表示される。

スロー &ファーストモーション記録モードで撮影する



1 START/STOPボタンを押す

- 設定した撮影フレームレートで記録される。
- 画面に「●S&F REC」が表示され、タリーランプが点灯する。



2 撮影を停止するとき もう一度START/STOPボタンを押す

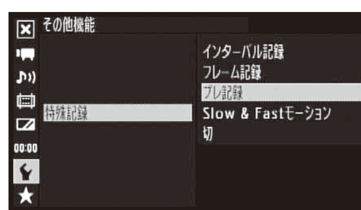
- 撮影が終了し、クリップとして記録される。
- 画面に「S&F STBY」が表示され、タリーランプは消灯する。
- その他機能メニュー ＞「特殊記録」で、他の特殊記録を選ぶか「切」を選ぶとスロー &ファーストモーション記録モードが終了する。



- インターバル記録、フレーム記録、プレ記録、ダブルスロット記録と同時に使用することはできません。
- スロー &ファーストモーション記録モードで撮影中に、撮影フレームレートを変更することはできません。
- スロー &ファーストモーション記録モードで撮影中のタイムコードは、インターバル記録中と同じ扱いです（□ 116）。
- 撮影フレームレートの値が小さいと、記録停止に約1秒程度の時間がかかることがあります。
- その他機能メニューの「24.00P」、「NTSC/PAL」、「ビットレート/解像度」を変更すると、スロー &ファーストモーション記録モードは解除されます。
- その他機能メニュー ＞「ビットレート/解像度」を「50 Mbps 1920x1080」または「50 Mbps 1280x720」に設定しているときは、スローモーション撮影時にCFカードの空き容量がなくなっても、リレー記録されません。

■ プレ記録を行う

プレ記録モードでは、START/STOP（スタート／ストップ）ボタンを押して撮影を開始する約3秒前からの映像と音声を記録することができます。



① その他機能メニュー ➤「特殊記録」を順に選ぶ。
② 「プレ記録」を選ぶ ➤ SETを押す。
● 画面に「PRE REC STBY」が表示され、プレ記録モードになる。
③ START/STOPボタンを押す。
● 撮影が開始される。
● 画面に「●PRE REC」が表示されて、タリーランプが点灯する。
④ 撮影を停止するとき もう一度START/STOPボタンを押して、撮影を行う。
● 撮影開始約3秒前からの映像が記録される。
● 画面に「PRE REC STBY」が表示され、タリーランプは消灯する。



プレ記録のタイムコードについて

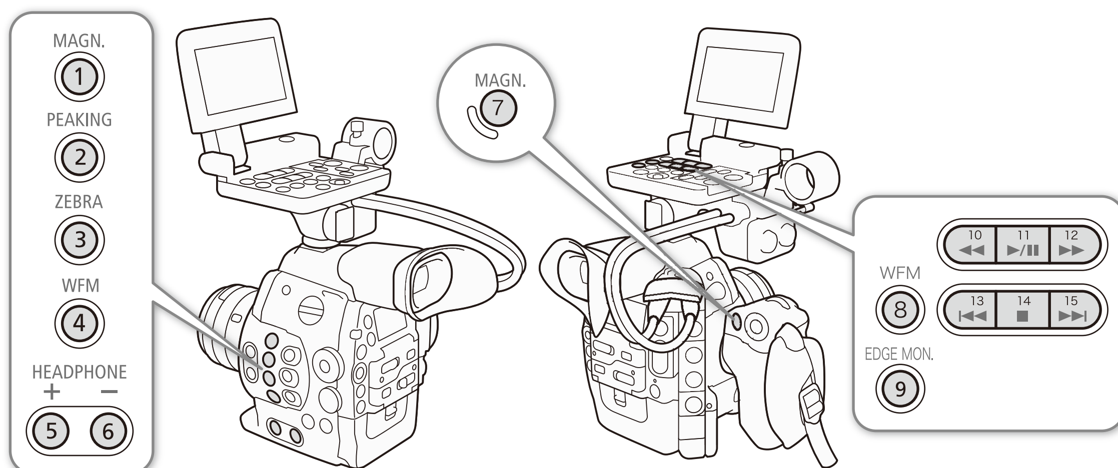
プレ記録中のタイムコードは、Free Run（フリーラン）または外部入力タイムコードで記録されます。タイムコードの記録は、撮影開始操作の約3秒前から行われます。Rec Run（レックラン）またはRegen.（リジェネ）に設定しているときにプレ記録モードにすると、強制的にFree Run（フリーラン）に設定されるか、または外部のタイムコードにロックしているときは、外部入力タイムコードになります。プレRecを解除すると、元のカウントアップ方式に戻ります。

- スロー &ファーストモーション記録、インターバル記録、フレーム記録と同時に使用することはできません。
- その他機能メニューの「24.00P」、「NTSC/PAL」、「ビットレート/解像度」または「フレームレート」を変更すると、プレ記録モードは解除されます。

カスタマイズ

アサインボタンの機能を変更する CAMERA MEDIA

本機には15個のアサインボタンがありますので、使用頻度の高い機能を割り当てて、より使いやすくカスタマイズすることができます。なお、モニターユニットやグリップの装着状況によって、使用できるアサインボタンが異なります。



アサインボタンの番号とボタン名、初期設定は次のとおりです。No.10 ～ No.15のアサインボタンはカメラモードのときのみ使用できます。

アサインボタンNo.	ボタン名	初期設定	アサインボタンNo.	ボタン名	初期設定
1	MAGN.	Magnification	9	EDGE MON.	Edge Monitor
2	PEAKING	Peaking	10	◀◀	（未設定）
3	ZEBRA	Zebra	11	▶/❚❚	（未設定）
4	WFM	WFM (LCD)	12	▶▶	（未設定）
5	HEADPHONE +	Headphone +	13	❙◀◀	（未設定）
6	HEADPHONE −	Headphone −	14	■	（未設定）
7	MAGN.	Magnification	15	▶▶❙	（未設定）
8	WFM	WFM (LCD)			

アサインボタンには次の機能を割り当てることができ、カメラモードとメディアモードでそれぞれ個別に設定できます。使用可能な機能は、下表のようにモードによって異なります。

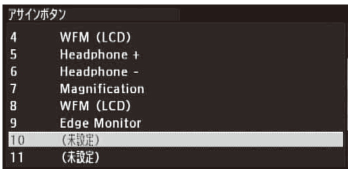
機能名	内容	CAMERA	MEDIA
Peaking	ピーキングの入／切を切り換える。	●	
Zebra	ゼブラパターン表示の入／切を切り換える。	●	
WFM (LCD)	モニター表示を切り換える。押すたびに、波形モニター → ベクトルスコープ → OFFが切り換わる。	●	●

機能名	内容	CAMERA	MEDIA
Edge Monitor	エッジモニターの入／切を切り換える。	●	
Magnification	拡大表示の入／切を切り換える。	●	
カラーバー	カラーバーの入／切を切り換える。	●	
マーカー	マーカーの入／切を切り換える。	●	
LCD設定	LCD設定メニューを表示する。	●	●
VF設定	VF設定メニューを表示する。	●	●
LCD/VFモノクロ	画面のモノクロ表示の入／切を切り換える。	●	●
オンスクリーン表示	端子からの出力映像に画面表示を重畳する／しないを切り換える。切り換えは、HD出力とSD出力を同時に行う。	●	●
Shot Mark 1追加*	ショットマーク1を付加する。	●	●
Shot Mark 2追加*	ショットマーク2を付加する。	●	●
OK Mark追加	OKマークを付加する。	●	●
☑ Mark追加	チェックマークを付加する。	●	●
Time Code	タイムコードメニューを表示する。	●	
Time Codeホールド *	画面に表示されるタイムコード値を保持／保持解除を切り換える。	●	●
Headphone +	ヘッドホンの音量を大きくする。	●	●
Headphone −	ヘッドホンの音量を小さくする。	●	●
Audio Output CH	🎧（ヘッドホン）端子から出力される音声のチャンネルを切り換える。押すたびに出力チャンネルが切り換わる。	●	●
Audio Level	オーディオレベルメーター表示の入／切を切り換える。	●	●
Photo *	静止画を記録する。	●	●
FUNC.	FUNC.ボタンの機能を割り当てる。	●	
FUNC. Shutter	カメラダイレクト設定のシャッタースピード設定に切り換える。	●	
FUNC. ISO/Gain	カメラダイレクト設定のISO感度／ゲイン設定に切り換える。	●	
FUNC. WB	カメラダイレクト設定のホワイトバランス設定に切り換える。	●	
マイメニュー	マイメニューを表示する。	●	
Media初期化	Media初期化メニューを表示する。	●	●
ユーザー設定*	任意のメニュー項目を表示する。	●	●

* アサインボタンのみの機能

機能を変更する

例：アサインボタン10に「Shot Mark 1追加」を割り当てる場合



① その他機能メニュー ＞「アサインボタン」＞「10」を順に選ぶ。
②「Shot Mark 1追加」を選ぶ ＞ SETを押す。

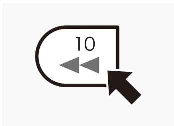
「ユーザー設定」を選んだとき

- メニューが青色に変わり、割り当てるメニュー項目を選ぶ画面になる。

ジョイスティックで任意のメニュー項目を選ぶ ＞ SETを押す。

- 「ユーザー設定」が選んだメニュー項目の名称（先頭に★が付く）に変わる。

アサインボタンに割り当てた機能を使う



必要なときに、機能を割り当てたアサインボタンを押して使用します。アサインボタンを押すと、画面に機能の詳細項目を選ぶメニューが表示されることがあります。そのときは、ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して項目を選び、SETを押します。



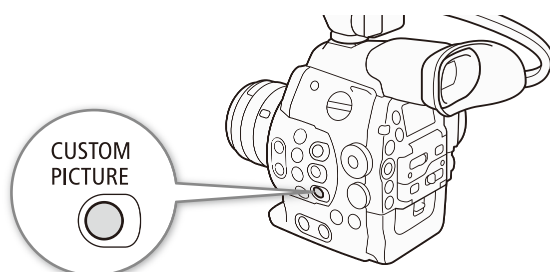
- アサインボタンに割り当てられた機能は、ステータス画面で確認できます（198）。
- その他機能メニュー ＞「リセット」＞「アサインボタン」で、アサインボタンの割り当てを初期状態に戻すことができます（189）

カスタムピクチャーを使用する

CAMERA MEDIA

撮影条件に合わせる、意図的に効果をつけるなど画質を調整するためのさまざまな設定を行うことができます。調整した設定値はカスタムピクチャーファイルとして本機やSDカードに保存し、必要に応じて再利用できます。また、カスタムピクチャーを設定して撮影すると、カスタムピクチャーファイルをクリップと一緒にCFカードに保存したり、静止画と一緒にSDカードに保存したりすることができます*。カスタムピクチャーファイルを本機とSDカードまたはCFカードとの間で相互にコピーすることもできます。カスタムピクチャーの操作は、CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押すと表示される「CPメニュー」で行います。CPメニューの操作のしかたは、通常のメニュー（📖 28）の操作と同様です。なお、カメラ設定メニュー ＞「CP CINEMA固定」が「入」の場合、カスタムピクチャーは使用できません。撮影した映像は、CINEMAプリセットの設定で記録されます。

* クリップや静止画と一緒に保存しないようにすることもできます（📖 130）。



CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタン
押すとCP（カスタムピクチャー）メニューが表示される。もう一度押すと消える。

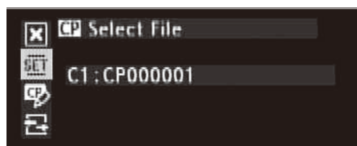
機能分類	機能	設定項目	📖
光の階調に関わるグループ	ガンマ	Gamma	131
	ブラックガンマ	Black Gamma	132
	マスターペデスタル	Black – Master Pedestal	131
	マスターブラック	Black – Master Black	131
	ニー	Knee	132
	セットアップ	Other Functions – Setup Level	135
	100%クリップ	Other Functions – Clip At 100%	135
輪郭やノイズに関わるグループ	シャープネスレベル	Sharpness – Level	133
	シャープネス水平帯域	Sharpness – H Detail Freq.	133
	シャープネスHVバランス	Sharpness – HV Detail Bal.	133
	シャープネスリミット	Sharpness – Limit	133
	シャープネスセレクト	Sharpness – Select	133
	ニーアパーチャー	Sharpness – Knee Aperture	133
	輝度適応シャープネス	Sharpness – Level Depend	133
	コアリングレベル	Sharpness – Coring – Level	133
	輝度適応コアリング	Sharpness – Coring – D-Ofst / D-Curve / D-Depth	133
	ノイズリダクション	Noise Reduction	134
	スキンディテール	Skin Detail	134
	セレクティブNR	Selective NR	134

機能分類	機能	設定項目	
色の方向性、強さ、変換に関するグループ	ローキーサチュレーション	Low Key Satur.	132
	ニーサチュレーション	Knee － Saturation	132
	カラーマトリックス	Color Matrix	134
	カラーゲイン	Color Matrix －Gain	134
	色相	Color Matrix － Phase	134
	ホワイトバランス	White Balance	135
	カラーコレクション	Color Correction	135


MEMO　SDカードまたはCFカードに保存したカスタムピクチャーファイルは、C300 / C300 PLのみで使用可能です。

カスタムピクチャーファイルを登録する

撮影時に良く使う画質調整設定をカスタムピクチャーファイルとして登録しておくと、次に使用するときに、リストから選ぶだけで同じ設定を簡単に再現できます。カスタムピクチャーファイルは、本機に9セット（C1 ～ C9）、SDカードに20セット（SD1 ～ SD20）保存できます。





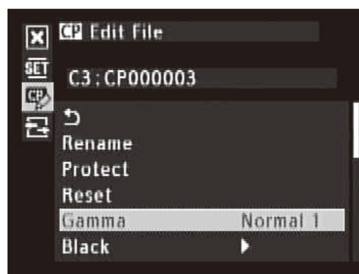
1 登録するカスタムピクチャーファイルを選ぶ

例：「C3 : CP000003」を選ぶ場合

① CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押す。
- CPメニューが表示され、さらに現在選択されているカスタムピクチャーファイル名が表示される。

② カーソルを上下に移動させて SET（Select File）を選ぶ ➤ SETを押す。
- 本機とSDカードに保存されているカスタムピクチャーファイルを選択できる。

③「C3 : CP000003」を選ぶ ➤ SETを押す。





2 画質調整の設定を行う

参考 ▸▸「カスタムピクチャーの設定項目」（📖 130）

例：Gammaを「Canon Log」に設定する場合

① (Edit File) ＞「Gamma」を順に選ぶ。
② 「Canon Log」を選ぶ ＞ SETを押す。

設定を初期設定に戻すとき

❶「Reset」を選ぶ ＞ SETを押す。
❷「NEUTRAL」、「EOS Std.」、「CINEMA」のいずれかを選ぶ ＞SETを押す。
❸「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。

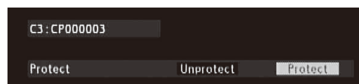


3 カスタムピクチャーファイルの名前を設定する

① 「Rename」を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● Rename（名前変更）画面が表示され、一番左の文字の背景がオレンジ色になる。
② ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して文字を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● 文字は、英数字、記号が使用できる。
③ ②の操作を繰り返して、すべての文字を設定する ＞「Set」を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● カスタムピクチャーファイルの名前が決定される。
④ CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押す。
  ● CPメニューが消え、画面に選んだカスタムピクチャーファイルの番号（CP3）が表示される

カスタムピクチャーファイルをプロテクトする

必要に応じて、カスタムピクチャーファイルをプロテクトすることができます。



① CPメニュー ＞ SET（Select File）＞ プロテクトするカスタムピクチャーファイルを順に選ぶ。
② CPメニュー ＞ (Edit File) ＞「Protect」を順に選ぶ。
③ 「Protect」を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● CPメニュー上のカスタムピクチャーファイル名に🔑が表示される。

カスタマイズ

プリセットされたカスタムピクチャーについて

初期状態では、C8 ／ C9にシーン設定値がプリセットされています。これらのカスタムピクチャーファイルは、プロテクトされているため、変更するときはプロテクトを解除する必要があります。

	用途
C8 : CINEMA	ガンマとカラーマトリックスをCanon Logにすることにより、ダイナミックレンジが広く、ポストプロダクション処理に適した色調の映像を記録する。
C9 : EOS Std.	デジタル一眼レフカメラEOSでピクチャースタイル「スタンダード」を選択した場合の画質を再現する設定。

撮影に使用するカスタムピクチャーファイルを選ぶ

カスタムピクチャーファイルを登録しておくと、リストから選ぶだけで希望の画質に調整することができます。



① CPメニュー ＞ SET (Select File)を選ぶ。
- 本機とSDカードに保存されているカスタムピクチャーファイルが表示される。

② いずれかのカスタムピクチャーファイルを選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだカスタムピクチャーファイルに登録されている設定に調整される。

カスタムピクチャーを使用しないとき 「Off」を選ぶ ＞ SETを押す。

③ CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押して、CPメニューを閉じる。

カスタムピクチャーファイルをコピーする

カスタムピクチャーファイルを本機とSDカードとの間で相互にコピーすることができます。コピーの方法は、現在選んでいるカスタムピクチャーファイルが本機かSDカードかによって異なります。

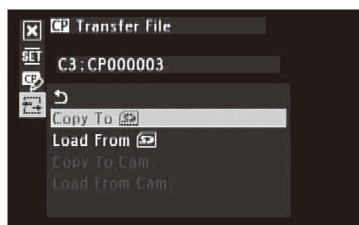
Copy To SD： 現在のカスタムピクチャーファイル（本機）をSDカードにコピーする。新規に追加するか、既存のカスタムピクチャーファイルを上書きするかを選ぶことができる。

Load From SD： 現在のカスタムピクチャーファイル（本機）をSDカードのカスタムピクチャーファイルで上書きする。

Copy To Cam.： 現在のカスタムピクチャーファイル（SDカード）を本機にコピーする。コピー先として選んだ既存のカスタムピクチャーファイルで上書きされる。

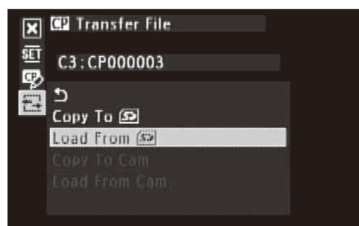
Load From Cam.： 現在のカスタムピクチャーファイル（SDカード）を本機のカスタムピクチャーファイルで上書きする。

現在のカスタムピクチャーファイル（本機）をSDカードにコピーする



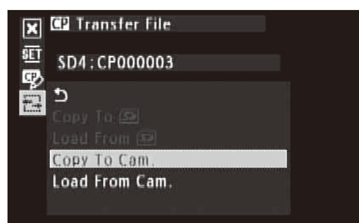
① CPメニュー ＞ SET（Select File）＞ 本機内のいずれかのカスタムピクチャーファイルを順に選ぶ。
② （Transfer File）＞「Copy To 」を順に選ぶ。
③ SDカード内のコピー先となるカスタムピクチャーファイルまたは「New File」*を選ぶ ＞ SETを押す。
  * SDカード内のカスタムピクチャーファイルが20セット未満のときは、「New File」が表示される。
④「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● 現在のカスタムピクチャーファイル（本機）がSDカードにコピーされる。
  ●「New File」を選んだときは、自動的に最後に追加される。
⑤ SETを押す。
⑥ CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押して、CPメニューを閉じる。

現在のカスタムピクチャーファイル（本機）をSDカードのカスタムピクチャーファイルで置き換える



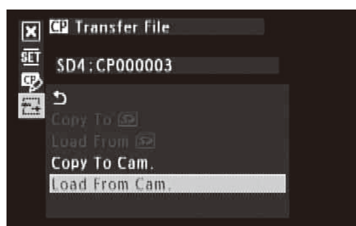
① CPメニュー ＞ SET（Select File）＞ 本機内のいずれかのカスタムピクチャーファイルを順に選ぶ。
② （Transfer File）＞「Load From 」を順に選ぶ。
③ SDカード内のコピー元となるカスタムピクチャーファイルを選ぶ ＞ SETを押す。
④「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● 現在のカスタムピクチャーファイルが置き換わる。
⑤ SETを押す。
⑥ CUSTOM PICTURE.（カスタムピクチャー）ボタンを押して、CPメニューを閉じる。

現在のカスタムピクチャーファイル（SDカード）を本機にコピーする



① CPメニュー ＞ SET（Select File）＞ SDカード内のいずれかのカスタムピクチャーファイルを順に選ぶ。
② （Transfer File）＞「Copy To Cam.」を順に選ぶ。
③ 本機内のコピー先となるカスタムピクチャーファイルを選ぶ ＞ SETを押す。
④「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
  ● 現在のカスタムピクチャーファイル（SDカード）が本機にコピーされる。
⑤ SETを押す。
⑥ CUSTOM PICTUREカスタムピクチャー）ボタンを押して、CPメニューを閉じる。

現在のカスタムピクチャーファイル（SDカード）を本機のカスタムピクチャーファイルで置き換える



① CPメニュー ＞ SET（Select File）＞ SDカード内のいずれかのカスタムピクチャーファイルを順に選ぶ。
② （Transfer File）＞「Load From Cam.」を順に選ぶ。
③ 本機内のコピー元となるカスタムピクチャーファイルを選ぶ ＞ SETを押す。
④「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
● 現在のカスタムピクチャーファイルが置き換わる。
⑤ SETを押す。
⑥ CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押して、CPメニューを閉じる。


MEMO

記録したクリップと一緒に保存されているカスタムピクチャーファイルを、本機にコピーすることもできます（152）。

カスタムピクチャーファイルをクリップ／静止画と一緒に保存する

調整を行った画質設定で撮影すると、カスタムピクチャーファイルがクリップや静止画と一緒に保存されます。クリップや静止画と一緒に保存したカスタムピクチャーファイルは、本機にコピーして再利用することができます（152、179）。画質設定の内容をあらわす静止画とカスタムピクチャーファイルを一緒に保存すれば、カスタムピクチャーファイルの管理に役立ちます。カスタムピクチャーファイルをクリップや静止画と一緒に保存しないようにすることもできます。



① その他機能メニュー ＞「CP ファイル付加」を順に選ぶ。
②「クリップへ」または「静止画へ」を選ぶ ＞ SETを押す。
クリップへ：クリップ記録時のカスタムピクチャーファイル保存を入／切する。
静止画へ：静止画記録時のカスタムピクチャーファイル保存を入／切する。
③「入」または「切」を選ぶ ＞ SETを押す。

カスタムピクチャーの設定項目

カスタムピクチャーで設定できる項目について説明します。初期設定は太字*で記載しています。

* カスタムピクチャーファイルの選択（CPメニュー ＞ Select File）で「Off」を選んだときも太字の内容に設定されます。

設定項目	詳細項目	設定値	内容
Rename	カスタムピクチャーファイル名		カスタムピクチャーファイルの名前を英数字8文字で設定する。

設定項目	詳細項目	設定値	内容
Protect	—	Protect、 Unprotect	現在のカスタムピクチャーファイルをプロテクトする。
Reset	—	**NEUTRAL**、 CINEMA、 EOS Std.	現在のカスタムピクチャーファイルの設定を、初期設定に戻す。 NEUTRAL：標準的な初期設定に戻す。 CINEMA：　CINEMAプリセットの初期設定に戻す。 EOS Std.：　EOS Std.プリセットの初期設定に戻す。
Gamma（ガンマ） ガンマカーブを選択する	—	**Normal 1**、 Normal 2、 Normal 3、 Normal 4、 Cine 1、 Cine 2、 Canon Log、 EOS Std.	画面全体のテイストを決めるガンマカーブを8種類から選択する。Normal 1 ～ Normal 4は、TVモニターで見ることを前提にしたガンマ。Normal 2は、Normal 1に対して高輝度部をより明るく撮影でき、Normal 3（ITU-R BT.709）とNormal 4は、順にNormal 2に対して低輝度部の黒の階調をより表現できる。Cine 1は、映画に近い質感や階調が得られるようなガンマ。Cine 2は、Cine 1に対してさらにソフトなコントラストで、映画表現に適したガンマ。Canon Logは、ダイナミックレンジを広くとったガンマでポストプロダクション処理が前提となる（📖 136）。EOS Std.は、デジタル一眼レフカメラEOSでピクチャースタイル「スタンダード」を選択した場合のガンマで、Normal1に比べてコントラストが高い。
Black（ブラック） 黒のレベル、黒の色かぶりを調整する	Master Pedestal	±50（**±0**）	黒のレベルを調整する。値を高くするほど画像の暗い部分が明るくなり、コントラストが弱くなる。マイナスの値にすると、黒が沈む。
	Master Black Red Green Blue	 ±50（**±0**） ±50（**±0**） ±50（**±0**）	黒の色かぶりをRGB個別に補正する。

設定項目	詳細項目	設定値	内容
Black Gamma （ブラックガンマ） 低輝度部のガンマを補正する ※ Gammaで「Canon Log」を選択時は無効。	Level	±50（**±0**）	低輝度部のガンマを補正する。Level（基準ガンマからの高さ）、Range（幅）、Point（頂点の位置）の調整があり、各設定値を変えることで、図の範囲内で黒側のガンマカーブを調整する。 Black Gamma 出力 / 入力 / POINT
	Range	−5 ～ 50（**±0**）	
	Point	−1 ～ 50（**±0**）	
Low Key Satur. （ローキーサチュレーション）	Enable	On、**Off**	Onにすると、低輝度領域で色の濃い／薄いを調整できる。
	Level	±50（**±0**）	EnableがOnのとき、低輝度領域の色の濃さ・薄さを設定する。
Knee（ニー） ニー（高輝度部に圧縮をかける機能）を調整する ※ Gammaで「Cine 1」／「Cine 2」／「Canon Log」／「EOS Std.」を選択時は無効。	Enable	**On**、Off	高輝度部分に圧縮をかけて、とびの発生を抑える。ニーのかけかたは、Slope（ニーの傾き）、Point（ニーポイント）、Saturation（ニーポイントより上の高輝度部における色の濃さ・薄さ）の各設定値で調整する。
	Slope	−35 ～ 50（**±0**）	
	Point	50 ～ 109（**95**）	
	Saturation	±10（**±0**）	
	Knee Slope 出力 / 入力		Knee Point 出力 / 入力

設定項目	詳細項目	設定値	内容
Sharpness（シャープネス） 出力信号、記録信号の輪郭強調を設定する	Level	－10 ～ 50（±**0**）	輪郭強調のレベルを調整する。
	H Detail Freq.	±8（±**0**）	水平の輪郭強調の中心周波数を設定する。値を大きくするほど周波数が高くなり、輪郭強調は細くなる。
	Coring Level D-Ofst D-Curve D-Depth	 －30 ～ 50（±**0**） **0** ～ 50 **0** ～ 8 ±4（±**0**）	輪郭強調によって発生するノイズ成分を低減する（コアリング）。Level（コアリングのレベル）を大きくすると、微小な輪郭が強調されなくなり、ノイズを低減できる。また、輝度に応じてコアリングのレベルを変えることもできる（輝度適応コアリング）。最低輝度のコアリングレベルをD-Ofst（レベルディペンド-オフセット）で、LevelからD-Ofstまでの変化のしかたをD-Curve（レベルディペンド-カーブ）で設定する。D-Depth（レベルディペンドデプス）は倍率で、D-Ofstに掛け合わせることで輝度適応コアリングのレベルが決定される。D-Depthをプラスにすると、低輝度部のコアリングレベルが上がり、マイナスにすると低輝度部のコアリングレベルが下がる。
	HV Detail Bal.	±8（±**0**）	輪郭強調の水平成分と垂直成分の比率を調整する。値を大きくすると垂直成分が大きくなり、値を小さくすると水平成分が大きくなる。
	Limit	±50（±**0**）	輪郭強調の大きさを制限するレベルを調整する。
	Select	**0** ～ 15	Levelで設定した通常の輪郭強調に加えて、より高い周波数成分を含む輪郭強調をかけるときに設定する。数値が大きくなるほど高い周波数成分を含む輪郭強調のレベルが強くなる。通常の輪郭強調では鮮明になりにくい被写体に使用する。記録信号形式が720Pのときは無効。
	Knee Aperture Gain Slope	 **0** ～ 9 0 ～ 3（**1**）	ニーポイントより輝度が高い領域だけに輪郭強調をかける。Gainは輪郭強調の強さを、Slopeは輪郭強調の傾きを0（なし）、1（急）～ 3（なだらか）の4段階で設定する。Gammaで「Cine 1」／「Cine 2」／「Canon Log」／「EOS Std.」を選択時は無効。
	Level Depend Level Slope Offset	 **0** ～ 50 **0** ～ 3 **0** ～ 50	低輝度部分の輪郭強調を弱める。Levelは処理対象の低輝度部分の輝度を設定する。Slopeは低輝度と高輝度部との間の傾きを0（なし）、1（急）～ 3（なだらか）の4段階で設定する。Offsetは低輝度部の輪郭強調のレベルを設定し、値を大きくするほど低輝度部の輪郭強調が弱められる。

設定項目	詳細項目	設定値	内容
Noise Reduction （ノイズリダクション） 一般的なノイズを低減する回路の設定を変更する	—	**Off**、 1 ～ 12	ノイズを低減するノイズフィルターを選択する。数値が大きくなるほど、ノイズ低減効果が大きくなる。
Skin Detail （スキンディテール） 肌色部分のノイズを低減して肌を美しく撮影するための設定を行う	Effect Level	**Off**、Low、Middle、High	肌色を検出して、きれいな肌を演出するためのフィルターを調整する。調整のレベルは、3段階で設定でき、Highがもっとも強く調整される。
	Hue	±16（**±0**）	検出する肌色の設定は、Hue（色相）、Chroma（彩度）、Area（色相の幅）、Y Level（輝度レベル）をそれぞれ調整する。調整中、設定した肌色部分を検出すると、液晶画面またはファインダー上にゼブラパターンで表示する。
	Chroma	0 ～ 31（**16**）	
	Area	0 ～ 31（**16**）	
	Y Level	0 ～ 31（**16**）	
Selective NR （セレクティブNR） 特定の色域を検出してノイズを低減する設定を行う	Effect Level	**Off**、Low、Middle、High	特定の色を検出して、その色の範囲を美しく演出するためのフィルターを調整する。調整のレベルは、3段階で設定でき、Highがもっとも強く調整される。
	Hue	0 ～ 31（**0**）	検出する色の設定は、Hue（色相）、Chroma（彩度）、Area（色相の幅）、Y Level（輝度レベル）をそれぞれ調整する。調整中、設定した色部分を検出すると、液晶画面またはファインダー上にゼブラパターンで表示する。
	Chroma	0 ～ 31（**16**）	
	Area	0 ～ 31（**16**）	
	Y Level	0 ～ 31（**16**）	
Color Matrix （カラーマトリックス） 映像の色調を調整する	Select	**Normal 1**、Normal 2、Normal 3、Normal 4、Cine 1、Cine 2、Canon Log、EOS Std.	色調をNormal 1 ～ 4、Cine 1 ～ 2、Canon Log、EOS Std.の8種類から選択する（通常はGammaと同じ設定にする）。選択した色調をより細かく調整するために、カラーゲイン、色相、マトリクスを設定できる。
	Gain	±50（**±0**）	色の濃さを調整する。
	Phase	±18（**±0**）	色相を調整する。
	R-G	±50（**±0**）	シアンからグリーン、レッドからマゼンタの色調を調整する。
	R-B	±50（**±0**）	シアンからブルー、レッドからイエローの色調を調整する。
	G-R	±50（**±0**）	マゼンタからレッド、グリーンからシアンの色調を調整する。
	G-B	±50（**±0**）	マゼンタからブルー、グリーンからイエローの色調を調整する。
	B-R	±50（**±0**）	イエローからレッド、ブルーからシアンの色調を調整する。
	B-G	±50（**±0**）	イエローからグリーン、ブルーからマゼンタの色調を調整する。

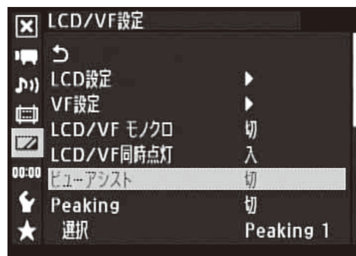
設定項目	詳細項目	設定値	内容
White Balance （ホワイトバランス） ホワイトバランスのシフト量を調整する	R Gain	±50（**±0**）	赤色の濃淡を調整する。
	G Gain	±50（**±0**）	緑色の濃淡を調整する。
	B Gain	±50（**±0**）	青色の濃淡を調整する。
Color Correction （カラーコレクション） 特定の範囲の色調を補正する	Select Area	**Off**、 Area A、 Area B、 Area A&B	補正する色の範囲をAエリアとBエリアの2種類設定できる。補正は、「Aエリアのみ」、「Bエリアのみ」、「Aエリア／Bエリア両方」を選択できる。
	Area A Setting Phase Chroma Area Y Level	 **0**～31 0～31（**16**） 0～31（**16**） 0～31（**16**）	補正する色の範囲（Aエリア）を設定する。Phase（色相）、Chroma（彩度）、Area（色相の幅）、Y Level（輝度レベル）をそれぞれ設定する。
	Area A Revision Level Phase	 ±50（**±0**） ±18（**±0**）	Aエリアの色の補正量を設定する。Levelは色の濃さ、Phaseは色相の補正量を設定する。
	Area B Setting Phase Chroma Area Y Level	 **0**～31 0～31（**16**） 0～31（**16**） 0～31（**16**）	補正する色の範囲（Bエリア）を設定する。Phase（色相）、Chroma（彩度）、Area（色相の幅）、Y Level（輝度レベル）をそれぞれ設定する。
	Area B Revision Level Phase	 ±50（**±0**） ±18（**±0**）	Bエリアの色の補正量を設定する。Levelは色の濃さ、Phaseは色相の補正量を設定する。
Other Functions（その他） 上記のカテゴリーに属さないものを調整する	Setup Level Level Press	 ±50（**±0**） On、**Off**	BlackのMaster Pedestalで設定した黒レベルに付加するセットアップを設定する。Levelはセットアップの調整量を設定する。Pressは、セットアップを付加することによって映像信号が100%を超えないように全体を圧縮する。
	Clip At 100%	On、**Off**	Onにすると、映像出力が100%を超えるときに白レベルを100%でクリップする。

Canon Logガンマを使う

Canon Logは、撮像素子の特性を十分に引き出して広いダイナミックレンジを確保したポストプロダクション処理を行うためのガンマです。Canon Logで撮影したクリップは、LUT（ルックアップテーブル）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。最新のLUTデータについては、キヤノンのホームページでご確認ください。

Canon Log使用時の映像を画面で確認する（ビューアシスト）

Canon Logを使用すると、画面に表示される映像が全体的に暗くなります。ビューアシストを使用すると、撮影現場で画角やディテールを確認するときなどに、画面表示を通常のガンマに近い表示にすることができます。ビューアシストは、各出力端子から出力される映像や、記録される映像には影響しません。



① LCD/VF設定 ＞「ビューアシスト」を順に選ぶ。
② 「入」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 画面に V.Assist. が表示される。

機能や表示をカスタマイズする CAMERA MEDIA

カメラモードで使用する機能をカスタマイズする「カスタムファンクション」と、撮影中の画面の表示項目をカスタマイズする「カスタムディスプレイ」とがあります。撮影スタイルや目的に合わせて、より使いやすいように設定することができます。設定した内容は、他のメニュー設定とともに設定データとしてSDカードに保存したり、SDカードから読み出して再利用したりすることができます（📖 138）。設定のしかたは通常のメニュー操作と同じです。

カスタムファンクションで設定できる項目

設定内容の詳細は、メニュー一覧のその他機能メニュー ➤「Custom Function」（📖 194）をご覧ください。

設定項目	内容
ショックレスWB	ホワイトバランスを切り換えたときに値をなめらかに変化させる。
電子ダイヤル	電子ダイヤルに割り当てる機能を選択する。
電子ダイヤル方向	電子ダイヤル（本体）の操作方向を設定する。
グリップ電子ダイヤル方向	電子ダイヤル（グリップ）の操作方向を設定する。
SELECTダイヤル方向	SELECTダイヤルの操作方向を設定する。
フォーカスアシストB&W	フォーカスを調整時、ピーキング（PEAKING）または拡大表示（MAGN.）を使うときに、画面を自動的にモノクロにするかどうかを設定する。
スキャンリバース記録	記録する映像を上下左右、上下、左右のいずれかに反転させるかどうかを設定する。
表示文字記録	画面上に表示させている文字やアイコンなどを映像と一緒に記録（表示文字記録）するかどうかを設定する。

カスタムディスプレイで設定できる項目

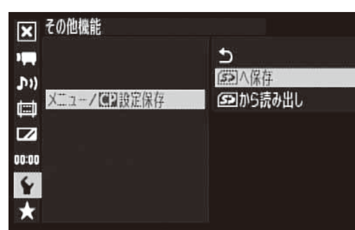
カスタマイズ可能な表示項目については、「撮影時の画面表示」（📖 60）を、設定内容の詳細は、LCD/VF設定メニュー ➤「Custom Display 1」または「Custom Display 2」（📖 187）をご覧ください。

設定データの保存と読み出し CAMERA MEDIA

メニューやカスタムピクチャーで行った各種の設定情報を設定データとしてSDカードに保存することができます。設定データは、必要に応じて本機に読み出して再利用できます。複数のカメラ（C300またはC300PL）を同じ設定にするときに便利です。

設定データをSDカードに保存する

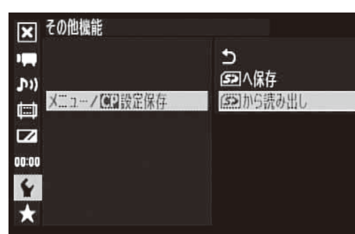
メニュー設定やカスタムピクチャーを設定データとしてSDカードに保存します。



① その他機能メニュー ＞「メニュー/CP設定保存」＞「SDへ保存」を順に選ぶ。
② 「メニュー」または「メニュー＋CP」を選ぶ ＞ SETを押す。
　メニュー：　メニュー設定のみ。
　メニュー＋CP：　メニュー設定とカスタムピクチャー（本機に保存されている9セット）。
③ 「OK」を選び、SETを押す。
　● 現在のメニュー設定やカスタムピクチャーが、設定データとしてSDカードに保存される。
④ SETを押す。

設定データをSDカードから読み込む

SDカードに保存されている設定データを読み込んで本機に設定します。



① その他機能メニュー ＞「メニュー/CP設定保存」＞「SDから読み出し」を順に選ぶ。
② 「メニュー」または「メニュー＋CP」を選ぶ ＞ SETを押す。
　メニュー：　メニュー設定のみ。
　メニュー＋CP：　メニュー設定とカスタムピクチャー。
③ 「OK」を選び、SETを押す。
　● メニュー設定やカスタムピクチャーが、SDカードから読み込んだ設定データの内容に設定される。
　● 設定データが本機に読み込まれたあと、画面が一度消え、本機が再起動する（メニューは消える）。

設定データの内容を確認する

設定データには、メニューやカスタムピクチャーの設定内容を記述したテキストファイルが含まれます。設定データを保存したSDカードを、パソコンに接続したカードリーダー（市販）などに入れて、「￥PRIVATE ￥CAMSET ￥CAMSET3.TXT」を開くと、設定内容を確認することができます。


MEMO

● 設定データをSDカードから読み込むとき、本機にプロテクトされたカスタムピクチャーファイルがあっても、上書きされます。
● その他機能メニュー ＞「Wi-Fi Remote」で設定した項目のうち、無線ネットワーク設定No.1～No.5の「暗号化キー」と「カメラ設定」の「Password」は保存されません。
● XF100 / XF105 / XF300 / XF305の設定データを本機に読み込むことはできません。

5

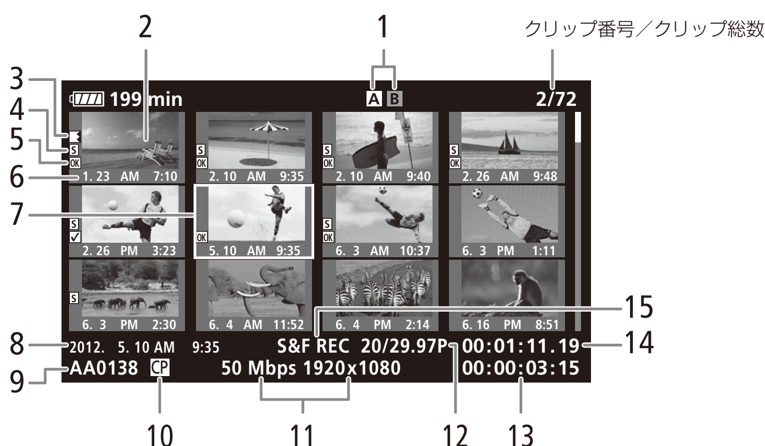
再　生

クリップを再生する CAMERA MEDIA

ここでは、撮影した映像（クリップ）の再生について説明します。外部のモニターに接続して再生するときは、「接続」（ 157）をご覧ください。

インデックス画面

POWER（電源）スイッチをMEDIAにする（ 26）と本機がメディアモードで起動し、CFカードに記録されているクリップのサムネイル（縮小画）がインデックス画面に表示されます（オリジナルインデックス画面）。



8 ～ 15には、選択しているクリップの情報が表示されます。

1 現在選択しているCFカード（ハイライト表示）

2 クリップのサムネイル
- サムネイルとしてクリップの代表画が表示される。代表画は変更することもできる（ 156）。

3 リレー記録マーク
- 記録中にメディアが切り換わった場合、切り換わり前後のクリップに表示される。

4 ショットマーク
- ショットマーク1またはショットマーク2が付加されているときに表示される。

5 OKマーク／チェックマーク
- OKマークまたはチェックマークが付加されているときに表示される。

6 収録日（月日）と記録開始時間

7 カーソル（オレンジ色の枠）

8 収録日（年月日）と記録開始時間

9 クリップ名

10 カスタムピクチャー
- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されているときのみ表示される。

11 ビットレートと解像度

12 フレームレート

13 記録時間

14 代表画のタイムコード

15 特殊撮影情報
- 特殊撮影（インターバル記録、フレーム記録、スロー＆ファーストモーション記録、プレ記録）で記録されたクリップのときに、そのモード名が表示される。
- スロー＆ファーストモーション記録で記録されたクリップのときは、「撮影フレームレート／再生フレームレート」が表示される。

CFカードを切り換える

両方のCFカードスロットにCFカードを入れているときは、SLOT SELECT(スロット選択)ボタンを押して、再生するCFカードを切り換えることができます(📖 51)。

インデックス画面を切り換える

インデックス画面に表示する内容を選んで、インデックス画面を切り換えることができます。次の3種類のインデックス画面に切り換えることができます。

OK Mark Index(OKマークインデックス画面):
選択中のCFカードに記録されているクリップのうち、OKマークが付加されたクリップのみを表示する。

☑ Mark Index(チェックマークインデックス画面):
選択中のCFカードに記録されているクリップのうち、チェックマークが付加されたクリップのみを表示する。

Photo Index(静止画インデックス画面):
選択中のSDカードに記録されている静止画のみを表示する。





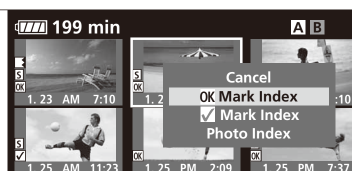
1 本体またはモニターユニットのINDEX(インデックス)ボタンを押す

- インデックスメニューが表示される。



2 ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、切り換えたいインデックス画面を選ぶ ➤ SETを押す

- 選んだインデックス画面に切り換わる。



切り換えを中止するとき

CANCELを押す。

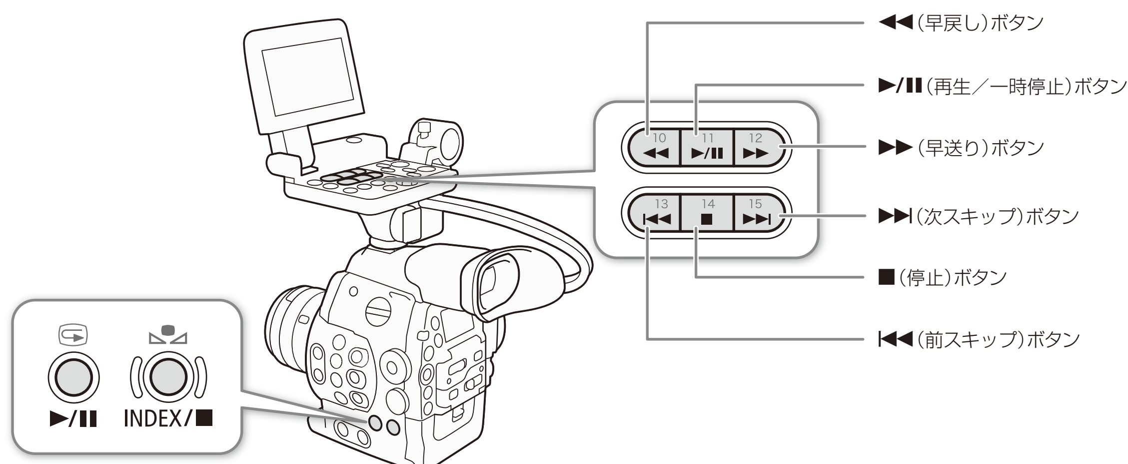
オリジナルインデックス画面に戻るとき

本体またはモニターユニットのINDEX(インデックス)ボタンを押す。

再生

■ 再生する

インデックス画面で選んだクリップを再生します。再生には本体またはモニターユニット上の各種再生操作ボタンを使用します。本体のボタン操作では、▶/❚❚（再生／一時停止）、■（停止）が行えるほか、ジョイスティックガイドに従ってジョイスティックで操作することもできます。





1 ジョイスティックを上下左右に押すかSELECTダイヤルを回して、クリップを選ぶ

- ジョイスティックまたはSELECTダイヤルを操作すると、インデックス画面上のカーソル（オレンジ色の枠）が移動するので、再生したいクリップに合わせる。



2 本体またはモニターユニットの▶/❚❚（再生／一時停止）ボタンを押す

- 再生が始まる。
- 再度、▶/❚❚（再生／一時停止）ボタンを押すと再生一時停止となる。
- 選んだクリップの再生が終わると、自動的に次のクリップが再生される。最後のクリップの再生が終わると、最後のクリップの最終フレームで再生一時停止となる。

再生を終えるとき

本体またはモニターユニットの■（停止）ボタンを押す。



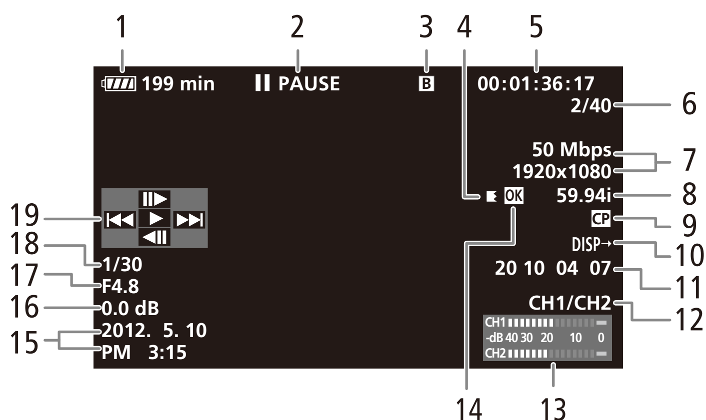
アクセスランプが点灯している間は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。

- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- アクセスしているCFカードスロットのカードカバーを開けない。



クリップが切り換わるときに映像と音声が途切れることがあります。

再生時の画面表示



1 バッテリー残量の目安 ⏩ 📖 61

2 再生状況

▶ PLAY	再生中
❚❚ PAUSE	再生一時停止中
❚❚▶	コマ送り
◀❚❚	コマ戻し
F FWD x5 ▶▶	早送り（5倍速）
F FWD x15 ▶▶	早送り（15倍速）
F FWD x60 ▶▶	早送り（60倍速）
◀◀F REV x5	早戻し（5倍速）
◀◀F REV x15	早戻し（15倍速）
◀◀F REV x60	早戻し（60倍速）

3 CFカード ⏩ 📖 51

4 リレー記録 ⏩ 📖 51

- リレー記録が発生したクリップに表示される。リレーが発生したときの位置によって、（先頭）、（中間）、（終端）がある。

5 タイムコード ⏩ 📖 91

6 クリップ番号／クリップ総数

7 ビットレートと解像度 ⏩ 📖 64

8 フレームレート ⏩ 📖 64

9 カスタムピクチャー ⏩ 📖 125

- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されているクリップのとき表示される。

10 画面表示出力 ⏩ 📖 162

11 ユーザービット ⏩ 📖 94

12 音声出力チャンネル ⏩ 📖 163

13 オーディオレベルメーター

14 OKマーク／チェックマーク ⏩ 📖 148

15 収録日と記録開始時間*1

16 ISO感度／ゲイン*2 ⏩ 📖 72

17 C300 F値*2 ⏩ 📖 77

18 シャッタースピード*2 ⏩ 📖 68

19 ジョイスティックガイド ⏩ 📖 144

*1 LCD/VF設定メニュー ＞「メタデータ表示」＞「日付/時刻」が「入」のときに表示される。
*2 LCD/VF設定メニュー ＞「メタデータ表示」＞「カメラデータ」が「入」のときに表示される。

再生

さまざまな再生

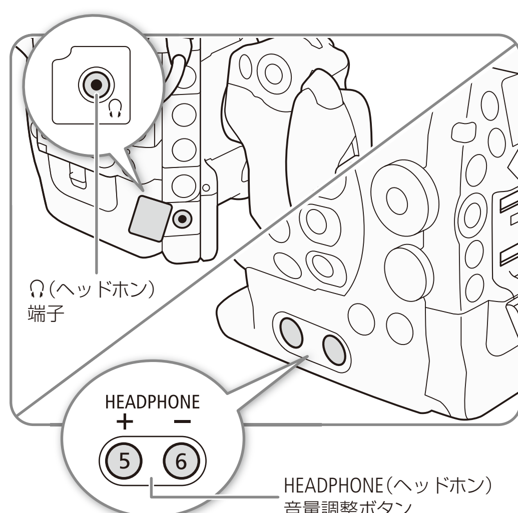
早送りや早戻し、コマ送り、スキップ再生などの再生方法があります。操作は、本体またはモニターユニットの再生操作ボタンを使うか、ジョイスティックガイドに従ってジョイスティックで行います。ジョイスティックガイドは、DISP.（ディスプレイ）／ BATT.INFO（バッテリー情報）ボタンを押して表示を入／切できます。

機能	操作			説明
		ボタン	ジョイスティック	
早送り*1	再生中に	▶▶	▶▶	押すたびに再生速度が約5倍→約15倍→約60倍に切り換わる。*2
早戻し*1	再生中に	◀◀	◀◀	
コマ送り	一時停止中に	—	❙❙▶	押すたびに1コマ進む。押し続けると連続してコマごとに進む。
コマ戻し*3	一時停止中に	—	◀❙❙	押すたびに1コマ戻る。押し続けると連続してコマごとに戻る。
スキップ再生	再生中に	▶▶❙	▶▶❙	次のクリップの先頭から再生。
	再生中に	❙◀◀	❙◀◀	現在のクリップの先頭から再生。
	再生中に 2回押す	❙◀◀	❙◀◀	前のクリップの先頭から再生。

*1 操作中、画面が乱れることがあります。
*2 画面に出る倍速表示は目安です。
*3 コマの間隔はコマ送りのときより長くなり、解像度／フレームレートが720/59.94P、720/24.00Pまたは720/23.98Pのときは0.2秒、720/50.00Pのときは0.25秒、それ以外のときは0.5秒です。

MEMO
- 特殊再生中は音声が聞こえません。
- 早送りや早戻し中に▶/❙❙ボタンを押すと、通常の再生に戻ります。

音声を聞く



通常の再生中は、音声をヘッドホンで聞くことができます。音量はHEADPHONE（ヘッドホン）音量調整ボタンで調整します。音声はHD/SD SDI端子とHDMI OUT端子にも出力されます（□ 159）。

MEMO
- モニターするチャンネルの選択については、「音声出力を選択する」（□ 163）をご覧ください。
- ヘッドホン音量は、オーディオ設定メニュー ＞ Audio Output ＞ Headphone音量で調整することもできます。

クリップを操作する

CAMERA MEDIA

クリップ単位の操作や情報表示を行うときは、クリップメニューを使用します。クリップメニューは動画の各種インデックス画面で表示することができ、それぞれの画面に応じた機能を選ぶことができます。また、すべてのクリップに対する操作は、その他機能メニューから行うことができます。

クリップメニュー一覧

メニュー項目	内容	インデックス画面					📖
		オリジナル	OKマーク	チェックマーク	ショットマーク	エクスパンド	
Cancel	クリップメニューを消す。	●	●	●	●	●	—
クリップ情報表示	クリップの詳細情報画面を表示する。	●	●	●			147
OK Mark追加	OKマークを付加する。	●*1					148
OK Mark消去	OKマークを消去する。		●				149
☑ Mark追加	チェックマークを付加する。	●*1					148
☑ Mark消去	チェックマークを消去する。			●			149
クリップコピー	クリップを別のCFカードにコピーする。	●	●				150
クリップ消去	クリップを消去する。	●		●			151
Shot Mark	ショットマーク1またはショットマーク2が付加されたフレームだけをショットマークインデックス画面に表示する。	●	●	●			153
Shot Mark 1	ショットマーク1が付加されたフレームだけをショットマークインデックス画面に表示する。	●	●	●			
Shot Mark 2	ショットマーク2が付加されたフレームだけをショットマークインデックス画面に表示する。	●	●	●			
エクスパンドクリップ	クリップエクスパンド画面に切り換える。	●	●	●			154
User Memo消去	クリップに付加されているユーザーメモ／GPS情報を消去する。	●	●	●			152
CP ファイルコピー	カスタムピクチャーファイルを本機にコピーする。	●	●	●			152
Shot Mark 1追加 / Shot Mark 1消去	ショットマーク1を付加／消去する。				●*2	●*2	155
Shot Mark 2追加 / Shot Mark 2消去	ショットマーク2を付加／消去する。				●*2	●*2	
表示間隔+	エクスパンドインデックス画面で、時間間隔をより粗くする。					●	154
表示間隔−	エクスパンドインデックス画面で、時間間隔をより細かくする。					●	
一時停止	選んだフレームの再生一時停止状態にする。				●	●	—
代表画設定	フレームをクリップの代表画に設定する。				●	●	156

*1 クリップにOKマーク／チェックマークが既に付加されているときは、「消去」になる。
*2 ショットマークの付加状態によって、表示される項目が変わる。

■ クリップメニューで操作する

例：オリジナルインデックス画面でクリップにOKマークを付加する場合



1 操作するクリップを選ぶ



2 SETを押す

- クリップメニューが表示される。選択できる機能は、表示している画面や選択しているクリップによって変わる。



3 OKマークを付加する

①「OK Mark追加」を選ぶ ＞ SETを押す。
②「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップにOKマークが付加され、サムネイルの左にOKが表示される。



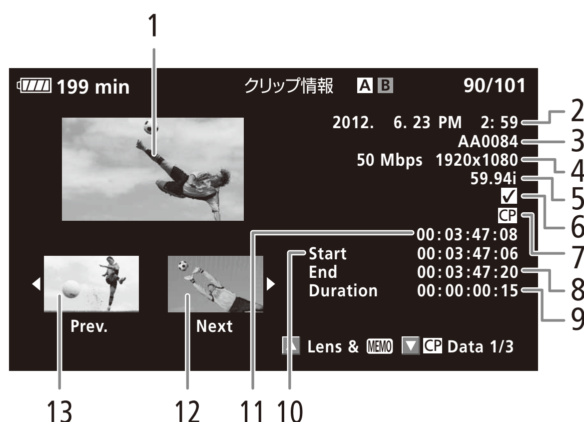


アクセスランプが赤色に点灯中は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。

- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- アクセスしているCFカードスロットのカードカバーを開けない。

クリップの詳細情報を表示する

クリップメニューで「クリップ情報表示」を選択すると、クリップの詳細情報が表示されます。クリップ情報画面でジョイスティックを左右に押すと、前／次のクリップに移動します。CANCELを押すと元の画面に戻ります。



1 選択しているクリップのサムネイル（縮小画）
2 撮影開始日時
3 クリップ名
4 ビットレートと解像度
5 特殊記録情報／フレームレート
- 特殊記録されたクリップのときは、「INT REC」、「FRM REC」、「S&F REC」、「PRE REC」のいずれかが表示される。
- スロー＆ファーストモーション記録で記録したクリップのときは、フレームレートの表示が「撮影フレームレート／再生フレームレート」になる。

6 OKマーク／チェックマーク／ショットマーク／リレー記録マーク
7 カスタムピクチャー
8 記録終了フレームのタイムコード
9 収録時間
10 記録開始フレームのタイムコード
11 表示されているクリップの代表画のタイムコード
12 次のクリップのサムネイル
13 前のクリップのサムネイル

クリップに付加されているレンズ型名情報（C300）／ユーザーメモを表示する



クリップ情報画面でジョイスティックを上に押すかSELECTダイヤルを上に回すと、クリップに付加されているユーザーメモを表示することができます。ジョイスティックを下に押すかSELECTダイヤルを下に回すと、クリップ情報画面に戻ります。



再生

クリップと一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルを表示する



カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されているクリップのときは、クリップ情報画面でジョイスティックを下に押すかSELECTダイヤルを下に回すと、カスタムピクチャーの設定内容を表示することができます。設定内容は3つの画面に分かれており、下に押す（回す）たびに「CP Data 1/3」→「CP Data 2/3」→「CP Data 3/3」→「Lens & MEMO」→「クリップ情報画面」のように切り換わります。

OKマーク／チェックマークを付加する

クリップにOKマーク／チェックマークを付加しておくと、OKマーク／チェックマークが付加されたクリップだけをインデックス画面に表示することができます。また、OKマークが付加されたクリップは、本機での消去が禁止されるため、重要なクリップを保護することができます。

再生中にOKマーク／チェックマークを付加する

再生中のクリップにOKマーク／チェックマークを付けることができます。



1 **アサイン8ボタンに「OK Mark追加」または「✓Mark追加」を割り当てる**

参考 ▸▸「アサインボタンの機能を変更する」（□ 122）。



2 **再生中 または 再生一時停止中**
アサイン8ボタンを押す

- 「OK Mark」が表示され、OKマークが付加される。
- チェックマークのときは、「✓Mark」が表示される。
- 再生中にOKマーク／チェックマークを付加すると再生一時停止になる。
- OKマークを付加したクリップには、インデックス画面でOKが、チェックマークを付加したクリップには、インデックス画面で✓が表示される。

インデックス画面でOKマーク／チェックマークを付ける

インデックス画面で選択したクリップにOKマークまたはチェックマークを付けることができます。



① マークを付けるクリップを選ぶ。
② クリップメニュー ＞「OK Mark追加」または「☑ Mark追加」を順に選ぶ ＞ SETを押す。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップにOKマークが付加され、サムネイルの左にOKが表示される。
- 「☑ Mark追加」を選んだときは、チェックマークが付加され、サムネイルの左に☑が表示される。



OKマークとチェックマークは同じクリップに同時に付加することができないため、OKマークが付加されたクリップにチェックマークを付加すると、OKマークは解除されます。チェックマークが付加されたクリップにOKマークを付加したときも同様に、チェックマークが解除されます。

再生

OKマーク／チェックマークを消去する

1つのクリップのOKマーク／チェックマークを消去する

すでにOKマークまたはチェックマークが付加されたクリップから、OKマークまたはチェックマークを消去することができます。



① マークを消去するクリップを選ぶ。
② クリップメニュー ＞「OK Mark消去」または「☑ Mark消去」を順に選ぶ。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップのOKマークまたはチェックマークが消去される。

すべてのクリップのOKマークをまとめて消去する



① その他機能メニュー ＞「OK Marks全消去」を順に選ぶ。
② 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択中のCFカードに記録されているすべてのクリップから、OKマークが消去される。

中止するとき
CANCELを押す。

③ SETを押す。

クリップをコピーする

CFカードに記録されたクリップを、もう一方のスロットのCFカードにコピーすることができます。コピー先のCFカードには同じクリップ名でコピーされます。

1つのクリップをコピーする



① コピーするクリップを選ぶ
② クリップメニュー ＞「クリップコピー」を順に選ぶ。
③ 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップがもう一方のCFカードスロットのCFカードにコピーされる。

中止するとき CANCELを押す。

④ SETを押す。

すべてのクリップをコピーする

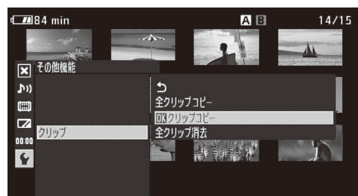


① その他機能メニュー ＞「クリップ」＞「全クリップコピー」を順に選ぶ。
② 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択中のCFカードに記録されているすべてのクリップが、もう一方のスロットのCFカードにまとめてコピーされる。

中止するとき CANCELを押す。

③ SETを押す。

OKマークが付加されたクリップをまとめてコピーする



① その他機能メニュー ＞「クリップ」＞「OK クリップコピー」を順に選ぶ。
② 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
● 選択中のCFカードに記録されているクリップのうち、OKマークが付加されているクリップが、もう一方のスロットのCFカードにまとめてコピーされる。

中止するとき CANCELを押す。

③ SETを押す。


MEMO
● CFカードカバーが開いていると、コピーは行えません。
● コピー先のCFカードに同じクリップ番号*のクリップがあるときは、次に大きなクリップ番号のクリップ名に変更されます。　* クリップ名の下4桁の数字。

再生

クリップを消去する

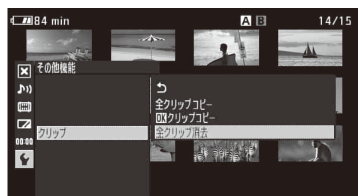
CFカードに記録されたクリップを消去することができます。OKマークが付加されたクリップは消去できません。消去するときは、先にOKマークを消去する必要があります。

1つのクリップを消去する



① 消去するクリップを選ぶ。
② クリップメニュー ＞「クリップ消去」を順に選ぶ。
③ 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
● 選択したクリップが消去される。
● OKマークが付加されたクリップは消去されない。
● クリップの消去は中止できない。
④ SETを押す。

すべてのクリップを消去する



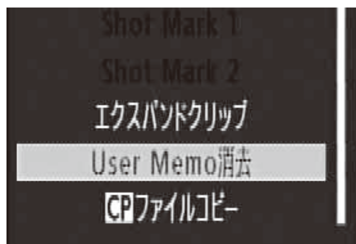
① その他機能メニュー ＞「クリップ」＞「全クリップ消去」を順に選ぶ。
② 「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
● 選択中のCFカードに記録されているすべてのクリップが消去される。
● OKマークが付加されたクリップは消去されない。

中止するとき CANCELを押す。

③ SETを押す。

■ クリップに付加されているユーザーメモ／ GPS情報を消去する

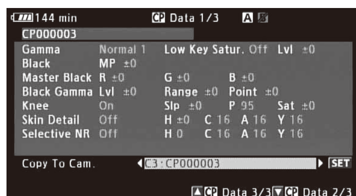
選択したクリップに付加されているユーザーメモ／ GPS情報を消去することができます。



① ユーザーメモ／ GPS情報を消去するクリップを選ぶ。
② クリップメニュー ＞「User Memo消去」を順に選ぶ。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップに付加されているユーザーメモ／ GPS情報が消去される。

■ カスタムピクチャーファイルをコピーする

選択したクリップと一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルを、本機にコピーすることができます。



① カスタムピクチャーファイルが記録されている（CPが表示されている）クリップを選ぶ。
② クリップメニュー ＞「CP ファイルコピー」を順に選ぶ。
- CP Data 1/3画面に切り換わり、カスタムピクチャーの設定内容が表示される。
- CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押しても、CP Data 1/3画面を表示できる。
- ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回すと、CP Data 2/3画面またはCP Data 3/3画面に切り換わり、その他の設定内容が表示される。

③ ジョイスティックを左右に押して、コピー先のカスタムピクチャーファイルを選ぶ ＞ SETを押す。
- 「C1」～「C9」からコピー先を選ぶ。

④「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップと一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルがコピーされる。

⑤ SETを押す。


MEMO
- プロテクトされたカスタムピクチャーファイルをコピー先に選択することはできません。
- カスタムピクチャーファイルのC8 ／ C9は初期状態ではプロテクトされています。

ショットマークインデックス画面を表示する

クリップにショットマーク（1または2）が1つ以上付加されている場合、ショットマークが付加されているフレームだけを抜き出して、インデックス画面に表示することができます。ショットマークインデックス画面では、選択したフレームから再生する、選択したフレームにショットマークを付加･消去する、選択したフレームをクリップの代表画に設定する、などの操作を行うことができます。ショットマーク画面インデックスには、「Shot Mark（ショットマーク1と2の両方）」、「Shot Mark 1（ショットマーク1のみ）」、「Shot Mark 2（ショットマーク2のみ）」の3種類の表示方法があります。



1 ショットマークが付加されているフレームのタイムコード



① ショットマークインデックス画面を表示するクリップを選ぶ。
② クリップメニュー ➤「Shot Mark」、「Shot Mark 1」、「Shot Mark 2」のいずれかを順に選ぶ ➤ SETを押す。
- 選んだクリップのショットマークインデックス画面が表示され、メニューで選んだショットマーク種別のフレームだけが、サムネイル表示される。

元のインデックス画面に戻るとき

本体またはモニターユニットのINDEX（インデックス）ボタンまたはCANCELを押す。

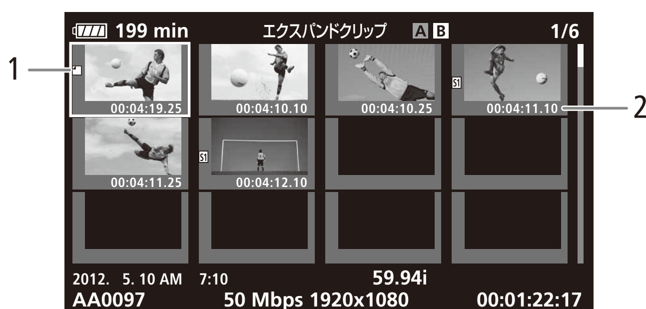

MEMO

ショットマークインデックス画面から再生すると、ショットマークインデックス画面は解除されます。再生停止後は、ショットマークインデックス画面を表示する前のインデックス画面に戻ります。

再生

エクスパンドインデックス画面を表示する

クリップを一定の時間ごとに分割してインデックス画面に表示することができます。収録時間の長いクリップの中から目的のシーンをすばやく探したいときに便利です。分割の時間間隔は、メニューで、「表示間隔－」または「表示間隔＋」を指定することで変更できます。エクスパンドインデックス画面では、選択したフレームから再生する、選択したフレームにショットマークを付加·消去する、選択したフレームをクリップの代表画に設定する、などの操作を行うことができます。



1 代表画アイコン（代表画に設定されているフレームに表示される）

2 サムネイルを表示しているフレームのタイムコード



① エクスパンドインデックス画面を表示するクリップを選ぶ。

② クリップメニュー ＞「エクスパンドクリップ」を順に選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだクリップのエクスパンドインデックス画面が表示される。

③ 必要に応じて、クリップメニュー ＞「表示間隔－」または「表示間隔＋」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 時間間隔が、より細かくまたはより粗くなる。

元のインデックス画面に戻るとき

本体またはモニターユニットのINDEX（インデックス）ボタンまたはCANCELを押す。



エクスパンドインデックス画面から再生すると、エクスパンドインデックス画面は解除されます。再生停止後は、エクスパンドインデックス画面を表示する前のインデックス画面に戻ります。

ショットマークを付加／消去する

メディアモードで、重要なシーンにショットマーク（1または2）を付けることができます。ショットマークは、再生中や再生一時停止中に、「Shot Mark1追加」または「Shot Mark2追加」を割り当てたアサインボタンを押すと付加できます。また、ショットマークインデックス画面またはエクスパンドインデックス画面でサムネイル表示されているフレームに、ショットマーク（1または2)を付加したり、付加されているショットマークを消去したりすることもできます。

再生中にショットマークを付加する

例：アサイン8ボタンに「Shot Mark 1追加」を割り当てて、ショットマーク1を付加する場合



1 **アサイン8ボタンに「Shot Mark 1追加」を割り当てる**

参考 »「アサインボタンの機能を変更する」（□ 122）。



2 再生中 または 再生一時停止中
ショットマーク1を付加したいシーンでアサイン8ボタンを押す

- 「Shot Mark 1」が表示され、ショットマーク1が付加される。
- 再生中にショットマークを付加すると再生一時停止になる。
- ショットマークを付加したクリップには、インデックス画面でSが表示される。

インデックス画面でショットマークを付加する

例：「ショットマーク2」を付加する場合



① ショットマークインデックス画面またはエクスパンドインデックス画面でフレーム（サムネイル）を選ぶ。
② クリップメニュー ＞「Shot Mark 2追加」を順に選ぶ。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだフレームに対して、ショットマーク2が付加され、サムネイルの左にS2が表示される。


MEMO

- 1つのクリップに付加できるショットマークは、ショットマーク1とショットマーク2を合わせて100個までです。
- ボタンを押した時点のフレームとショットマークを付加するフレームは、最大0.5秒程度ずれることがあります。

インデックス画面でショットマークを消去する

例：「ショットマーク1」を消去する場合



① ショットマークインデックス画面またはエクスパンドインデックス画面でフレーム（サムネイル）を選ぶ。
② クリップメニュー ＞「Shot Mark 1消去」を順に選ぶ。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだフレームに付加されているショットマーク1が消去される。
- ショットマークを消去したことにより、そのフレームが、現在表示しているショットマークインデックス画面の表示条件を満たさなくなったときは、インデックス画面に表示されなくなる（例：ショットマーク1のインデックス画面で、ショットマーク1を消去したときなど）。

クリップの代表画を設定する

ショットマークインデックス画面またはエクスパンドインデックス画面で選択したフレームを、クリップの代表画に設定することができます。



① ショットマークインデックス画面またはエクスパンドインデックス画面でフレーム（サムネイル）を選ぶ。
② クリップメニュー ＞「代表画設定」を順に選ぶ ＞ SETを押す。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選んだフレームが、そのクリップの代表画に設定され、サムネイルの左に◰が表示される。



MEMO 先頭以外のフレームを代表画に設定しても、オリジナルインデックス画面でクリップを再生するときは先頭フレームから再生されます。

接　続

出力信号形式 CAMERA MEDIA

HD/SD SDI端子、HDMI™ OUT端子、SYNC OUT端子からの出力は、記録・再生の映像信号形式とメニューの設定によって切り換わります*。SD出力時の表示方式はメニューで選択できます（161）。

* HDMI OUT端子の場合は、接続した外部モニターの能力によって変わります。

映像信号形式と出力信号形式

映像信号形式と各端子から出力される信号形式は、次の表のとおりです。映像に画面表示を重畳することもできます。

	映像信号形式（解像度／フレームレート）	HD/SD SDI 端子*1*2*3		HDMI OUT 端子*2*3*4		SYNC OUT端子*2*5	
		HD出力	SD出力	HD出力	SD出力	HD出力*6	SD出力*7
24.00P	1080/24.00P	1080/60.00i	—	1080/60.00i	—	1080/60.00i	—
	720/24.00P	720/60.00P	—	720/60.00P	—	720/60.00 P	—
NTSC	1080/59.94i、1080/29.97P、1080/23.98P、1080/S&F フレームレート	1080/59.94i	480/59.94i*8	1080/59.94i	480/59.94P	1080/59.94i	480/59.94i
	720/59.94P、720/29.97P、720/23.98P、720/S&F フレームレート	720/59.94P	480/59.94i*8	720/59.94P	480/59.94P	720/59.94P	480/59.94i
PAL	1080/50.00i、1080/25.00P、1080/S&F フレームレート	1080/50.00i	576/50.00i*8	1080/50.00i	576/50.00P	1080/50.00i	576/50.00i
	720/50.00P、720/25.00P、720/S&F フレームレート	720/50.00P	576/50.00i*8	720/50.00P	576/50.00P	720/50.00P	576/50.00i

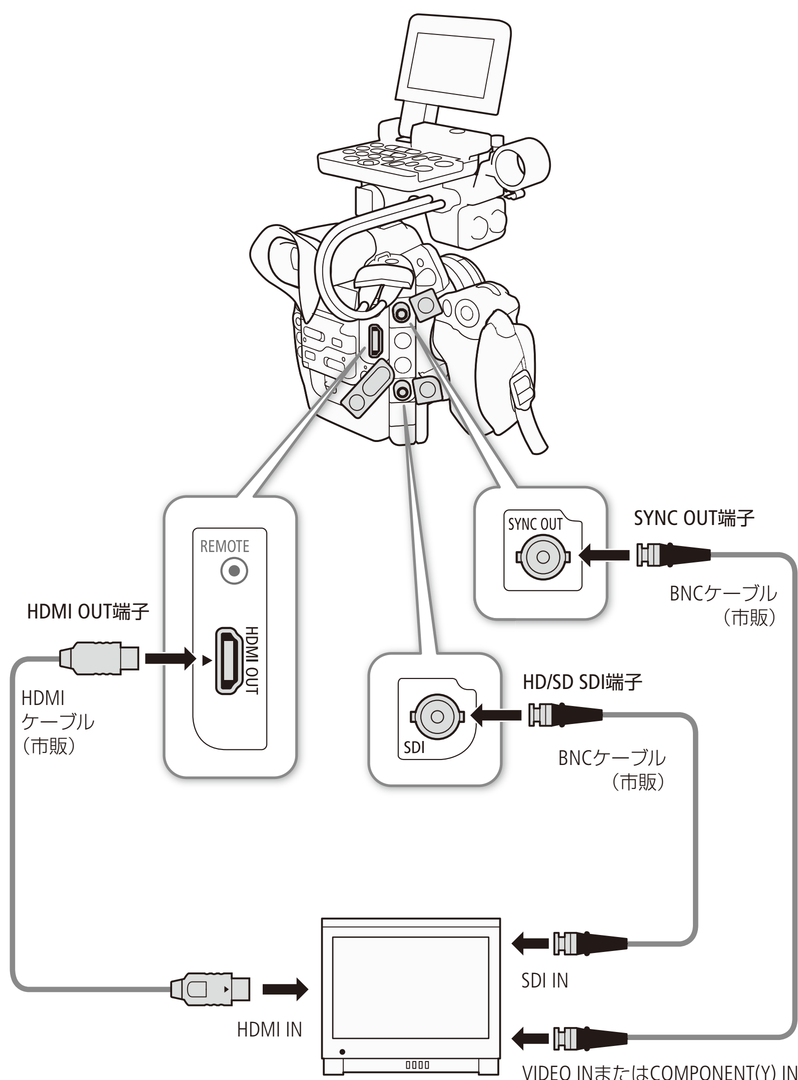
*1 HD、SD、出力なしをメニューで切り換え可能（160）。
*2 画面表示を重畳可能（162）。
*3 ゼブラパターンを出力可能（89）。ただし、SD出力には、ゼブラパターンは出力されない。
*4 接続したモニターの能力に応じて自動的に、HD出力/SD出力が切り換わる。
*5 出力する信号をメニューで切り換え可能（161）。
*6 HDコンポーネント輝度（HD-Y）信号。
*7 SDアナログコンポジット映像信号。
*8 HDMI OUT端子に接続していると、HD/SD SDI端子からの出力はHDMI OUT端子と同じ信号形式になる。

外部モニターを接続する CAMERA MEDIA

撮影・再生映像を外部モニターに表示するときは、外部モニターに応じて使用する端子を決めて本機と外部モニターを接続したあと、使用する端子の出力信号形式をメニューで設定します（参考 ▶「出力信号形式」（📖 158））。映像は、各映像出力端子に同時に出力することができます。

接続のしかた

本機と外部モニターを接続します。SYNC OUT端子を使用する場合、音声はヘッドホンで確認してください。




MEMO　コンパクトパワーアダプター（ACアダプター）を使って、家庭用のコンセントにつないで使うことをおすすめします。

HD/SD SDI端子を使用する

HD/SD SDI端子から出力される映像信号には、オーディオ信号とタイムコード信号が重畳されます。HD/SD SDI端子を使用するときは、ビデオ設定メニュー ➤「SDI Output」で、「HD」または「SD」を選びます。画面表示を重畳することもできます（📖 162）。HD/SD SDI端子を使用しないときは、ビデオ設定メニュー ➤「SDI Output」を「切」にするとバッテリーの持ちが良くなります。



① ビデオ設定メニュー ➤「SDI Output」を順に選ぶ。
② 「HD」または「SD*」を選ぶ ➤ SETを押す。
  * 24.00P以外のときのみ。
③ 「SD」を選んだとき SD出力の表示方式を選ぶ（📖 161）

SDI出力を使用しないとき

②で「切」を選ぶ。

HDMI OUT端子を使用する

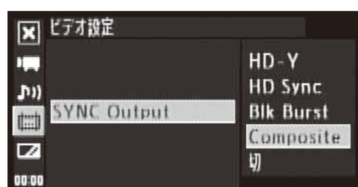
HDMI OUT端子を使用すると、映像と音声をデジタル信号で出力することができます。接続した外部モニターの能力に合わせて、HD出力とSD出力が自動的に切り換わります。HDMI OUT端子の出力に画面表示を重畳することもできます（📖 162）。


MEMO

- SD出力の表示方式は、メニューで選択できます（📖 161）。
- フレームレートが24.00Pの場合、SD出力は行われません。
- DVI対応モニターとの接続は保証していません。
- モニターによっては正しく表示されないことがあります。そのときは、他の端子を使って接続してください。

SYNC OUT端子を使用する

SYNC OUT端子からは、HDコンポーネント輝度信号またはダウンコンバートされたSDアナログコンポジット映像信号を出力します。SDアナログコンポジット映像信号の場合、SYNC OUT端子から出力される映像の表示方式は、メニューで選択できます（□ 161）。



① ビデオ設定メニュー ➤「SYNC Output」を順に選ぶ。
②「HD-Y」または「Composite」を選ぶ ➤ SETを押す。
HD-Y：　HDコンポーネント輝度信号
Composite*：SDアナログコンポジット映像信号
* 24.00P以外のときのみ。

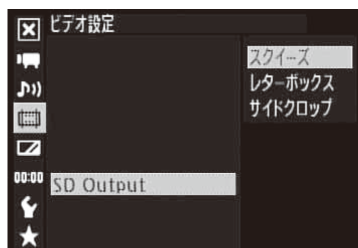

MEMO　モニターがビデオID-1方式に対応していれば、自動的にワイド画面（16:9）に切り換わります。

SD出力時の表示方式を選ぶ

アスペクト比が16:9のHD映像を4:3のSD映像にダウンコンバートして出力するときの表示方式は、次の3種類がありメニューで選択します。

元のHD映像（16:9）	スクイーズ	レターボックス	サイドクロップ
	16:9の映像を左右方向に縮小して4:3にする*。	16:9の映像の上下に黒い帯を追加して4:3にする。	16:9の映像の両端を切り取って4:3にする

* 接続した外部モニターが16:9のときは、正常なアスペクト比で出力される。



① ビデオ設定メニュー ➤「SD Output」を順に選ぶ。
②「スクイーズ」、「レターボックス」、「サイドクロップ」のいずれかを選ぶ ➤ SETを押す。

出力映像に画面表示を重畳する

HD/SD SDI端子、HDMI OUT端子、SYNC OUT端子から出力される映像に画面表示を重畳することができます。重畳の設定はビデオ設定メニューで行い、HD出力とSD出力を個別に設定できます。なお、この設定は、CFカードに記録される映像には影響しません。



① ビデオ設定メニュー ➤「HDオンスクリーン表示」または「SDオンスクリーン表示」を順に選ぶ。

② 「入」を選ぶ ➤ SETを押す。

- 画面に DISP が表示される*。

* カメラモードでは、LCD/VF設定メニュー ➤「Custom Display 2」➤「Output Display」が「入」のときのみ表示される。



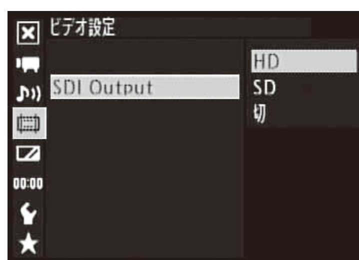
- SD出力時の表示方式が「サイドクロップ」のときは、「SDオンスクリーン表示」の設定にかかわらず、画面表示は重畳されません。
- アサインボタンに「オンスクリーン表示」を割り当てると、アサインボタンを押して「HDオンスクリーン表示」と「SDオンスクリーン表示」を同時に切り換えることができます。

音声出力を選択する

HD/SD SDI端子、HDMI OUT端子、🎧(ヘッドホン)端子から音声を出力できます。🎧(ヘッドホン)端子から出力される音声は、チャンネルなどを選択できます。

エンベデッドオーディオ CAMERA MEDIA

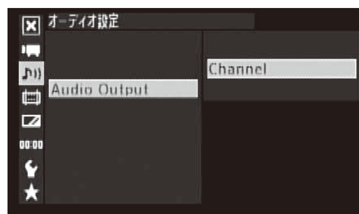
SDI出力を有効にすると、映像信号に音声信号が重畳されてHD/SD SDI端子から出力されます。



① ビデオ設定メニュー ＞「SDI Output」を順に選ぶ。
② 「HD」または「SD」を選ぶ ＞ SETを押す。
選んだSDI出力が有効になり、同時にエンベデッドオーディオがONになる。

音声出力チャンネルを選ぶ CAMERA MEDIA

🎧(ヘッドホン)端子から出力される音声のチャンネルを選択することができます。



① オーディオ設定メニュー ＞「Audio Output」＞「Channel」を順に選ぶ。
② 次のいずれかを選ぶ ＞ SETを押す。
CH1/CH2：出力音声のL chにCH1を、R chにCH 2を割り当てる。
CH1/CH1：出力音声のL chとR chの両方にCH 1を割り当てる。
CH2/CH2：出力音声のL chとR chの両方にCH 2を割り当てる。
All/All：出力音声のL chとR chの両方にCH 1とCH 2をミックスした信号を割り当てる。



アサインボタンに「Audio Output CH」を割り当てると、アサインボタンを押して出力チャンネルを切り換えられます（📖 122）。

接続

クリップをパソコンに保存する

CAMERA MEDIA

記録したクリップをパソコンに保存するときは、付属のCanon XF Utilities Discを使用します。ディスクには、次のソフトウェアが入っています。

Canon XF Utility

パソコンへの保存、映像の確認・再生、クリップの管理を行う簡易ブラウザー。

ノンリニア編集ソフトウェア用プラグイン

- Canon XF Plugin for Avid Media Access（Windows用／ Mac用）
  Avid社のAvid Media Accessに対応したノンリニア編集ソフトウェアMedia Composer（Windows / Mac）／NewsCutter（Windows）から、CFカード内またはパソコンに保存したクリップを直接読み込むことができる。
- Canon XF Plugin for Final Cut Pro（Mac用）
  ノンリニア編集ソフトウェアApple Final Cut Proから、CFカード内またはパソコンに保存したクリップを直接読み込むことができる。

使いかたの詳細については、各ソフトウェアの説明書（後述）をご覧ください。また、ソフトウェアに関する最新の情報については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

必要な動作環境

Canon XF Utility

OS	Windows XP SP3（32 bit版のみ） Windows Vista SP2（32 bit版/64 bit版） Windows 7 / Windows 7 SP1（32 bit版/64 bit版）	Mac OS X 10.5、10.6、10.7
CPU	Intel Core 相当以上* （Intel Core 2 Duo 2.66 GHz以上を推奨） * SSE2に対応していること。	Intel製CPU （Intel Core 2 Duo 2.66 GHz以上を推奨）
メモリー	1 GB以上（Windows 7 64bit版は 2 GB以上）	
ハードディスク空き容量	インストール時：80 MB以上	
ディスプレイ	1024×768ピクセル以上 16 bit（High Color）以上	1024×768ピクセル以上 32000色以上

Canon XF Plugin for Avid Media Access

対応アプリケーション	Media Composer 4.0.5 / 5.0 / 5.5（Windows / Mac） NewsCutter 8.0.5 / 9.0 / 9.5（Windows）

Avid社製ソフトウェアの動作環境については、メーカーのホームページなどでご確認ください。

Canon XF Plugin for Final Cut Pro

対応アプリケーション	Final Cut Pro 6.0.6 / 7.0.0 ～ 7.0.3

Final Cut Proの動作環境については、メーカーのホームページなどでご確認ください。



動作環境を満たした、すべてのパソコンで動作することを保証するものではありません。

インストール／アンインストールのしかた（Windows）

Canon XF Utilities Discを使うときは、はじめにインストールする必要があります。ここでは、Windowsパソコンを使用する場合について、インストールのしかた／アンインストールのしかたを説明します。

インストールする

1 付属のCanon XF Utilities Discをパソコンに入れる

- インストール画面が表示される。



インストール画面が表示されない場合

Windows Vista、Windows 7のとき
→ 自動再生ダイアログが表示されるので、「SETUP.EXEを実行」を選択する。

Windows XP、またはWindows Vista / Windows 7で自動再生ダイアログが表示されないとき
→ コンピュータ*でディスクを入れたドライブをダブルクリックする。
* Windows XPでは「マイコンピュータ」。

2 「おまかせインストール」または「選んでインストール」をクリック →「OK」をクリックする

- 実行している他のソフトウェアの終了を促すメッセージが表示される。

3 実行中の他のソフトウェアを終了して、「OK」をクリックする

接続

4 「選んでインストール」を選んだとき　インストールするソフトウェアを選んで「次へ」をクリックする



5 「インストール」をクリックする

- 使用許諾画面が表示される。

6 使用許諾契約書に同意してインストールする場合は、「はい」をクリックする

- インストールが開始され、終了すると「インストールが正常に終了しました」が表示される。

7 「次へ」をクリック → 「完了」をクリックする

8 ディスクを取り出す

Canon XF Utilityをアンインストールする

1 次のメニューを選択する

スタートメニュー ＞ すべてのプログラム ＞ Canon Utilities ＞Canon XF Utility ＞ Canon XF Utility アンインストール

- アンインストールの確認画面が表示される。

2 「はい」をクリックする

- アンインストールが開始され、完了すると「アンインストールが成功しました」が表示される。

3 「OK」をクリックする

Canon XF Plugin for Avid Media Accessをアンインストールする

1 コントロールパネルから、「プログラムのアンインストール」または「プログラムと機能」をクリックする*

● インストールされているプログラムが一覧表示される。

* Windows XPでは「プログラムの追加と削除」をクリックする。

2 「Canon XF Plugin for Avid Media Access」を選択する

3 「アンインストール」または「アンインストールと変更」をクリックする*

* Windows XPでは「変更と削除」をクリックする。

4 画面の指示に従って操作する

Canon XF MPEG2 Decoderをアンインストールする

1 コントロールパネルから、「プログラムのアンインストール」または「プログラムと機能」をクリックする*

● インストールされているプログラムが一覧表示される。

* Windows XPでは「プログラムの追加と削除」をクリックする。

2 「Canon XF MPEG2 Decoder」を選択する

3 「アンインストール」または「アンインストールと変更」をクリックする*

* Windows XPでは「変更と削除」をクリックする。

4 画面の指示に従って操作する

Canon XF Plugin for Avid Media Access使用説明書をアンインストールする

1 次のメニューを選択する

スタートメニュー > すべてのプログラム > Canon Utilities >
Canon XF Plugin for Avid Media Access >
Canon XF Plugin for Avid Media Access 使用説明書 アンインストール

● アンインストールの確認画面が表示される。

2 「はい」をクリックする

3 「OK」をクリックする

インストール／アンインストールのしかた（Mac OS）

Canon XF Utilities Discを使うときは、はじめにインストールする必要があります。ここでは、Mac OSが搭載されたパソコンを使用する場合について、インストールのしかた／アンインストールのしかたを説明します。

インストールする

1 付属のCanon XF Utilities Discをパソコンに入れる

2 ファインダーを開き、サイドバーの「デバイス」の下に表示される「CanonXF＊＊M」をクリックする

Mac OS X v10.5またはv10.6のとき

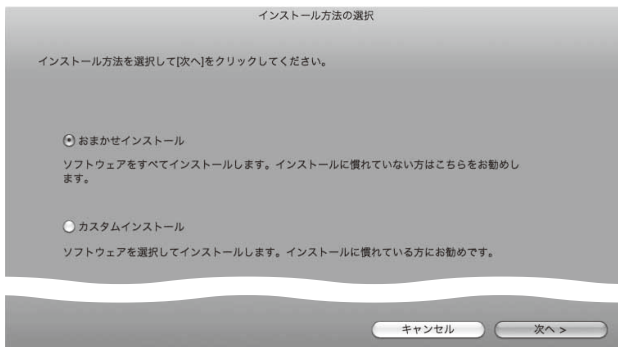
→ デスクトップにディスクアイコン「CanonXF＊＊M」が表示されるので、アイコンをダブルクリックしてもよい。

3 「MasterInstaller」をダブルクリックする

- インストール画面が表示される。

4 「インストール」をクリックする

- インストール方法選択画面が表示される。



5 「おまかせインストール」または「カスタムインストール」を選んで、「次へ」をクリックする

- 使用許諾画面が表示される。

6 使用許諾契約書に同意してインストールする場合は、「同意する」をクリックする

7 「カスタムインストール」を選んだときは、インストールするソフトウェアを選んで「次へ」をクリックする



8 「次へ」をクリックする

- インストールが開始され、終了すると「インストールが完了しました」が表示される。

9 「完了」をクリックして、ディスクを取り出す

接続

Canon XF Utilityをアンインストールする

アプリケーションフォルダーの「Canon Utilities」の下の「Canon XF Utility」をゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

Canon XF Plugin for Final Cut Proをアンインストールする

次のファイルをゴミ箱にドラッグ&ドロップします。
/ Library / Application Support / ProApps / MIO / RAD / Plugins / CanonXF.RADPlug

Canon XF Plugin for Avid Media Accessをアンインストールする

次のファイルをゴミ箱にドラッグ&ドロップします。
/ Library / Application Support / Avid / AVX2_Plug-ins / AMA / MVP_CanonXF.avx

Canon XF MPEG2 Decoderをアンインストールする

次のファイルをゴミ箱にドラッグ&ドロップします。
/ Library / QuickTime / XFMpeg2Dec.component

Canon XF Plugin for Final Cut Pro 使用説明書をアンインストールする

アプリケーションフォルダーの「Canon Utilities」の下の「Canon XF Plugin for Final Cut Pro」をゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

Canon XF Plugin for Avid Media Access 使用説明書をアンインストールする

アプリケーションフォルダーの「Canon Utilities」の下の「Canon XF Plugin for Avid Media Access」をゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

ソフトウェアの使用説明書を見る

ソフトウェアの詳細な使いかたについては、各ソフトウェアの使用説明書（PDF）をご覧ください。使用説明書はソフトウェアと一緒にパソコンにインストールされます。Windowsの場合、使用説明書を見るにはAdobe Readerが必要です。

Canon XF Utilityの使用説明書を見る

次の方法で使用説明書を見ることができます。

Windowsの場合

Windowsのスタートメニュー ➤ すべてのプログラム ➤ Canon Utilities ➤ Canon XF Utility ➤ Canon XF Utility 使用説明書 ➤「言語名」を順に選ぶ。

Macの場合

アプリケーションフォルダーの下のCanon Utilities / Canon XF Utility / Manual / [言語名のフォルダー] 内のPDFファイルをダブルクリックする。

Canon XF Utilityを起動し、ヘルプメニュー ➤「使用説明書を見る」を順に選んでも、使用説明書を見ることができます。

ノンリニア編集ソフトウェア用プラグインの使用説明書を見る

次の方法で使用説明書を見ることができます。

Canon XF Plugin for Avid Media Access（Windows）の使用説明書

Windowsのスタートメニュー ➤ すべてのプログラム ➤ Canon Utilities ➤ Canon XF Plugin for Avid Media Access ➤ Canon XF Plugin for Avid Meida Access 使用説明書 ➤「言語名」を順に選ぶ。

Canon XF Plugin for Final Cut Pro（Mac）またはCanon XF Plugin for Avid Media Access（Mac）の使用説明書を見る

アプリケーションフォルダーの下のCanon Utilities /「Canon XF Plugin for Final Cut Pro」または「Canon XF Plugin for Avid Media Access」/ Manual / [言語名のフォルダー] 内のPDFファイルをダブルクリックする。

7

静止画

静止画を記録する

カメラモードで撮影中または撮影一時停止中に、静止画をSDカードに記録することができます*。また、メディアモードで動画の再生一時停止中に、動画から静止画を切り取ることもできます。記録される静止画のサイズは次のとおりです。

カメラモードで静止画を記録する場合：	1920×1080
動画から静止画を切り取る場合：	
動画の解像度が1920×1080のとき	1920×1080
動画の解像度が1440×1080のとき	1920×1080
動画の解像度が1280×720のとき	1280×720

* 記録できる枚数は、1GBのSDカードに約670枚です。

カメラモードで静止画を記録する CAMERA MEDIA

撮影中または撮影一時停止中に静止画をSDカードに記録することができます。カスタムピクチャーファイルが選択されていると、静止画と一緒にカスタムピクチャーファイルも記録されます*。静止画を記録するときは、アサインボタンに「Photo」を割り当てて使用します。

* カスタムピクチャーファイルを記録しないようにすることもできます（📖 130）。

例：アサイン8ボタンに「Photo」を割り当てて、静止画を記録する場合



1 アサイン8ボタンに「Photo」を割り当てる

参考 ▶▶「アサインボタンの機能を変更する」（📖 122）。



2 動画撮影中 動画撮影一時停止中 静止画を記録する

① アサイン8ボタンを押す。
- 「SD」と記録可能枚数が表示され、静止画がSDカードに記録される。このとき、カスタムピクチャーファイルが選択されていると、静止画と一緒にカスタムピクチャーファイルも記録される。
- 記録中はSDカードアクセスランプが点滅する。

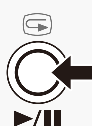


その他機能メニュー ＞「Wi-Fi Remote」＞「選択」を「切」以外にしていると、静止画は記録されません。

記録した動画から静止画を切り取る CAMERA MEDIA

メディアモードで、動画の再生一時停止中に、動画から静止画を切り取ることができます。静止画を記録するときは、アサインボタンに「Photo」を割り当てて使用します。

例：アサイン8ボタンに「Photo」が割り当てられている場合



1 クリップを再生する

① 静止画の切り取りを行うクリップを選ぶ。
② ▶/❚❚（再生／一時停止）ボタンを押して、クリップを再生する。
③ 静止画を切り取りたいシーンで、再度▶/❚❚（再生／一時停止）ボタンを押す。
- 再生一時停止状態になる。



2 静止画を記録する

① アサイン8ボタンを押す。
- シャッターを切るように画面が一度途切れ、「SD」と記録可能枚数が表示されて、静止画がSDカードに記録される。
- 記録中はSDカードアクセスランプが点滅する。

② ■ボタンを押して、クリップの再生一時停止を解除する（インデックス画面に戻る）。



SDカードアクセスランプが点滅している間は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。
- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- SDカードを取り出さない。



- 静止画を記録するときは、SDカードの誤消去防止ツマミの「LOCK」を解除してください。
- その他機能メニュー ＞「Custom Function」＞「スキャンリバース記録」を「両方（上下左右反転）」、「垂直（上下反転）」、「水平（左右反転）」のいずれかに設定して静止画を記録しても、記録される静止画は反転されません。

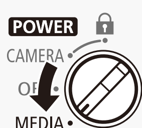
静止画

静止画を再生する CAMERA MEDIA

SDカードに記録した静止画を再生することができます。静止画を再生するときは、メディアモードで画面を静止画インデックス画面に切り換えます。

静止画インデックス画面を表示する

静止画を再生するときは、メディアモードで静止画インデックス画面に切り換えます。



1 MEDIAモードにする



2 本体またはモニターユニットのINDEX（インデックス）ボタンを押す

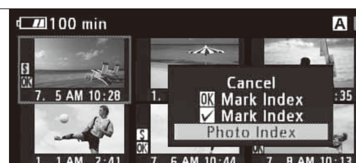
● インデックスメニューが表示される。



3 静止画インデックス画面を選ぶ

① ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回して、「Photo Index」を選ぶ ➤ SETを押す。

● 静止画インデックス画面に切り換わる。

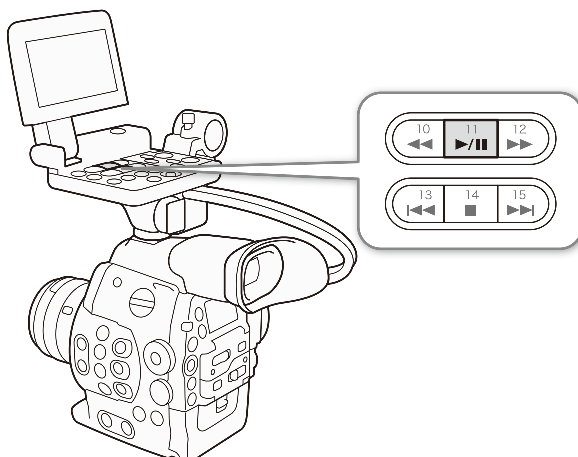


元のインデックス画面に戻るとき

本体またはモニターユニットのINDEX（インデックス）ボタンを押す。

再生する

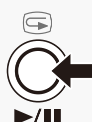
静止画インデックス画面で選んだ静止画を再生します。再生には本体またはモニターユニット上の各種再生操作ボタンを使用します。本体のボタン操作では、▶/❚❚（再生／一時停止）、■（停止）が行えるほか、ジョイスティックで操作することもできます。





1 ジョイスティックを上下左右に押すかSELECTダイヤルを回して、再生する静止画を選ぶ

● ジョイスティックまたはSELECTダイヤルを操作すると、インデックス画面上のカーソル（オレンジ色の枠）が移動するので、再生したい静止画に合わせる。



2 ►/❚❚（再生／一時停止）ボタンを押す

● 静止画が再生される（1枚表示される）。

前の静止画／次の静止画に移動するとき

|◄◄を押すと前の静止画に、►►|を押すと次の静止画に移動する。

● ジョイスティックを左右に押して、前後の静止画に移動することもできる。

撮影日付などの撮影情報の表示をON/OFFするとき

DISP.（ディスプレイ） ／ BATT. INFO（バッテリー情報）ボタンを押す。

再生を終える（インデックス画面に戻る）とき

■（停止）ボタンを押す。



● SDカードアクセスランプが点滅している間は、次のことを必ず守ってください。データを破損するおそれがあります。
- 電源を切らない。バッテリーなどの電源を取り外さない。
- SDカードを取り出さない。



● 次の静止画は正しく再生されないことがあります。
- 本機以外の製品で記録したとき。
- パソコンで作成や加工をしたとき。
- パソコンでファイル名を変更したとき。

静止画

静止画を操作する CAMERA MEDIA

静止画単位の操作を行うときは、静止画メニューを使用します。静止画メニューは静止画インデックス画面、静止画再生画面で表示することができ、それぞれの画面に応じた機能を選ぶことができます。

静止画メニューで操作する

例：静止画インデックス画面で静止画を消去する場合



1 **操作する静止画を選ぶ**

- 静止画再生画面のときは、操作する静止画を再生する。



2 **SETを押す**

- 静止画メニューが表示される。選択できる機能は、表示している画面や選択している静止画によって変わる。



3 **静止画を消去する**

①「消去」を選ぶ ＞ SETを押す。
②「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択したクリップが消去される。



静止画を消去する CAMERA MEDIA

不要な静止画を1枚ずつ消去することができます。静止画を消去すると、一緒に記録されたカスタムピクチャーファイルも消去されます。静止画の消去は、静止画再生画面と静止画インデックス画面で行うことができます。

静止画再生中に消去する

再生中の静止画を消去します。



① 静止画再生中 静止画メニュー ＞「消去」を順に選ぶ。
②「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 再生中の静止画が消去され、次の静止画が再生される。
- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されていたときは、カスタムピクチャーファイルも消去される。

③ SETを押す。

静止画インデックス画面で静止画を消去する

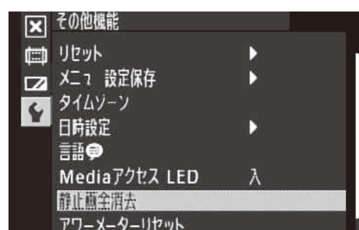
静止画インデックス画面で選んだ静止画を消去します。



① 消去する静止画を選ぶ。
② 静止画メニュー ➤「消去」を順に選ぶ。
③「OK」を選ぶ ➤ SETを押す。
- 選択した静止画が消去される。
- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されていたときは、カスタムピクチャーファイルも消去される。

④ SETを押す。

すべての静止画を消去する



① その他機能メニュー ➤「静止画全消去」を順に選ぶ。
②「OK」を選ぶ ➤ SETを押す。
- SDカードに記録されている静止画のうち、プロテクトしていない静止画がすべてが消去される。

中止するとき

CANCELを押す。

③ SETを押す。



一度消した静止画は元に戻せません。消す前に静止画を確認してください。

静止画をプロテクトする CAMERA MEDIA

大切な静止画を1枚ずつプロテクト（保護）することができます。プロテクトされた静止画は消去できません。静止画をプロテクトすると、同時に記録したカスタムピクチャーファイルも保護されます。静止画の保護は、静止画再生画面と静止画インデックス画面で行うことができます。

静止画再生中にプロテクトする

再生中の静止画をプロテクトします。



① 静止画再生中 静止画メニュー ＞「プロテクト」を順に選ぶ。
②「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 再生中の静止画がプロテクトされ、画面左下に[On]が表示される。
- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されていたときは、カスタムピクチャーファイルもプロテクトされる。

プロテクトを解除するとき

①で「プロテクト解除」を選ぶ。

静止画インデックス画面で静止画をプロテクトする

静止画インデックス画面で選んだ静止画をプロテクトします。



① プロテクトする静止画を選ぶ。
② 静止画メニュー ＞「プロテクト」を順に選ぶ。
③「OK」を選ぶ ＞ SETを押す。
- 選択した静止画がプロテクトされ、サムネイルの左下に[On]が表示される。
- カスタムピクチャーファイルが一緒に記録されていたときは、カスタムピクチャーファイルもプロテクトされる。

プロテクトを解除するとき

②で「プロテクト解除」を選ぶ。

ご注意　静止画をプロテクトしても、SDカードを初期化すると、すべての静止画が消去されます。

カスタムピクチャーファイルをコピーする CAMERA MEDIA

静止画と一緒に記録したカスタムピクチャーファイルの設定を本機にコピーすることができます。コピーは、静止画再生画面と静止画インデックス画面で行うことができます。

再生中の静止画と一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルをコピーする

再生中の静止画と一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルを本機にコピーします。コピー先は、本機のカスタムピクチャーファイルのうちC1 ～ C9から選択できます。



① 静止画再生中 静止画メニュー ➤「CP ファイルコピー」を順に選ぶ。
- CP Data 1/3画面に切り換わり、カスタムピクチャーの設定内容が表示される。
- CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押しても、CP Data 1/3画面を表示できる。
- ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回すと、CP Data 2/3画面またはCP Data 3/3画面に切り換わり、その他の設定内容が表示される。

② ジョイスティックを左右に押して、コピー先のカスタムピクチャーファイルを選ぶ ➤ SETを押す。
- 「C1」～「C9」からコピー先を選ぶ。

③「OK」を選ぶ ➤ SETを押す。
- 再生中の静止画と一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルがコピーされる。

④ SETを押す。

静止画

静止画インデックス画面で静止画と一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルをコピーする

静止画インデックス画面で選んだ静止画と一緒に記録されてい るカスタムピクチャーファイルをコピーします。



① カスタムピクチャーファイルをコピーする静止画を選ぶ。

② 静止画メニュー ➤「CP ファイルコピー」を順に選ぶ。
- CP Data 1/3画面に切り換わり、カスタムピクチャーの設定内容が表示される。
- CUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押しても、CP Data 1/3画面を表示できる。
- ジョイスティックを上下に押すかSELECTダイヤルを回すと、CP Data 2/3画面またはCP Data 3/3画面に切り換わり、その他の設定内容が表示される。

③ ジョイスティックを左右に押して、コピー先のカスタムピクチャーファイルを選ぶ ➤ SETを押す。
- 「C1」～「C9」からコピー先を選ぶ。

④「OK」を選ぶ ➤ SETを押す。
- 選択した静止画と一緒に記録されているカスタムピクチャーファイルがコピーされる。

⑤ SETを押す。



- プロテクトされたカスタムピクチャーファイルをコピー先に選択することはできません。
- カスタムピクチャーファイルのC8 ／ C9は初期状態ではプロテクトされています。

静止画番号をリセットする CAMERA MEDIA

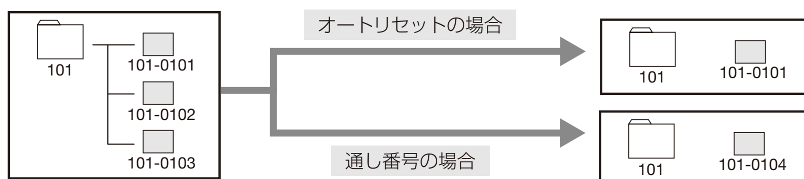
個々の静止画に付けられる番号（静止画番号）の付けかたを選びます。撮影された静止画は、自動的に101-0101、101-0102、101-0103のように順に番号が付けられ、SDカード内のフォルダーに保存されます。静止画番号の付けかたには次の2種類があります。通常は「通し番号」に設定しておくことをおすすめします。

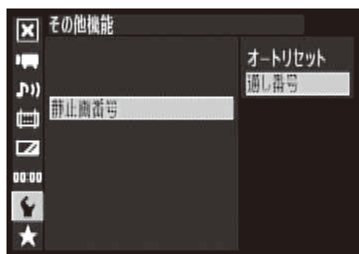
オートリセット：初期化されたメモリーに記録する場合、静止画番号は常に101-0101から始まる。SDカード内にすでに静止画が記録されているときは、その続きの番号になる。

通し番号：静止画番号は、最後に記録した静止画の続き番号から始まる。ただし、SDカードに記録されている静止画番号のほうが大きいときは、その続き番号になる。パソコンで管理するときなどに便利。

静止画番号は、メモリー内に作られるフォルダーの番号（上3桁）と静止画固有の番号（下4桁）を表しています*。1つのフォルダーには100枚までの静止画を保存でき、それを超えると自動的にフォルダーが作成されます。 * 静止画番号の範囲は、上3桁が101 ～ 998、下4桁が0101 ～ 9900です。

例：3枚記録したSDカードを、別のSDカードに入れ換えて記録する場合





① その他機能メニュー ＞「静止画番号」を順に選ぶ。
② 「オートリセット」または「通し番号」を選ぶ ＞ SETを押す。



静止画が記録されたSDカードをパソコンで見ると、静止画番号が「101-0107」の静止画は、「DCIM￥101CANON」というフォルダーの中に「IMG_0107.JPG」というファイル名で表示されます。

8

メニュー

メニュー一覧 CAMERA MEDIA

本機のさまざまな機能をメニューによって設定することができます。ここではメニューの階層と設定項目の詳細について説明します。メニュー設定の基本操作については「メニューで設定を変える」(□ 28)をご覧ください。

メニューの階層

MENUボタンを押すと、画面左側に次のメニューのアイコンが表示されます。

	カメラ設定メニュー：	ISO感度/ゲインやシャッターなど撮影に関する設定を行う。	□ 183
	オーディオ設定メニュー：	音声の入出力に関する設定を行う。	□ 184
	ビデオ設定メニュー：	映像出力に関する設定を行う。	□ 185
	LCD/VF設定メニュー：	液晶画面やファインダーに関する設定を行う。	□ 185
00:00	TC/UB設定メニュー/ User Bit設定メニュー：	タイムコードやユーザービットに関する設定を行う。	□ 188
	その他機能メニュー：	その他、上記以外の設定を行う。	□ 189
★	マイメニュー：	よく使うメニュー項目を登録する。	□ 196

MENU
- カメラ設定 *1
  - ISO/Gain
  - C300 Iris
  - Shutter
  - CP CINEMA固定
  - ABB
  - カラーバー
  - C300 周辺光量補正
- オーディオ設定
  - Audio Input *1
    - XLR Rec Channel
    - XLR1 Micトリミング
    - XLR2 Micトリミング
    - XLR1 Mic Att.
    - XLR2 Mic Att.
    - XLR ALCリンク
    - リミッター
    - 1 kHzトーン
    - MICモード
    - MIC Level
    - MIC Att.
  - Audio Output *3
    - Channel
    - Headphone音量
- ビデオ設定
  - SDI Output
  - SYNC Output
  - HDオンスクリーン表示
  - SDオンスクリーン表示
  - SD Output
- LCD/VF設定
  - LCD設定
  - VF設定
  - LCD/VFモノクロ
  - LCD/VF同時点灯
  - ビューアシスト *1
  - Peaking *1
    - 選択
    - Peaking 1
    - Peaking 2
  - Zebra *1
    - 選択
    - Zebra 1 Level
    - Zebra 2 Level
    - HD Output
  - マーカー *1
  - Audio Level *2
  - Custom Display 1 *1
  - Custom Display 2 *1
  - メタデータ表示 *4
- TC/UB設定 *1
  - Time Code
  - User Bit
- User Bit設定*4
  - Outputモード
- その他機能
  - リセット
  - メニュー/CP設定保存
  - タイムゾーン
  - 日時設定
  - WFM (LCD) *3
  - 言語
  - アサインボタン *3
  - タリーランプ *1
  - MediaアクセスLED
  - Genlock調整 *1
  - 24.00P
  - NTSC/PAL
  - リレー記録 *1
  - ダブルスロット記録 *1
  - ビットレート/解像度 *1
  - フレームレート *1
  - 特殊記録 *1
  - インターバル記録 *1
  - フレーム記録 *1
  - Slow & Fastモーション *1
  - クリップ *3
  - OK Marks全消去 *3
  - レックレビュー *1
  - メタデータ設定 *1
  - SDI記録コマンド *1
  - 静止画番号 *3
  - 静止画全消去 *5
  - CP ファイル付加 *1
  - Custom Function *1
  - アワーメーターリセット
  - Wi-Fi Remote *1
  - Media初期化
  - Firmware *1
- マイメニュー
  - 編集

*1 カメラモードのみ。
*2 メディアモードのみ。
*3 メディアモードの静止画インデックス画面/再生画面以外。
*4 メディアモード（静止画のインデックス画面/再生画面を除く）のみ。
*5 メディアモードの静止画のインデックス画面/再生画面のみ。

メニューの設定項目

各メニューで設定できる項目の機能と設定値について説明します。初期設定は太字で記載しています。

カメラ設定メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
ISO/Gain	選択	**ISO**、Gain	感度の設定方法をISO感度とゲインから選ぶ。	73
	ISOステップ	1段、**1/3段**	ISO感度設定時の刻み幅を選ぶ。	73
	Gain	**ノーマル**、ファイン	ゲイン設定時の刻み幅を選ぶ。 ノーマル：次の値を設定できる。 30.0 dB、24.0 dB、21.0 dB、18.0 dB、15.0 dB、12.0 dB、9.0 dB、6.0 dB、3.0 dB、0.0 dB、−3.0 dB、−6.0 dB ファイン：0 ～ 24 dBの範囲を0.5 dB刻みで設定できる。	73
C300 Iris	Irisステップ	1/2段、**1/3段**、ファイン	アイリス設定時の刻み幅を設定する。ファインにすると、1/3段より細かい刻み幅で設定できる。	77
	Zoom連動F値補正	**入**、切	ズーム操作によりF値が変化するレンズを使用時、入にすると、設定したF値を保つように絞りを補正する。ただし、絞りが動作するのにともない、若干の輝度のばらつきと動作音が発生する。切にすると、望遠側にズームするに従って、徐々にF値が大きくなる（暗くなる）。輝度変化は少なく、絞りの動作音は発生しない。	–
Shutter	モード	**Speed**、アングル、クリアスキャン、スロー、切	シャッタースピードのモードを設定する。 Speed：秒数で設定。 アングル：開角度で設定。 クリアスキャン：周波数で設定。 スロー：フレームレートより低速のシャッタースピードを秒数で指定。	68
	Shutterステップ	1/3段、**1/4段**	シャッタースピード設定時の刻み幅を設定する。	69
CP CINEMA固定		入、**切**	入にすると、画質設定がカスタムピクチャーのCINEMAプリセットに固定される（カスタムピクチャーは設定不可）。切にすると、カスタムピクチャーで好みの画質に調整できる。	63
ABB		**Cancel**、OK	オートブラックバランスを実行する。	53
カラーバー	表示	入、**切**	入にすると、カラーバーを表示する。	108
	タイプ	**SMPTE**、EBU、ARIB	カラーバーのタイプを選ぶ。	108
C300 周辺光量補正		入、**切**	入にすると、レンズの特性によって四隅が暗くなるのを補正する。	33

♪)) オーディオ設定メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Audio Input*1	XLR Rec Channel	**CH1**、CH1/CH2	CH1入力の音声を録音するチャンネルを選ぶ。 CH1： CH1入力をチャンネル1にCH2入力をチャンネル2に録音する。 CH1/CH2：CH1入力をチャンネル1／チャンネル2の両方に録音する。	100
	XLR1 Micトリミング XLR2 Micトリミング	+12 dB、+ 6dB、**0 dB**、−6 dB、−12 dB	外部マイク（XLR端子）のCH1またはCH2の入力感度を調整する。	102
	XLR1 Mic Att. XLR2 Mic Att.	入、**切**	入にすると、外部マイク（XLR端子）のCH1またはCH2にアッテネーター（20 dB）がかかる。	102
	XLR ALCリンク	連動、**独立**	録音レベルをオートで調整する場合、連動にすると、XLR端子のCH1とCH2の録音レベル調整を連動させることができる。	101
	リミッター	入、**切**	録音レベルをマニュアルで調整する場合、入にすると過大な音声入力によるひずみを防止できる。	101
	1 kHzトーン	−12 dB、−18 dB、−20 dB、**切**	カラーバーと同時にテストトーンを出力するときに設定する。	109
	MICモード	**Automatic**、Manual	外部マイク（MIC端子）の録音レベルの調整方法を選ぶ。 Automatic：自動的に調整する。 Manual： 手動で調整する。	102
	MIC Level	0～99（**50**）	外部マイク（MIC端子）の録音レベルを手動で調整する。	102
	MIC Att.	入、**切**	入にすると、外部マイク（MIC端子）にアッテネーター（20 dB）がかかる。	103
Audio Output*2	Channel	**CH1/CH2**、CH1/CH1、CH2/CH2、All/All	音声を出力するチャンネルを選ぶ。 CH1/CH2：出力音声のL chにCH1を、R chにCH2を割り当てる。 CH1/CH1：出力音声のL chとR chの両方にCH1を割り当てる。 CH2/CH2：出力音声のL chとR chの両方にCH2を割り当てる。 ALL/ALL： 出力音声のL chとR chの両方にCH1とCH2をミックスした信号を割り当てる。	163
	Headphone音量	切、1～15（**8**）	ヘッドホンの音量を調整する。	144

*1 カメラモードのみ。
*2 メディアモードの静止画インデックス画面以外。

ビデオ設定メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
SDI Output		**HD**、 SD*、 切	HD/SD SDI端子に出力する信号を選ぶ。 HD：HD SDI出力。 SD： SD SDI出力。 切： HD/SD SDI端子から信号を出力しない。	160
SYNC Output		HD-Y、 HD Sync、 Blk Burst*、 **Composite***、 切	SYNC OUT端子から出力する信号を選ぶ。 HD-Y： HDコンポーネント輝度（Y）信号 HD Sync： HD 3値信号 Blk Burst： SDアナログブラックバースト信号* Composite： SDアナログコンポジット映像信号*	161
HDオンスクリーン表示		入、**切**	入にすると、HD出力に画面表示を重畳する。	162
SDオンスクリーン表示*		入、**切**	入にすると、SD出力に画面表示を重畳する。	
SD Output*		スクイーズ、 **レターボックス**、 サイドクロップ	HD映像（16:9）をSD出力するときの表示方式を選ぶ。 スクイーズ： 左右方向に縮小して4:3にする。 レターボックス：上下に黒い帯を追加して4:3にする。 サイドクロップ：両端を切り取って4:3にする。	161

* 24.00P以外のときのみ。

LCD/VF設定メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
LCD設定	明るさ	−99～99（**±0**）	液晶画面の明るさを調整する。	41
	コントラスト	−99～99（**±0**）	液晶画面のコントラストを調整する。	
	カラー	−20～20（**±0**）	液晶画面のカラーを調整する。	
	シャープネス	1～4（**2**）	液晶画面のシャープネスを調整する。	
	バックライト	**ノーマル**、明るい	液晶画面のバックライトの明るさを選ぶ。	
VF設定	明るさ	−99～99（**±0**）	ファインダーの明るさを調整する。	41
	コントラスト	−99～99（**±0**）	ファインダーのコントラストを調整する。	
	カラー	−20～20（**±0**）	ファインダーのカラーを調整する。	
	シャープネス	1～4（**2**）	ファインダーのシャープネスを調整する。	
	バックライト	**ノーマル**、明るい	ファインダーのバックライトの明るさを選ぶ。	
LCD/VFモノクロ		入、**切**	入にすると、液晶画面とファインダーがモノクロ表示になる。	41
LCD/VF同時点灯		**入**、切	入にすると、液晶画面とファインダーを同時に使用できる。	40
ビューアシスト*1		入、**切**	撮影中、映像にCanon Logガンマが適用されているときに、画面表示を通常のガンマに疑似変換する。	136

メニュー

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Peaking*1		入、**切**	入にすると、「選択」で選んだピーキングが表示される。	86
選択*1		**Peaking 1**、 Peaking 2	表示するピーキングの種類を選ぶ。	
Peaking 1*1	カラー	**ホワイト**、 レッド、 イエロー、 ブルー	ピーキング1の色を選ぶ。	86
	Gain	切、1 ～ 15(**8**)	ピーキング1のゲインを選ぶ。	
	周波数	1 ～ 4(**2**)	ピーキング1の周波数を選ぶ。	
Peaking 2*1	カラー	ホワイト、 **レッド**、 イエロー、 ブルー	ピーキング2の色を選ぶ。	86
	Gain	切、1 ～ 15(**15**)	ピーキング2のゲインを選ぶ。	
	周波数	1 ～ 4(**1**)	ピーキング2の周波数を選ぶ。	
Zebra*1		入、**切**	入にすると、「選択」で選んだゼブラパターンが表示される。	90
選択*1		**Zebra 1**、 Zebra 2、 Zebra 1&2	表示するゼブラパターンの種類を選ぶ。 Zebra 1： 設定した輝度レベル±5%の領域にゼブラパターンを表示する。 Zebra 2： 設定した輝度レベル以上の領域にゼブラパターンを表示する。 Zebra 1&2：ゼブラパターン1と2を同時に表示する。	
Zebra 1 Level*1		**70 ±5%**、 75 ±5%、 80 ±5%、 85 ±5%、 90 ±5%、 95 ±5%	ゼブラパターン1の輝度レベルを6段階から選ぶ。	
Zebra 2 Level*1		70%、 75%、 80%、 85%、 90%、 95%、 **100%**	ゼブラパターン2の輝度レベルを7段階から選ぶ。	
HD Output*1		入、**切**	入にすると、ゼブラパターンがHD/SD SDI端子、HDMI OUT端子、SYNC OUT端子に出力される。	90

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
マーカー *1	表示	入、**切**	すべてのマーカーの表示を入／切する。	88
	センター	ホワイト、グレー、**切**	センターマーカーの色を選ぶ。切にするとセンターマーカーは表示されない。	
	水平	ホワイト、グレー、**切**	センターマーカーの色を選ぶ。切にするとセンターマーカーは表示されない。	
	グリッド	ホワイト、グレー、**切**	グリッドの色を選ぶ。切にするとグリッドは表示されない。	
	セーフティーゾーン	ホワイト、グレー、**切**	セーフティゾーンの色を選ぶ。切にするとセーフティゾーンは表示されない。	
	セーフティーゾーンエリア	80%、90%、92.5%、**95%**	セーフティゾーンのエリアを選ぶ。	
	アスペクトマーカー	ホワイト、グレー、**切**	アスペクトマーカーの色を選ぶ。切にするとアスペクトマーカーは表示されない。	
	アスペクト比	4:3、13:9、14:9、1.66:1、1.75:1、1.85:1、**2.35:1**	アスペクトマーカーのアスペクト比を選ぶ。	
Audio Level *2		**入**、切	入にすると、オーディオレベルメーターを表示する。	–
Custom Display 1*1	Custom Picture	**入**、切	入にすると、CP（カスタムピクチャー）アイコンを表示する。	60
	C300 焦点距離	**入**、切	入にすると、焦点距離を表示する。	
	ND Filter	**入**、切	入にすると、NDフィルターの設定を表示する。	
	キーロック	**入**、切	入にすると、🔒（キーロック）を表示する。	
	White Balance	**入**、切	入にすると、ホワイトバランスの設定を表示する。	
	C300 Iris	**入**、切	入にすると、アイリスの設定（F値）を表示する。	
	ISO/Gain	**入**、切	入にすると、ISO感度／ゲインの設定を表示する。	
	Shutter	**入**、切	入にすると、シャッタースピードの設定を表示する。	
	Peaking	**入**、切	入にすると、PEAK1 ／ PEAK2（ピーキング）アイコンを表示する。	
	Magnification	**入**、切	入にすると、MAGN.（拡大表示）アイコンを表示する。	
	ビューアシスト	入、**切**	入にすると、V.Assist.（ビューアシスト）を表示する。	
Custom Display 2*1	バッテリー残量	警告、**ノーマル**、切	バッテリー残量の表示のしかたを選ぶ。 警告：　警告時のみ表示する。 ノーマル：常に表示する。	60
	記録可能時間	警告、**ノーマル**、切	残りの記録可能時間を表示する。 警告：　警告時のみ表示する。 ノーマル：常に表示する。	
	記録モード	**入**、切	入にすると、撮影所歌（記録モード）を表示する。	
	Genlock	**入**、切	入にすると、Gen.（ゲンロック）を表示する。	
	Time Code	**入**、切	入にすると、タイムコードを表示する。	
	インターバルカウンター	**入**、切	入にすると、インターバル記録のカウントダウン表示を行う。	

メニュー

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Custom Display 2*1	SD Card Status	警告、 **ノーマル**、 切	SDカードの状態表示のしかたを選ぶ。 警告：　警告時のみ表示する。 ノーマル：常に表示する。	60
	ビットレート/解像度	**入**、切	入にすると、ビットレートと解像度を表示する。	
	フレームレート	**入**、切	入にすると、フレームレートを表示する。	
	表示文字記録	**入**、切	入にすると、CHAR.REC（表示文字記録）アイコンを表示する。	
	Output Display	入、**切**	入にすると、映像を出力する端子に画面表示を重畳することを示すDISP（画面表示出力）アイコンを表示する。	
	SDI記録コマンド	**入**、切	入にすると、SDI記録コマンド状態を表示する。	
	User Memo	**入**、切	入にすると、MEMO（ユーザーメモ）アイコンを表示する。	
	User Bit	**入**、切	入にすると、ユーザービットを表示する。	
	Audio Output CH	**入**、切	入にすると音声出力チャンネルを表示する。	
	Audio Level	**入**、切	入にすると、オーディオレベルメーターとLIM（オーディオリミッター）アイコンを表示する。	
	Wi-Fi	**入**、切	入にすると、Wi-Fi（無線LAN）を表示する。	
	日付/時刻	日付/時刻、 時刻、日付、**切**	日時の表示のしかたを選ぶ。	
メタデータ表示*2	日付/時刻	入、**切**	入にすると、クリップの再生中に日時を表示する。	143
	カメラデータ	入、**切**	入にすると、クリップの再生中にカメラデータ（シャッタースピード、F値、ISO感度／ゲイン）を表示する。	

*1 カメラモードのみ。
*2 メディアモード（静止画インデックス画面を除く）のみ。

00:00 TC/UB設定メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Time Code	モード	**Preset**、 Regen.	タイムコードのカウントアップ方式を選ぶ。 Preset：「設定」で設定した任意のタイムコードから歩進する。 Regen.：メディアに記録されている最後のタイムコードの続きから歩進する。	91
	Run	**Rec Run**、 Free Run	モードがPresetのときに歩進方法を選ぶ。 Rec Run：記録時に歩進する。 Free Run：記録に関係なく常に歩進する。	
	DF/NDF	**DF**、 NDF	ドロップフレーム（DF）またはノンドロップフレーム（NDF）を切り換える。なお、次のときはNDFに固定される。 • 「24.00P」が「入」のとき。 • 「NTSC/PAL」が「PAL」のとき。 • 「NTSC/PAL」が「NTSC」で「フレームレート」が「23.98P」のとき。	92

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Time Code	設定	セット、リセット	タイムコードの初期値を設定する。	91
	TC In/Out	**In**、 Out	TIME CODE端子の入力（In）と出力（Out）を切り換える。	96
	24P TC/Sync	XF互換同期、 **ノーマル**	フレームレートが23.98Pまたは24.00Pの場合に、タイムコード入出力／Genlockで外部機器と同期するときの動作モードを選ぶ。 XF互換同期：XFシリーズ互換モード。タイムコードは30フレーム信号に同期し、Genlockは59.94iまたは60.00i信号に同期する。 ノーマル：標準モード。タイムコードは24フレーム信号に同期し、Genlockは23.98Pまたは24.00P信号に同期する。	95
User Bit	記録モード	**Internal**、 External	記録するユーザービットを選ぶ。 Internal：本機で設定したユーザービット。 External：外部入力したユーザービット。	96
	Outputモード	**固定値**、 プルダウン	出力するユーザービットを選ぶ。 固定値：設定したユーザービット。 プルダウン：2:3プルダウン情報。	97
	タイプ	**設定**、 時刻、 日付	ユーザービットを設定する。 設定：8桁の16進数を任意に入力する。 時刻：ユーザービットに時間を設定する。 日付：ユーザービットに日付を設定する。	94

00:00 User Bit設定メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Outputモード		**固定値**、 プルダウン	TC/UB設定メニュー > User Bit > Outputモードと同じ。	97

その他機能メニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
リセット	全設定	**Cancel**、 OK	アワーメーターを除く本機の設定を初期状態に戻す。	208
	カメラ設定*1	**Cancel**、 OK	ホワイトバランス、アイリス（C300のみ）、ISO感度／ゲイン、シャッタースピード、カメラ設定メニュー、カスタムピクチャーの各設定を初期状態に戻す。	–
	アサインボタン*2	**Cancel**、 OK	アサインボタンの機能割り当て設定を初期状態に戻す。	122

メニュー

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
メニュー/CP設定保存	SDへ保存	メニュー、 メニュー+CP	メニュー： メニュー設定のみをSDカードに保存する。 メニュー+CP： メニュー設定とカスタムピクチャーファイル（本機に保存されている9セット）をSDカードに保存する。	138
	SDから読み出し	メニュー、 メニュー+CP	メニュー： メニュー設定のみをSDカードから本機に読み込む。 メニュー+CP： メニュー設定とカスタムピクチャーファイル（本機に保存されている9セット）をSDカードから本機に読み込む。	
タイムゾーン		UTC −12:00～+14:00 （**UTC+09:00**）	タイムゾーンを設定する。	27
日時設定	日付/時刻	日付・時間	日付と時間を設定する。	27
	日時スタイル	**YMD**、YMD/24H、MDY、MDY/24H、DMY、DMY/24H	日時の表示のしかたを選ぶ。	
WFM (LCD)*2	設定	WFM、 VS、 Edge Mon.*1、 **切**	映像信号を確認するモニターの表示を選ぶ。 WFM： 波形モニターを表示する。 VS： ベクトルコープを表示する。 Edge Mon.：エッジモニターを表示する。	110
	Waveform Monitor	**ライン**、 ライン+スポット、 フィールド、RGB、 YPbPr	波形モニターのタイプを選ぶ。	110
	Gain	**1x**、2x	波形モニターの波形のゲインを選ぶ。	
	Vectorscope	スポット、 **ノーマル**	ベクトルスコープのタイプを選ぶ。	111
	Gain	**1x**、5x	ベクトルスコープのゲインを選ぶ。	
	Edge Monitor*1	**タイプ 1**、 タイプ 2	エッジモニターのタイプを選ぶ。 タイプ 1： 水平方向の全体のエッジ成分とスポット（3箇所）のエッジ成分を重ねて、水平方向の位置を合わせて表示する。 タイプ 2： 波形モニターとエッジモニターを同時に画面右下に表示する。	111
	Gain	切、1～15（**12**）	エッジモニターの波形のゲインを選ぶ。	111
言語		**日本語**、English	表示されるメニューやメッセージなどの言語を選ぶ。	—

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
アサインボタン*2	1	**Magnification**	アサインボタン1 ～ 15に機能を割り当てる。次の機能を割り当てることができる。各機能の詳細について（📖122）。 (未設定)、Peaking、Zebra、WFM (LCD)、Edge Monitor、Magnification、カラーバー、マーカー、LCD設定、VF設定、LCD/VFモノクロ、オンスクリーン表示、Shot Mark 1追加、Shot Mark 2追加、OK Mark追加、☑ Mark追加、Time Code、Time Codeホールド、Headphone +、Headphone –、Audio Output CH、Audio Level、Photo、FUNC.、FUNC. Shutter、FUNC. ISO/Gain、FUNC. WB、マイメニュー、Media初期化、ユーザー設定	122
	2	**Peaking**		
	3	**Zebra**		
	4	**WFM (LCD)**		
	5	**Headphone +**		
	6	**Headphone –**		
	7	**Magnification**		
	8	**WFM (LCD)**		
	9	**Edge Monitor**		
	10 ～ 15*1	**(未設定)**		
タリーランプ*1		**入**、切	入にすると、撮影中にタリーランプが点灯する。	56
Mediaアクセス LED		**入**、切	入にすると、CFカード／ SDカードにアクセスしたときに、アクセスランプ／ SDカードアクセスランプが点灯する。	48
Genlock調整*1		－1023 ～ 1023（**000**）	ゲンロックのH位相を、位相差0を中心として約±0.4H（HD換算）の範囲で調整する。	95
24.00P		入、**切**	入にすると、24.00Pモードになり、フレームレートが24.00Pに固定される。	64
NTSC/PAL		**NTSC**、PAL	NTSCまたはPALを選ぶ。	64
リレー記録*1		**入**、切	リレー記録の入／切を切り換える。	51
ダブルスロット記録*1		入、**切**	ダブルスロット記録の入／切を切り換える。	
ビットレート/解像度*1		**50 Mbps 1920x1080**、50 Mbps 1280x720、35 Mbps 1920x1080、35 Mbps 1280x720、25 Mbps 1440x1080	ビットレートと解像度を選ぶ。	64
フレームレート*1		NTSC時：**59.94i**、59.94P、29.97P、23.98P PAL時：**50.00i**、50.00P、25.00P	フレームレートを選ぶ。「NTSC/PAL」、解像度によって選択できるフレームレートが異なる。24.00Pにするときは、その他機能メニュー ＞「24.00P」で設定する。	64

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
特殊記録*[1]		インターバル記録、フレーム記録、プレ記録、Slow & Fastモーション、**切**	特殊記録モードを選ぶ。	115
インターバル記録*[1]	インターバル	**1**～10、15、20、30、40、50 sec、1～10 min	インターバル記録の記録時間間隔を選ぶ。	115
	記録フレーム	59.94i、29.97P、23.98P、24.00P時：**1**、3、6、9 59.94P、50.00i、50.00P、25.00P時：**2**、6、12	インターバル記録の記録フレーム数を選ぶ。	
フレーム記録*[1]	記録フレーム	59.94i、29.97P、23.98P、24.00P時：**1**、3、6、9 59.94P、50.00i、50.00P、25.00P時：**2**、6、12	フレーム記録の記録フレーム数を選ぶ。	117
Slow & Fastモーション*[1]	S&Fフレームレート	[NTSCまたは24.00Pのとき] 解像度1080時：1～（**30**） 解像度720時：1～60（**30**） [PALのとき] 解像度1080時：1～（**25**） 解像度720時：1～50（**25**）	スロー&ファーストモーション記録の撮影フレームレートを1 fps刻みで選ぶ。「NTSC/PAL」、解像度によって選択できる撮影フレームレートが異なる。	118

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
クリップ	タイトル設定*1	**AA** ～ ZZ、 00 ～ 99	記録したクリップに付けられるクリップ名を構成する上2桁の英字（大文字）または数字を設定する。	58
	番号設定*1	セット、 リセット	記録したクリップに付けられるクリップ名を構成する下4桁の数字を設定する。 セット：　設定した数字を初期値に設定する。 リセット：0001にリセットする。	
	最終クリップ消去*1	**Cancel**、 OK	実行を選び、SETを押すと、最後に記録したクリップを消去する。	–
	全クリップコピー *3	**Cancel**、 OK	実行を選び、SETを押すと、現在選択しているCFカードのクリップを、もう一方のCFカードにすべてコピーする。	150
	OKクリップコピー *4	**Cancel**、 OK	実行を選び、SETを押すと、現在選択しているCFカードのOKクリップを、もう一方のCFカードにすべてコピーする。	151
	全クリップ消去*3	**Cancel**、 OK	実行を選び、SETを押すと、現在選択しているCFカードのクリップをすべて消去する。	151
OK Marks全消去*4		**Cancel**、 OK	実行を選びSETを押すと、現在選択しているCFカードのクリップに付加されているOKマークをすべて消去する。	150
レックレビュー *1		**クリップ先頭から**、 最終4 sec	レックレビューで再生する範囲を選ぶ。 クリップ先頭から：クリップの先頭からすべて。 最終4 sec：　クリップの最後の4秒間のみ。	114
メタデータ設定*1	設定	リモート、 **SD Card**	メタデータの設定方法を選ぶ。 リモート：Wi-Fi Remoteから設定する。 SD Card：　XF Utilityを使って設定し、SDカードに保存したメタデータ（ユーザーメモ）を使用する。	105
	User Memo	**切**、 ファイル選択	SDカードに記録されているユーザーメモファイルを選ぶ。切にすると、ユーザーメモは記録されない。	
	国コード	4文字の文字列	国コードとして、ISO-3166-1で定義している短縮文字を左詰めで入力する。 使用可能文字：A ～ Z、0 ～ 9、+、－、：、スペース	
	組織	4文字の文字列	各組織で運用する組織コード*を入力する。 * 組織コードは、SMPTE登録局に申請後、取得して初めて使用できるものです。取得していないときは「0000」を入力してください。 使用可能文字：A ～ Z、0 ～ 9、+、－、：、スペース	
	ユーザーコード	4文字の文字列	ユーザーの識別用のコードを入力する*。 * 運用の方法は、ユーザーに任されていますが、組織コードに「0000」を入力したときは、入力しないでください。 使用可能文字：A ～ Z、0 ～ 9、+、－、：、スペース	
SDI記録コマンド*1		入、**切**	入にして、本機と他機をHD/SD SDI端子でつなぐと、本機の撮影／撮影一時停止操作（START/STOPボタンの操作）と連動して、他機の記録／記録一時停止を行うことができる。	57

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
静止画番号*2		オートリセット、**通し番号**	静止画番号の付けかたを選ぶ。 オートリセット：オートリセット。静止画番号は101-0101またはSDカード内に記録されている静止画の続きの番号になる。 通し番号：静止画番号は最後に記録した静止画の続きの番号になる。	180
静止画全消去*5		**Cancel**、OK	実行を選び、SETを押すと、SDカードに記録されているすべての静止画を消去する。	177
CP ファイル付加*1	クリップへ	**入**、切	入にすると、クリップと一緒にカスタムピクチャーファイルが保存される。	130
	静止画へ	**入**、切	入にすると、静止画と一緒にカスタムピクチャーファイルが保存される。	
Custom Function*1	ショックレスWB	入、**切**	入にすると、ホワイトバランスを切り換えたときに値をなめらかに変化させる。	80
	電子ダイヤル	C300： **Iris**、ISO/Gain、切 C300 PL： ISO/Gain、**切**	本体とグリップの電子ダイヤルに割り当てる機能を選ぶ。	77 74
	電子ダイヤル方向	リバース、**ノーマル**	電子ダイヤルの操作方向を選ぶ。	
	グリップ電子ダイヤル方向	リバース、**ノーマル**	グリップ電子ダイヤルの操作方向を選ぶ。	
Custom Function*1	SELECTダイヤル方向	リバース、**ノーマル**	SELECTダイヤルの操作方向を選ぶ。	28
	フォーカスアシストB&W	両方、Magnify、Peaking、**切**	フォーカスアシスト機能（ピーキング、拡大表示）を使うときに、画面を自動的にモノクロにするかどうかを設定する。記録される映像や外部出力には影響しない。 Magnify：拡大表示を使用時に画面をモノクロにする。 Peaking：ピーキングを使用時に画面をモノクロにする。 両方：拡大表示またはピーキングを使用時に画面をモノクロにする。	86
	スキャンリバース記録	両方、垂直、水平、**切**	映像を反転させて記録する。反転のしかたは3種類から選べる。 両方：上下左右反転 垂直：上下反転 水平：左右反転	40
	表示文字記録	入、**切**	入にすると、画面上に表示させている文字やアイコンなどを映像に重ねて記録する。	—
アワーメーターリセット		**Cancel**、OK	ビデオカメラ本体の使用時間として、購入時からの使用時間と、最後にこの設定でリセットしたときからの使用時間とがある。アワーメーターリセットでは、最後にリセットしたときからの使用時間をリセットする。	203

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
Wi-Fi Remote*6	新規設定		無線ネットワークの設定を行う。設定は5つまで保存することができる。	54
	選択	**切**、ネットワーク設定番号	あらかじめ保存した無線ネットワーク設定（No.1 ～ No.5）から、使用する設定を選ぶ。	
	編集		無線ネットワーク設定を変更する。 LAN設定： SSID、認証方式、暗号化方式などアクセスポイントへの接続設定を行う。 TCP/IP： IPアドレスなどのネットワーク設定を行う。 名称変更：無線ネットワーク設定の名前を変更する。	
	カメラ設定		カメラ設定を変更する。 User Name、Password：ネットワークに接続した機器のWebブラウザーからビデオカメラにアクセスするときに入力するユーザー名とパスワードを設定する。 Port No.： ネットワークに接続した機器のWebブラウザーからWi-Fi Remoteを起動するときに使用するポート番号を設定する。 Camera ID： ビデオカメラ固有の文字列を設定する。	
Media初期化	CF A	**Cancel**、OK	CF Aスロットに入っているCFカードを初期化する。	50
	CF B	**Cancel**、OK	CF Bスロットに入っているCFカードを初期化する。	
	SD Card	完全初期化、高速初期化	SD CARD（SDカード）スロットに入っているSDカードを初期化する。	
Firmware*1		バージョン番号	ファームウェアのバージョン。	—

*1 カメラモードのみ。
*2 メディアモードの静止画インデックス画面以外。
*3 メディアモードのオリジナルインデックス画面のみ。
*4 メディアモードのオリジナルインデックス画面またはOKインデックス画面のみ。
*5 メディアモードの静止画インデックス画面のみ。
*6 ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6装着時のみ。

★ マイメニュー

CAMERA MEDIA

設定項目	詳細項目	設定値	内容	📖
編集	登録	**Cancel**、OK	任意のメニュー項目を登録する。	30
	並べ替え	**Cancel**、OK	マイメニュー内で、選択したメニュー項目を並べ替える。	31
	消去	**Cancel**、OK	マイメニュー内の選択したメニュー項目を消去する。	31
	設定初期化	**Cancel**、OK	マイメニュー内のすべてのメニュー項目を消去する。	31

その他

ステータス画面を表示する CAMERA MEDIA

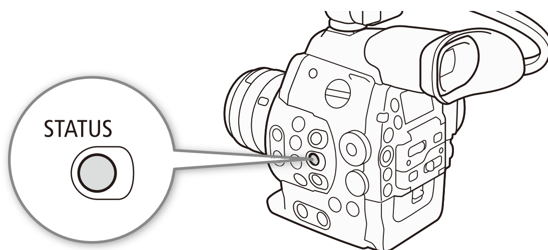
撮影や再生に関する様々な設定内容や状態をステータス画面に表示して確認することができます。ステータス画面は、外部モニター（□ 159）に出力することもできます。次にあげるステータス画面を表示することができます。なお、ステータス画面ではすべて英語で表示されます。

ステータス画面の名称	表示内容	動作モード		□
		カメラ	メディア	
カメラ	ISO感度／ゲイン、アイリス*1、周辺光量補正*1などの撮影設定とレンズ型名情報*1。	●	–	199
アサインボタン	アサインボタン設定。2つの画面からなる。	●	●	199
オーディオ	オーディオ設定。	●	●*2	200
メディア	記録メディア（CFカード、SDカード）の状態。	●	●	201
ビデオ	ビデオ出力端子の設定や特殊記録の設定。	●	●	202
メタデータ	ユーザーメモの設定。2つの画面からなる。	●	–	202
バッテリー／使用時間	バッテリーの残量・寿命や本体の使用時間。	●	●	203
カスタムピクチャー	カスタムピクチャーの設定。3つの画面からなる。	●	–	204
Wi-Fi Remote*3	Wi-Fi Remoteの設定。4つの画面からなる。	●	–	–

*1 C300のみ。
*2 メディアモードの静止画インデックス画面以外。
*3 本機にワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6（別売）を取り付け、無線ネットワークを選んだときのみ表示されます。 詳細については、ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6 ビデオカメラ用ガイドをご覧ください。

操作のしかた

ここでは、ステータス画面の表示のしかた、確認したい画面への切り換えかた、ステータス画面の消しかたを説明します。





1 STATUS（ステータス）ボタンを押す

- ステータス画面が表示される。
- 最後にステータス画面を消したときの画面が表示される。



2 ジョイスティックを上下に押す

- 下に押すと次の画面に、上に押すと前の画面に、ステータス画面が切り換わる。
- SELECTダイヤルを回して操作することもできる。

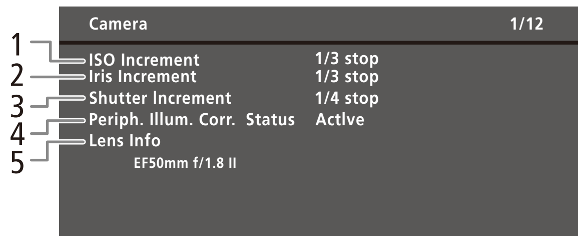


3 STATUS（ステータス）ボタンを再度押す

- ステータス画面が消える。
- MENU（メニュー）ボタンやCUSTOM PICTURE（カスタムピクチャー）ボタンを押しても、ステータス画面が消え、押したボタンに応じたメニューが表示される。

カメラステータス画面 CAMERA MEDIA

ISO感度／ゲイン、アイリス、シャッタースピードや周辺光量補正などの撮影設定とレンズ型名情報を表示します。

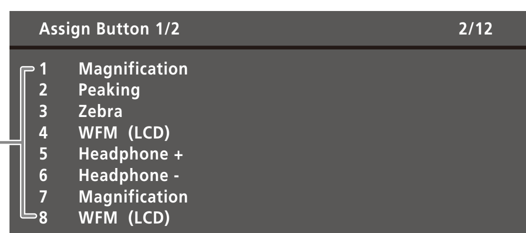


1 ISO感度／ゲインステップ ▶▶ 📖 73
2 C300 アイリスステップ ▶▶ 📖 77
3 シャッターステップ ▶▶ 📖 69
4 C300 周辺光量補正 ▶▶ 📖 33
5 C300 レンズ型名情報 ▶▶ 📖 32

アサインボタンステータス画面 CAMERA MEDIA

アサインボタンに割り当てられている機能の一覧を表示します。

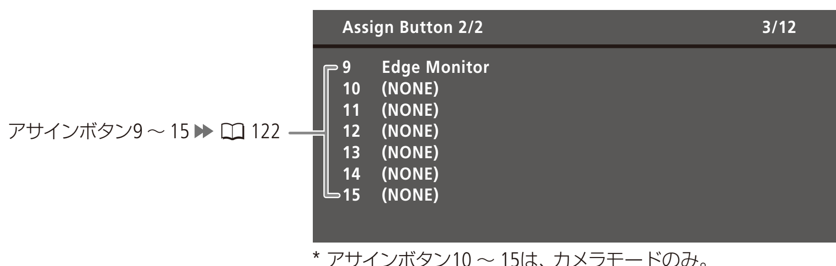
アサインボタン1画面の表示内容



アサインボタン1～8 ▶▶ 📖 122

その他

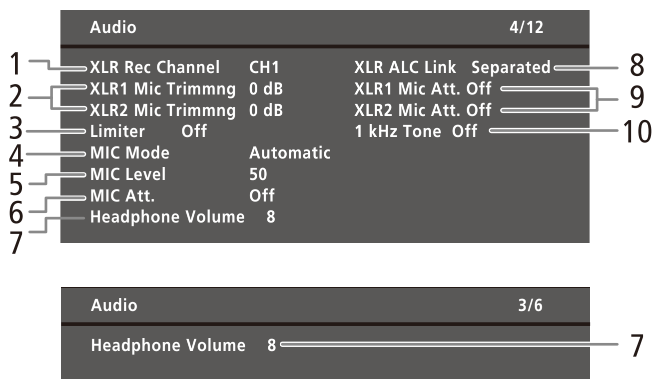
アサインボタン2画面の表示内容



* アサインボタン10 ～ 15は、カメラモードのみ。

オーディオステータス画面 CAMERA MEDIA

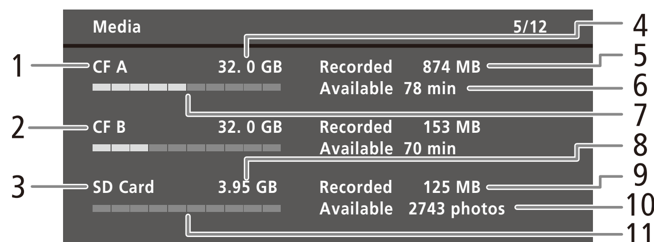
音声の記録、入出力などオーディオ関係の設定内容を表示します。



1 XLR録音チャンネル ▶▶ 🕮 100
2 XLRマイク感度 ▶▶ 🕮 102
3 オーディオリミッター ▶▶ 🕮 101
4 MICモード ▶▶ 🕮 102
5 MIC録音レベル ▶▶ 🕮 102
6 MICアッテネーター ▶▶ 🕮 103
7 ヘッドホンボリューム ▶▶ 🕮 104
8 XLR録音レベル連動 ▶▶ 🕮 101
9 XLRマイクアッテネーター ▶▶ 🕮 102
10 1 kHzテストトーン ▶▶ 🕮 109

メディアステータス画面 CAMERA MEDIA

2つのCFカードスロットとSDカードスロットの記録メディアの状態を表示します（📖 46）。



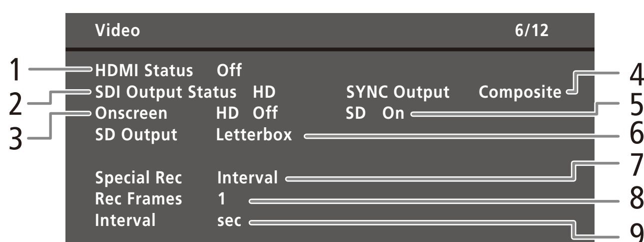
1 CFカードA
2 CFカードB
3 SDカード
4 CFカードAの総容量
5 CFカードAの使用量
6 CFカードAの記録可能時間
7 CFカードAの使用量の目安
8 SDカードの総容量
9 SDカードの使用量
10 SDカードの静止画記録可能枚数
11 SDカードの使用量の目安



カードによっては、CFカードまたはSDカードの総容量が、カードに記載の容量より少なく表示されることがあります。

ビデオステータス画面 CAMERA MEDIA

ビデオ出力端子の設定内容を表示します。特殊記録モードのときは、特殊記録のモードと設定内容についても表示します。



1 HDMI OUT端子の出力状態 ➡ 160
2 HD/SD SDI端子の出力状態 ➡ 160
3 HDオンスクリーン表示 ➡ 162
4 SYNC OUT端子の出力状態 ➡ 161
5 SDオンスクリーン表示 ➡ 162
6 SD出力の表示方式 ➡ 161
7 特殊記録 ➡ 115
8 インターバル記録／フレーム記録の記録フレーム数 ➡ 115、117
9 インターバル記録の記録間隔 ➡ 115

メタデータステータス画面 CAMERA MEDIA

ユーザーメモ（クリップタイトル、撮影者、撮影場所、撮影内容）や国コード、組織コードなどを表示します（105）。

メタデータ1画面の表示内容



1 ユーザーメモファイルのファイル名
2 クリップのタイトル
3 撮影者
4 撮影場所
5 撮影内容

メタデータ2画面の表示内容

1 国コード ▶▶ 📖 193
2 組織 ▶▶ 📖 193
3 ユーザーコード ▶▶ 📖 193

バッテリー／使用時間ステータス画面 CAMERA MEDIA

バッテリーの残量や寿命を表示します。また、本体のご購入時からの使用時間と、最後にリセットしたときからの使用時間を表示します。

カスタムピクチャーステータス画面 CAMERA MEDIA

現在選択しているカスタムピクチャーファイルの設定内容を表示します。

カスタムピクチャー 1画面の表示内容

CP Data 1/3 10/12

1 CP000003					
2 Gamma	Normal 1	Low Key Satur. Off	Lvl ±0 (9)		
3 Black	MP ±0				
4 Master Black	R ±0	G ±0	B ±0		
5 Black Gamma	Lvl ±0	Range ±0	Point ±0		
6 Knee	On	Slp ±0	P 95	Sat 40	
7 Skin Detail	Off	H 0	C 16	A 16	Y 16
8 Selective NR	Off	H 0	C 16	A 16	Y 16

1 カスタムピクチャーファイル名 ▶▶ 📖 130
2 ガンマ ▶▶ 📖 131
3 ブラック ▶▶ 📖 131
4 マスターブラック ▶▶ 📖 131
5 ブラックガンマ ▶▶ 📖 132
6 ニー ▶▶ 📖 132
7 スキンディテール ▶▶ 📖 134
8 セレクティブNR ▶▶ 📖 134
9 ローキーサチュレーション ▶▶ 📖 132

カスタムピクチャー 2画面の表示内容

CP Data 2/3 11/12

Sharpness	Lvl ±0	HD Frq ±0	HV Bal ±0	Lim ±0	
	Sel 0	Knee Apt.	Gain 0	Slope 1	
Lvl Dpnd	Lvl 0	Slope 0	Ofst 0		
Coring	Lvl ±0	Ofst 0	Curve 0	Depth ±0	
Noise Reduction	Off				
Color Matrix	Sel	Normal 1	Gain ±0	Phase ±0	
	R-G ±0	G-R ±0	B-R ±0		
	R-B ±0	G-B ±0	B-G ±0		

シャープネス ▶▶ 📖 133
ノイズリダクション ▶▶ 📖 134
カラーマトリックス ▶▶ 📖 134

カスタムピクチャー 3画面の表示内容

トラブルシューティング

修理に出す前にこの「トラブルシューティング」で説明する内容をもう一度確認してください。それでも直らないときは、カメラ修理受付センター（📖 235）またはご購入になった販売店にご相談ください。

電源

こんなときは	どうするの？	📖
電源が入らない。 途中で電源が切れる。	● バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。 ● バッテリーを正しく取り付け直す。	22
起動直後に電源が自動的に切れる	● 本機で使用できないバッテリー／電源カプラーを取り付けた。本機に対応するバッテリーに交換する。	222
バッテリーが充電できない。	● バッテリーの温度が0 ℃未満になったかまたは40 ℃を超えている。0 ℃未満のときはバッテリーを温めてから、40 ℃を超えたときは放置して40℃以下になってから、充電を開始する。 ● 周囲の温度が0 ℃～ 40 ℃のときに充電する。 ● バッテリーが故障しているので、別のバッテリーを使用する。	22
常温でバッテリーの消耗が極端に早い。	● バッテリーの寿命の可能性がある。バッテリーステータス画面でバッテリーの寿命を確認し、寿命がないときは、新しいバッテリーを購入する。	203

撮影中

こんなときは	どうするの？	📖
ビデオカメラ本体の操作が利かない	● グリップ接続プラグの接続が十分でない。グリップを取り付けるときは、接続プラグが奥までしっかり差し込まれていることを確認する。グリップの角度を変えるときは、接続プラグがしっかり接続されていることを確認する。	43
START/STOPボタンを押しても録画しない。	● CFカードに空き容量がない。または999クリップ記録されている。別のCFカードと入れ換える。または不要なクリップを消すか、記録されているクリップをバックアップして初期化する。	46 151 164 50
START/STOPボタンを押した時点と、記録されたクリップの始めと終わりの時点が異なる。	● START/STOPボタンを押してから、録画の開始／終了までに、多少時間がかかることがある。故障ではない。	—
ピントが合わない。	● ファインダーの視度が合っていない。視度調整レバーで画面がはっきり見えるように調整する。 ● レンズが汚れているのでお手入れする。	39 220
被写体が横切るとき、被写体がゆがんで見える。	● 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、本機の前を被写体が素早く横切ると、少しゆがんで見えることがある。故障ではない。	—

こんなときは	どうするの？	📖
画面に赤、緑、青の輝点が出る。	● 高度な精密技術で作られている撮像素子（CMOSセンサー）が、宇宙線などの影響を受けると、まれに画面上に小さな輝点（赤、緑、青）ができることがある。これは、撮像素子の原理によるもので、故障ではない。ブラックバランス調整を行うと改善することがある。なお、次の場合は画面上に生じる輝点が見えやすくなる。 • 高温の場所で使用するとき。 • ISO感度／ゲインが高いとき。 • シャッタースピードのモードがスローのとき。	53
動画の「● REC」／「STBY」の切り換えに時間がかかる。	● クリップ数が多いとこのようになることがある。別のCFカードと入れ換えるか、クリップをバックアップしてCFカードを初期化する。	46 164 50
動画を正しく記録できない。	● 記録や消去を繰り返すと、このようになることがある。CFカードに記録されているクリップをバックアップしたあと、CFカードを初期化する。	164 50
長時間使うと熱くなる。	● 長時間使い続けると熱くなることがあるが、そのまま使用しても問題ない。本機の温度が急激に上昇したり、持てないほど熱くなったときは故障の可能性がある。カメラ修理受付センターにご相談ください。	235
内蔵NDフィルターが切り換わらない	● 電動NDフィルターが故障している可能性がある。手動で切り換えて撮影を継続することができる。撮影終了後、カメラ修理受付センターにご相談ください。	210 235

再生中

こんなときは	どうするの？	📖
クリップの消去ができない。	● OKマークが付加されたクリップは、本機では消去できない。OKマークを消去してからクリップを消去する。	149
クリップの消去に時間がかかる。	● クリップ数が多いとこのようになることがある。クリップをバックアップしてCFカードを初期化する。	164 50
静止画を消せない。	● 静止画のプロテクト設定を解除する。 ● SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側になっているので、ロックを解除する。	178 49
クリップをコピーできない。	● コピー先となるCFカードの空き容量が足りないか、または記録可能なクリップ数（999個）を超えた。CFカードの不要なクリップを消すか、別のCFカードと入れ換える。	151 46

表示やランプ

こんなときは	どうするの？	📖
画面でが赤く点灯する。	● バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。	22
画面にが出る。	● 本機と通信できないバッテリーが取り付けられているため、使用可能時間を表示できない。	—
タリーランプが点灯しない。	● その他機能メニュー ＞「タリーランプ」を「入」にする。	191
タリーランプが速く点滅する。	（1秒に4回の点滅）	
	● バッテリーが消耗している。十分に充電されたバッテリーと交換する。	22
	● CF AとCF B に空き容量がない。別のCFカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す。	46 151
	● システムエラーが発生している。電源を入れなおしても解決しないときは、故障の可能性がある。カメラ修理受付センターにご相談ください。	235
タリーランプがゆっくり点滅する。	（1秒に1回の点滅）	
	● CF AとCF Bを合わせた空き容量が少なくなっている。記録中でないスロットのCFカードを別のカードと入れ換える。	46
が赤く点灯する。	● SDカードエラー。電源を切り、SDカードを出し入れする。それでも赤く点灯しているときは、SDカードを初期化する。	49 50
	● SDカードに空き容量がない。別のSDカードと入れ換えるか、静止画を消す。	176
撮影を中断してもアクセスランプが赤く点灯している。	● 撮影したクリップをメモリーに書き込んでいる。故障ではない。	—

画面や音

こんなときは	どうするの？	📖
画面がついたり消えたりを繰り返す。	● バッテリーが消耗しているので、十分に充電したバッテリーと交換する。	22
	● バッテリーを正しく取り付け直す。	
画面に通常出ない文字が出たり、正常に動作しない。	● 電源を取り外し、しばらくしてから取り付ける。それでも解決しないときは、次のいずれかの操作を行う。	22
	• 電源を取り外し、先のとがったものでRESET（リセット）ボタンを押す。カスタムピクチャーとHour Meter（リセット後の使用時間）を除く本機の設定が初期状態に戻る。	14
	• その他機能メニュー ＞「リセット」＞「全設定」を行う。 Hour Meter（リセット後の使用時間）を除く本機の設定が初期状態に戻る。	189
画面にノイズが出る。	● 磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い時期や電波が発生する場所から離れて本機を使用する。	—

こんなときは	どうするの？	📖
画面に横帯が出る。	● 撮像素子にCMOSセンサーを使用しているため、撮影時の照明によっては横帯が見えることがある。シャッタースピードを1/100秒にすると軽減する。故障ではない。	68
音声が記録されない。	● XLR端子にファンタム電源が必要な外部マイクを取り付けたときに、XLR端子切り換えスイッチを「MIC＋48V」に切り換えていない。 ● MIC（マイク）端子にマイクを接続していると、XLR端子の入力音声は記録されない。MIC端子のケーブルを抜く。	100
音声が極端に小さい。	● XLR端子使用時、AUDIO LEVEL（録音レベル）切り換えスイッチを「M（マニュアル）」にしていて、録音レベルをしぼっている。または、MIC（マイク）端子使用時、オーディオ設定メニュー ➤ 「Audio Input」の「MICモード」を「Manual」に設定していて、「MIC Level」（録音レベル）の値が小さすぎる。画面または表示パネルのオーディオレベルメータで確認しながら適正なレベルに調整する。 ● マイクのアッテネーターを「入」にしている。アッテネーターを「切」にする。	100 102 103
音がひずんだり、実際より小さく記録される。	● 大きな音の近く（打上げ花火やコンサートなど）で撮影すると、このようになることがある。マイクアッテネーターを使うか、録音レベルを手動で調整する。	102 103 100 102

アクセサリー

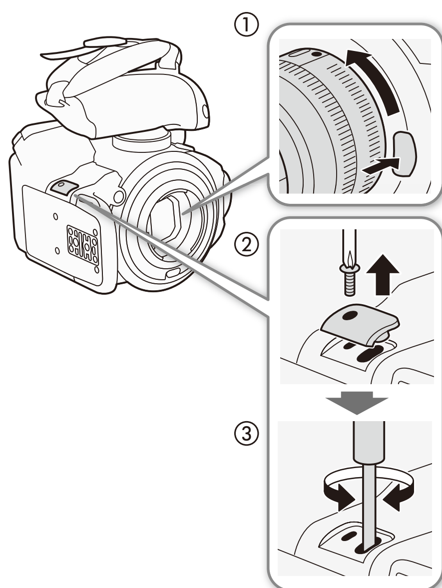
こんなときは	どうするの？	📖
メモリーカードが入らない。	● CFカードはCFカードスロットに、SDカードはSDカードスロットにそれぞれ正しい向きで入れる。	46 49
CFカードに動画を記録できない。	● 対応しているCFカードを確認する。 ● はじめて使用するときは、CFカードを本機で初期化する。 ● CFカードに空き容量がないか、または記録可能なクリップ数（999個）を超えた。CFカードの不要なクリップを消すか、別のCFカードと入れ換える。	46 50 151 46
SDカードに静止画を記録できない。	● はじめて使用するときは、SDカードを本機で初期化する。 ● SDカードの誤消去防止ツマミがLOCK側になっているので、ロックを解除する。 ● SDカードに空き容量がない。別のカードと入れ換えるか、不要な静止画を消す。 ● 静止画番号が最大になったため、カードに記録できない。新しいSDカードを入れて、その他機能メニュー ➤ 「静止画番号」を「オートリセット」にする。	50 49 176 194
CFカードへの書き込み／読み出しが遅くなった。	● 記録や消去を繰り返すとこのようになることがある。CFカードに記録されているクリップをバックアップしたあと、CFカードを初期化する。	164 50
SDカードへの書き込み／読み出しが遅くなった。	● 記録や消去を繰り返すとこのようになることがある。SDカードに記録されている静止画をバックアップしたあと、SDカードを完全初期化する。	50

他機

こんなときは	どうするの？	📖
テレビの放送画面にノイズが出る。	● テレビの近くで使用するときは、テレビやアンテナケーブルからコンパクトパワーアダプターを離す。	—
再生しても、外部モニターに映像が出ない。	● 本機と外部モニターとの接続が正しく行われていない。ケーブルの接続を確認する。 ● 外部モニターの設定を、接続した端子に切り換える。	159 —
HDMIケーブルで接続しているとき、外部モニターに映像や音が出ない。	● HDMIケーブルを抜き差しするか、本機の電源を入れ直す。	—

NDフィルターを手動で切り換える

本機に内蔵している電動NDフィルターが故障したときなどに、手動でNDフィルターを切り換えることができます。



1 POWER（電源）スイッチをOFFにする

2 レンズを取り外す（①）

3 ネジを外し、カバーを取り外す（②）

4 ＋ドライバーでネジを押しながら回して、NDフィルターを切り換える（③）
   - レンズ側から見て、NDフィルターの位置を確認する。

5 カバーとレンズを取り付ける

エラーメッセージ

本機の画面にメッセージが出たときは、次のような対処をしてください。ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6（別売）を取り付けているときに出るメッセージについては、「ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6　ビデオカメラ用ガイド」をご覧ください（📖 54）。

メッセージ	原因と対処	📖
空き容量がありません	● CF AとCF B に空き容量がない。別のCFカードと入れ換えるか、不要なクリップを消す。	46 151
空き容量がわずかです	● CF AとCF Bを合わせた空き容量が少なくなっている。記録中でないスロットのCFカードを別のカードと入れ換える。	46
画像がありません	● SDカードに静止画が記録されていない。静止画を記録してから再生する。	172
カバーがあいています	● カメラモードに切り換えたときに、CFカードカバーが開いていた。CFカードを入れたらCFカードカバーを閉じる。	46
記録できません	● 管理情報が壊れた*[1]か、またはエンコーダーにエラーが発生したため、記録できない。電源を入れなおしてカードを出し入れするか、別のCFカードと入れ換える。それでも解決しないときは、カメラ修理受付センターにご相談ください。	46 235
クリップがありません	● CFカードにクリップが記録されていない。クリップを記録してから再生する。	56
再生できない画像です	● 他機で記録したり、パソコンで作成や加工をしたりした静止画は再生できないことがある。	—
再生できません	● 管理情報が壊れた*[1]か、またはデコーダーにエラーが発生したため、再生できない。電源を入れなおしてカードを出し入れする。それでも解決しないときは、カメラ修理受付センターにご相談ください。	46 235
システムエラー	● 電源を入れなおしても解決しないときは、故障の可能性がある。カメラ修理受付センターにご相談ください。	235
操作は無効です	● 次にあげる無効な操作を行った。 • ショットマークを同じフレームに付加しようとした。 • OKマーク、チェックマークを同じクリップに付加しようとした。 • フレーム記録モードまたはインターバル記録モードのときにショットマークを付加しようとした。 • 特殊記録モードで撮影した直後にレックレビューを行おうとした。 • CFカードが入っていないときに、START/STOPボタンを押した。	—
バッテリー情報を取得できません	● キヤノンのインテリジェントリチウムイオンバッテリーを取り付けていないときは、バッテリー情報を表示できない。	—
バッテリーと通信できません このバッテリーを使用しますか？	● キヤノンのインテリジェントリチウムイオンバッテリー以外のバッテリーを取り付けて、電源を入れた。 ● キヤノンのインテリジェントリチウムイオンバッテリーを使用しているときは、ビデオカメラまたはバッテリーの故障の可能性がある。カメラ修理受付センターにご相談ください。	— 235
バッテリーパックを取り替えてください	● バッテリーが消耗している。十分に充電されたバッテリーと交換する。	22
ファイル名が作成できません	● フォルダー番号や静止画番号が最大になった。その他機能メニュー ➤「静止画番号」を「オートリセット」にしてカードを初期化するか、静止画をすべて消す。	194 50 177
ファンエラー	● 冷却ファンが故障した可能性がある。カメラ修理受付センターにご相談ください。	235

*[1] 破損した管理情報は修復できません。また、管理情報が破損したCFカード／クリップを、付属のソフトウェア（Canon XF Utilityまたはノンリニア編集ソフトウェア用プラグイン）で読み込むことはできません。

メッセージ	原因と対処	📖
24.00Pで記録されています CF A（CF B）のデータの確認と初期化をお勧めします	● CF A（CF B）内のクリップが24.00Pで記録されている。このCFカードに記録するときは、CFカードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する。このCFカードを再生するときは、本機の設定を24.00Pに変更する。	164 50 64
CF A(CF B) (CF A / CF B) 1クリップの記録上限です 記録を停止しました	● 1つのクリップ中に記録できる映像ファイルの数*2が上限に達したため、記録を停止した。 *2 記録中、映像ファイルのサイズが2 GBに達すると自動的に新しいファイルに記録し、最大99個まで記録できる。なお、スローモーション撮影時の映像ファイルサイズは1 GBとなる。	—
CF A（CF B） 空き容量がありません	● CF A（CF B）に空き容量がないため記録を開始できない。もう一方のスロットに切り換えてから撮影する。	51
CF A（CF B）（CF A / CF B） 管理ファイルエラー 記録できません	● 管理情報に書き込みできないため、記録できない。他の機器でCFカード内のファイルを操作すると、このようになることがある。CFカードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する。	164 50
CF A(CF B) 記録を中止しました	● 管理情報が壊れた*1か、またはエンコーダーにエラーが発生したため、記録できない。電源を入れなおしてカードを出し入れするか、別のCFカードと入れ換える。それでも解決しないときは、カメラ修理受付センターにご相談ください。	46 235
CF A（CF B）（CF A / CF B） クリップ数がいっぱいです	● 記録中のCFカードがクリップ数の上限（999個）に達した。もう一方のスロットに切り換えるか、別のCFカードと入れ換える。 ● ダブルスロット記録時に、両CFカードのクリップ数がいっぱいで記録できない。	51 46
CF A（CF B） サポートしていない管理情報は削除されます	● キヤノン製の他の業務用ビデオカメラで初期化したCFカードを入れると、このようになることがある。CFカードの内容を確認する。	—
CF A（CF B） 修復できませんでした	● CF A（CF B）を修復できなかった。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する。	164 50
CF A（CF B）（CF A / CF B）にアクセス中です 取り出さないでください	● CFカードにアクセス中に、カードカバーをあけた。CFカードカバーを閉める。	46
CF A（CF B）にエラーが発生しました	● CF A（CF B）を認識できないか、またはアクセスできない。カードが正しく入っているか、カードに不具合がないか確認する。	46
CF A（CF B）のデータの確認と初期化をお勧めします	● 次の理由によりCF A（CF B）を使用できない。カードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する。 • CFカードに異常があるため、記録・再生できない。 • CFカードの情報が取得できない。 • パソコンなど他の機器で初期化されている。 • CFカード内にパーティションが設定されている。	164 50
CF A（CF B）は修復が必要です 修復しますか？	● 記録中に停電したなどCFカード内の情報に不具合があるため、修復を行う必要がある。修復を行うときは、「はい」を選ぶ ➤ SETを押す。	52
CF A（CF B） バッファオーバーです 記録を中止しました	● カードの書き込み速度が遅いため、CF A（CF B）の記録を中断した。推奨のカードを入れる。	46

メッセージ	原因と対処	📖
CF A(CF B) 非対応メディアです	● 容量が512MB未満か、またはUDMA非対応のためCF A(CF B)を使用できない。別のカードと入れ換える。	46
CF A(CF B) UDMA 4以上のメディアをお使いください	● UDMA 4未満のCFカードが入っている。UDMA 4以上のカードを推奨します。	46
CF A→CF B (CF B→CF A) 切り換えました	● リレー記録またはスロット切り換え操作 (SLOT SELECTボタンを押す)により、記録先がCF AからCF B(CF BからCF A)に切り換わった。	—
CF A→CF B (CF B→CF A) まもなく切り換えます	● CF A(CF B)の空き容量が少なくなったため、リレー記録によって、約1分後に記録先スロットが切り換わる。	—
CFスロット切り換えできません	● 撮影中など、CFスロットの切り換えができないときにSLOT SELECT(スロット選択)ボタンを押した。撮影終了後にCFスロットを切り換える。	51
PAL(NTSC)で記録されています CF A(CF B)のデータの確認と初期化をお勧めします	● CF A(CF B)内のクリップがPAL(NTSC)方式で記録されている。このCFカードに記録するときは、CFカードに記録されているクリップをバックアップしたあと、カードを初期化する。このCFカードを再生するときは、本機の設定をPAL(NTSC)に変更する。	164 50 64
☑ Markエラー OK Markエラー	● チェックマーク (OKマーク)が付加できなかった。カメラモードの場合、再度試みて解決しないときは、メディアモードで行う。メディアモードの場合、再度試みて解決しないときは、一度電源を入れなおして、再度行う。	148
SDカードにエラーが発生しました	● マルチメディアカードを入れた。推奨のカードを入れる。	46
SDカードを確認してください	● SDカードにアクセスできない。SDカードが正しく入っているか、不具合がないか確認する。 ● SDカードにエラーがあり、記録や再生ができない。SDカードを出し入れするか、別のカードと入れ換える。	49
Shot Markエラー	● ショットマークが付加できなかった。カメラモードの場合、再度試みて解決しないときは、撮影終了後にメディアモードで行う。メディアモードの場合、再度試みて解決しないときは、一度電源を入れなおして、再度行う。	155
Shot Markがありません	● ショットマークインデックス画面で、クリップのショットマークを消去したことによって、ショットマークが付加されたクリップがなくなった。本体またはモニターユニットのINDEX(インデックス)ボタンを押してオリジナルインデックス画面に戻る。	141
Shot Mark数オーバー	● ショットマーク数*が最大になったため、付加できない。 * ショットマーク1とショットマーク2で合計100個まで。	—

安全上のご注意

お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

こんなときは

- 煙が出ている
- へんなにおいがする
- 落として壊した
- 内部に水や異物が入った

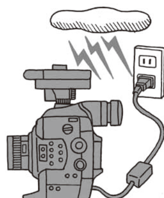
▶▶ **バッテリーを外して、電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると火災や感電の原因になりますので、カメラ修理受付センター（ 235）に問い合わせるか、購入販売店に修理を依頼してください。

⚠ 警告　死亡や重傷を負うおそれがある内容です。


禁止

内部に異物を入れたり、端子部に金属類をショートさせない。
➤ 火災 感電 けが



雷が鳴っているときには電源プラグに触れない。
➤ 感電

ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。
➤ 感電

ぬらさない。 ➤ 火災 感電 やけど
降雨降雪時、海岸、水辺、湿度の高い場所などでの使用は特に気をつける。

液漏れしたバッテリーは使用しない。
➤ 皮膚の損傷 失明 発火
液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐに医師に相談。



分解や改造をしない。
➤ 発熱 感電 火災 けが

強い衝撃や振動を与えない。
➤ 火災 やけど けが
ストラップ使用時は特に注意する。液晶画面やレンズは割れるとけがの原因。


禁止

電源コードについて次のことを守る。
➤ 火災 感電
- 傷つけない
- 加工しない
- 無理に曲げない
- 引っ張らない
- 熱器具に近付けない
- 加熱しない
- 重いものを載せない



バッテリーを熱しない、火中投入しない。
➤ やけど けが

バッテリー端子部に金属のキーホルダーやヘアピンなどを接触させない。
➤ やけど けが
ショートして、高熱や液漏れのおそれあり。

充電中、長時間にわたる接触をしない。
➤ 低温やけど

海外旅行者用の電子式変圧器や、航空機・船舶・DC/ACコンバーターなどの電源につながない。表示された電源電圧や周波数以外では使用しない。 ➤ 火災 感電 けが

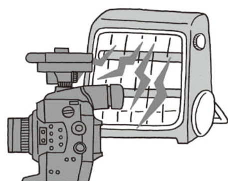
油煙・ほこり・砂などの多い場所や、風呂場など湿度の高い場所で使用・保管しない。
➤ 火災 感電 やけど
内部にほこりや水などが入るおそれあり。





禁止

直射日光下、ストーブ・照明器具のそばなど60℃以上になる高温の場所や、炎天下の密閉された車中に置かない。



➤ 火災 やけど けが

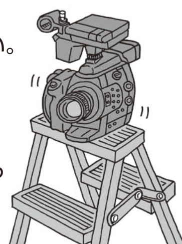
発熱や破裂のおそれあり。

運転中に使用しない。➤ 交通事故

不安定な場所に置かない。

➤ けが

落下、転倒のおそれあり。



乳幼児の手の届くところに置かない。

➤ 感電 けが



強制

指定された機器を使う。➤ 火災 感電 けが

電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。➤ 火災

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

➤ 火災 感電

コンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜く。➤ 火災 感電

撮影しているときは、周囲の状況に注意する。➤ けが 交通事故

⚠ 注意　傷害、物的損害を負うおそれがある内容です。



禁止

ふとんやクッションなどをかけたまま使用しない。

➤ 火災

内部に熱がこもるおそれあり。





強制

コード類は、つまずかないように配置する。

➤ けが

足を引っ掛けて転倒したり、製品が落下するおそれあり。

バッテリー、ショルダーストラップ、グリップベルトなどは脱落しないように確実に取り付ける。➤ けが



強制

バッテリーやレンズなどを取り外すときは、落とさないように気をつける。➤ けが



飛行機内で使用するときは、乗務員の指示に従う。

機器から出る電磁波により、飛行機の計器に影響を与えるおそれ。

使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。➤ 火災

取り扱い上のご注意

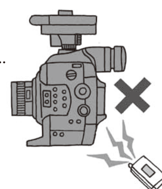
ここでは本機やバッテリーとメモリーカードなどを取り扱うときに注意していただきたいことを説明しています。

ビデオカメラ本体

ホコリなどの多い場所で使わない

ホコリ・砂・水・泥・塩分の多い場所で使用・保管しないでください。これらが内部に入ると故障の原因となります。レンズにホコリや砂が付くのを防ぐため、使用後は、ホコリなどの少ない場所でレンズを外して、必ずボディキャップを取り付けてください。また、本機は防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めにカメラ修理受付センター（📖 235）にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。

強い磁気の発生する場所では使わない



磁石、モーターの近くや電波塔の近くなど、強い磁気や電波が発生する場所での使用は避けてください。映像や音声が乱れたり、ノイズが入ったりすることがあります。

太陽や強いライトにレンズやファインダーを向けない

レンズやファインダーの接眼レンズは、絶対に直射日光や強いライトに向けないでください。集光により内部の部品が溶けて破損の原因となることがあります。特に三脚を使用しているときやショルダーストラップを使って持ち運ぶときは、本体またはファインダーの角度を変えて直射日光などが入らないようにしてください。本機を使用しないときは、レンズを外して、ボディキャップを取り付けてください。ファインダーを使用しないときは、ファインダーキャップを取り付けてください。

液晶画面を...

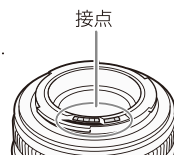


つかんでもちあげない ➔ 液晶画面の接合部が破損することがあります。
無理に閉じない ➔ 正しい位置に戻してから閉じないと破損することがあります。

カメラのレンズ接点に手で触れない

接触不良や腐食の原因になることがあります。接点が腐食するとビデオカメラが正しく動作しなくなることがあります。

レンズを取り外したときは・・・



接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

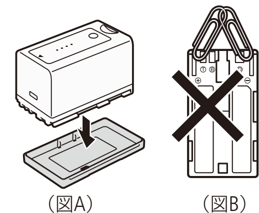
バッテリー

端子はいつもきれいに

バッテリーと本体端子（充電器の端子）の間に異物が入り込まないようにしてください。接触不良、ショート、破損の原因となります。

保管するときは端子カバーを使う

バッテリーを持ち運ぶときや保管するときは、必ず端子カバーを取り付けてください（図A）。金属などでショートすると高熱や液漏れ、破損の原因となります（図B）。


（図A）　（図B）

正しく残量表示されないときは

バッテリーをフル充電してください。ただしバッテリーを高温下で長時間使ったり、フル充電後に放置したりすると、正しく表示されないことがあります。使用回数が多いバッテリーも正しく表示されないことがあります。なお、表示は目安としてご使用ください。

インテリジェントシステム非対応のバッテリーについて

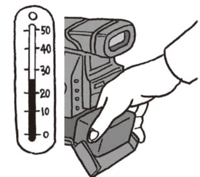
インテリジェントシステムに対応していないバッテリーを本機に取り付けて使用した場合、バッテリー残量は表示されません。

使用時間を長くするコツ

こまめに電源を切り、10℃～30℃のところで使用すると、長く使えます。スキー場などでバッテリーが冷たくなると、一時的に使用時間が短くなりますので、ポケットなどに入れて温めてから使用すると効果的です。

長い間保管するとき

- バッテリーの消耗を防ぐため本体から取り外し、乾燥した30℃以下のところで保管してください。
- バッテリーの劣化を防ぐため、画面に「バッテリーパックを取り替えてください」が表示されるまで使い切ってから、保管してください。
- 1年に1回程度、充電完了まで充電してから使い切ってください。

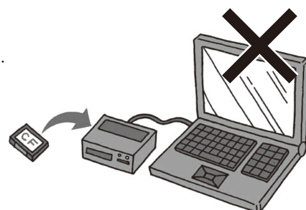


充電済みバッテリーパックの見分けかた

ショート防止用端子カバーには▭の穴があり、バッテリーに取り付けるときの向きによって▭の穴から見える色が異なります。これを利用して端子カバーを取り付ければ、充電済みバッテリーを見分けることができます。

メモリーカード

データはバックアップする



ビデオカメラ本体／メモリーカードの故障や静電気などによるデータの損傷・消失に備えて、データはパソコンなどにバックアップしてください。なお、データ損傷および消失については、当社では一切の責任を負いかねます。

端子に触れない

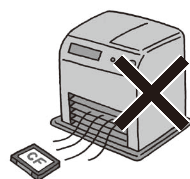
汚れが付着し、接触不良の原因となります。



磁気に注意する

強い磁気が発生する場所で使わないでください。

高温・多湿の場所に放置しない



シールを貼らない

メモリーカード表面にシールなどを貼ると、シールが差し込み口につまるおそれがあります。

ていねいに扱う

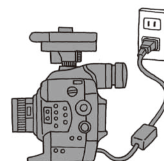


落とす、ぬらす、強い衝撃を与えるなどしないでください。分解は絶対にしないでください。

充電式内蔵電池

本機には充電式のリチウム電池が内蔵されており、日付などの設定を保持しています。この電池は本機を使用中、自動的に充電されますが、約3か月間使わないと完全に放電してしまいます。このときは次のようにして充電してください。

充電のしかた（所要時間：24時間）



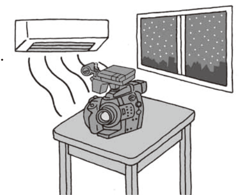
① 電源を切る
② コンパクトパワーアダプターとDCケーブルを使って、本機を家庭用コンセントにつなぐ

その他のご注意

情報漏洩に注意（譲渡・廃棄するときは）

メモリーカードに記録されたデータは、消去や初期化をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消えません。譲渡･廃棄するときは、データを復元できないように、一度メモリーカードの完全初期化／初期化（📖 50）を行った後、本機にボディキャップを取り付けて最後まで撮影し、再度完全初期化／初期化を行います。これによって、情報漏洩を防いでください。

結露について



室温が高いとき、冷水の入ったコップの表面に水滴がつくことがあります。この現象を結露といいます。本機が結露した場合、そのままの状態で使うと故障の原因になりますので注意してください。なお、次のような条件のときに結露が発生しやすくなります。

- 寒い所から急に暖かい所に移動したとき
- 湿度の高い部屋の中
- 夏季、冷房のきいた部屋から急に温度や湿度の高い所に移動したとき

結露したらどうする？

周囲の環境によって多少異なりますが、水滴が消えるまで約2時間程度放置してください。

温度差のある場所へ移動するときは

バッテリーを取り外し、メモリーカードを取り出して、本機をビニール袋に空気がはいらないように入れて密閉します。移動先の温度になじんだら袋から取り出します。



○ 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
ホームページ　http://www.jbrc.com

○ プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。

○ 被覆をはがさないでください。

○ 分解しないでください。

日常のお手入れ

大切なビデオカメラをより長くお使いいただくために、日常のお手入れには十分注意してください。

ビデオカメラ本体を清掃する

お手入れ

製品の汚れは乾いたやわらかい布で軽くふいてください。化学ぞうきんやシンナーなどの使用は、製品を傷めることがあるのでおやめください。

レンズはいつもきれいに

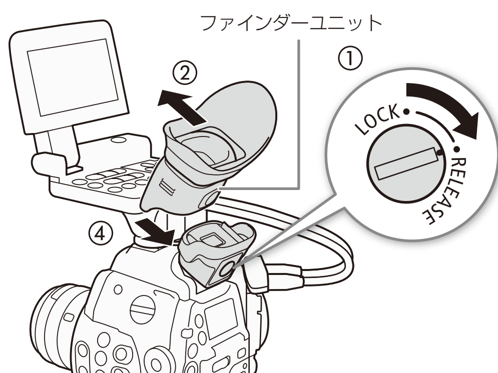
レンズは常にきれいに保つようにしてください。レンズにホコリや汚れがついたときは、最初にブロアーで表面のゴミ、ホコリを取り除き、それから汚れをふき取るようにしてください。

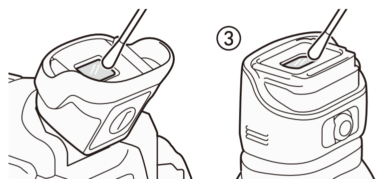
液晶画面について

- 汚れたときは市販の眼鏡クリーナー（布製）などで拭いてください。
- 温度差の激しいところでは、液晶画面に水滴がつくことがあります。柔らかい乾いた布で拭いてください。

ファインダーを清掃する

ファインダー内部に入ったゴミは、次のようにして取り除きます。





1 ファインダーユニットのロックスイッチを回してRELEASEにする（①）
2 ファインダーを下げ、ファインダーユニットを上にスライドさせて取り外す（②）
3 綿棒でゴミを取り除く（③）
4 ファインダーユニットをガイドに沿ってスライドさせ、取り付ける（④）
5 ファインダーユニットのロックスイッチを回してLOCKにする



ファインダーの接眼レンズや液晶画面は傷つきやすいので、ご注意ください。

海外で使う

海外で使用するときに知っておいていただきたいことです。

充電する

海外でも付属のバッテリーチャージャー（AC100～240 V 50/60 Hzまでの電源に対応）を使ってそのまま充電できます。コンセントの形が異なる国では、変換プラグを使用してください。（右表参照）

タイプ	A	B	BF	C	O
コンセントの形状					
変換プラグ	不要				

●北米

アメリカ合衆国	A
カナダ	A
メキシコ	A

●ヨーロッパ

アイスランド	C
アイルランド	C
イギリス	B. BF
イタリア	C
オーストリア	C
オランダ	C
カナリア諸島	C
ギリシャ	C
スイス	C
スウェーデン	C
スペイン	A. C
デンマーク	C
ドイツ	C
ノルウェー	C
ハンガリー	C
フィンランド	C
フランス	C
ベルギー	C
ポーランド	B. C
ポルトガル	B. C
ルーマニア	C

●アジア

インド	B. C. BF
インドネシア	C
シンガポール	B. BF
スリランカ	B. C. BF
タイ	A. BF. C
大韓民国	A. C
中華人民共和国	A. B. BF. C. O
ネパール	C
パキスタン	B. C
バングラデシュ	C
フィリピン	A. BF. O
ベトナム	A. C
香港特別行政区	B. BF
マカオ特別行政区	B. C
マレーシア	B. BF. C

●オセアニア

オーストラリア	O
グアム	A
タヒチ	C
トンガ	O
ニュージーランド	O
フィジー	O

●中南米

アルゼンチン	BF. C. O
コロンビア	A
ジャマイカ	A
チリ	B. C
ハイチ	A
パナマ	A
バハマ	A
プエルトリコ	A
ブラジル	A. C
ベネズエラ	A
ペルー	A. C

●中近東

イスラエル	C
イラン	C
クウェート	B. C
ヨルダン	B. BF

●アフリカ

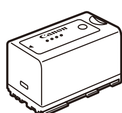
アルジェリア	A. B.BF. C
エジプト	B. BF. C
ギニア	C
ケニア	B. C
ザンビア	B. BF
タンザニア	B. BF
南アフリカ共和国	B. C. BF
モザンビーク	C
モロッコ	C



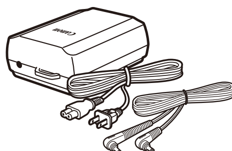
バッテリーチャージャーを変圧器に接続しないでください。故障するおそれがあります。

アクセサリー紹介

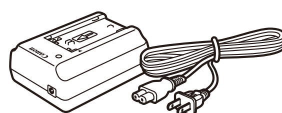
本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用したときに最適な性能を発揮するように設計されておりますので、**キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします**。なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、**弊社では一切責任を負いかねます**。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、**保証の対象外となり有償**とさせていただきます。あらかじめご了承ください。



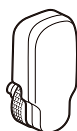
バッテリーパック
BP-955*[1]



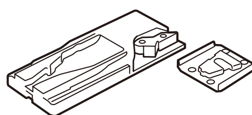
コンパクトパワーアダプター
（ACアダプター）CA-940



コンパクトパワーアダプター
CA-930*[2]



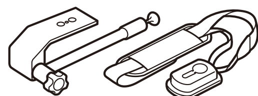
ワイヤレスファイルトランスミッター
WFT-E6



三脚アダプター
TA-100



三脚ベース
TB-1



シューティングブレース
SBR-1000

*[1] このバッテリーパックは、ビデオカメラと通信することにより、バッテリー残量を分単位（目安）で確認できるインテリジェントリチウムイオンバッテリーです。
*[2] 家庭用コンセントにつないで使用する目的で本機に接続することはできません。このアクセサリーは、本機ではバッテリーチャージャーとして使用します。



このマークは、キヤノンのビデオ関連商品の純正マークです。キヤノンのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはキヤノンビデオ関連商品をおすすめします。

主な仕様

C300 / C300 PL本体

システム	
記録方式	動画： 映像圧縮方法：MPEG-2 Long GOP 音声記録方式：リニアPCM、16 bit、48kHz、2ch ファイルフォーマット：MXF 静止画： DCF準拠、Exif Ver2.3準拠、静止画圧縮方法：JPEG
記録／再生信号形式	50 Mbps（CBR / 4:2:2 / 422P@HL）：1920×1080 / 59.94i、50.00i、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P 1280×720 / 59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、24.00P、23.98P 35 Mbps（VBR / 4:2:0 / MP@HL）： 1920×1080 / 59.94i、50.00i、29.97P、25.00P、23.98P 1280×720 / 59.94P、50.00P、29.97P、25.00P、23.98P 25 Mbps（CBR / 4:2:0 / MP@H14）：1440×1080 / 59.94i、50.00i、29.97P、25.00P、23.98P
記録メディア	動画： コンパクトフラッシュ（CF）カード Type I（2スロット） 静止画： SD ／ SDHCメモリーカード*1
記録時間*2	16GB CFカード（50 Mbps、35 Mbps、25 Mbps）： 約40分、約55分、約80分 64GB CFカード（50 Mbps、35 Mbps、25 Mbps）： 約160分、約225分、約310分
撮像素子	スーパー 35mm相当、CMOS（単板）、有効画素：約829万画素（3840×2160）
ビューファインダー	ワイドカラー液晶ファインダー（0.52型、約155.5万ドット、視野率100 %）
レンズマウント	C300 キヤノンEFマウント、キヤノンEFレンズ群対応（EF-Sレンズを含む） C300 PL PLマウント、接点なし
35mmフィルム換算時の焦点距離	実焦点距離（レンズの焦点距離）×約1.53（変換係数）
NDフィルター	内蔵（OFF、2 stops、4 stops、6 stops）、電動式
ホワイトバランス	セットA、セットB、色温度設定（2000K ～ 15000K）、プリセット設定（太陽光5400K、電球3200K）
C300 アイリス	マニュアル、ステップ（1/2段、1/3段、ファイン）
ISO感度／ゲイン	ISO感度： 1段ステップ： ISO320、400 ～ 12800、20000 1/3段ステップ： ISO320 ～ 20000 ゲイン： －6 dB ～ 30 dB（ノーマル：3 dBステップ）、 0 ～ 24 dB（ファイン：0.5 dBステップ）
シャッタースピード（□ 68）	Speed（1/3段ステップ、1/4段ステップ）、アングル、クリアスキャン、スロー、切
周辺光量補正	キヤノンEFレンズ群で可能*3
感度	NTSC F9（1920×1080 / 59.94i時）、PAL F10（1920×1080 / 50.00i時） いずれも、ISO640（0 dB）、2000ルクス、反射率89.9 %時
S/N	54dB（Typical、NTSC 1920×1080 / 29.97P時、PAL 1920×1080 / 25.00P時） いずれもISO850、Canon Logガンマ時
被写体照度	NTSC 0.30ルクス（29.97P、シャッタースピード1/30秒時） PAL 0.25ルクス（25.00P、シャッタースピード1/25秒時） いずれも24 dB 、F1.2レンズ装着時
動画サイズ	50 Mbps/35 Mbps：1920×1080、1280×720、25 Mbps：1440×1080
静止画サイズ	1920×1080、1280×720（動画から切り取るときのみ）

*1 カスタムピクチャーファイル、設定データ、ユーザーメモの保存／読み込みにも使用。
*2 連続記録したときの記録時間の目安。
*3 一部のEFレンズは周辺光量補正に対応していません。

入・出力端子	
HD/SD SDI端子	BNCジャック（出力のみ）、0.8 Vp-p ／ 75 Ω、不平衡 HD-SDI（SMPTE　292M準拠）： 映像（1080i、720P）、エンベデッドオーディオ、タイムコード（VITC/LTC） SD-SDI（SMPTE　259M準拠）： 映像（480i、576i）、エンベデッドオーディオ、タイムコード（VITC/LTC）
HDMI OUT端子	HDMIコネクター、出力のみ
SYNC OUT端子	BNCジャック（出力のみ）、1Vp-p ／ 75Ω 出力信号：HDコンポーネント輝度信号、HD三値信号、アナログブラックバースト信号、SDアナログコンポジット映像信号
MIC（マイク）端子	φ3.5mmステレオミニジャック、 －72 dBV（マニュアルボリュームセンター、フルスケール－18 dB）／ 600Ω Att.：20 dB
🎧（ヘッドホン）端子	φ3.5 mmステレオミニジャック －∞～－12 dBV（16 Ω負荷、ボリュームMin ～ Max）／ 50 Ω以下
GENLOCK端子	BNCジャック（入力のみ）、1.0 Vp-p ／ 75 Ω
TIME CODE端子	BNCジャック（入出力兼用） 入力時：0.5 -18 Vp-p ／ 10 kΩ 出力時：1.0 Vp-p ／ 75 Ω
REMOTE端子	φ2.5 mmステレオミニミニジャック
グリップ接続端子	グリップの接続プラグ専用
WFT端子	ワイヤレスファイルトランスミッター WFT-E6（別売）接続用

電源その他	
電源電圧	公称 DC 7.4 V（バッテリーパック）、DC 8.4 V（DC IN）
消費電力	C300　液晶画面／ファインダーがONのとき：NTSC 11.7 W、PAL 11.4 W ファインダーのみ使用時：NTSC 10.7 W、PAL 10.4 W C300 PL　液晶画面／ファインダーがONのとき：NTSC 11.7 W、PAL 11.4 W ファインダーのみ使用時：NTSC 10.6 W、PAL 10.2 W （いずれも、ビットレート50 Mbpsで録画中、ファインダー／液晶画面の明るさノーマル、SDI出力ON時）
動作温度	0 ℃ ～ ＋40 ℃
外形寸法（幅×高さ×奥行き）	サムレスト装着時： C300 約133×179×171 mm、C300 PL 約133×179×177 mm グリップ装着時： C300 約174×179×171 mm、C300 PL 約174×179×177 mm モニターユニット装着時： 約185×249×187 mm ハンドルユニット、モニターユニット装着時： 約185×284×301 mm

電源その他	
撮影時総重量	本体、グリップ、モニターユニット使用時*： C300 約2520 g、C300 PL 約2720 g 本体、グリップ、モニターユニット、ハンドルユニット使用時*： C300 約2700 g、C300 PL 約2900 g * いずれもバッテリーパックBP-955、CFカード2枚を含む
本体質量	C300 約1430 g、C300 PL 約1630 g （本体のみ）

付属ユニット

モニターユニット	
ユニットの特徴	着脱可能、左右270°回転可能、液晶パネル、撮影･再生操作パネル、XLR端子とオーディオ操作パネル
液晶画面	ワイドカラー液晶（4.0型、約123万ドット、視野率100 %）、前後270°／左右180°回転可能
質量	約620 g
XLR端子	XLR（バランス）（①シールド、②ホット、③コールド）、2系統 感度（MIC時）：－60 dBu（マニュアルボリュームセンター、フルスケール－18 dB）／600 Ω 感度（LINE時）：＋4 dBu（マニュアルボリュームセンター、フルスケール－18 dB）／10 kΩ Att.：20 dB

グリップ	
ユニットの特徴	着脱可能、15°刻みで回転可能、操作ボタン／ダイヤル
質量	約230 g

ハンドルユニット	
ユニットの特徴	着脱可能、アクセサリーシュー、1/4インチハンドルネジ
質量	約180 g

付属品

コンパクトパワーアダプター CA-940	
電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz
出力／消費電力	公称DC8.4 V、4.8 A 83 VA（AC 100 V）～ 107 VA（AC 240 V）
使用温度	0℃～ +40℃
外形寸法（幅×高さ×奥行き）	約103×51×139 mm
質量	約395 g

バッテリーチャージャー CG-940	
電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz
出力／消費電力	公称DC8.4 V、1.5/2.0 A 40 VA（AC 100 V）～ 54 VA（AC 240 V）
使用温度	0℃～ +40℃
外形寸法（幅×高さ×奥行き）	約85×51×110 mm
質量	約240 g

バッテリーパック BP-955	
使用電池	リチウムイオン（インテリジェントリチウムイオンバッテリー）
使用温度	0 ℃ ～ +40 ℃
公称電圧	DC 7.4 V
公称容量	5200 mAh
定格（最小）容量	37 Wh / 4900 mAh
外形寸法（幅×高さ×奥行き）	約38.2×43.5×70.5 mm
質量	約220 g

バッテリーの充電時間／使用時間の目安

充電時間の目安

バッテリーパック	BP-955
充電時間*（バッテリーチャージャー CG-940を使用時）	約200分

* 周囲の温度や充電状態によって異なります。

C300 使用時間の目安（液晶画面とファインダーがONのとき）

モニターユニットを取り付け、液晶画面とファインダーがON、SDI出力がONのときの使用時間です。

	ビットレート	使用時間	BP-955
NTSC / 24.00P	50 Mbps	連続撮影時間	約180分
		実撮影時間	約115分
		再生時間	約230分
	35 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約230分
	25 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約230分
PAL	50 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約235分
	35 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約240分
	25 Mbps	連続撮影時間	約190分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約240分

C300 使用時間の目安（ファインダーのみを使用するとき）

モニターユニットを装着しないでファインダーのみを使用し、SDI出力がONのときの使用時間です。

	ビットレート	使用時間	BP-955
NTSC / 24.00P	50 Mbps	連続撮影時間	約200分
		実撮影時間	約130分
	35 Mbps	連続撮影時間	約200分
		実撮影時間	約130分
	25 Mbps	連続撮影時間	約200分
		実撮影時間	約130分
PAL	50 Mbps	連続撮影時間	約205分
		実撮影時間	約130分
	35 Mbps	連続撮影時間	約205分
		実撮影時間	約135分
	25 Mbps	連続撮影時間	約210分
		実撮影時間	約135分

C300 PL 使用時間の目安（液晶画面とファインダーがONのとき）

モニターユニットを取り付け、液晶画面とファインダーがON、SDI出力がONのときの使用時間です。

	ビットレート	使用時間	BP-955
NTSC / 24.00P	50 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約230分
	35 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約230分
	25 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約230分
PAL	50 Mbps	連続撮影時間	約185分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約240分
	35 Mbps	連続撮影時間	約190分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約240分
	25 Mbps	連続撮影時間	約190分
		実撮影時間	約120分
		再生時間	約240分

C300 PL 使用時間の目安（ファインダーのみを使用するとき）

モニターユニットを装着しないでファインダーのみを使用し、SDI出力がONのときの使用時間です。

	ビットレート	使用時間	BP-955
NTSC / 24.00P	50 Mbps	連続撮影時間	約200分
		実撮影時間	約130分
	35 Mbps	連続撮影時間	約205分
		実撮影時間	約130分
	25 Mbps	連続撮影時間	約205分
		実撮影時間	約130分
PAL	50 Mbps	連続撮影時間	約210分
		実撮影時間	約135分
	35 Mbps	連続撮影時間	約210分
		実撮影時間	約135分
	25 Mbps	連続撮影時間	約210分
		実撮影時間	約135分

* 実撮影時間とは撮影、撮影一時停止、電源の入／切などの操作を繰り返したときの撮影時間です。
* 液晶画面を明るくしていると、バッテリー使用時間が少し短くなることがあります。
* 低温下で使用すると、使用時間が短くなります。



バッテリーパックは予定撮影時間の2 ～ 3倍分を用意

ビデオカメラの消費電力は、撮影のしかたによって変化します。そのため、バッテリーパックの実際の使用時間は、表記の時間より短くなることがあります。撮影時には、予定撮影時間の2 ～ 3倍のバッテリーパックを用意することをおすすめします。

- EFレンズは本機の電源を使用して動作します。使用するEFレンズによっては使用時間が短くなることがあります（C300）。

その他

索引

ラ

数字

記号

その他

商標について

- SD、SDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- CompactFlash(コンパクトフラッシュ)は、SanDisk Corporationの商標です。
- CFロゴはCompactFlash Associationの商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Apple、Macintosh、Mac OS、Final Cut Proは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Avid、Media Composer、NewsCutterは、米国および／またはその他の国におけるAvid Technology, Inc.またはその子会社の商標または登録商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- DCFロゴマークは、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)の「Design rule for Camera File system」の規格を表す団体商標です。
- その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

MPEG-2使用許諾について

個人使用目的以外で、MPEG-2規格に適合した本機を、パッケージメディア用に映像情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許使用許諾を取得する必要があります。この特許使用許諾はMPEG LA, L.L.C.,(250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206 USA)から取得可能です。

C300 / C300 PLは、DCFに準拠しています。DCFは、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)で主として、デジタルカメラ等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

本機器は、Microsoftからライセンスされたexfat技術を搭載しています。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。本書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

保証書とアフターサービス

本機の保証は日本国内を対象としています。万一、海外で故障した場合の現地でのアフターサービスはご容赦ください。

保証書

本体には保証書が添付されています。必要事項が記入されていることをお確かめのうえ、大切に保管してください。

アフターサービス

製品の保証について

- 使用説明書、本体注意ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で、保証期間中に本製品が万一故障した場合は、本保証書を製品に添付のうえ弊社修理受付窓口、またはお買い上げ店までご持参あるいはお送りいただければ、無料で修理いたします。この場合の交通費、送料および諸掛かりはお客様のご負担となります。また、お買い上げ店と弊社間の運賃諸掛りにつきましても、一部ご負担いただく場合があります。
- 保証期間内でも保証の対象にならない場合もあります。詳しくは保証書に記載されている保証内容をご覧ください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。
- 保証期間経過後の修理は有料となります。
- 本製品の故障または本製品の使用によって生じた直接、間接の損害および付随的損害（録画再生に要した諸費用および録画再生による得べかりし利益の喪失、記録されたデータが正常に保存・読み出しができないことによって発生した損害等）については、弊社ではその責任を負いかねますのでご了承願います。

修理を依頼されるときは

故障内容を明確にご指示ください。また、修理品を送付される場合は十分な梱包でお送りください。

アフターサービス期間について

ビデオカメラのアフターサービス期間は、製造打ち切り後8年です。なお、弊社の判断により保守サービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。その場合、旧製品でご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。

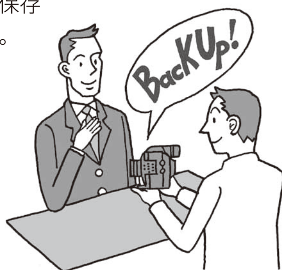
修理料金について

- 故障した製品を正常に修復するための技術料と修理に使用する部品代との合計金額からなります。
- 窓口で現品を拝見させていただいてから概算をお知らせいたします。なお、お電話での修理見積依頼につきましては、おおよその仮見積になりますので、その旨ご承知おきください。 本機の保証は日本国内を対象としています。万一、海外で故障した場合の現地でのアフターサービスはご容赦ください。

修理について

修理に出すまえに

- 不具合症状の再現・確認のために、記録メディアをお預かりすることがあります。その場合、修理の前に必ずデータをバックアップしてください。なお、修理によってデータが消去された場合の補償についてはご容赦ください。
- 修理の際、必要最小限の範囲で記録メディア内のデータを確認させていただくことがあります。ただし、データを弊社が複製・保存することはありません。



修理のお問い合わせは

カメラ修理受付センター

050-555-99077（全国共通）

平日・土曜日 9:00〜18:00

日曜日、祝日、年末年始、弊社休業日はお休みさせていただきます。電話番号はよくご確認の上、おかけ間違いのないようにお願いいたします。

- 購入年月日、型名「C300 / C300 PL」、故障内容を明確にお伝えください。不具合内容を確認の上、修理方法をご案内いたします。
- 修理を承る窓口をご案内いたします。
- 修理品の引き渡し方法（宅配便発送／弊社によるお引き取り）やお届けについてご案内いたします。

その他



使用方法に関するご相談窓口は

キヤノンお客様相談センター

050-555-90006（全国共通）

平日 9:00〜12:00／13:00〜17:00

※土・日・祝日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます。

※上記番号をご利用になれない方は03-5428-1208をご利用ください。

※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによってつながらないことがあります。

キヤノン業務用デジタルビデオカメラホームページ

キヤノンデジタルビデオカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されておりますので、インターネットをご利用の方はぜひお立ち寄りください。

デジタルビデオカメラ製品情報
http://canon.jp/cinema-eos

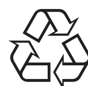
キヤノン サポートページ
http://canon.jp/support

■保証書は製品の箱に添付されています
保証書は必ず「購入店・購入日」等の記入を確かめて、購入店よりお受け取りください。

■本書の記載内容は2012年5月現在のものです
製品の仕様および外観は予告なく変更することがあります。ご了承ください。最新の使用説明書については、キヤノンのホームページなどでご確認ください。

Canon

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6



リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

PUB. DIJ-0375-000C